

勞働爭議調停法中改正法律案審議錄

第五十九回帝國議會 (昭和六年)

社會局勞働部



0038010000

0038010-000

AZ-522-E2

勞働爭議調停法中改正法律案審議錄

[內務省] 社會局勞働部

1932. 3

AGF

AZ
522
E2



89W55429

はし が き

労働争議調停法中改正法律案は労働組合法案と共に昭和六年二月二十一日第五十九回帝國議會に政府より提出せられた。而して本案は同月二十四日の本會議に上程せられ安達内務大臣の提案理由の説明の後田子一民、松村光三、原惣兵衛、猪野毛利榮等の諸氏の質疑あり、終つて添田敬一郎氏外二十六名の議長指名の委員に附託せられた。

委員會は二月二十五日より三月十四日迄十六回開會せられ三月十七日の本會議に於て添田委員長の報告あり、之に對し安藤正純氏より加藤久米四郎氏外九名より提出せられた少數意見の報告あり、終つて討論に移り由谷義治、濱野徹太郎兩氏の賛成演説、守屋榮夫、松谷與二郎兩氏の反對演説があつたが結局委員長報告通り可決確定され本案は衆議院を通過することゝなつた。

本改正法律案は同日労働組合法案と共に衆議院より貴族院に送付せられたが貴族院に於ては翌十八日の本會議に上程せられ安達内務大臣の提案理由の説明の後藤原銀次郎、有馬頼寧、赤池濃、鶴澤總明等の諸氏の質疑あり、終つて前田利定氏外二十六名の議長指名の特別委員に附託せられた。

貴族院の特別委員會は三月二十三日、二十四日の兩日開會せられたが二十四日午前十時三十二分遂に審議未了の儘前田委員長より散會を宣せられた。

労働争議調停法中改正法律案は終始労働組合法案と共に審議せられたが本書は右兩案の速記録中より特に調停法改正法案に關係ある部分を摘録したものである。

昭和六年三月

社會局労働部

第一章 衆議院本會議

第五十九回
帝國議會

衆議院本會議労働争議調停法中改正法案

第一讀會

昭和六年二月二十四日(火曜日)午後一時十七分開議

○議長(藤澤幾之輔君) 日程第三労働組合法案、日程第四、労働争議調停法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ、第一讀會ヲ開キマス——安達内務大臣

第四 労働争議調停法中改正法律案(政府提出)第一讀會

労働争議調停法中改正法律案

労働争議調停法中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ニ掲グル以外ノ事業ニ於テ労働争議發生シタル場合ニ於テ著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖モ行政官廳ニ於テ必要アリト認メタルトキ亦同シ

第一條ノ二 前條第一項若ハ第三項ニ規定スル労働争議ニ付當事者ノ請求アリタルトキ若ハ行政官廳ニ於テ必要

第五十九回帝國議會衆議院本會議 労働争議調停法中改正法案 第一讀會

アリト認メタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル勞働爭議ニ付當事者雙方ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査審理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 行政官廳調停委員會ヲ開設セントスルトキ又ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査審理ヲ爲サシメントスルトキハ當事者雙方ニ之ヲ通知スベシ

第三條 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

行政官廳ハ當事者雙方ノ同意アリタルトキハ前項ニ定ムル委員ノ數ヲ増減スルコトヲ得

第九條ニ左ノ二項ヲ加フ

當該官吏調停ニ關スル調査審理ヲ爲ス場合ニ於テハ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタル日ヨリ十日以内ニ調査審理手續ヲ結了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ行政官廳必要アリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得但シ十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條中「各二名」ヲ「各半數」ニ改ム

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停委員會ニ出席シ意見ヲ述ベシムルコトヲ得

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第一條ノ二ノ規定ニ依リ當該官吏ガ調停ニ關スル調査審理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條中「調停手續」ノ下ニ「又ハ調査審理手續」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一條 第一項ニ掲グル以外ノ事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ行政官廳ガ著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタル場合ニ於テ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキ亦前項ニ同ジ

第十九條ノ二 第一條 第一項ニ掲グル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ作業閉鎖又ハ同盟罷業ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者、(當事者ガ團體又ハ集團ナル場合ニ於テハ其ノ主タル代表者)ハ三日前ニ行政官廳ニ對シ調停委員會開設ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ説明書類ノ提示ヲ爲サザル者

二 第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條中「第十九條」ヲ「第十九條 第一項」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十九條 第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本法ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

〔「勞働者虐殺法」絕對反對〕ト呼ビ其他發言スル者多シ

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——靜肅ニ願ヒマス——本案ハ重要ナル法律案デアリマスカラ、互ニ隱忍シテ御聽キ下サイ

○國務大臣(安達謙藏君)

(前略)

續イテ勞働爭議調停法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、最近ニ於ケル勞働爭議ノ狀況ヲ見マスルニ、財界

ノ不況ニ伴ヒ、件數、參加人員等著シキ増加ヲ示シツツアリマス、即チ昭和四年中ニ於ケル同盟罷業怠業及ビ工場閉鎖ノ件數ハ五百七十六件、之ニ參加シタル勞働者ノ數ハ七萬七千四百四十四人ニ達シ、又昭和五年中ニハ、一月乃至九月ノ九ヶ月間ニ既ニ六百九十五件ノ發生ヲ見、其參加セル人員モ六萬四千三百一人ニ及ンデ居ルノデアリマス、其結果トシテ、勞働爭議ノ當事者ガ蒙ル經濟上ノ損害ハ固ヨリ、其國家ノ産業及ビ經濟ニ及ボス影響ハ洵ニ容易ナラザルモノガアルノデアリマス、斯ノ如キ爭議ノ發生ヲ、出來得ル限り未然ニ防止シ、並ニ其圓滿ナル解決ノ機會ヲ多カラシメル爲ニハ、現行勞働爭議調停制度ハ、必ズシモ適當且ツ十分ナリト謂ヒ難キモノデアルト思フノデアリマス、即チ大正十五年現行法施行以來ノ狀況ヲ見マスルニ、法制上ニ認メラレタル調停機關ハ調停委員會デアリマスガ、之ヲ開設シ得ル場合ノ要件或ハ其組織等、實際ノ運用ニ適セズ、調停委員會ガ開設セラレタル事例ハ、既往約五箇年間僅ニ一回ニ過ギマセヌ、又現行法施行以來、各廳ニ配屬セラレタル調停官吏等ノ法律ニ依ラザル調停ニ依ッテ、爭議ノ解決セラル、モノハ相當多數ニ上リマスガ、右ニ關シテハ固ヨリ法制上……

〔發言スル者アリ〕

○議長（藤澤幾之輔君） 淺原君、注意致シマス

○國務大臣（安達謙藏君）（續） 何等ノ準據スルモノガナク、事務處理上不便ヲ感ズル場合ガ極メテ多イノデアリマス右ノ如キ事情ニ基キマシテ、今回時代ニ適應スベキ勞働爭議調停制度ヲ制定シタイト考ヘ、茲ニ法律案ヲ提出シタ次等デアリマス

改正法律案ノ内容ハ、相當多方面ニ亘リマスガ、其要領ハ以下ノ三點デアリマス

其一點ハ、行政官廳ガ調停委員會ヲ開設シ得ル場合ノ擴張ニ關スルモノデアリマシテ、即チ現行法ノ下ニ於テハ、所謂私益事業ニ於テハ、當事者ノ雙方ヨリ請求ガナケレバ、調停委員會ヲ開設シ得ザルコト、ナッテ居リマスガ、今度ハ

私益事業ノ爭議ニ於キマシテモ、其狀況ニ依リ著シク其關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アルモノト認メマシタル場合ニハ、之ヲ公益事業ニ於ケル爭議ニ準ジ、當事者一方ノミノ請求ニ依リ、又ハ行政官廳ノ職權ヲ以テ、調停委員會ヲ開設シ得ルモノト改メタノデアリマス

第二ニ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ新ニ規定シ、仍テ當該官吏ガ從來事實上行ヒ來ッタ調停ニ關スル職權ヲ法認スルト同時ニ、其職權ヲ發動シ得ル場合ノ規定ヲ設ケタノデアリマス

第三點ハ、現行法第一條第一項ニ列舉セラル、公益事業ノ勞働爭議ニ於テ、當事者ガ作業閉鎖又ハ同盟罷業ノ如キ、所謂爭議手段ヲ用フル場合ハ、事前ニ調停委員會開設ノ申請ヲ爲スベキコトヲ規定致シタノデアリマス

以上述べタルガ如キ改正ニ依ッテ、爭議ニ基ク無用ノ犠牲ヲ除キ、勞資ノ協調並ニ産業ノ平和ヲ促進スルコトハ、現時ノ産業界及勞働爭議ノ實情ニ鑑ミマシテ、眞ニ緊要デアルト存ジマス、是レ本改正法律案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御協賛アラント願ヒマス

○議長（藤澤幾之輔君） 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——田子一民君

〔田子一民君登壇〕

○田子一民君 私ハ勞働組合法案、勞働爭議調停法中改正法律案、此二法案ヲ審議スルニ當リマシテ、四五ノ質問ヲ試ミ、政府ノ所見ヲ質サントスルノデアリマス

第一點ハ、現内閣ハ産業平和——勞働不安ノ極、勞働問題解決ノ基礎デアアル所ノ、此二點ニ付テ如何ナル計畫ヲ爲シ、如何ナル實行ヲ試ミラレタカ、去ル濱口内閣成立以來ノ實績ニ顧ミマスレバ、吾々ハ産業平和ノ確立ハ、階級闘争ヨリ平等觀念ニ、勞資互ニ人格ヲ尊重シ、互ニ責任ヲ分チ、共同協力以テ産業平和ノ途ヲ進メナケレバナラヌト信ジテ居リマシテ、戰後各國ニ於キマシテハ、思想ノ變遷、經濟事情ノ變化、是等ニ對應シテ、總理大臣ハ勿論、其局ニ當

ル勞働大臣、社會大臣等、銳意産業平和ノ確立ニ努力シテ居ルノデアリマスガ、現内閣成立以來、既ニ相當ノ期間ヲ經テ居リマスルニ拘ラズ、具體的ノモノヲ見レバ、勞働運動ヲ鎮壓スルニ警察ノ暴力ヲ用ヒ、時ニハ警察官ノ馬ノ蹄ニ依ッテ、勞働運動ヲ解決セントスル如キ、暴壓甚シキモノヲ見ルノデアリマス、吾々ハ勞働問題ノ解決、社會問題ノ解決、是等ハ政府ハ中正穩健、資本家ハ勞働者ヲ尊重シ、勞働者ハ資本家ヲ尊重シ、相俱ニ率ヒテ、三者鼎立シテ進マナケレバナラヌモノデアルト信ズルモノデアアル、然ルニ現内閣ハ徒ニ警察力一點ヲ以テ解決スルガ如キハ、甚ダ遺憾ニ存ジマスルカラ、此機會ニ於テ内務大臣ハ、過去一年數箇月ニ於キマシテ、現内閣ノ産業平和確立ニ於テ執リタル手段、竝ニ其具體的事實ヲ御示シテ願ヒタイノデアリマス

(中略)

次ハ提案セラレタル所ノ勞働組合法案ノ實體ニ付テ御質問ヲ申シタイノデアアル、勞働者ガ劣弱ナル地位ニ在リ、資本家ハ強大ナル地位ニ在ル、此二個ノ存在ヲ對等ノ地位ニ置イテ、勞資問題ヲ解決致シマスルニハ、固ヨリ勞働組合ノ如キ團結權ヲ得ナケレバナラナイノデアリマス、内務大臣ノ御言葉申セバ、勞働組合ヲ法律ヲ以テ公認スルコトモ必要デアリマス、然ルニ茲ニ提案セラレタル勞働組合法案ハ、組合法案ナル名前ヲ冒用シテ居ッテ、其實體ヲ點檢シ來ル時ニハ、第一ニ勞働組合ノ本質ガ極メテ不明瞭ナモノニナッテ居ル、第二ニハ勞働組合ノ生命デアリマス所ノ、團體交渉權ニ付テ何等規定ヲ置カナイ、第三ニハ極度ニ勞働組合ノ活動ヲ制限シテ居ル、斯様ニ名前ガアッテ實ノナイモノヲ提案サレタ、一面ニハ勞働者ニ氣兼ヲシテ居リ、一面ニハ資本家ノ意思ヲ歡迎シテ居ル、而モ其案ハ資本家ニモ喜バレナイ、勞働者ニモ排撃サレテ居ル、學者モ之ヲ贊成シナイ、批評家モ贊成シナイ、オマケニ安達君ノ下僚デアアル人々ハ全部反對、而モ本議場ニ於テ贊成セラル、方ノ數ハ、數ヘ盡サレル位ナ極メテ少數ナモノデアアル(拍手)惟フニ此勞働組合法ナルモノハ、第一條ニ於キマシテ、或ハ千九百十九年ノ獨逸憲法ノ如ク、又或モノハ千九百二十七年ノ

佛蘭西ノ職業組合法ノ如ク、或ル點ニ於テハ英吉利ハ「フレンドリー・ソサイティー・アクト」ノ如ク、何等統一サレタモノハナイ、詰リ安達君ノ此組合法案ナルモノハ、新シイ靴デアルトシテ、今賣出サレタケレドモ、實ハ各國ノ古靴ノ革ヲ寄セ集メテ造ッタ所ノ、資本家ニモ、勞働者ニモ、學者ニモ、實際家ニモ、政黨ノ人々ノ足ニモ穿イラナイ所ノ不適當ナ、所謂安達埋葬法案ト云フ如キモノヲ御提出ニナッタト謂ハナケレバナラヌノデアアル(拍手)ノミナラズ先ノ御演說ヲ承ッテ、吾々ハ極メテ、憤慨ニ堪ヘナイコトハ、最近ニナッテ勞働爭議ノ數ガ増加シタ、私モ此處ニ其數ヲ持ッテ參ッタノデアリマシタガ、安達君ガ先ニ御話ニナッタ、吾々ハ此數ノ増加シタ、勞働爭議ノ増加致シタコトハ、現内閣ノ經濟政策ノ誤リニ因ル其結果トシテ社會不安トナッテ「ストライキ」ガ殖エタノデアアルカラ(拍手)安達君ハ此事實ヲ御報告ノ場合ニハ自己ノ責任ヲ顧ミタル態度ニ於テ御演說アルベキ筈ト思フガ、其結果トシテ勞働爭議調停法ノ改正ヲ致シタイト云フガ如キ、殆ド冷酷無情ナル御說明ヲ爲サレマシタコトハ、産業ヲ破壊シテ置イテ、組合運動ヲ刺戟シ、其結果ハ所謂「ストライキ」ヲ増加シテ、而シテ其結果ハ勞働爭議調停法ニ改正ヲ加フルト云フガ如キハ、自己ノ責任ヲ法律ニ轉嫁スルモノナリト斷セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)要スルニ大體論トシテ、安達君ハ果シテ信念ヲ持ッテ、如何ナル難關ガアッテモ、此二ツノ法律案ヲ此議會ニ通サナケレバ、日本ノ勞働問題、社會問題ノ解決ハ到底ムツカシイト云フ信念デ御出シニナッタノデナクシテ、演口内閣成立以來社會政策審議會ヲ設ケ、一昨年ノ暮ニハ勞働組合法案ノ社會局案ヲ天下ニ公表シテ、之ヲ實行スルト稱シテ、今日マデ宣傳ニ宣傳ヲ重ネマシタカラ、此宣傳ノ埋合ヲ當議場ニ於テ致サントスルモノデアッテ、斯ノ如キハ議會ノ審議權ヲ冒瀆スル一大罪惡ナリト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

是ヨリ法文ニ入リマシテ二三御尋ヲ致シタイ

(中略)

第六ハ、勞働爭議調停法ニ依リマスレバ、先程内務大臣ノ説明ノアリマシタ如ク、從來ノ調停委員會ヲ設ケ得ル場合ヲ擴張シテ、著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ、其勞働爭議ニ關シ調停委員會ヲ開設シ得ルト規定シテアリマスケレドモ、凡ソ地方ノ産業ニシテ重要ナモノデアルトカ、其結果ガ地方ニ重大ナ影響ヲ及ボスト云フカ如キ、極メテ不明瞭ナ文字ヲ斯様ナコトヲ現シテ、他ノ交通、郵便、電信、電話、電燈、瓦斯、水道ト云フガ如キ、其他ノ公益事業等ト之ヲ同一ニ扱フト云フコトハ、甚ダ當ヲ失スルト認メラレルガ、政府ノ所見如何尙ホ此勞働爭議調停法ニ關聯シテ御尋シタイコトハ、從來勞働爭議ノアリマシタ場合ニ於テ、多クハ其結末ニ於テハ、勞働運動ニ關與シタ者ニ金一封ト云フガ如キ、所謂爭議解決御禮ト云フガ如キコトヲ、警察當局ガ世話ヲ焼イテ實行セシメラル、コトハ、吾々ノ甚ダ不思議ニ思フ所デアリマスガ、政府ハ之ヲ禁ズルガ如キ法制ヲ立ツルノ意思アリヤ否ヤ、此點ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス

(後略)

[國務大臣安達謙藏君登壇]

○國務大臣(安達謙藏君) 只今御尋ノ第一ハ、産業平和確立ニ對スル考ハドウカト云フ御話デアリマシタガ、無論吾々ハ産業平和ノ確立ヲ期シテ居ルノデアリマス、故ニ勞働者、資本主、此相互ノ間ノ協和協調ト云フコト、即チ徹底セル勞資協調ト云フコトヲ土臺ト致シテ居リマス(何處ニ現ハレテ居ルカ)ト呼ブ者アリ)此間ニ於キマシテ——有ユル方面ニ於テ、此勞資ノ協調ハ出來得ルダケ徹底ヲ期シタイト、日夜忘レズシテ總テノ割出シガソレヲ基準ト致シテ居リマス、唯、今御尋ノ勞働運動ヲ警察ノ力ニ依ッテ解決スルト云フコト(其通り)ト呼ブ者アリ)是ハ大變ナ間違デアリマスカラ一言申上ゲマス

今日マデ度々起リマシタ勞働爭議ハ、單純ナル經濟爭議ト認メラレヌモノガ多イノデアリマス(拍手)私ハ單純ナル經

濟爭議デアッタナラバ、無論干涉致シマセヌ(何ト認メルカ)ト呼ブ者アリ)所ガ今日ノ勞働爭議ノ其裏面ニハ、實ニ忌ムベキ、恐ルベキ思想問題ナドガ錯綜致シテ居リマシテ(拍手)サウシテ一種激激ナル思想ヲ有シタ者ガ其背面ニ居ッテ、有ユル策動ヲ爲シマス、ソレニハ學生モ加ハル、恐ルベキ現象ガアリマス爲ニ、私ハ不本意ナガラ、已ムヲ得ズサウ云フ場合ハ警察權ヲ以テ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)ソレニ藉口シテ)ト呼ブ者アリ)此點ニ付キマシテハ御互ニ冷靜ニ考ヘマシテ、今日思想問題ト勞働爭議問題ト茲ニ混合シテ居リマス、サウシテ有ユル機會ニ於テ勞働爭議ヲ利用シテ思想ヲ惡化セシメヨウト云フ、一種ノ極端ナル考ヲ持ッタ人ガ勞働爭議ノ背景トナッテ居リマスカラ、吾々ハ警察權ヲ以テ其不當ナル所ヲ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)勞働爭議ガ「レール」ニ乗ッテ公平嚴正ニ行ハレマシタナラバ、決シテ干涉致シマセヌケレドモ、今日ノ爭議ハ決シテ經濟爭議デハナイ、故ニ吾々ハ已ムヲ得ズ、茲ニ往々警察權ヲ用ヒテ之ヲ取締ラザルヲ得ヌコトヲ、甚ダ遺憾ト致シテ居ルノデアリマス(拍手)ソレデ政府ハ何處マデモ資本主側及ビ勞働者側ノ中間ニ居リマシテ、穩健中正ナル考デ勞働問題ノ解決ヲ致サウト考ヘテ居リマス(拍手)

(中略)

勞働爭議調停法ハ頗ル冷酷無情ト云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、サウデハナイ、勞働爭議ヲ調停スルコトガナゼ惡イカ、私ハ出來ルダケ爭議ハ調停シテ行キタイト思フ、ソレデ著シク地方ノ産業ニ影響ヲ及ボスモノヲ調停スルコトニ付テ、是ハ當ヲ失シテ居ラヌカト云フ御尋デアリマスガ、私ハ最モ當ヲ得タモノト確信致シテ居ルノデアリマス(拍手)

ソレカラ金一封ノコトノ御尋ガアリマシタガ、警察ナドデ今御話ノヤウナコトヲスルト云フコトハ、大ニ注意シナケレバナラヌト思ヒマス、而シテ今此爲ノ法制ヲ立ツルノ意思ガアルヤ否ヤト云フ御尋デアリマスガ、現在ニ於テ其邊

ハ何モ考ヘテ居リマセヌ、要シマスルニ此案ハ種々研究ノ結果、吾々ノ堅キ信念ノ下ニ提案シタノデアリマスカラ、此法案ヲ修正又ハ撤回スルト云フヤウナコトハ、萬々ナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス（拍手）

（後略）

○作田高太郎君 質疑終局ノ動議ヲ提出致シマス、即チ兩案ニ對スル質疑ハ此程度ヲ以テ終局セラレンコトヲ望ミマス

○議長（藤澤幾之輔君） 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（藤澤幾之輔君） 御異議ガナケレバ質疑ハ終局致シマシタ——日程第五、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 各案ヲ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（藤澤幾之輔君） 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（藤澤幾之輔君） 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ——

第二章 衆議院委員會

第五十九回帝國議會 勞働組合法案（政府提出）外一件

（勞働組合法案（政府提出）勞働爭議調停法中改正法律案（政府提出））委員會會議錄（筆記）第一回

委員會成立

本委員ハ昭和六年二月二十四日（火曜日）議長ノ指名ヲ以テ左ノ通選定セラレタリ

添田敬一郎君	由谷 義 治君	比 佐 昌 平君	多 田 滿 長君
濱野徹太郎君	谷 原 公君	櫻 内 辰 郎君	飯塚春太郎君
三 宅 磐君	栗原彦三郎君	久 留 義 郷君	長 尾 半 平君
清水徳太郎君	田 中 貢君	堀 内 良 平君	三 浦 虎 雄君
加藤久米四郎君	堀切善兵衛君	安 藤 正 純君	田 子 一 民君
松 村 光 三君	守 屋 榮 夫君	太 田 正 孝君	勝 田 銀 次 郎君
金 光 庸 夫君	西岡竹次郎君	松 谷 與 二 郎君	

同月二十五日（水曜日）午前十時十六分委員長理事互選ノ爲委員參集ス
其ノ氏名左ノ如シ

添田敬一郎君 由谷 義 治君 比 佐 昌 平君 多 田 滿 長君

衆議院委員會 勞働組合法案外一件 委員會第一回

濱野徹太郎君	栗原彦三郎君	久留義郷君	長尾半平君
清水徳太郎君	田中貢君	堀内良平君	三浦虎雄君
加藤久米四郎君	堀切善兵衛君	安藤正純君	松村光三君
西岡竹次郎君			

○濱野委員ハ投票ヲ用キス添田敬一郎君ヲ委員長ニ推薦シ理事ハ其ノ數ヲ五名トシ委員長ノ指名ニ一任スヘシトノ意見ヲ提出ス

○長尾投票管理者ハ濱野君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ添田敬一郎君ハ委員長ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

○添田委員長ハ比佐昌平君、由谷義治君、多田滿長君、田子一民君及守屋榮夫君ヲ理事ニ指名ス
午前十時二十分散會

第一二回

會議

昭和六年二月二十六日(木曜日)午前十時四十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 添田敬一郎君	理事 比佐昌平君	理事 由谷義治君
理事 多田滿長君	理事 宮澤裕君	
濱野徹太郎君	谷原公君	櫻内辰郎君
		飯塚春太郎君

栗原彦三郎君	久留義郷君	長尾半平君	清水徳太郎君
田中貢君	堀内良平君	三浦虎雄君	加藤久米四郎君
堀切善兵衛君	安藤正純君	田子一民君	松村光三君
勝田銀次郎君	金光庸夫君	西岡竹次郎君	西尾末廣君

同日二十五日委員松谷與二郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ西尾末廣君ヲ議長ニ於テ選定セリ
同日二十六日委員太田正孝君辭任ニ付其ノ補闕トシテ宮澤裕君ヲ議長ニ於テ選定セリ同日委員田子一民君理事辭任ニ付其ノ補闕トシテ宮澤裕君理事ニ當選セリ

出席國務大臣左ノ如シ

內務大臣 安達謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官 齋藤隆夫君	內務參與官 一宮房治郎君	內務書記官 唐澤俊樹君
社會局長官 吉田茂君	社會局部長 富田愛次郎君	

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働組合法案(政府提出)

勞働爭議調停法中改正法律案(政府提出)

○添田委員長 ソレデハ只今ヨリ開會ヲ致シマス、審議スルニ先ダッテ、私ヨリ一言申上ゲテ置キタイノハ、御承知ノ通り、此委員會ハ勞働組合法案並ニ爭議調停法中ノ改正法律案ノ二件ガ付託サレテ居ルノデアリマスルガ、組合法ト調停法トハ自ラ其性質モ異ニ致シテ居リマスルシ、大體ニ於テ先ヅ組合法ヲ先ニ質問ノ開始ヲ致シタイト思ヒマス、素

ヨリ其關聯シテ居ル事柄ニ付キマシテハ調停法ニ付テノ御質問モ差支ナイ譯デアリマスケレドモ、大體ニ於テ組合法ヲ先ヅ先トシテ御質疑アランコトヲ希望スル次第デアリマス、委員會ノコトデアリマスルカラ成ベク懇談的ニ質疑應答アランコトヲ切望スル次第デアリマス

○加藤委員

(中略)

ソレカラ勞働爭議調停法ニ關スル資料モ御願ヲ致シタイノデアリマスガ、勞働爭議調停法ハ申スマデモナク勞働組合法ノ姉妹法デアッテ、社會立法中最モ重要ナルモノデアリマス、而モ勞働運動ハ申スマデモナク我國特殊ノモノデハナク、歐米カラ流込シテ傾向ニナッテ居リマスカラ、歐米諸國ノ影響ヲ受ケルコトガ非常ニ大キイノデアリマス、隨テ此兩案ノ審議ヲスルニハ外國法制ノ實際資料ヲ御與ヘ下サイマセヌト十分ナル審議ガ出來マセヌカラ其御提出ヲ願ヒマス、即チ歐米ノ主要國ニ於ケル勞働爭議調停法ノ翻譯物ガアッタナラバ戴キタイ、次ハ外國ニ於ケル勞働爭議ノ統計其他ノ狀況ヲ知り得ル關係資料ヲ願ヒタイ、次ニ加奈陀及濠洲ニ於ケル強制調停其他「ストライキ」制限制度ノ最近ノ成績竝ニ本制度ニ對スル何々氏ノ意見ガ如何ニナッテ居ルカト云フ具體的ノ資料ヲ願ヒタイ、次ハ歐洲大戰中ニ於テ英國其他交戰國ニ於テ執行シテ強制調停及「ストライキ」制限法ノ翻譯物及ビ施行後ノ狀況ガドウナッテ居ルカ、具體的數字ヲ御願致シタイ

ソレカラ我國ニ於ケル最近數年間ノ勞働爭議ノ統計ニ於テ其内容ヲ公益事業ト然ラザルモノトニ區別シテノ事業別ト年度別ト統計ヲ戴キタイ、ソレカラ過去五箇年ニ互ッテ勞働者側カラ「ストライキ」ニ出タ場合ニ事業主側カラ積極的ニ工場閉鎖ヲシタ實例ガアッタナラバ其統計ヲ願ヒタイ

○松村委員 私カラモ參考資料ノ御提出ヲ願ヒマス、即チ各國ニ於ケル仲裁、和解、調停、公用裁判所ノ法規竝最近

マデノ是等ノ實際上ノ實績ヲ御示シ願ヒタイ、殊ニ公用裁判所ニ付キマシテハ米國ノ最近マデノ成績竝ニ判決例ヲ御示シ願ヒタイ、而モ最近其傾向ガ變ッテ居リマスカラ最近ノ實績ヲ特ニ御示シ願ヒタイト思ヒマス

第二ハ賃銀支拂狀況竝ニ最近十數年間ノ日本ニ於ケル勞働者賃銀ノ收入狀況ヲ各種ノ事業ニ付テ調ベタ物ヲ御示シ願ヒタイ、各種ノ事業ニ付テ別ケテ御願出來レバ結構デアリマス、ソレガ出來ナケレバ大要デモ宜シイ

第三ニハ賃銀支拂制度ニ關スル勞働組合ノ態度、殊ニ出來高拂竝ニ利潤分配制度竝ニ最近非常ニ行ハレテ居ル所ノ物價指數ヲ基礎トスル賃銀支拂制度、斯ウ云フモノニ對スル各國、殊ニ日本ノ勞働組合ノ態度、斯ウ云フ資料ハ吾々個人デハ手ニ入ルコトガムツカシイ、當局ハ無論斯様ナ事ハ調査シテ居ラナケレバナラヌ筈デアリマスカラ、是等三ツノ賃銀支拂制度ニ關シマスル勞働組合ノ態度ト今日マデノ經過ヲ知ル資料ヲ御願致シマス、大體三ツ御願致シマス

○安藤委員 今加藤、松村兩君カラ參考書類ノ提出ヲ求メマシタガ、其他ニ序ニ要求致シテ置キタイ、私ノハ簡單デアル、爭議調停法ノ實施以來ノ調停ノ統計及ビ其概要、ソレカラ第二ニ全國ニ於ケル所ノ勞働爭議ノ最近一年間ニ於ケル統計及ビ其爭議ノ性質分類、第三ニ全國ニ於ケル各種各工場鑛山等ノ最近一年間ノ盛衰ノ狀態、第四ニ最近小サナ工場ガ段々殖エルト云フコトヲ政府筋デ言ッテ居ル、殊ニ東京ナドハ相當ニ小サナ工場ガ殖エテ來タト云フコトヲ官憲ノ方カラ傳ヘラレテ居ル、デアルカラ其最近一年間ニ全國ニ新シク起ッタ工場竝ニ其新シク起ッタ小工場ノ數及ビ其規模ノ概要、是ダケヲ要求致シマス、成ルベク早く御廻シヲ戴キタイ

(後略)

○安達國務大臣

(前略)

社會局ニモ幾通りノ案モ持ッテ居ッタ、幾通りモ案ヲ立テ、居ッタデアリマス、世間デハ調停法ガ突如トシテ現ハレタ、

ソレダカラ慌テ、拵ヘタ、是ハアナタ方ハ言ハヌケレドモ、サウ云フ説モアルガ、此調停法モ社會局デハ改正シヨウト云フコトガアツタ、幸ニ是ガ世間ニ洩レテ居ナカッタ、ソレダカラ現ハレルト突然作ッタヤウニ感ジラレマス、社會局長官ノ頭ニアリ、色々ナモノガ準備ガ出来テ居ッタ、サウシナケレバアンナモノガ直グ出来ルモノデアリマセヌ、ソレデアリマスカラ、此際ニ當テ獨自ノ考デ變ヘルトカ云フコトハ全然アリマセヌ、總テノ各方面ノ意見ヲ綜合シテ、サウシテ最善ト思フコトニ定メタノデアリマス、傍カラノ干渉トカ、壓迫トカ、サウ云フコトハ何ニモゴザイマセヌ、私ハ自分ノ所信ニ邁進スル積リデアアルガ、ソレハ各方面ノ意思ヲ綜合シテ、サウシテ最善ト思フコトニ定メタニ過ギナイ

○安藤委員 今内務大臣ノ御話デアアルガ、労働爭議調停法ノ改正案ヲ出シタノモ、何カ突如トシテヤッタヤウデアアルガ、既ニ社會局ニハ有ル、有ルガ無イカ私ハ内部デナイカラ分リマセヌガ、ソレハ社會局ノナンデスカラ當然サウ云フコトハ調ベテ居ルデアリマセウ、又調ベテ居ナケレバナラヌ譯デアアル、ソレハ案モアルカモ知レマセヌ、併シ資本家ガ労働爭議ノ調停法ヲ變ヘテ呉レナイカドコロヂヤナイ、調停法ノ改正案ヲ出シテ呉レドコロヂヤナイ、労働爭議取締法ヲ出シテ呉レト云フコトヲ猛烈ニ要求シテ居ルヂヤアリマセヌカ、私共ハ何度聞カサレタカ知レナイ、政府モ之ヲ聞カサレタニ違ヒナイ、内務大臣モ幾度モ聞カサレテ居ルニ違ヒナイ、デアルカラ内務省社會局ニシマッテアルノヲ出シタカドウカ知リマセヌガ、斯ノ如ク急ニ内務大臣ノ決心ヲ促シタノハ資本家ノ労働爭議取締法ノ要求デアッタラウト私ハ思フノデスガ、斯ウ云フコトハ隠サナイデ宜イカラ一ツ仰シヤッテ戴キタイ

○安藤國務大臣 一向隠ス必要モナシ、又隠サウトモ思ハヌ、資本家ガ取締法ヲ出シテ呉レト云フコトハ新聞ニ載ッテアリマシタガ、是ハ各人ノ希望デアリマス、所ガ其希望ハ容レナカッタ、又取締法ヲ制定スル必要ハナイ、現今ノ日本ノ有ユル法規ノ上ニ於テ労働爭議ハ立派ニ取締レル、此上ニ更ニ屋上屋ヲ架スル必要ハナイト云フコトデ資本家ノ要求ニハ一切應ジテ居リマセヌ

○安藤委員 然ラバ何故ニ調停法改正ト云フコトヲ、而モ是ハ先刻私ガ其爲ニ書類ヲ要求シタノデスガ、マダ參リマセヌケレドモ、其時ニハ又質問シテモ宜イノデスガ、大シテ用ノナイ、現ニ本會議デモ用ガナカッタト此間モ仰シヤッテ居ッタヤウデアリマス、サウ云フモノヲドウ云フ譯デ組合法ヲ出スト共ニ改正案ヲ御出シニナッタノデスカ、ドウシテサウ云フ用ノナイ案ヲ、ソレ程急ニ出サナケレバナラヌト云フ必要ニ迫ラレタノデアリマスカ

○安藤國務大臣 安藤サントシテハ意外ナ御尋ネデアリマス、今マデノ調停法ナルモノガ、ソコニ缺陷ガアッタト申シテ宜シウゴザイマセウカ、之ヲ實際ニ應用シタコトガ殆ド少ナカッタ、非常ニ稀デアッタ、ソレダカラ今度ハ調停法ヲ有用ニシテ、調停ノ目的ヲ達スルヤウニシタイト云フコトガ調停法ヲ作ッタ所以デアリマス、此經濟爭議ヲ成ベク平和ニ圓滿ニ解決サセルヤウニスルコトハ、經濟社會ハ勿論、國家ノ爲ニモ宜カラウト思ヒマス、調停ガ出来レバ、私ハ飽マデ勞資間ノ衝突ヲシナイヤウニ調停シテ行クガ當然デアラウト思ヒマス、其意味カラ考ヘマシテ調停法ニ今マデ多少缺陷ガアッタカラ、其缺陷ヲ修正シテ、サウシテ有效ナラシムルト云フ考ヲ起スコトハ當然ノ話デアリマス、爭議ノ成ベク起ラナイヤウニシタイ、是ガ全ク、労働者ノ爲ニモ宜シ、資本家ノ爲ニモ宜イト思ヒマス、殊更ニソレヲ爭議ヲ惹起スト云フヤウナコトハ惡イ——調停ヲスルコトガ何カ惡イヤウニ言フガ、ドウシテモ出来ルダケ圓滿ニ調停ガ出来テ、サウシテ労働者ノ要求モ容レラレ、又資本家ノ方モ甚ダシク損害ヲ被ラナイヤウナ程度ニ行ッタラ、是コソ勞資協調ガ徹底スルト思フノデアリマス、此際ニ當テ調停法ヲ提出スルト云フコトハ決シテ惡イコトデハナイト思ヒマス

○安藤委員 内務大臣ハ私ガ質問シマスト少シ曲ゲテ聞カレルヤウナ傾キガアリマスガ、爭議調停ハ出来ルモノナラヤル方ガ宜イ、何ヲ苦ンデサウ云フコトヲ言フカト云フコトヲ言ハレマスガ、爭議調停ガ惡イト云フノデハナイ、意見ヲ言ッテ居ル譯デハナイケレドモ、下手ナ改正ヲスレバ改正シナイヨリ惡クナッテシマフ、ソレデ其組合法ヲ出ス時ハ同時ニ之ヲ必ズシモ出サナケレバナラヌト云フ必要ガドウシテアルカト云フコトヲ言ウタノデスガ、併シ是ハアト

デ爭議調停法ノ所ヘ行ッテ改メテ御尋ヲ致シマス

(後略)

第三回

會議

昭和六年二月二十七日(金曜日)午前十時三十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長	添田敬一郎君	理事	三宅 磐君	理事	山谷 義治君
理事	多田 滿長君	理事	宮澤 裕君		
榊谷 寅吉君	濱野徹太郎君	谷原 公君	櫻内辰郎君		
飯塚春太郎君	三宅 磐君	久留義郷君	長尾 半平君		
清水徳太郎君	田中 貢君	堀内良平君	仲井間宗一君		
加藤久米四郎君	堀切善兵衛君	安藤正純君	田子一民君		
松村 光三君	西岡竹次郎君	西尾末廣君			

同日委員比佐昌平君及三浦虎雄君辭任ニ付其ノ補闕トシテ三宅磐君及仲井間宗一君ヲ議長ニ於テ選定セリ
同日理事比佐昌平君委員辭任ニ付其ノ補闕トシテ三宅磐君理事ニ當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ

内務大臣 安達謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

内務政務次官 齋藤隆夫君

内務參與官 一宮房治郎君

社會局長官 吉田茂君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

労働組合法案(政府提出)

労働爭議調停法中改正法律案(政府提出)

(中略)

午後一時十分開議

○添田委員長 ソレデハ開會致シマス

○安藤委員

(前略)

モウ一ツ議事進行デ申上ゲマスガ、政府ハ此二大法案——労働組合法案ト労働爭議調停法改正案トノ二ツヲ最後ニハ切離シテ之ヲ進行スルト云フヤウナ御考ヲ持ッテハ居リマセヌカ、若シ左様ナコトガアレバ是ハ非常ナ間違デアリマス労働組合法案ヲ拵ヘルコトニ付テ必要デアルト云フノデ結局爭議調停法ノ改正案モ茲ニ聯關シテ出タノデアリマスカラ、私共ハ此二法案ハ全然不可分、不可離ノ間ニ置カレテアルト確信ヲ致シテ居リマスカラ、組合法案ヲ後ニ殘シテ、調停法ノ改正案ダケヲ遂行スルト云フヤウナ態度ヲ執ラレタナラバ、世間ノ非難ト論議ハ非常ナモノニナルデアラウト思フシ、又サウ云フコトガ萬一アツトラバ、政府ノ誠意ハ非常ニ疑ハレルコトニナル、吾々トシテハ全然承服スルコトハ出來マセヌカラ、此點ヲ豫メ申上ゲルト共ニ、内務大臣ノ御決心ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス、斯ク申上ゲルノ

衆議院委員會 労働組合法案外一件 委員會第三回

ハ前ニ其先例ガアル、昨日申上ゲタ通り五十一議會當時ニ於キマシテハ、組合法ト爭議調停法ト兩方出テ、兩方共質問ハ終了致シテ居ルニモ拘ラズ、殊ニ組合法ハ十分審議ヲ盡シタニ拘ラズ、最後ニ至リマシテ與黨ノ委員ノ諸君カラ調停法ト治安警察法ダケヲ取リマシテ、組合法ヲ後廻シニシテ、其結果遂ニ握潰シニナッタノデアリマス、サウ云フヤウナ既ニ政府ニハ先例ガアリマスカラ、此際左様ナコトヲ致シテハドウシテモ吾々ハ承服スルコトガ出來マセヌ、能マデ此二法案ハ不可分ノ關係デアルト云フコトヲ申上ゲテ内務大臣ノ御決心ヲ豫メ伺ッテ置キマス

○安達國務大臣 私ノ出席致シマスルコトハ當然ト考ヘテ居リマスカラ、成ルベク出席致シマス

(中略)

ソレカラ第二ノ爭議調停法案ト労働組合法案トガ先例ガアルト云フコトデ切離シテ一方ヲ先ニスル、サウ云フコトハ絶對ニ致シマセヌ、ドウゾ御安心ヲ願ヒマス、先ヅ此労働組合法案カラ先ニ進メタイト云フ位ニ考ヘテ居リマス、之ヲ切離シテ調停法ヲ先ニスルト云フヤウナ考ハ持テ居リマセヌカラ御安心ヲ願ヒマス

○安藤委員 簡單ニモウ一回申上ゲマス、只今ノ内務大臣ノ御答辯ヲ聽キマシテ安心ヲ致シマシタ、此爭議調停法案ト労働組合法案トハ不可分ノ關係ニアルカラ絶對ニ切離スコトハ致シマセヌ、寧ロ組合法ヲ先ニ進メタイト決心デアル、此御答辯ヲ得マシテ安心ヲ致シマシタ、就テハソコデ伺ッテ置クガ、此二ツヲ切離スコトハナイト云フコトハ確カデアルガ、萬一組合法案ノ方ダケガ成立スルヤウニナッテ、調停法ノ改正案ノ方ガ残ルト云フ關係ニナルヤウナ風ニ御進メニナルコトハナイデゴザイマセウカ

○安達國務大臣 ドチラヲ先ニシテドチラヲ後ニスルト云フヤウナコトハ絶對ニ致シマセヌ、並行シテ行ク積リデアリマス

○安藤委員 兩方共絶對ニ離サナイデ進メルト云フ積リデスネ

○安達國務大臣 サウデス

(後略)

第四回

會議

昭和六年二月二十八日(土曜日)午前十時二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 添田敬一郎君	理事 三宅 磐君	理事 由谷 義治君
理事 多田 滿長君	理事 守屋 榮夫君	理事 宮 澤 裕君
榊 谷 寅吉君	濱野 徹太郎君	谷 原 公君
飯塚 春太郎君	栗原 彦三郎君	久 留 義 郷君
清水 徳太郎君	田 中 貢君	堀 内 良 平君
加藤 久米四郎君	堀切 善兵衛君	安 藤 正 純君
松 村 光 三君	勝田 銀次郎君	西 岡 竹 次郎君
		西 尾 末 廣君

出席國務大臣左ノ如シ

内務大臣 安 達 謙 藏 君

出席政府委員左ノ如シ

衆議院委員會 労働組合法案外一件 委員會第四回

内務政務次官 齋藤 隆 夫君 内務參與官 一宮 房治郎君 内務書記官 唐澤 俊 樹君
社會局長官 吉 田 茂君

(前略)

○西尾委員 本案ヲ提案ニナリマシタ時ノ内務大臣ノ説明ヲ伺フテ居リマス、從來ノ政府ノ者ガ勞働組合ニ關スル聲明ヲシタ中デハ、割合ニ進歩的ナコトヲ言ッテ居ラレルノデアリマス、要約致シマス、勞働組合ノ社會的ナ地位ガ、或ハ産業上ニ於ケル地位ガ、重要ナ地位ヲ占メテ來タカラ、之ニ對シテ法律的ニ公認シ、ソレニ依ッテ從來動モスレバ特別ノ法制ガナイ爲ニ、勞働組合ヲ不合法化シテ居ル人々ノ爲ニ、徒ニ不必要ナ勞働爭議ガ行ハレテ居ルコトヲ、成ルベクナイヤウニシタイノダト云フコトヲ申シテ居ラレルノデアリマス、甚ダ感心デ、其言葉ダケヲ拔出シテ見マス、ト、進歩的ナコトヲ言ッテ居ラレルヤウニ思フノデアリマスガ、段々結論ニナッテ行キマス、其前提トハ全然縁モユカリモナイヤウナ、寧ロ勞働組合ヲ彈壓スルヤウナ結論ガ事實ニナッテ生レテ來テ居ルノデアリマス、私ハ其點ニ付テ逐條的ニ御尋シタイト思フノデアリマスガ、不必要ニ質問應答ヲ混亂セシムルコトヲ出來ルダケ避ケタイ爲ニ、私ハ根本的ナ政府ノ立場ニ付テ一言御尋致シタイノデアリマス、即チ勞働組合法ヲ提案スル政府ノ根本的ナ立場ガ何處ニアルカト云フコトヲ明瞭ニ知ッテ置ク事ガ——若シ其事ヲ十分ニ知ルコトガ出來マスナラバ、其他ノ事ハ最早質問スル必要ガナイヤウニナッテ來ルカモ知レヌト思フ程ニ、政府ノ根本的ノ立場ヲ聽クコトハ重要ダト思フノデアリマス、ト云フノハ内務大臣ノ説明ノ御言葉ノ中ニモアリマシヤウニ、又日本ノ勞働組合法ノ沿革ガ示シマシヤウニ、嘗テ大正七年頃デアッタト思ヒマスガ、勞働組合法ガ當局者ニ依ッテ問題ニナッタ時ニ、是ハマア自然ノ儘ニ放任シテ置カウト云フ意見ガアッテ、暫ク放任サレテ居リマシタノガ、歐洲戰爭後世界的ニ無産階級ノ勢力ガ擡頭シテ來タ、ソレニ影響サレテ我國ニモ大正八年ヲ轉機トシテ、勞働組合運動ガ急激ナ發達ヲシテ來タ、サウシマスルト是ハモウ發達ノ儘ニ放

任スルコトハ出來ナイト云フノデ、更ニ又再ビ勞働組合法ニ對シテ政府當局ガ如何ニ之ヲ取扱フベキカト云フ事ガ問題ニナリ掛ケテ來タノデアリマス、此歴史ガ示シテ居リマシヤウニ、今日又勞働組合法ガ此議會デ論ゼラレルヤウニナッタト云フコトハ、是ハ隠レモナク勞働組合運動ノ發展ノ結果トシテ、大臣自身ガ御認ニナリマシタヤウニ、勞働組合ノ産業上ニ於ケル地位ガ重大化シテ來タト云フコトニ在ルト思フノデアリマス、ソコニ勞働組合法ガ議會デ論ゼラレル所ノ出發點ガアルト思フノデアリマス

ソコデ勞働組合法ニ對シテ當局ハドウ云フ御意見ヲ持ッテ居ラレルカト云フ根本ノ問題ハ、更ニ勞働組合ト社會全體トノ關係ヲドウ云フ風ニ御考ニナッテ居ルカト云フ事カラ話ヲ進メテ行クノガ妥當ダト思フノデアリマス、併ナガラ餘リニ抽象的ニナリマシテハ却テ議事ノ進行ニ好イ結果ヲ齎サナイト思ヒマスカラ、出來ルダケ具體的ニ申シマス、勞働組合運動ガ發達スルノハ言フマデモナク資本主義ガ發達シテ、サウシテ資本主義ハ個人主義、營利主義デアリ、自由競争主義デアルト云フ關係カラ、勞働者個人ノ生活幸福ト云フ事ヲ願ミルヨリモ、企業家ガ自ラノ營利ヲ追求スルト云フコトニ専ラ意ヲ用ヒマスル結果、勞働者ノ生活ガ不安ニナッテ來タ、ソレデ勞働者自身ガ自分ノ生活ヲ擁護シタイト云フ所ガ、勞働組合運動ノ發足點ニナッテ居ルノデアリマス、サウシテ勞働組合運動ノ發達シテ居ル所デハ、何レノ國ニ於キマシテモ、勞働組合ノ要求ト云フモノトハ、明瞭ニ對立シテ居ルノデアリマス、階級的對立ガアルノデアリマス、此階級的對立ヲ出來ルダケ調和シヨウト云フ考ヘ方モアリマセウ、其點ニ和出來ナイト考ヘテ、寧ロ調和ニ努メルト云フヨリハ鬭争ニ依ッテ勝利ヲ占メヨウト云フ考ヘ方モアリマセウ、其點ニ付テハ後ニ私ハ伺ヒタイト思フノデアリマスケレドモ、先ヅ日本ノ現在ノ社會ニ於テハ階級的ナ對立ガアルト私ハ考ヘルノデアリマスガ、階級的對立アルコトヲ是認ナサイマスカドウカ、其點ヲ伺ヒタイノデアリマス

○安達國務大臣 只今ノ御尋ノ最初ノ御話ハ、或ル所マデハ意見ヲ同ジウシテ居ル所モアリマス、何トナレバ、私ハ

日本ノ産業ガ發達致シテ行クニハ、資本家バカリアッテソレデ産業ガ發達スルモノデハナイ、必ズ茲ニ缺クベカラザルモノハ労働者デアリマス、ソレデ勞資ガソコニ對立シテ、サウシテ調和シテ圓滿ニ行クコトガ、日本ノ産業ノ發達ノ基トナルモノト考ヘテ居リマス、此間私ガ議場デ述べマシタノモ、勞資ノ融和、産業界ノ健全ナル發達ヲ期スルト云フコトニ盡キテ居リマスガ、其點カラ申シマシテ、日本ノ産業ガ發達スレバスル程、労働者ノ地位ノ安全向上ト云フコトハ大ニ注意シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、御話ノヤウニ企業家ハ唯自己ノ營利ヲ目的トスル、企業家ノ方ヲサウ一言ニ片付ケテシマフト云フ事ハ、是ハアナタ方ノ立場カラハ能クサウ云フ御言葉ヲ御用ヒニナリマスケレドモ、企業家モ必ズシモサウバカリ考ヘテハ居リマセヌ、私資本主、企業家側ノ意見ヲ徴シテ見テ、色々労働者ニ對スル待遇ノ改善其他ニ付テモ、非常ニ徹底的ニ合理的ニ考ヘテ居ル人ガ中々多イ、労働者側ノ方ハ、資本主、企業家ハ唯自己ノ營利カラバカリ割出シテ何デモスルカノ如クニ思ハレテ居ルガ、サウデナイト思ヒマス、殊ニ是ハ日本ノ國民性カラ考ヘテモ、私ハ日本デハ——歐羅巴デハ出來ナイケレドモ、日本デハ勞資ノ間ノ協調ハデカシタイ、日本ノ國民性ハモウ少シ優美ナ所ガアル、ソレハ出來ルト云フコトヲ考ヘテ居リマス、ソレデ産業ノ發達ヲ期スルト同時ニ、茲ニ勞働立法ヲシナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ資本家側ニ言ハセマスト、別問題トシテ考ヘテ貰ヒタイト私ニ言フノデアリマスガ、ソレハ何カト云フト、一般大衆ノ思想ノ流レデアリマス、之ヲ善導シテ行クト云フ事ガ、今日政治ヲ爲ス者ノ最モ考ヘネバナラヌ所デアリマス、労働者ハ三四十萬人ニ過ギナイトシテモ、其背後ニ居ル大衆ト云フ者ハ數百萬居ル、此思想ヲ善ク切り流シテ、善導シテ行クト云フ事モヤハリ考ヘネバナラヌ、産業ノ平和的發達ヲ圖ルト同時ニ、ソコニサウ云フ意味ノ事モ私ハ合セ加ヘテ考慮シテ、サウシテ斯ウ云フ場合ニ勞働立法ヲ爲ス事ノ必要ヲ認メテ居ル、ソコガ資本家ト申シマセウカ、其方面カラモ此場合ニ勞働立法ヲシナケレバナラヌ、問題ト申シマスカ、一種ノ民衆的ノ思想ノ流レト申シマセウカ、其方面カラモ此場合ニ勞働立法ヲシナケレバナラヌ、

斯ウ考ヘテ居リマス

ソレデ御話ノ労働者ト資本家ノ階級的對立——是ハ對立ト云フ言葉ヲ使ッテ弊ガナイト考ヘマスガ、ソレハ對立スルト云フコトデ宜シイ、併シ之ヲ調和シテ行キタイ、吾々ノ勞資協調ト云フ事ハソコニ在ル、ソレヲ動モスルト闘争シテ、資本家ニ對抗シテ、労働者ガ自分ノ地位ノ向上ヲ圖ル、闘争ニ依ッテ自分ノ地位ノ向上ヲ圖ルト云フ、經濟的ノ所謂「ストライキ」ナラ宜イガ、資本家ニ反抗シテ闘争デ自分等ノ地位ノ向上發展ヲ圖ルト云フヤウナコトヲ調和シタイ私ハ考ヘテ居リマス、必ズシモ闘争シナクテモ労働者ノ地位ノ向上ハ出來ルダラウト思フ、先般モ勞資懇談會ノ時ニ、最近ノ英吉利ヲ見テ歸ッテ來タ人カラ、今日デハ英吉利ノ労働者ナドハ「ストライキ」ヲヤラヌ、「ストライキ」ヲヤッテ非常ナ莫大ナ金ヲ掛ケルト云フコトハイカナイカラ、労働者ノ方デモ非常ニ勢力ノ扶植擴張ヲ圖ッテ、ソレカラ離金ナドヲシテ、其力ガ充滿シ、澎湃トシテ居レバ、資本家モソレニ從ッテ來ル、ソレダカラ勢力ヲ擴張スルコトガ必要デアル、唯昔ノヤウニ好ンデ「ストライキ」ヲスルヤウナコトハ目的トシテ居ラヌ、「ストライキ」ヲヤレバ何時デモ損ヲスル、最近ノ傾向ハサウナッテ來タト云フ話ヲ非常ニ興味ヲ持ッテ聽イタ次第デアリマスガ、必ズシモ闘争ガ爭議ノ目標デハナイ、闘争ヲシナイデ其間ニ協調ヲスル、資本家ノ中ニモ中々分ッタ人ガアリマス、決シテ頑冥不靈ノ人バカリデハアリマセヌ、唯目前ノ「ストライキ」ノ状態ガ、是ハ西尾サンモ御承知ノ如ク、東京デモ大阪デモ經濟「ストライキ」デナク、亂暴ナル暴行的ノコトヲヤル、先般英吉利ノ實業家ガ觀察ニ來マシタ時ニ、日本ノ「ストライキ」ヲ見テ、アレハ暴動ダト云フヤウナコトヲ度々聽カサレマシタ、サウ云フコトデアル、之ヲ除カナケレバナラヌ、ソレデ私ハ其暴動的ノ「ストライキ」ト經濟「ストライキ」トヲ區別シテ考ヘテ行キタイト思フテ居ルノデアリマス、資本家モソコハ苦慮シテ居ル、話セバ能ク分ル、併シ斯ウ云フ現在ノ状態ダカラ、斯ウ云フ時ニ此法案ナドヲ出シテ貰フト、露骨ニ言ヘバ労働者ガ益々付ケ上ッテ來ル、サウシテ益々横暴ヲヤラレルカラ困ル、斯ウ云フコトデ其立場ヲ異ニシテ居ル方面

カラ言ウタナラベ、或程度ハ道理ガアルト思ヒマス、今日ノ状況カラ言フト、私ハソコガ非常ニ大切ナ所デアルト思フ、今ノ「ストライキ」ガ軌道ニ載ッテ居ラヌコトハ、私モ認メル、全體デハアリマセヌガ、主ナル「ストライキ」ヲ數ヘ來レバ、中々亂暴ナコトガアル、是ハ取締ヲ嚴重ニシナケレバナラヌ、普通ノ「ストライキ」デハナイ、ソコデ取締ノ不徹底ト云フコトヲ言ハレマス、是ハ或所ニ於テハ不徹底ナ所モアツタカラ、私ハ注意シテ徹底的ニ取締ヲスルヤウニ致シタイト思ヒマス、ソレデ今日此法案等ニ對シテハ資本家側ハ神經過敏ニナッテ、恐怖心ヲ懷イテ居ル有様デアアル、ソコデ現在ノ状態ヲ取締ルコトハ、是ハ日本ノ法規ニ據ッテ十分ニ取締ラレマス、アナタノ御質問ニハナカッタガ此取締ノ單行法ヲ別ニ作レト云フ註文ガアルケレドモ、是ハ各方面ノ意見ヲ綜合シテ見テ十分取締ル、又私ハサウ云フ法制ノコトハ不案内デアリマシタケレドモ、段々自分デモ調べテ見ルト、成程専門家ノ言フ通り其單行法ハナクテモ不都合ハナイト感シマシタ、ソレデ一方デハ嚴重ナ取締ヲシ、一方デハ其労働者ノ爲ニ向フ所ヲ指示シテ、労働條件ノ維持改善、生活ノ安定ヲ圖リ、其位置ノ保障ヲ與ヘテ行ッテ、茲ニ始メテ資本家ト労働者ノ間ノ協調ガ出來ル、私ノ考ヲ率直ニ申シマスレバ、歐米ナドニナイヤウナ一種ノ美風ガ資本家ト労働者ノ間ニ出來テ、今マデ能ク言ハレテ居ル温情主義、私ハ温情主義デ行クトハ言ハナイガ、ヤハリ温情ノ籠ッテ態度デ、日本流ノ勞資協調ガ出來テ行ッテ、資本家モ喜ビ、労働者モ満足スルト云フコトガ出來サウナモノデアアル、ソレヲ無理ナ事ヲシテ、或ハ宣傳「ピラ」ナドヲ撒ク、宣傳「ピラ」ナドニハ随分極端ナ事ガ書イテアル、アレヲ見タラ大概ノ資本家ハヤハリ嫌ナ感ジヲ起ス事モ當然デアル、ア、云フ事ヲスルノハ宜シクナイ、是ハ取締ル、サウシテ堂々タル態度デ、何カ資本家ガ無理ナ事ヲシ、或ハ正當ナ要求ニ對シテモ之ヲ容レヌト云フコトガアレバ、ソレヲ世間ニ訴ヘルガ宜イ、サウスレバ世間ハ之ヲ批判シ、同情スル、サウシテ其労働者ノ要求ガ宜ケレバ世間ガソレニ傾ク、隨テ資本家ハソレニ讓歩スル、私ハ飽マデ勞資ノ間ニ立ッテ此法案ノ實行サレル曉ニハ、協調主義ヲ徹底セシメタイト感ジテ居ル次第デアリマス、是ガ本案ヲ提案スル根

本ノ精神トモ申シテ宜カラウト思ヒマス

○西尾委員 中々親切ナ御答辯ヲ得マシタガ、私ノ伺ヒマシタ要點デアアル現在ノ社會ニ於テハ勞資ノ利害ノ對立ガアルト云フ事ハ、御認ニナッタノデアリマスカラ、其一點ダケハ満足致シマス、ソコデ利害ノ對立ガアルト致シマスナラバ、政府當局トシテ出來ルダケソレヲ「ストライキ」ニ導カナイヤウニ、協調セシムルヤウニスルト云フコトハ尤ナ話デアリマス、サウシテ私共協調ハ個々ノ場合ハ絶對ニ不可能ダトハ考ヘテ居ナイノデアリマス、唯協調ノ出來ル場合モ出來ヌ場合モアル、出來ヌ場合ニハ労働者ノ方ガ無理ヲ言フ場合ガアルシ、又資本家ノ方ガ無理ヲ言フ場合ガアルヨ併シ當事者同志ハドチラモ相手ガ無理ダト考ヘテヤッテ居ルノデアアルカラ、先ヅ第一ニ現在ニ於テハ、勞資間ニ利害ノ階級リ仕方ガナイト思ヒマス、ソコデ話ガ能ク分ッテ來タノデアリマスガ、先ヅ第一ニ現在ニ於テハ、勞資間ニ利害ノ階級的ノ對立ガアルト政府ハ御認ニナッテ出來ルダケ之ヲ協調セシメヤウト云フ御趣旨デアルト云フコトハ分ッタノデアリマス、併シ御話ガ現在ノ「ストライキ」ノ事ニ移リマシタカラ、私モモウ一言、實ハ俸給者デアリマスカラ、私ノ知ッテ居ル事柄ヲ申上ゲテ見タイノデアリマス、第一ニ英國ノ經濟使節ガ日本へ來リテ、日本ノ「ストライキ」ノヤリ方ハ甚ダ亂暴ダト言ッテ驚イテ居ッタト云フ御話デアリマスガ、日本デハ「ストライキ」ガ暴動化スルコトハ當然デアッテ、英國ノ資本家乃至労働組合ノ幹部ガ、日本ノ「ストライキ」ヲ見テ驚イタノハ無理カラヌコト、思ヒマス、私モ大正十三年ニ歐米ヲ旅行致シマシタ時分ニ、丁度倫敦ノ青物市場デ「ストライキ」ヲヤッテ居ッタノヲ見マシタ、私ハ言葉ハ分リマセヌガドウ云フ工合デアアルカト思ッテ見ニ行キマス、一ツノ青物市場ノ建物ガ中央ニアッテ其周圍ノ廣場ニ「ストライカー」ガ其建物ノ軒先ニ、煙草ヲ喫ッたり佇ンダリシテ、其青物市場ノ建物ヲグルッテ取巻イテ居ル、サウシテ、サウ云フ所ニハ「ストライカー」ハ二百人近ク居ッタガ、警官ハ僅カ三人シカ居ナカッタ、サウシテ其二百人近クノ「ストライカー」ガ青物市場ノ建物ヲ取巻イテ居ッテモ、ソレヲ追散ラスコトハシナイ、又労働者側ノ方カラ言ヘバ、其大部

分ハ組織勞働者デアリマスカラ、暴力ナドニ訴ヘナイデモ、唯見テ居ルト云フコトダケデ、道德的ニ「ストライキ」破リヲシテ居ル者ヲ監視シテ居ルコトニ依ッテ大體目的ガ達シラレマスカラ、法ノ取締ガナクテモ、英吉利ノヤウナ國情デハ暴力ニ訴ヘル必要ガナイデアリマス、サウ云フ所カラ日本ノヤウナ「ストライキ」ニ對スル取締ノ法律ガ網ノ目ノヤウニ張り廻ハサレテ居ル所デ、而モ内務大臣自身モ御認ニナッテ居リマスルヤウニ、勞働組合ニ對スル特別ノ法制ガ今マデニナカッタデアリマスカラ、勞働組合ニ對シテ是ハ不穩當ナモノダ、怪シカラヌモノダト云フヤウナ考ヘ方ヲ持ッテ居ル資本家ガ充滿シテ居ル日本ノ國情ニ於テ、其中ニ於テ敢然ト立ッテ勞働組合ニ這入ルト云フモノハ、幾ラカ元氣ノ良イ者ガ這入ッテ來テ、少々元氣ノ惡イ者ガ長イモノニ卷カレト云ッテ、已ムヲ得ズ引込シテ居ルト云フ状態デアルカラ、勞働爭議ガ時ニ尖鋭化スルト云フコトガ當然デアッテ、英吉利ノ經濟使節ガ日本へ來テ驚イタト云フコトハ是ハ當リ前ノコトデアッテ、別ニ是ハ決シテ日本ノ勞働爭議ガ、勞働者ノ責任ノ爲ニ不穩當ナル現象ヲ呈シテ居ルト云フ原因ニハチットモナラヌデアリマス、更ニ吾々委員ニ御示シ下サイマシタ當局ノ「最近ニ於ケル勞働爭議ノ一般的情況」ト云フ此「パンフレット」ニ於キマシテモ、寧ロ今日ノ爭議ノ原因ハ資本家ニアルコトヲ主張シテ居ルデアリマス、一寸之ヲ讀ンデ見マスルト「最近ニ於ケル勞働爭議ノ原因ハ概ネ事業ノ休廢止、縮小等ニ基因スル解雇問題及賃銀ノ減額乃至、不拂問題ニ集中サレ、産業界ノ好況殷賑時代ニ於ケルガ如キ賃銀増額其ノ他待遇改善ヲ内容トスル所謂積極的要求ハ其ノ影ヲ没スルニ至レリ、今最近ニ於ケル爭議ノ原因トナル要求事項ニツキ消極的要求事項增加ノ割合ヲ見ルニ」ト云フノデ、大正十四年ニハ十七「パーセント」デアッタガ、昭和五年ニハ七十六「パーセント」デアアル、賃銀ヲ是レ以上下ゲテ貰ッテハ困ル、解雇サレテハ飯ガ食ヘヌト云フヤウナ勞働者ノ方カラノ防衛的ナ爭議ガ大正十二年ニ十七「パーセント」デアッタモノガ、七十六「パーセント」ト云フ風ニ激増シテ居ル、是ガ逆ニ勞働者ノ方カラ待遇ノ改善ヲシテ貰ヒタイト云フヤウナ積極的ナ要求ヲシタノハ、大正十二年ニハ五十七「パーセント」デアッタ

ノガ昭和五年ニハ十七「パーセント」ニナッタ、斯ウ云フ風ニ現在ノ勞働爭議ト云フモノハ、寧ロ勞働者ノ方カラ「ストライキ」ヲ仕掛ケルト云フヨリハ、資本家ノ方カラ勞働者ノ減リ、賃銀値下、勞働條件ノ低下ト云フ、資本家ノ積極的ナ要求ニ基イテ、勞働者ハ、ソレデハ困ルト云フ消極的ナ、止ムニ止マレズ、最後ノ一線ニ立ッテ是ハ闘ッテ居ルノデアリマス、是ハモウ此上ニ賃銀ヲ下ゲラレテハ生キテ行ケナイ、不景氣段々ト賃銀ナリ、勞働條件ヲ下ゲラレタノニ、是以上下ゲラレテハ、吾々ハ最早飯ヲ食フコトハ出來ヌ、詰リ生活ノ最後ノ一線ニ踏止ッテ闘ッテ居ルト云フ時ニ、而モ資本家ノ此勞働爭議戰術ハドウカト云フト、概ネ資本家ノ方カラ持久戰ヲ執ッテ來ルノデアリマス、此頃勞働爭議ガ長引クト云フコトハ、概ネ資本家ノ方中々經濟ガ苦シイノデアリマスカラ、止ムニ止マレヌ所モアリマセウガ、之ヲ合法的ニ、合理的ニ、勞働爭議ノ解決ヲシヨウトシナイデ、寧ロ勞働團體ニハ罷業資金ガナイノデアルカラ、勞働者ノ臺所ハ貧弱ナノデアルカラ、モノ、一箇月モ引張ッテ置ケバ向フカラ負ケテ來ルト云フコトヲ見越シテ付ケテ、資本家ノ方カラ持久戰ヲ執ッテ居ル、其著シイ最近ニ現ハレタ傾向トシテハ、大抵ノ場合勞働者ガ會見ヲ申込ニ行クト、逃ゲテ張ッテ姿ヲ隠シテシマフ、吾々ノ方デハ已ムヲ得ズ相手ノ資本家ガ何處ニ居ルカト云フコトヲ警察當局ニ捜査願フ出シテ見タリ、尋ネ人ノ「ピラ」ヲ貼ッテ交渉スル相手ヲ探シテ歩カネバナラヌト云フヤウナ事實ハ至ル所ニアルノデアリマス、若シ尙ホ私ノ申上ゲマシタコトニ對シテ、サウ云フコトハナイト云フ大臣ノ答辯ガアリマスカラバ、私ハ内務大臣ノ下僚デアアル社會局ノ局員ノ發表ナサイマシタ社會局調査ニ依ル所ノ數字ヲ以テ、私ノ今申上ゲマシタ、資本家ノ積極的ナ行動カラ爭議ガ起ル、ソレガ長引クト云フコトモ、資本家ノ方カラ寧ロ長引カセルヤウナ戰術ヲ執テ居ルト云フコトヲ、私ハ立證スルコトガ出來ルノデアリマス、サウナッテ來マスト、私ハ勞資懇談會ノ席上デモ申シマシタ通り、人間ハ生キル權利ガアリマス、不穩當ナヤウナ言葉カモ知レマセヌガ、明日ノ飯ガ食ヘヌトキニハ、直チニ其場カラ監獄ニ打込マレテモ構ハヌ、店頭ニアル食物ヲ取ッテ食フ權利ガアルノデアリマス、ヤハリ法律ニ依ラナケ

レバ——監獄ニハ入レラレマセウケレドモ、ソレヲ取ッテ食フ権利ハ、人權ト申シマスカ何ト云フカ、私ハアルト思フノデアリマス、ソコデ労働争議ノ場合デモ、少数ノ者ガ監獄ニ放リ込マレテモ構ハヌ、其事ニ依ッテ他ノ労働者ノ労働條件ガ善クナルト云フ確信ガアツタ場合ニハ、ソレハ労働者ノ中ノ者ガ犠牲的ニ、時ニ重役ノ家ニ暴レ込ムト云フヤウナコトハ、其事自身ハ善イコトデハナイケレドモ、是又已ムヲ得ザル現象デアラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ私ハ今日ノ労働争議ガ甚ダ穩當デナイト云フ、其事ダケヲ捉ヘテ是ハ労働者ノ責任デアルト云フ考ヘ方ハ、間違ッテ居ルト思フノデアリマス、其點御認ニナルヤウデアッタラ、積極的ニ認メルト云フ御言葉ハナクトモ——私ハ次ノ問題ニ移リタイト思フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○安達國務大臣 西尾サンノ日本ノ「ストライキ」ガ暴動化スルハ當然ナリト云フヤウナ御言葉ハ、餘リドウモ過激ノヤウデゴザイマス（西尾委員「已ムヲ得ヌト云フ」ト呼ブ）英國ノ青物市場ノ「ストライキ」ヲ實驗シテ、警官ガ二、三名シカ居ナカッタ言ハレタガ、サウシタイノデス、實ハソコマデナラナケレバ本當ノコトデハナイノデアリマスガ、サウイカナイノデアリマス、サウイカナイコトヲ甚ダ残念ニ思フノデス、ドチラガ缺點ガアルカ、決シテ労働者側バカリニモナイ、労働者側ニ聞イテ見ルト、資本家側デモ一種ノ何ト云フカ、妨害ノ爲ニ壯士團體ノヤウナ者ヲ入レテ、サウシテヤルカラ悪化スルト云フヤウナコトモ聞イテ居ル、サウ云フコトハヤハリヤウガ餘リ善クハナイト思ヒマスガ「ストライキ」取締ノ爲ニ網ノ目ヲ張ッタヤウニ法規ガアルト言ハレタガ、決シテサウデハナイ、已ムヲ得ズ、餘リ極端ダカラ警察權ノ發動ヲ増スノデアッテ、決シテ好ンデスルノデモナシノデス、今ノ重役ニ會フテモ面會セヌト言ハレマシタガ、會フタナラバ脅迫スル、其處ニ座リ込ンデ亂暴スル、家族ヲ脅ス、暴レ込ム、衝立ヲ壞ストカ或ハ障子ヲ破ルトカ色々ナ弊害ガ澤山實際ニ私ハアルト思ヒマス、一々ソレヲ申ス必要モアリマセヌガ、兎ニ角歐米ニ較べルト、アナタハ已ムヲ得ヌト言ハレルガ、其行爲ハ亂暴ダト思フノデアル、感情ノ激スル所サウ云

フコトヲスルノガ、アナタノ立場カラ言ヘバ已ムヲ得ズト言ハレルデアラウガ、ソレヲ或ル程度ニ止メテ載キタイ、サウシタラ資本家ノ方モ非常ニ私ハ諒トスルト思フ、資本家ガ居所ヲ晦マス、一方カラ言フト困ッテ居ルガ、分ッたらバ非常ナ脅迫ヲスル、ソレダカラ是ハ中小資本家ニサウ云フコトガアルノデアルト思フノデアリマス、今ノ話ヲ以テ實體ヲ定メル譯ニハ行カナイガ、今日ノ労働争議ハ御話ノ通り積極的カラ消極的ニ、賃銀ノ値下反對トカ何トカ云フヤウナコトヲ主トシテ居ルガ、併シ一方カラ考ヘルト、労働者ノ方モ生活ニ非常ニ収入ニ不足シテ來ルダラウケレドモ、會社ノ方モ經濟界不況デ、會社ガ倒レルカ倒レナイカト云フ存立如何ニ關スル問題ナノデアル、資本家ノ人達ハ此會社ガ何トカ立行クナラ、極端ニ言フタラ無配當デモ續ケテ行ッテ、會社ガ算盤ガ取レテ行ケバ、無配當デ苦シクテモ、利益ガナクテモ許サレルナラバ、誠首ハシナイダラウト思フ、併ナガラドウシテモ會社ガ立行カナイノデアリマス、ソレダカラ已ムヲ得ズ解雇スルヤウナコトガ各地ニアルノデアリマス、決シテ残酷ナルヤリ方デハナイト思ヒマス、アナタハ英吉利ノ例ヲ引カレタガ、先達テ新聞ヲ見ルト、英吉利ノ織物ノ本場デアル「ランカシャー」ノ方デ、何か機械職工ノ人員ヲ少クシタ、ソレガ爲ニ「ストライキ」ガ起ラントシタ所ガ、資本主ノ方ハ、一齊ニ工場ヲ閉鎖シテシマッタト云フコトデアル、ア、云フヤリ方ヲ見ルト、中々英吉利アタリノ資本家ハ、日本ノ資本家ヨリモ辛辣ナコトモスル

ソレデ今日ノ會社ガ解雇ヲスル、ソレハ實際ニ立行カナイ、會社ガ潰レル状態デアルカラサウ云フコトヲスルノデアル、ソレカラ人間ハ生キル權利ヲ持ッテ居ルカラ云々ト云フ御話ガアリマスガ、成程生キル權利ハアリマセウ、併シソコニ調和ヲ見出シテ行カケレバナラス、此間資本家ノ結合團體ニハ加ッテ居ラナイ或ル資本家ガ言フニハ、労働條件ノ維持改善ト云フケレドモ、唯賃銀ヲ高クスルヤウニ改善スルノハ宜シクナイ、財界不況ノ場合ニハ下ゲルコトモ必要デハナイカ、ソレデ労働條件ノ改善ト云フヨリハ協定ト云フ方ガ宜イト言ハレタ人ガアリマス、是ハ今ノ資本家ノ

聯合團體以外ノ人ガ言フコトデアルガ成程サウ云フコトモアリマセウ、今日ノヤウナ不況ノ際ニハ、勞資協調ニ依ラナケレバヤハリ算盤ガ採レヌ、算盤ガ採レヌナラバ、労働ノ一割ナリ一割五分ナリト引クト云フコトモ已ムヲ得ナイ、労働者側ニモサウ云フコトガマ、アルト云フコトヲ、新聞デ見テ喜ンデ居リマスガ、資本主モ何モ好ンデ労働者ヲ壓迫シ、解雇スルト云フコトハアリハシナイ、ドウシテモ立行カナイ、ドウ算盤ヲ採ッテモ立行カナイカラ、ア、云フ風ニ出ルノデアリマスカラ、私ハ平等公平ニ考ヘテ、労働者側ニモ考慮シテ貰フ餘地ガアルト考ヘル、其邊ノ相互ノ間ノ意思ノ疏通ヲ圖ッテ行ツタナラバ、私ハ労働争議ナルモノハ、餘程々々調停ガ功ヲ奏スルト思ヒマス

○堀切委員 一寸關聯シテ御尋致シマス、只今内務大臣ノ御説明ヲ聽イテ居リマス、流石ニ民間等ニ御經驗ガアッタダケニ、私共大イニ御同感ニ存ズルノデアリマス、但シ勞資協調ト云フ精神ハ、今ノ内閣ノ諸公ガ皆同ジヤウニ持ッテ居ルカドウカ疑問ト考ヘマス、ト云フノハ、此前ノ豫算委員會ニ於テ、井上大藏大臣ガ、ヤハリ無産黨ノ淺原君デシタカ、或ハドナタデシタカノ質問ニ對シテ、只今安達内務大臣ノ御述ニナッタト同ジヤウナ點デ、會社ガ立行カナイ際ニ、労働者ノ首ヲ減ルノハ致シ方ガナイ、元々會社アッテノ労働者デアルカラ、ソレハ仕方ガナイ、斯ウ云フヤウナ議論デアリマシタ、此點ガ甚ダ御間違デハナイカト思ヒマス、私共ハ事業ト云フモノハ、皆人間ニ依ル所ノ事業デアルト思フ、會社ガ立行カナイカラト云ッテ、直グニ労働者ノ首ヲ減ルト云フヤウナコトハ、是ハ避ケナケレバナラヌト思フ、出來ルダケ他ノ方法手段ニ懇ヘテ、立行クヤウニ全力ヲ盡シテ、努力シナケレバナラヌ、ドウシテモ致シ方ガナクナツタ際ニハ、或ハ已ムヲ得ナイカモ知レマセヌガ、會社ガ經營難ニ陥ツタカラ、直グニ勞銀ヲ下ゲルト云フコトハ、人間ヲ大事ニ見ナイデ、事業ヲ大事ニスルモノデアッテ、私ハ考ガ違ッテ居ルト思ヒマス、サウ云フ風ニ直グニ首ヲ減ッテシマフカラ、労働者側ハ生キンガ爲ニ闘ハナケレバナラヌト云フコトニナッテ、争議ガ辛辣ニ進ンデ行クト思ヒマス、ドウシテモ今ノ内閣ノ諸公ハ——經濟界ガ不景氣ニナッタト云フ此責任ガ何處ニアルカト云フコトハ、長クナリマ

スカラ論ジマセヌガ、今ノ事業ガ何ノ爲ニ經營困難ニ陥ッテ居ルカ、具體的ニ申シマスレバ、公債社債ノ支拂ガ困難デアル、ソレカラ物價ガ下落致シマシタカラ儲カラナイ、ソレダカラ何トカシナケレバナラヌ、何トカスル方法トシテ、産業合理化ト云フヤウナ方法ガ出テ來タノデアリマス、ソレデアルカラ人間ノ頭ヲ叩キ付ケル前ニ、色々外ニ努力シナケレバナラヌコトガ澤山アルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ一向御考ナク、大藏大臣ノヤウナ人ガ、事業困難ニナッタ際ニハ事業ノ爲ノ労働者ダカラ、首ヲ減ッテモ仕方ガナイト云フコトヲ漫然御發表ニナルノハ甚ダ宜シクナイと思フ、私ノ意見ト違フ所ハ即チ此處ニアル、其點カラ言フト内務大臣ハ流石ニ世故ニ長ケテ居ル爲ニ、今マデノ御答辯ヲ承ル所ニ依レバ、私共ノ考ト一致シテ居ル所ガアルと思フ、尤モマダ十二分ニ御同意ヲ申上ゲル譯ニハ行キマセヌ、内務大臣ハ大藏大臣ノヤウニ會社ガ事業困難ニナッテ來レバ、直グ職工ノ首ヲ減ッテモ宜イト御考ナノカ、私等ハ人ノ首ヲ減ッテモ轉業ガ出來ルヤウナ途ヲ講ジテ置カナクチャナラヌト考ヘルガ、轉業モ何モ出來ヌヤウナコトヲシテ置イテ、會社ガ困ツタカラ首ヲ減ッテモ差支ナイト云フヤウナ状態デハ、生キンガ爲ニ有ユル戰ヲシナクチャナラヌヤウニナルダラウ、斯ウ云フ經濟状態ニシテ置クノガ一番惡イト思ヒマス

○安達國務大臣 大體ニ於テ今堀切君ノ御話ノ通りノコトデ、私モサウ考ヘテ居リマス、大藏大臣ガドウ申シマシタカ、大藏大臣モ眞逆直グ不景氣ダカラ解雇シテシマヘト云フヤウナコトモ言ハナカッタデアラウト思ヒマス、今御話ノヤウナ意味ニ於テ會社ノ整理ヲシナケレバナラヌ、好景氣時代ニ何割ト云フ配當スル場合ニ、配當ノ制限ヲシテ不當ナ配當ヲセズニ、絶エズ好景氣時代ニ不景氣ノ襲來シタ場合ニ備ヘルヤウナコトヲスルヤウニナルコトヲ私ハ希望シテ居リマスガ、ソレハ組合法ナドトハ別問題デアルケレドモ、偶、堀切君カラ御話ガアツタカラ言ッテ置キマスガ、ソコマデ行カナケレバ私ハ徹底セヌト思フ、要スルニ大體ニ於テハ御話ノ通りニ考ヘテ居リマス、ソレハ會社全部トハ言ハヌケレドモ、大概多數ノ會社、是マデノ「ストライキ」ノ起ツタ所ニ於テハヤハリ經營困難デ、ドンナニ節約シテモ立

行カナイト云フコトカラ、モウ止ムヲ得ズ今度ハ労働者ニ手ヲ著ケルヨリ仕方ガナイト云フコトニナッテハ居ラヌカト思ヒマス、是ハ悉クサウデアルトハ申シマセヌケレドモ、多数ハサウデナカラウカ、其間ニ處シテ何トカーツ是ハ調和シテ、「ストライキ」ノ深刻化セヌヤウニシタイト考ヘテ居リマス、今御話ノ大體ハ私モアナタノ考ノ通りニ考ヘテ居リマス

○堀切委員 私共ハ今ノヤウナ事業ハ、ヤリ方ニ依ッテハマダ人間ノ方ヲ壓迫シナイデヤレル方法ガアルト思フ、之ニ對スル今ノ政府ノヤリ方ト、私共ハ全然考ヲ異ニシテ居ル、サウ云フヤウナ點ニ付テ政府ガ御反省ニナラナイ以上ハ、ヤハリ是ハ行詰ッテシマフ、ドウシテモ最後ノ所、即チ人間ニ手ヲ著ケナクチャナラヌコトニナル、是ガ爲ニ思想ガ惡化シ、勞資ノ協調モ甚ダ困難ニナッテ來ルト云フコトヲ御参考マデニ申上ゲテ置キマス

○西尾委員 資本案ノ方ガ、吾々ガ合理的ニ交渉シヨウトスル時分ニ、其策戦上逃ゲルト云フコトニ對シテ大臣ハ辯護ヲシテ、ソレハ逃ゲルノハ尤ダ、會ヘバ亂暴スルカラダト言ハレマスガ、サウデハナイノデアリマス、私共ハ調査ノ機關ヲ持ッテ居ラナイノデアリマスカラ、サウ云フコトガ絶對ニナイトハ申上ゲルコトガ出來マセヌケレドモ、此頃多クノ場合ニハ、持久戦ヲヤルト云フ戦術上カラ、故意ニ面會ヲ拒絕シ、行方ヲ晦マスノデアリマス、ト申シマスノハ突然何處カデ出會ッテ毆ラレル場合ニハ、自分一人デ防ガナケレバナリマセヌケレドモ、吾々ノ方カラ明日午前十時ニ會ヒタイト言ッテ、會見ノ時間ヲ決メテ申込メバ、今日ハ警察官ガアルノデアリマスカラ、警察官ヲ立會ハシテ會フコトガ出來ルノデアリマス、又毆ラレルト云フ危険ガアルナラバ「テーブル」ヲ隔テ、會フコトモ出來ルシ、又若イ者ダケデ甚ダ不安デアルナラバ組合ニハソレノ社會的ニ相當ノ地位ニ居ル幹部ガアルノデアリマス、私モ組合ノ幹部ヲシテ居リマスガ、西尾君ヲ連レテ來イト云フコトモ出來マスシ、毆ラレルコトガ危険ノ爲ニ會ハヌト云フナラ、毆ラレナイヤウニシテ會フ方法ガアルノデアリマス、ソレニモ拘ラズ逃ゲルノハ、持久戦ヲヤル目的ガツコニアルカラ

デアル、更ニ私ハ最近重要ナル一ツノ實例ヲ申シマス、大阪商工會議所ノ會頭ヲシテ居ル稻畑勝太郎氏——今労働組合法反對運動ノ關西ノ急先鋒ヲ務メテ居リマスガ、三年前前ニ此人ノ工場ニ於テ爭議ガ起ッテ、吾々ノ組合全員三百人程ノ中デ五十人程ガ「ストライキ」ヲ突然起シタ、其時ニ稻畑勝太郎氏ハ工場長ト共ニ私ノ茅屋ヲ訪ネラレマシテ、何トカ合法的ナ問題ノ解決方法ハナイカト言ウテ、僅カ家賃二十一圓五十錢ノ茅屋ニ商工會議所ノ會頭ガ車ヲ托ゲテ私ノ所ニ來マシタノデ、私ハ幹部ト相談シテ、三日ニシテ其爭議ヲ解決シタコトガアル、所ガ今度労働組合法反對ノ急先鋒ヲヤッテ居ルノデ、自分ノ工場ニ労働組合ガアルコトハ面目ナイト考ヘタノデアラウト私共ハ思ヒマスガ、急遽組合ノ幹部ヲ二名誡首シタ、從來モ屢々組合ノ幹部ガ誡首サレタノデアアルカラ、堪ヘ兼ネテ「ストライキ」ヲヤルト云フコトデ相談ニ來マシタカラ、ソレデハ取敢ヘズ要求書ヲ出セ、回答ハ明日ノ十時ニシロト言ッテ、私ハ組合長デアリマスガ、翌日主事ノ山口ト云フ男ト相談ノ結果、直チニ稻畑氏ノ工場長ニ電話ヲ掛ケテ、今日ノ十時ニハ回答ガアルト云フコトデアルガ、ソレハ最後ノ回答ニナッテ、恐ラク決裂ニナリ、爭議ニ入ルコトニナルデアラウカラ、其以前ニ爭議ニ移スコトノナイヤウ、何等カ圓滿解決ノ方法ハナイカト考ヘテ居ルガ、若シ會社ノ方デ御希望ナラバ、何時デモ會ヒタイト云フコトヲ電話デ通告致シマシタ、所ガ何レ相談シマシテ、一時間後ニハ返事シマス云フコトデアッタガ、其後返事モナケレバ、更ニ私ノ方カラ電話ヲ以テ再三會ヒタイト言ッテモ、何等通知モナク、行衛不明ト云フコトデ、今日マデ約五十日間爭議ガ續イテ居ル、斯ノ如ク大阪ノ商工會議所ノ會頭ヲヤッテ居ル人ガ、一方ニ於テハ労働組合ハ怪シカラヌト云フノデ反對運動ヲヤッテ居リナガラ、其人自身ノ工場ノ問題デ、自分ノ都合ノ好イ時ニハ吾々ノ家ニマデ車ヲ托ゲテ來ナガラ、此方カラ話ヲシタイト申シテモ、都合ノ惡イ時ニハ返事モシナイト云フヤウナ状態デアル、斯ウ云フ事實カラシテモ、今日労働爭議ノ險悪化スル原因ハ、資本案側ノ持久戦ニアルノデ、持久戦ヲヤラレテハ、労働者ハ結局餓死スルヨリ外仕方ナイカラ、ミスノ兵糧ガ盡キテ倒レルヨリモ、最後ノ一戦ヲ試ミルト云フコ

トニナルノハ、已ムヲ得ザル行動デアルコトヲ御認テ願ヒタイ
ソレカラ只今堀切氏カラ御質問ガアリマシタガ、私ノ言ハントシテ居ル所ヲ言ハレテ居ル、内務大臣ハ何ヲ好ンデ資
本家ガ首ヲ減リ、賃銀値下ヲスルカト仰シヤイマシタガ、ソレハ勿論資本家モ好ンデスルノデハナイノデアリマセウ、
他ノ工場ニ働イテ居ル職工ニ比シテ、自分ノ工場ニ居ル職工ニ僅ナガラモ同情ヲ感ズルノハ當然デアアル、若シ住友ノ
職工ト他ノ工場ノ職工トガ喧嘩ヲシテ居ッテモ、自分ノ工場ノ職工ガ勝ツコトガ嬉シイノハ人情上當然デアアル、併ナガ
ラ減首又ハ値下ヲスルコトヲ、自分ノ利益ヲ一切犠牲ニシ、譲レルダケ譲ッテ居ルノカト云フト、サウデハナイノデア
リマス、現ニ鐘紡ガ昨年ノ臨時議會ノ時分ニ、三割近クノ減給ヲヤリマシタガ、其鐘紡ハ好景氣時代ニハ七割ト云フ
筈ナ配當ヲシテ來テ居ル、苟モ大戦争ノ好景氣後ニ不景氣ガ來ルト云フコトハ、財界ニ身ヲ置ク者トシテハ當然分ッ
テ居ルコトデアアル、然ルニ不景氣ニナツタ場合ニハ、職工ヲ解雇又ハ賃銀値下ヲシタナラバ宜イト云フ安心ガアルカ
ラ、斯様ナ配當ヲスルコトガ出來タノデアアル、堀切氏ガ申シマシタヤウニ、虚心坦懐ニ人間本位ヲ考テ持ッテ居ッタナ
ラバ、幾ラ儲カッテモ此次ニハ不景氣ガ來ルト云フノデ、其爲ニ相當ナル積立金ヲシテ置カナケレバナラヌノデアアル、
然ルニサウ云フコトガ行ハレテ居ラズ、不景氣ニナルト急遽ニ三割近クノ減給ヲヤッタト云フヤウナ事實ニ依リ
マシテモ、資本家ガ已ムニ已マレズヤッタト云フノデハナクシテ、出來ルダケ自分ノ利益ヲ少クシナイヤウニシヨウト
云フノデアアッテ、労働者ノ方カラ申セバ、生活ガ出來ルヤ否ヤノ大問題デアアルガ、資本家ノ方カラ言ヘバ、出來ルダケ
自分ノ利益ヲ少クシタクナイ、損ヲシタクナイ、斯ウ云フノデアリマス、吾々ノ方カラ言ヘバ、企業ハ儲カル時モ損
ヲスル時モアルカラ、不景氣ノ時ハ少々損ヲ忍ンデモヤッテ行カナケレバナラヌノデアアル、事實職工ノ賃銀値下、減首
ハ、已ムニ已マレズニヤッタノデハナク、單ニ資本家ノ利潤ノ減少ヲ喰ヒ止メル爲ニ行ハレテ居ルノデアリマシテ、昨
年ノ特別議會ニ於キマシテモ、私ハ依商工大臣ハ産業ノ合理化ヲ言フケレドモ、モット日本ノ資本關係ヲ合理化スル必

要ガナイカ、徒ニ重役ガ多ク賞與ヲ取ルトカ、株主ノ配當ヲ多クスルト云フ如キニ對シテハ、何等カノ方法ヲ統制シ
ナケレバナラヌガ、政府ハ之ニ對シテ相當統制ヲ加ヘル必要ガナイカト申上ゲタガ、堀切君ガ言ッテ居ルヤウニ、大藏
大臣モ商工大臣モソナコトハシマセヌト云フ態度デ居ルノデアリマス、斯様ニ明瞭ニ今日ノ日本ノ資本家ガ自己ノ
營利ダケヲ考ヘテ居ッテ、國家全體ノコトハ何等考ヘテ居ナイト、サウ極端ナコトヲ私ハ言ッテ居ルノデハナイノデア
リマスガ、何ヨリモ先ヅ第一ニ自己ノ營利ヲ考ヘテ居ルト云フノガ、今日ノ資本家ノ心理デアルト云フコトガ此論議
ノ中ニモ明瞭ニナッテ居ルト思フノデアリマス、サウシテ最後ニ内務大臣ハ、英國ノ私ガ申上ゲマシタ青物市場ノ爭議
ノヤウニシタイト云フ御意見ガアリマシタガ、サウシタイト内務大臣ガ考ヘテ居ルダケテハナルモノデヤアリマセヌ、
サウスル爲ニハ、サウ出來ルヤウニ物ヲ導イテ行カナケレバナラヌノデアリマス、ソレニハ英國ノ労働組合ガドウ云
フ法制上ノ地位ニ置カレテ居ルカ、ドウ云フ社會環境ニ置カレテ居ルカト云フコトヲ御考ヘニナレバ、直チニ今度ノ
労働組合法案ガ甚ダ不徹底ナモノデアルト云フコトガ明瞭ニナッテ來ルノデアリマス、已ムヲ得ナイ爭議ハ勿論ヤラナ
ケレバナラヌ、吾々自身カラ考ヘマシテモ、何モ鬭争ノ爲ニ鬭争ヲヤッテ居ルノデハナイ、吾々ハ一般的ニハ鬭争ニ依
ラザレバ、此營利本位ヲ資本家ヲ反省セシムルコトガ出來ナイト云フノデ、詰リ資本家ヲ反省セシムル爲ニ、吾々ハ
鬭争ヲヤッテ居ルノデアリマスガ、場合ニ依ッテハ鬭争シナケレバ反省シナイ資本家モアリマセウ、又反省スルシナイ
ハ兎モ角モトシテ、實力ニ依ッテ争ハナケレバ問題ノ解決シナイ場合モアリマセウカラ、其事ノ爲ニ労働爭議ヲ行ヒ得
ル權利ヲ労働組合ニ認メナクチャナラヌ、所謂今度ノ法案デハ内務大臣ノ説明其モノニハ——此法案説明ノ言葉ノ中
ニハ、明瞭ニ團結權ハ法律デ認メナケレバナラヌト云フコトニナッテ居リマスケレドモ、罷業權ハ認メラレテ居ナイノ
デアリマス、罷業權ニ關シテハ、日本ニハ尙ホ多クノ制限ガサレテ居ルノデアリマス、更ニモット重要ナ問題ハ、成ベ
ク罷業ナクシテ、英國流ニ労働爭議ヲ解決シタイ、勞資關係ヲ規定シタイト御考ニナリマスナラバ、ソコニハ團體協

約ト云フコトガ問題ニナツテ來ルノデアリマス、團體協約ナクシテ、勞資關係ヲ出來ルダケ爭議ヲ避ケテ、之ヲ合理的ニ所謂協調セシメルト云フコトハ出來ナイト思フノデアリマス、私ガ一番最初ニモ申上ゲマシタヤウニ、此法案説明ノ内務大臣ノ言葉ノ一節ダケヲ見テ居リマス、甚ダ進歩的デアルガ、而モ其結論トシテ生マレタ所ノ法案其モノヲ見ルト、是トハ逆ニ、寧ロ團結權ヲ制限スルヤウナ法案ニナツテ居ルト申上ゲタノト同様ニ、此英國ノ青物市場デアッタヤウナ爭議ニシタイト大臣ハ言ヒナガラモ、サウスルベキ即チ團結權、罷業權、團體協約權ヲ、進ンデ決意ヲ以テ確認スルト云フ態度ニハ出ラレテ居ナイ、私ハ何時ノ場合デモ、現内閣ノオヤリニナツテ居ルコトハ、失業問題ニシマシテモ、或ハ減税問題ニシマシテモ、最初ノ踏出シハ非常ニ立派ニ出マスケレドモ、結論ニ於テハ逆ニナツテ居ルト云フコトヲ到ル處ニ見ルノデアリマス、私ハ色々尋ネタイコトモアルノデアリマスガ、先ヅ第一ニ團體協約權ヲ、ナゼ此法案ノ中デ御認めメニナラナカッタカト御伺スルノデアリマス

○安達國務大臣 稻畑君ノ工場云々ハ、アナタガ擔當サレテ今尙ホ收マツテ居ラヌ、是ハ御話トシテ拜聽シテ置キマス、其真相ハ私ノ方デモ調べテ見ヨウト考ヘテ居リマス、鐘紡ガ好景氣ノ時代ニ七割配當云々、先ニ申シマシタヤウニ、ヤハリ好景氣ノ時代ニ餘リニ株主ニ配當セズニ、配當制限ト言ッテ宜イカ、其若干ヲ積立金ニシテ置クト云フコトハ、非常ニ必要ト考ヘマス、好景氣ノ時代ニ不景氣ノ時代ヲ考ヘテ、サウシテソレニ手配準備ヲシテ行クト云フコトハ非常ニ必要ダト思ヒマス、ソレヲシナイト云フコトハ私モ肯定シマス、其處ハ私ハ資本金側ノ人達ニ對シテ、大ニ今後注意シテ行カネバナラヌコトダラウト思フ、好景氣時代ニハ勞働者ヲ勝手ニ使役シテ、サウシテ不景氣ニナッタラバ、急遽ニ賃銀ノ値下ヲスル、解雇ヲスル、ソレハ宜シクナイ、今マデサウ云フ弊害ノアッタ所ハ、今後大ニ匡正シテ、將來ハ建直シテ行クトガ必要ト思ヒマス、鬭争ニ依ラナケレバ資本金ノ反省ガ出來ヌ、是ダケハアナタノ御立場カラ御主張モ已ムヲ得ヌコト、思フガ、モウ少シ資本金ヲシテ、サウ云フ現在及ビ將來ニ對シテ、反省シ改良

セシムルヤウナ資本金ノ方ニ缺陷ガアリトスレバ、是ハ私ハ十分其改良ヲスルコトガ出來ルデアラウト思フ、必ズシモ鬭争ヲシナケレバナラヌ、或ハ重役ニ會ウテ腕力沙汰デモシナケレバナラヌ、斯ウ云フ事ハ避ケテ、飽マデヤハリ道理ニ依ッテ、正々堂々タル陣ヲ張ッテ、勞働者側ノ人ガ行動セラレタナラバ、所謂東京ノ眞中ニ於テ、英國ノ青物市場ノアナタノ實見サレタヤウナ「ストライキ」ガ出來ルノデアリマス、團體協約ノコトハナゼソレヲヤラヌカ、此事ハ色々議論モアリマシタガ、之ヲ此組合法デ規定スル譯ニハ中々行カナイ、唯一條ヤ二條位デハ收マルコトデハナイ、團體協約ノコトハ、若シソレヲ實行スル場合ニハ、別ニ法案ヲ作ラナケレバナラヌト思フ、此勞働組合法案ノ中ニハ、團體協約ノコトハ織込ンデハナイノデアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒマス

(後略)

第六回

會議

昭和六年三月三日(火曜日)午前十時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 委員長 添田 敬一郎君 | 理事 三宅 磐君 | 理事 由谷 義治君 |
| 理事 多田 滿長君 | 理事 宮澤 裕君 | |
| 濱野 徹太郎君 | 櫻内 辰郎君 | 飯塚 春太郎君 |
| 久留 義郷君 | 長尾 半平君 | 清水 徳太郎君 |
| | | 田 中 貢君 |
| | | 栗原 彦三郎君 |

衆議院委員會 勞働組合法案外一件 委員會第六回

堀内良平君

仲井間宗一君

加藤久米四郎君

堀切善兵衛君

安藤正純君

田子一民君

松村光三君

金光庸夫君

西岡竹次郎君

西尾末廣君

出席國務大臣左ノ如シ

内務大臣 安達謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

内務參與官 一宮房治郎君

社會局長官 吉田

茂君

社會局部長 富田愛次郎君

(前略)

○西尾委員 次ニハ本案ニハアリマセヌケレドモ、元ノ社會局案ノ第十三條ガ削ラレテ居ルノデアリマス、即チ免責規定ガ削ラレテ居ルノデアリマス、此免責規定ガ削ラレタト云フ結果ハ、労働爭議ニ依ッテ損害ヲ與ヘラレタル工場主ガ労働組合ニ損害賠償ヲ求メル訴訟ヲ起スコトガ認めラレテ居ル結果ニナッテ居ルノデアリマスガ、サウ致シマスト、事實上罷業ハヤレナイ結果トナッテ來ルノデアリマスガ、當局ハドウ御考ニナルノデアリマスカ

○吉田政府委員 免責規定ノ削ラレテ居リマスルト云フコトハ、現在ニ於ケル労働爭議ノ責任ノ歸屬ハ何處ニ在ルカト云フ問題ヲ、其處ヘ殘シタコトニナルト思フノデアリマス、現在ハソレ等ニ關シマシテハ、民法上ノ色々ナ損害賠償ニ關スル規定等ガ、ドウ爭議ニ對シテ適用セラレルカト云フ問題ガ、實例ノアリマセヌガ爲ニ判決例モナク、學者ノ解釋ニ委セラレテ其儘ニナッテ居ル次第ノデアリマスガ、此事ハ内務大臣カラモ前ニ御説明ガアッタノデアリマスケレドモ、從前アリマシタ社會局私案ノ第十三條ト云フモノガ、細ク碎イテ申上ゲレバ、労働爭議ノアッタ場合ニ、ソレモ組合ニ關係シテ労働爭議ノアリマシタ場合ニ、組合ノ役員其他ノ組合員ガ爭議ニ從事スル人々ヲ指圖ラシテ業務

ヲ停廢セシメタト云フ場合ニ於テ、其指圖ラシタト云フコトニ依ッテ、組合自身モ賠償ノ責ヲ負ハナイシ、又組合役員等モ賠償ノ責ヲ負ハナイト云フ組合自體ニ關スル部分ダケノ規定ガ從前ノ十三條ニアッタノデアリマス、併ナガラ是ハ責任ノ有無ト云フコトハ、必ズシモ組合自身ガ關係スルト否トニ拘ラズ起リ得ル問題ナノデアリマス、組合ニ關スルダケノ規定デ、爭議ノ場合ニ於ケル指圖ノ結果ニ基ク賠償責任ガアルカドウカト云フコトヲ、組合ダケデ規定スレバ足ルト云フモノデハナイノデアリマス、組合ノ關係シナイ爭議モ有リ得ルデアリマセウシ、又組合幹部ガ指令ラシナイ爭議モアルノデアリマスカラ、ソレ等ニ共通ノ事柄トシテ最モ慎重ニ考慮シナケレバナラヌ、吾々ノ攻究スベキ最モ大切ナル問題トシテ、モウ少シ慎重ナル考慮ヲ拂ハネバナリマセヌ、只今マデ労働組合ナリ労働組合ノ幹部ナリニ對シテ、爭議ノ結果ニ依リ損害賠償ト云フモノヲ求メラレマシタ事例モ、我國ニ於テハマダナイノデアリマス、況ヤ又ソレニ基イタ判決ト云フヤウナモノモナイノデアリマスルノデ、是ハ別途ニ今少シ慎重ナル考慮ヲ致シタ上デ、此問題ニ對スル法制上ノ態度ヲ決定致シタイト云フコトデ、是ハ省カレタノデアリマス、簡單ニ申上ゲマスト、事實サウ云フ事例ガマダ起キテ居ラヌシ、隨テ事實上ノ必要ガナイ、ソレカラ組合ニ關係シタ問題トシテ、組合ノ幹部ナリ、組合ノ免責ダケヲ規定スルコトヲ以テ致シテハ、問題ノ全般ハ解決シテ居ラナイ、此二ツノ理由ヲ以チマシテ十三條ノ規定ハ今回ノ法律案ニハマダ加フルニ至ラナカッタノデアリマス

○西尾委員 第一ニ之ヲ除イタ理由トシテハ、從來サウ云フ事例ガナカッタト云フコトデアリマスガ、併シ將來段々サウ云フ事例ガ起ッテ來ル可能性ガ漸次増加サレツ、アルノデアリマス、現在損害賠償ノ要求ヲ受ケマシテモ、労働組合ニハ賠償ニ任ズルダケノ資金ガアリマセヌシ、又相手モ別々ニ分ッテ居リマスカラ出來ナカッタシ、更ニ例ヘバ今ノ労働總同盟本部ハ四萬圓デ買ウタノデアリマスガ、其前ニ家主ガ他ヘ家ヲ賣ッテ終ヒマシテ、總同盟ハソレヲ認めナイト云フノデ、ズット頑張ッテ居タノデアリマスガ、家賃ノ取立或ハ立退ヲ要求スル爲ニ訴訟ヲ起シマシタケレドモ、總同

盟ト云フモノハ法人ニナッテ居ナイ、債権者ガ是ト訴訟シヨウト思ッテモ、總同盟ノ會員ハ三萬何千人アリマスカラ、ソレヲ全部訴ヘナケレバ訴訟ガ出來ナイト云フ關係カラ、其事ガ出來ナカッタノデアリマス、又訴訟ヲシテモ相手ニ金ガ無カッタノデアリマス、勿論總同盟ト致シマシテハ、今日ハ十三萬圓ノ資産ヲ持ッテ居リマスケレドモ、今マデハ大シタ金ガナカッタノデアリマス、所ガ今度ハ是ガ法人ニナル途方許サレテ來ルト、債権者ノ方カラ訴訟ヲ起スコトノ出來ル可能性ガアリ、其途ガ開カレル、サウシテ労働組合モ段々發展シテ行キマスレバ、資産ヲ持ツヤウニナッテ來ル、サウスルト損害賠償ヲ取り得ル可能性ガ出來テ來ル、斯ウ云フコトニナッテ來ルノデアリマスカラ、今マデハ事例ガナカッタケレドモ、是カラハ漸次サウ云フ事例ノ起ッテ來ルコトガ豫想出來ルノデアリマス、デアルカラ今マデハ事例ガナカッタカラト云フコトヲ以テ、之ヲ削ラレタト云フ理由ハ成立タヌト思フノデアリマス、其點ハ如何デアリマセウカナカッタカラト云フコトヲ以テ、之ヲ削ラレタト云フ理由ハ成立タヌト思フノデアリマス、其點ハ如何デアリマセウカナハ、成立タヌカモ知レマセヌ、今マデサウ云フ事例ノ發生シテ居ラナイト云フコトハ、今回ノ法案ニマダソレガ載ルニ至ラナイト云フ理由ニハ十分ナラウト思ヒマス、ソレト今一ツハ、先程申上ゲマシタ通り、今一ツノ理由ト致シマシテ、組合ノ免責、組合幹部ノ免責ト云フコトヲ規定シタダケデハ、マダ問題ハ決ッテ居ナイノデアリマス、私共ハ決シテ此問題ヲ將來ト雖モ起ラナイ、輕視シテ宜イ問題ダトハ考ヘテ居リマセヌ、慎重ニ攻究ヲ致シテ居ルノデアリマス、ケレドモ、サウ云フ組合ニ關スルト關セザルトヲ問ハズ、爭議ニ依ル責任ト云フモノヲ、如何ナル程度ニ於テ考ヘルコトガ必要デアルカト云フコトハ、寧ロ爭議全般ノ問題トシテ別途ニ考ヘル方ガ宜カラウト云フコトデ、今回ノ労働組合法案ニハ入ッテ居ナイト、斯様ニ申上ゲテ居ルノデアリマス

○西尾委員 然ラバ斯ウ云フコトニナッテ來ルト思フノデアリマス、労働組合法ヲ作ルト云フ精神ハ、私ハ本案ニ對スル質問ヲ洩シマス最初ニ内務大臣ニ申シマシタヤウニ、先ヅ労働者ニ團結權ヲ與ヘル、個々ノ労働者デハ、資本家ト

取引ガ出來ナイカラ、團結權ヲ認メテ、サウシテ已ムヲ得ザル場合ニハ「ストライキ」ヲヤルト云フコトヲモ認メ、出來ルコトナラバ「ストライキ」ノ舉ニ出デナイデ、團體交渉ニ依ッテ問題ヲ平和ニ解決スル所ノ團體協約權ヲ認メルト云フコトガ、労働組合ニ對スル社會通念デアリマス、常識デアリマス、サウ云フ點カラ考ヘテ見マスト、此「ストライキ」ヲヤッテ、ソレガ幹部及組合ガ損害賠償ノ責任ジナクチャナラヌト云フコトニナリマスカラ、事實上「ストライキ」ヲヤレナイト云フコトニナル、罷業權ガ認メラレナイト云フ結果ニナルノデアリマス、サウ云フコトハ政府デハ考ヘテ居ナイト思フノデアリマスガ、サウ致シマスト政府ノ所信トシマシテハ、マダ問題ハ未解決ノ儘ニ——一般的ノ法制上ノ問題トシテ、未解決ニナッテ居リマスケレドモ、若シ其解決ヲスルマデニ、労働組合ノ幹部若ハ労働組合ガ損害賠償ノ提起ヲサレマシタ時分ニハ、ソレハ認メナイト云フ大體方針デアアルノデアリマスカ、伺ッテ置キマス

○吉田政府委員 實際ニサウ云フ訴訟ノ起リマシタ場合ニ、ソレニ對シテドウ云フ判決ガ下ラウカト云フコトニ付キマシテハ、今日豫想シテ御答スル譯ニモ參ラナイノデアリマスカ、明カナル免責規定ノ無イ場合ニハ、或ハ民事上組合ナリ、ソレヲ指揮命令シタ組合ノ幹部ニ責任ガアルト云フ判決ガ下ルカモ分リマセヌ、併ナガラ只今モ御引用ニナリマシタ通りニ、爭議ト云フ事實ガアリ、労働爭議其モノハ既ニ不法デナイト云フ風ニ、爭議調停法ナドカラモ推定シ得ルノデアリマシテ、其場合ニ裁判所ハドウ云フ態度ヲ執リマシテ判決致シマスカ、其事實ガ起ッテ見マセヌト、的確ナルコトハ分リマセヌノデアリマスカ、一般ニ私法的ノ見地、民法的ノ見地カラ考ヘマシテ、左様ナ場合ニハ損害賠償ノ責ガアルノダト云フ說モ成立チ得ルコトト思ヒマス、併ナガラ此規定ガ無クナッタカラ、ソレデ爭議ト云フモノハ、モウ出來ナクナルデヤナイカト云フヤウナ御心配ハアリマスマイト思フノデアリマス、現在デモ從前ノ十三條ニ該當スルガ如キ規定ハ、何處ニモ無イノデアリマスケレドモ、ソレガ無イガ爲ニ、爭議ニ不便ヲ來シテ居ルトカ云フヤウナコトハ、私見テ居リマセヌノデアリマス、サウ云フ現在ノ狀況デ此組合法ヲ制定ニナリマシテモ、

マア殘ルト云フダケノコトデアリマス、尤モ其問題ヲ等閑ニ付シ、輕視シテ居ルノデハナイノデアリマスルカラ、別途ニ慎重ニ考究ハ致シテ居リマスルケレドモ、決シテ今度此規定ガ入ッテ居ナイカラ、是カラ勞働爭議ナリ、或ハ團體協約ナリト云フモノヲスルニ付テ、實際ニ大ニ不便ナモノガアラウトハ私共ハ想像致シテ居リマセヌ

(後略)

第七回

會議

昭和六年三月四日(水曜日)午前十時三十九分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | |
|------------|----------|----------|
| 委員長 添田敬一郎君 | 理事 三宅磐君 | 理事 山谷義治君 |
| 理事 多田滿長君 | 理事 守屋榮夫君 | 理事 宮澤裕君 |
| 長尾半平君 | 濱野徹太郎君 | 谷原公君 |
| 飯塚春太郎君 | 栗原彦三郎君 | 久留義郷君 |
| 田中貢君 | 堀内良平君 | 榊谷寅吉君 |
| 加藤久米四郎君 | 堀切善兵衛君 | 安藤正純君 |
| 松村光三君 | 西岡竹次郎君 | 西尾末廣君 |
| 出席國務大臣左ノ如シ | | |
| 內務大臣 安達謙藏君 | | |

出席政府委員左ノ如シ

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| 內務政務次官 齋藤隆夫君 | 社會局長官 吉田茂君 | 社會局部長 富田愛次郎君 |
|--------------|------------|--------------|

(前略)

○西尾委員 只今堀内サンノ質疑ノ御言葉ノ中ニ所謂資本家團體ニ於テ屢々問題ニサレテ居ル金一封ニ關スル御話ガアリマシタガ、是ハ甚ダ事實ト違ッタコトデアリ、又勞働組合ノ名譽ヲ甚ダ毀ケルコトデアリマスカラ勞働組合法案ヲ審議スル上ニ間違ッタ結果ノ起ラナイヤウニ一言致シテ置キタイト思フノデアリマス、私自身勞働組合ノ幹部トシテサウ云フ場合ニ屢々遭ッタノデアリマスガ、若シ堀内氏ニ於テ斯ウ云フ場合ニ、斯ウ云フ金一封ト云フ不正ガ、勞働組合ノ何ト云フ男ニ於テ爲サレタト云フ具體的事實ヲ示シテ載ケマスナラバ、吾々ハ其事實ガアレバ、勞働組合員ノ輿論ニ訴ヘ、サウ云フ者ハ勞働組合カラ驅逐スル、又若シ事實デナイナラバ、吾々ハ事實ナラザル事ヲ明カニ致サネバナラスト思フノデアリマス、私ハ今ノ言葉ニ對シソレハ是正シタイガ爲ニ事實ヲ申上ゲタイト思ヒマス、私自身ノ經驗ニ依リマス、名前ダケハ約束シタ其人ニ對スル信義上申上ゲマセヌガ、併シ想像シテ載ケバ分ルノデアリマス、昨年關西ノ大キナ紡績會社ニ起ッタ勞働爭議ニ際シマシテ、私モ金一封ヲ貰ッタノデアリマス、ソレハ色々交渉ノ結果、他ノ問題ニ付テハ協調ガ出來タガ、唯勞働者側ノ解雇手當ノ額ヲ一人當リ二百圓ハドウシテモ貰ハナケレバナラヌ、即チ爭議ヲ起シタ原因ハ多ク資本家側ニ罪ガアル、ソレノ損害賠償ノ意味ヲモ含メテ、吾々ハ五萬圓ノ金ヲ要求シタノデアリマス、ソレガ最切ハ三萬圓、三萬五千圓位カラ段々上ッテ四萬圓マデ出スト云フコトニマデ話ガ進ンダノデアリマシタガ、吾々ハソレデハ話ガ付カスト云ッテ蹴ッタノデ、一應交渉ガ決裂シタノデアリマス、サウスルト仲ニ立ッテ居ッタ人ハ兎ニ角會社側ハ言ヒ出シタノデアルカラドウモ面目上ソレ以上ハ金ハ出セヌカラ、自分ガ出スト云フコトニシ

ヨウ、金額ハ一寸記憶シマセヌガ何デモ三千圓位デアッタと思フ、其仲ニ立ッた者ガ金一封トシテ出サウト言出シタ、勿論會社ガ四萬圓出スト云フノモ、表面三萬五千圓出シテ、後ノ五千圓ハ金一封ト云フコトニシテ、表向キ發表シテ呉レルナト云フコトデアッタカラ斷乎トシテ吾々ハソレヲ拒絶シタノデアリマス、ソレデ又前申シタ金一封トシテ三千圓出スコトノ話デアリマスガ、ソレハ已ムヲ得ナイト云フコトデ、吾々ハ貰ッタノデアリマス、併シソレハ、吾々ノ爭議費用及支出報告ニハ明瞭ニ其金一封ヲ加ヘタ全金額ガ表ハシテアリ、其收支決算ハ印刷物ニシテ配付シテ居ルノデアリマス、サウ云フ場合ニ何故金一封ト云フ事ガ起ッテ來ルカト云フト、ソレハ資本家ノ方ハ金ヲ出シテモ宜イ、實際労働者ガ誠首サレルノニ一人前二百圓位ハ要ルドラウ其割合デ金ヲ出シテ宜シイ、併シサウ云フ金ヲ出スト一面ニハ今後誠首スル場合或ハ「ストライキ」ノ場合ニソレガ前例ニナル、勿論少々無理ヲシテ金ヲ餘計出シテモ宜イ實際ハ四萬圓出シテモ宜シイガ、表面ハ三萬五千圓ニシテ貰ヒタイト云フ場合ガ屢アルノデアリマス、其點ハ添田委員長ハ其方ノ玄人デアリマスカラ能ク御承知デアリマセウ、又モウ一ツサウ云フ事ガ前例ニナルバカリデナク、金ヲ餘計出スト云フコトハ何トナク會社側ガ負ケタト云フ感ジガ起ルノデ、世間體ヲ慮ッテ會社側ノ希望トシテ、多クノ場合金一封ト云フ問題ガ起ルコトニナル、サウ云フ場合ニ吾々金一封デハ困ル、表面ニ金一封ノ内容ヲ表ハシテ呉レト要求スルガ、結局ハサウ云フ事ノ爲ニ更ニモウ一遍爭議ヲヤリ直スト云フコトモ出來マセヌカラ已ムヲ得ズ吾々ハ金一封ト云フ形デ貰ッテ居ルノデアリマス、サウ云フ實例ガアリマス、若シ必要デアリマスレバ私ハ其間ニ折衝シタ人ノ名前ヲ申上ゲテモ宜シウゴザイマス、若シ秘密會デモ開イテ戴キマスレバ其人ノ名前ヲ申上ゲルコトガ出來マス

更ニモウ一ツハ東京ニ於ケルヤハリ紡績會社ノ問題デアリマシテ、吾々ノ方ノ主事松岡駒吉氏ガ是亦協調會ノ某氏ヲ中ニ立テテ交渉シタ問題デアリマスガ、其時分ニモヤハリ金ノ問題ガ出テ、結局四千圓ダッタと思ヒマスガ、四千圓ノ金ヲ出ス、併シ表向キ出スト云フト會社ガ困ルカラ是ハ内證ニシテ置イテ呉レ、其金ハドウ分配シテモ宜イガ、解決

ノ附ク迄ハ内證ニシテ置イテ呉レト云フ話ガアッタノヲ、宜シウゴザイマスと言ッテ別レタ、其翌日松岡君ガ其爭議團員ノ寄ッテ居ル所ニ行ッテ、斯ウ云フ話ガアル、サウシテ其金ハ四千圓出ルト云フコトニナッテ居ルノダカラ、ドウダ君等モ此程度デ纏メル氣ハナイカト云フヤウナ話ヲシタ、ソレヲ會社ノ者ガ聞イテ、アレハ秘密ニシテ貰フコトニナッテ居ッタノデアアル、ソレノニ暴露スルト云フコトナラバ、松岡君ハ信用出來ヌカラ、今マデ色々其他ノ點ニ付テ交渉シテ居ッタ問題モモウ取消ダ、松岡君ノ言フコトハ信用出來ヌカラ一切取消ダト言ウテ責メタ、ソレデ松岡君ハソレハ約束ヲ破ッタコトハ悪カッタガ、ソナラ金ハ要ラヌ、金ノ事ノ爲ニ吾々此問題ヲヤッテ居ルノデアリカ、金ハ要ラヌ、其代リ爭議ハ飽マデ續ケルト言ッテ話ハ一旦決裂シタノデアリマスガ、協調會ノ某氏ノ斡旋デ、ソレガ公ニナッテ儘デ、公ニナッテ宜シイト云フコトデ其爭議ハ解決ガ附イタト云フヤウナ事實ガアルノデアリマス、斯ウ云フ事實ガアルノデアリマス、金一封ト云フコトハ、何モ資本家ガ出サナカッタ宜イデヤナイノデスカ、金一封ト云フコトニ依ッテ解決ヲ附ケルコトガ資本家ニ都合ガ好イカラ、金一封ト云フ問題ガ起キルノダト思ヒマス、ソレガ誤ッテ居ル、労働者ナリ、労働組合ノ幹部ニ惡イ事ヲスルヤウナ者ガ存在スルト云フナラバ、資本家ガ出サナカッタ宜イデヤナイカ、何モ爭議ハ其金ガ主タル目的デナイノデアルカラ……現ニ今年一月ノ勞資懇談會ノ席上ニ於テモ或ル資本家ガ金一封々々ト云ウテ頻ニ労働組合ノ是迄ノ遣方ヲ罵倒シテ居ッタ所ガ、大阪商業會議所ノ會頭デアル稻畑勝太郎氏ガ、イヤ金一封ト云フコトハ結構ナコトダヨ金一封デ解決スルナラ是程結構ナコトハナイデヤナイカト云フコトヲ洩ラシタノデアリマス、ソレデ其處ニ居ッタ藤原銀次郎氏ガ、ソナナ事ヲ言ハレルト變ナ工合ニナッテ來ルノデ、急ニ稻畑氏ノ口ヲ緘シテ其問題ヲ糊塗シタト云フ事實スラアルノデアリマス、デアリマスカ、世間ニ於テ労働組合ヲ傷ケル爲ニ所謂金一封金一封ト言ッテ居ルノハ、是ハ以上ノヤウナ事情デアリマシテ、決シテ其間ニ労働組合幹部ノ不正ガ行ハレテ居ルモノデハナイト云フコトヲ明瞭ニシテ置キタイト思フノデアリマス

○堀内委員 只今ノ西尾君ノ問題ニ關聯シテ私カラ申上ゲテ置キマスガ、金一封ト云フコトハ資本家ガ出サナケレバ宜イデハナイカト言ハレルガ、出サナケレバ爭議ガ治ラナイカラ出サザルヲ得ヌ、ソレカラ金一封ト云フコトハサウ云フ事實ガナイトカ、アルトカ、資本家ガ金一封ヲ出スカラ取ルト言フガ、労働爭議ノ解決ニ金一封デナイコトガアリマセウカ、私共ノ見ル所ニ依レバ全部金一封デ済ム、若シソレガ労働組合ノドナタカ知ラヌガ名譽ノ爲ニト云フナラバ、事實ヲ擧ゲテ申シテモ宜イガ、私ハ他人ノシタコトハ言ハヌ、自分ノヤッタコトデアアル、爭議ニ丁度私ハ十遍位出會シテ居ル、其解決ハ何時デモ金一封デアアル、其中ノ一ツヲ申上ゲマス、名前ヲ言ッテモ悪イカラ、名前ガ若シ必要ナラバ他日會社ニ御出デニナレバ詳シク申上ゲマスガ、私ノ方デ三十九名減ッタコトガアル、ソレハ減ル理由ガアッテ減ッタデアリマス、サウスルト是等ノ者ニ對シテ隨分長ク居ッタ者モアリマシタカラ、一萬圓位ハ退職手當トシテ當然吳レナケレバナラヌコトニナル、會社ノ都合ニ依ッテ減ッタデアリマスカラ、黙ッテ罷メレバ其三十九名ニ對シテ會社ハ退職手當トシテ一萬圓位ハ吳レナケレバナラヌ、勿論外カラ指圖シテ居ッタ人モアッタデアリマス、愈々談判トナリマス、會社ノ従業員ハ皆謹詰ニナッテ居ルデアリマスカラ、出テ來テ話ヲスル人ハ皆外ノ人デアアル、ソコデ結局私ノ方デ一萬五千圓ヲ金一封トシテ出シタノデアリマス、私ノ考トシテハ五千圓ハ爭議ノ費用トシテ出スガ、一萬圓ハ退職手當トシテ出ス、ソレ等ノ者ハドウ云フ都合ガアッテ罷メテモ會社ノ退職手當ダケハ無事ニ本人ニ渡シタイ、サウ云フ考ヲ持ッテ居ッタノデアリマスガ、解決シタ時ノ覺書ヲ書ク時ニ、私ハ原案ヲ退職手當金其他爭議費用トシテト云フコトニ書イタ、金一封トシテモ其金ガ幾ラダト云フコトハ知ッテ居ッタデアリマセウガ、退職手當ト云フコトヲ書イテ吳レルナト言フ、ナゼカト云フト退職手當ト云フコトヲ書ケバ會社ノ規定ニ依ッテ退職手當トシテハ一萬幾ラカノ金ヲ要求スル權利ガソレ等ノ者ニアル、又仲間同志デハアリマセウガ、サウ云フコトヲ言フ權利ガ出テ來ルカノヤウニ考ヘタノデアリマスカ、退職手當ト云フコトヲ書カズニ、兎ニ角、總テノ諸費用トシテ金一封デ渡シテ吳レト

云フヤウナコトデアッタノデアリマス、私ノ方ハモウ事ガ済ミサヘスレバ宜イノデアリマス、尻ヲ持ッテ來ナイナラバ一向差支ナイコトデアリマスカラ、ソレデ済マシタコトガアルノデアリマス、西尾君ノ關係シテ居ラレル組合ハサウ云フコトハナイデアリマセウガ、私ハ今日マデ前後十數回ノ爭議ニ出會シテ何時モ金一封デ解決シテ居ッタ例ガアリマスシ、又世間ノ外ノ人ノ話ヲ聞キマシテモ、サウ云フ事例ガ多イカラ金一封ノ話ヲシタノデアリマス、稻畑勝太郎君ガ言ハレタノハドウ云フ意味デアルカ知リマセヌガ、ソレハ其方ガ宜イト私モ思ッテ居ル、組合ガドウナラウガ、労働者ガドウナラウガ、幾ラニ分ケヤウガ、煽動者ガドウナラウガ、吾々ノ眼中ニハナイ、問題ガ解決シテ吳レサヘスレバ宜イノデアアル、後デ其分配ニ付テ色々問題ガ起ラナイヤウニ問題ヲ簡單ニ片付ケテシマウ事ガ宜イノデアリマスカラサウヤルノデアリマス、段々今後労働者モ自覺シテ參リマス、ソノ人ガ仲介シテ折角會社カラ出タ金モ自分等ニ幾ラモ渡ラズニ他ニ持ッテ行カレルト云フヤウナ事例ガ若シ今後アリトシマシタナラバ——實際労働者ノ方デ自覺シテ來マスカラ、段々サウ云フコトモ少クナルダラウト思フノデアリマス、私ガ何カアリモシナイコトヲ言ッテ組合側ノ人ヲ傷ツケタカノヤウニ西尾君カラ申サレマシタガ、私ハ外ノ事ヲ申シタノデハナイ、自分ガ實驗シタ事ヲ申シタノデアリマス、併シ名前ヲ擧ゲルト云フヤウナコトガ名譽ノ爲ニ必要デアリマスト云フコトナラバ、他日ソレハ會社ニ御出デ下サレバ事實ヲ明カニスルコトモアラウト思ヒマス、一言辯明致シテ置キマス

○栗原委員 私モ所謂金一封ナルモノニ付テ社會局長官ニ御伺ヒシタイノデアリマス、私共ハ此金一封ナルモノヲ善イ事トハ思ッテ居リマセヌ、是ハモウ此所謂金一封ノ目的ノ爲ニ爭議ヲ起シテ居ル——會社ニモ、労働者ニモ別ニ爭議ヲ必要トシテ居ラナイ場合デモ、時ニ或ハ金一封ヲ必要トスル人々ガ之ヲ煽動シテ爭議ヲ起サシメテ金一封ニ依テ解決スルト云フヤウナ事ガ世間ニ澤山アリマス、其實例ヲ擧ゲルト言フナラバ、私ハ少クトモ昨年中ニ於テノミデモ二十ヤ三十ノ實例ヲ擧ゲ得ルノデアリマス、併ナガラ此労働團體ヲ保護シ、労働者ヲ保護スルト云フ上ニ於テ労働爭議ト云

フモノヲ吾々ガ認メマス以上ハ、ソレニ伴フ一ツノ弊害デアルト考ヘマシテ大體大目ニ見テ居リタノデアリマスガ、只今西尾君カラ申サレルヤウニソレガ悉ク資本案ノ罪デアッテ、勞働者ヲ煽動シ、勞働者ヲ使ッテ、ソレニ依ッテ金一封ヲ得テ不正ナル生活ヲシテ居ル者ハ一人モナイ、悉クソレガ非常ナ善良ナ人々デアリ、一封ナルモノ、悉クガ本當ニ勞働者ノ利益幸福ノ爲ニ用ヒラレルモノデアルト云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、是ハ甚ダ間違ッテ居ルト思フ、若シ社會局ガ西尾君ト同一意見デアリ、將來ニ於テ斯ウ云フ弊害ヲ除去シ、完全ナル勞働運動ノ發達ヲ希望スルト云フコトデナイナラバ私共ハ本案ノ賛否ヲ決スル上ニ於テ餘程考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト思ヒマス、私共ハ今マデノ一封ナルモノハ必ズシモ罪惡デアルトハ思ハナイケレドモ、將來斯ウ云フ弊害ハ段々矯正シテ行カナケレバナラヌト思ヒマスガ、社會局長官ハ如何ニ御考ニナリマスカ、御伺致シマス

○吉田政府委員 金一封ト云フ問題ガ或ハ資本案ノミノ責任デサウ云フ現象ガ起ルカ、或ハ勞働者側ノ責任デサウ云フ現象ガ起ルカト云フコトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、爭議ノ場合、殊ニ其爭議ガ長引ク場合ニ於キマシテ、或ハ資本案ノ便宜ノ爲ニ金一封問題ガ起ルコトモアリマセウ、又ソレガ爭議團ノ側カラ起ルコトモアリマセウ、其場合ニ金一封ト云フ解決方法ヲ執ッタコトノ責任ガ資本案側ニアルコトモアリマセウシ、勞働者側ニアルコトモアリマセウ、是ハ只今マデノ我國ノ爭議ニ多ク伴ッテ居ルヤウデアリマス、爭議解決ノ便法トシテサウ云フ方法ガ用ヒラレテ居ルガ、是ハ必ズシモ勞働條件ノ維持改善ト云フ組合結成ノ目的ニハ直接關係ノナイコトガアッタコトモ事實デアラウト思ヒマスガ、勞働爭議ノ理論的ナ解決、純理ニ基イタ解決ト云フ點カラ見マシタナラバ、無論金一封ノ問題ハ遺憾ナ現象デアルト申サナケレバナラヌト思ヒマス、併シ又一方速ニ其工場ニ於ケル産業ノ平和ヲ恢復スルト云フ上ニ於ケル事實上ノ作用モアルコトデアリマスカラ、金一封絕對ニ罷リ成ラヌト云フ硬イ方針モ只今私共トシテハ執ッテ居リマセヌガ、成ベクサウ云フコトハ徐々ニ改善ヲシテ純理ニ基イタ、誰ガ考ヘテモ正義ト思ハレル爭議ノ解決方法ガ立ツヤウニナル

コトヲ希望シ、又努メツ、アル次第デアリマス、ドチラガ惡イカト云フコトハ申シタクモアリマセヌシ、又申上ゲラレマセヌガ、是ハ双方デ氣ヲ付ケナケレバナラト思ヒマス、又役所ノ調停等ニ關與スル者ニ於テモ十分注意シナケレバナラヌコト、考ヘテ居リマス

○栗原委員 私ハドチラガ善イトカ惡イトカラ言フノデハナイノデアリマシテ、是ハ一種ノ弊害デアリ、ソレニ依ッテ隨分困難シテ居ル雇傭主モアレバ、又一封ナルモノヲ中間ニ入ッタ勞働「ブローカー」ト云フ人ニ取ラレテシマッテ、其一封ノ分配ヲ受ケズ、唯爭議中遊ンダリ、或ハ爭議ニ依ッテ全然職ヲ失ッタト云フコトニ依ッテ迷惑ヲシテ居ル勞働者モ澤山アリマス、私ハ事實ヲ指摘シロト言ハルレバ澤山指摘致シマスガ、兎ニ角一封ト云フヤウナモノニ依ッテ解決スルコトハ私ハ最善ノ方法デハナイト考ヘマス、デアルカラ、斯ウ云フモノデナシニ純理ニ立脚シテ本當ニ勞働條件ノ維持改善、若クハ勞働組合ノ成立ヲ必要トスル理論ニ基イテ有ユル勞働爭議ノ解決ヲシテ行クヤウニ導カレルカドウカト云フコトヲ御伺ヒ致スノデアリマス

○吉田政府委員 當局ト致シマシテハ丁度サウ云フ考ヲ持ッテ居リマス

○西尾委員 只今栗原君ガ甚ダ法律的ナ言葉ヲ用ヒマシテ申サレマシタニ對シテ、私ノ言葉ガ足ラナカッタノヲ感ジタノデアリマス、即チ金一封問題ガ悉ク資本案ノ責任デナク、又勞働組合ノ悉クニ不正ガナイト云フコトハ斷定出來ヌト申サレマシタガ、ソレハ私共是認致シマス、吾々ハ何等調査監督ノ機關ヲ有シテ居リマセヌノデアリマスガ、少クトモ私ノ關スル限りニ於テノ勞働總同盟ニ付テハ私ハ監督權ヲ有ッテ居リマスカラ、從來サウ云フ事ハナカッタト斷言スルコトガ出來ル、他ノ勞働組合ニ於テモ恐ラクナカラウト思ヒマスガ斷言ハ致シマセヌ、私ノミナラズ松岡君ノ關係シタ爭議ニ於テモ金一封ト云フ事ハ行ハレテ居ルノデ、全然サウ云フコトガナイト申シテ居ルノデハナイ、併ナガラ金一封ト云フモノガ悉ク勞働「ブローカー」ト稱スル者ノ私腹ヲ肥ス爲ニ行ハレテ居ルノダト云フ斷定ヲ下ス説ガ

從來資本家側ニ於テ行ハレテ居ル、資本家ハ自己ノ責任ヲ少シモ願ミナイデ、長官ノ御話ノアリマシタヤウニ自分ガ良イト考ヘテヤッテ置キナガラ、自己ノ罪ヲバ所謂勞働「ブローカー」ト云フモノニ轉嫁セシムル表現ノ言葉ヲ使ッテ、事實ニ於テハ勞働組合ヲ非難スル材料ニ用ヒテ居ル、之ニ對シテ私ハ一言ナカルベカラズトシテ起ッタノデアリマシテ、繰返シテ申シマスガ、金一封ト云フモノガ行ハレテ居ルコトモ吾々ハ認メル、併シ多クノ場合ニ於テソレガ正シク分配サレテ居ル、唯表面上ドレダケト云フ解雇手當ヲ出スコトヲハッキリスルコトガ出來ナイ場合ニ於テ金一封ト云フ形ヲ以テ渡サレルノデアルガ、其時分ニハ組合幹部ノ外ニ交渉委員ト云フモノガ附添ウテ行キマシテ、ソレ等ノ人々ノ前デ金ガ授受サレル、現ニ私ノ取扱ヒマシタ場合ニ於テモ二十名ノ交渉委員ガ行キマシテ、私ハ金一封ヲ受取ルト直チニ交渉委員ニ其内容ヲ見セタ、斯様ニシテ居ルノデアリマシテ、金一封ハ多クノ場合ニ於テ之ニ付テノ不正ガ行ハレテ居ナイト云フコトヲ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス

私ガ先程モ申シマシタヤウニ金一封ト云フヤリ方ハ宜シクナイ、弊害ガアルカラ之ヲ除去シタイト吾々ハ今日マデ努力シテ來タノデアリマスガ、當時關係ノ資本家又ハ調停者ノ面目上金一封ト云フコトニナルノハ已ムヲ得ナイト吾々ハ考ヘテ居ッタ、其原因ハ何處ニ在ルカト云フト、多クノ場合ニ於テハ資本家側ニ在ル、サウ云フ場合ニモ幾ラカ民事上ニ於ケル損害賠償ト云フ意味モ含メタリ、又日本ニ於テハ外國ノヤウニ失業保險制度ガ實施サレテ居ナイ、外國デハ勞働者ノ失業シタ場合ニ之ヲ救済スル費用ハ資本家ガ負擔シテ居ルガ、日本ノ資本家ハ之ヲ負擔シテ居ナイ、故ニ失業シテ次ノ仕事ヲ捜スマデノ生活ノ爲ニ勞働者ハ解雇手當ヲ取ル、解雇手當ノ制度ヲ作り給ヘト言ッテ會社ニ要求スルケレドモ、會社ハ解雇手當ノ制度ヲ作ラナイ、隨テ爭議ノ場合ニ、此解雇者ニ付テハ何ボク、呉レナクチャイカスト、其場其場デ解雇手當ヲ定メルト云フヤウナコトガ、金一封トナル所ノ重大ナル原因ニナッテ居ルノデアリマス、即チ一面ニ於テハ、勞働者ノ團結權ガ認めラレズ、團結權ノ結果トシテ起ル所ノ團體協約ガ日本デハマダ法律ニ依テ認めラレ

ズ、失業保險法ガ實施セラレズ、資本家階級ノ多クハ、彼ノ資本家團體ノ聲明書ノ如ク——今日ノ大部分ノ勞働組合ハ極メテ健全ナル發達ヲシテ居ル、此極メテ健全ナル發達ヲシテ居ル勞働團體ヲ目シテ、之ヲ思想團體デアアル、政治團體デアアル、危險ナル團體デアアル、過激ナル團體デアアル、斯ウ云フモノ、代表者ト膝ヲ交ヘテ勞働問題ヲ語ルサハ穢ラハシイト云フヤウナ、頑冥ナル考ヲ持ッテ居ル今日ノ日本ノ國情ニ於テハ、所謂金一封ト云フヤウナ問題ガ起ルノハ、是ハ已ムヲ得ナイ現象デアアル、併シ是ハ良クナイ現象デアアルカラ吾々モ改正シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、此點カラ見テモ、團結權、罷業權、團體協約權ヲ完全ニ認め、資本家團體モ亦勞働組合ノ者ニ「フランク」ニ、ザックバラニ、相手ノ人格ヲ認めテ會フト云フ態度ニマデ進化シテ行キマスナラバ、斯ウ云フ問題ハ自然ニ解決スル問題ダト考ヘルノデアリマス

(後略)

第十回

會議

昭和六年三月七日(土曜日)午後一時五十五分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | | | | |
|-----|--------|----|-------|----|-------|
| 委員長 | 添田敬一郎君 | 理事 | 三宅磐君 | 理事 | 由谷義治君 |
| 理事 | 多田滿長君 | 理事 | 守屋榮夫君 | 理事 | 宮澤裕君 |
| 理事 | 猪野毛利榮君 | | | | |

衆議院委員會 勞働組合法案外一件 委員會第十回

榊 谷 寅 吉君	濱野 徹太郎君	谷 原 公君	櫻 内 辰 郎君
飯塚 春太郎君	栗原 彦三郎君	久留 義 郷君	長 尾 半 平君
清水 徳太郎君	田 中 貢君	堀 内 良 平君	仲 井 間 宗 一君
加藤 久米四郎君	堀 切 善 兵衛君	田 子 一 民君	松 村 光 三君
中 谷 貞 頼君	西 岡 竹 次 郎君	西 尾 末 廣君	

同日委員守屋榮夫君理事辭任ニ付其ノ補闕トシテ猪野毛利榮君理事ニ當選セリ
出席政府委員左ノ如シ
社會局長官 吉 田 茂君
社會局部長 富田 愛次郎君

(前略)

○清水委員 尙一ツ御尋シマスガ、現在ノ或ル組合ガ勞働爭議ヲ起シテ、ソレガ認メラレタ組合ニシテモ又認メラレナイ組合ニシテモ勞働爭議ヲ起シタ場合、調停法デハ治ラナイ、コンナナマヌルイモノデハイカナイ、モット嚴重ニ取締ラナケレバナラヌ、近來ノ勞働爭議ノ傾向上産業ノ發達ヲ阻害スルモノデハナカラウカト云フコトカラ附則第二項ノ適用ヲ非常ニ心配シテ居ル人ガ少ナクナイノデアリマス、其結果トシテ勞働爭議取締法ヲ制定シテ貫ヒタイト云フ希望ガカナリ熱心ニアルノデアリマスガ、政府ハ勞働爭議取締法ヲ作ラナクテモ、現在ノ刑法ナリ、治安警察法ナリ、行政執行法ナリ、警察犯處罰令ナリ、違警罪即決例ナリ、其他ノ規則ヲ勵行スルコトニ依ッテ取締得ルト考ヘテ居ラレルノデアアルカドウデスカ、殊ニ本法ノ適用ヲ免レタ勞働組合ニ於テ其勞働爭議ガ激烈ニナラナイトモ限ラヌノデアリマスガ、サウ云フ確信ヲ持ッテ居ラレカドウカ

○吉田政府委員 現在ノ我國ノ取締ハ、刑罰ニ關スル法令ヲ以テ、爭議ガサウ云フ社會ノ秩序以外ニ逸脱スルモノヲ取締ルニ十分デアアルカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ十分デアルト考ヘマス、ソレ等ノ法令ガ適用セラレルセラレヌト云フ問題ハ本法ノ所謂勞働組合ノ起シマス爭議デアリマセウト、或ハ本法ノ適用ノ範圍外ノ勞働團體ノ起シマス爭議デアリマセウト、其點ハ差別ハアリマセヌ、勞働爭議ニ依ッテ暴行脅迫其他社會ノ秩序ヲ破壊スルヤウナ場合ヲ取締ル適當ナ法令ハ立派ニ完全ニ備ッテ居ルト考ヘマス

○清水委員 世間デハ今度ノ勞働爭議調停法中改正法律案ハ勞働爭議取締法チヤナカラウカト云フ風ニ、殊ニ無産黨方面デハ懸念シテ居ルヤウナ傾向ガアルノデアリマス、ソレニ付テ私等ノ憂フル所ハ調停官タル人ハ、從來通りニ警察部ニ屬シテ置カレルト云フ御考デアアルカドウカ、若シ警察部ニ屬セシメテ置クト云フコトニナルト、ヤハリ調停ト云フコトノ外ニ取締ノ任ニ當ルノデハナイカト云フ感ジヲ與ヘ、調停ノ上ニモ惡結果ヲ來スノデハナイカト云フ懸念ガアルノデアリマス、ソレデ取締ニ付テハ取締、調停ハ調停ト別ニシテ、從來ト違ッテ今後ノ調停取締ハ警察部デヤルノデナシニ、内務部トカニ御移シニナルヤウナ御考ハナイカドウカ、一寸御尋シマス

○吉田政府委員 是ハ單ニ調停職員ノミナラズ、社會政策ノ實行ニ關スル機關デモ現在警察部ノ所管ニナッテ居ルモノガ可ナリ澤山ニアリマスガ、其利弊ニ付テハ當局モ十分ニ考ヘテ居リマス、私共當局ト致シマシテハ出來ルナラバソレハ行政整理ノ一ツノ問題トシテ、之ニ適當ナ解決ヲ與ヘテ貫ヒタイト云フ希望ヲ持ッテ居リマスガ、併シドウ云フ風ニ處置シタラ宜イカト云フ政府ノ所見ハマダ確定シテ居リマセヌケレドモ、十分御氣付ノヤウナコトヲ加味シテ工夫シテ見タイト考ヘマス

○清水委員 民間デハ調停官ガ官吏デハ適當チヤナイ、民間ノ人カラ出スベキモノデアアル、斯ウ云フ非難モ少クナイノデアリマスガ、調停官ヲ御選ビニナルニ當リ、民間ノ事情ニ通ジタ適材ヲ得ルコトニ付テハドウ云フ御考ヲ持ッテ居ラレマスカ、念ノ爲ニ確メテ置キタイト思ヒマス

○吉田政府委員 御承知ノ通り調停委員會ノ組織ニ付キマシテハ政府側ト又中立的ナ人及ビ勞資双方ノ人ト云フ、主トシテ官吏以外ノ人々デ組織スルコトニナツテ居リマシテ、民間ノ意思ヲ尊重スル意向デ出來テ居リマスガ、調停官吏トシテ行フ職權ヲ直ニ民間ノ人ニ行使サセルカドウカト云フコトニ付テハ餘程考慮ヲ要スル點ガアルト思ヒマス、俄ニソレガ宜シイトモ斷定シ兼ネルヤウニ思ヒマス

○清水委員 或ハ私ノ質問ハ希望ニ屬スルカモ知レマセヌケレドモ、調停官ヲ選任セラレル時ニハ、從來ノ警察部ニ屬シテ居ル人デナクシテ、非常ニ民間ノ事情ニ通ジ、而モ民間カラ非常ニ信賴ヲ受ケテ居ル人デナケレバナラヌト云フコトヲ頭ニ置イテヤルノデナケレバ、調停法ガウマク行ヘナイデ、動モスルト勞働爭議取締法ト云フ風ニ解セラレルコトニナリハセヌカ、サウ云フ懸念カラ私ハ御質問申上ゲルノデアリマス

○吉田政府委員 其點全然御同感デアリマス、調停ニ當ルモノト致シマシテ、出來ルナラバ產業界、實業界ノ實情ニ通ジテ居ル立派ナ人物ヲ得ラレルコトハ調停ノ結果ヲ舉ゲル上ニ大變結構ダラウト思ヒマス

○清水委員 尙ホ御尋シテ置キタイノハ、此勞働組合法ガ出來タ時ニ勞働者側ハ團結權ヲ保護セラレル結果トシテ、從來ヨリモ勞働爭議ガ激烈ニナリハセヌカト云フ懸念ヲ懷カセル嫌ヒガナイデモナイノデアリマス、隨ツテ此取締法ハ今マデヨリモ餘程勵行スルト云フ決心ヲ政府ハ御懷キニナラナケレバナラヌト思フ、私共ハ此勞働組合法ヲ實行スルニ當ツテ實業家ニ安心ヲ與ヘルコトハ困難デナカラウカト懸念スル一人デアリマスガ、從來ノ取締法ヨリモ更ニ勵行シヨウト云フ意思ガアリマスカ如何デアリマスカ

○吉田政府委員 爭議ノ取締方面ハ社會ノ秩序ヲ保持スル爲ニ取締ヲ行フノデアリマスカラ、私ノ主管スル所デハアリマセヌガ、私ノ關係スル範圍内ニ於キマシテヤハリ重大ナル問題デアリマスノデ、私ノ見ル所ヲ申上ゲルノモ無益デハナイト思ヒマス、是ハ從前ヨリモ嚴重ニ取締ルト云フ考デハナクシテ、假令勞働爭議デアリマシテモ其爭議トシ

テ執ラレタ手段、或ハ目的ガ勞働條件ノ維持改善ヲ離レテ、必要ノ範圍ヲ越エ、暴行脅迫ニ亙リ、或ハ刑罰法規ニ觸レルヤウナコトニ對シマシテハ假藉ナク取締法ヲ施行スルコトハ固ヨリノコト、考ヘルノデアリマス、此組合法自體ニ於キマシテモ、勞働組合ノ結成ニ對シマシテ相當ノ保護ヲ與ヘルト同時ニ、組合運動ガ軌道ノ外ニ逸出シナイヤウニ相當ノ制限ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、サウ云フ制限ヲ與ヘルコトハ社會ノ秩序ヲ維持スル爲ニ必要デアリマスカラ、之ガ嚴重ニ行ハレルト云フコトハ本法施行ノ上ニ於テ肝要ノコト、思ヒマス

○清水委員 私等ガ懸念スルノハ、從來ノ警察官ノ態度ヲ見ルト勞働爭議ハ經濟問題デアルカラ餘リニ立入ルコトヲ好マナイ、又警察部長或ハ地方長官ニ依ツテハ放ツテ置カウト云フヤウナ傾ガナイデモナイノデアリマス、人ニ依ツテ其取締ノ程度ガ非常ニ違フ、隨ツテ爭議ガ平和ニ解決スルヤウナ場合ガ、所ニ依ツテハ非常ニ厚薄緩急ガアルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ於キマシテ警察官ナリ調停又ハ取締ニ從事スル人ガ、サウ云フ方面ノ知識ガ缺ケテ居ル爲ニ非常ニ圓滑ニ行カナイ點ガアルノデアリマスカラ、將來取締ヲ勵行ナサル場合ニ於テハ各縣ニ其方面ノ専門家ヲ置イテ、サウ云フ方面ノ取締ニ付テモ特ニ講習會ヲ開クトカ何トカシテ、勞働問題ノ研究ヲシテ警察官中ニ勞働問題ニ詳シキ人、同情アル人ヲ養成セラレテ、一方ニ於テハ保護スルト共ニ、他方ニ於テハ取締ヲ嚴重ニシテ、産業ノ發達ヲ阻害シナイヤウ事業家ヲシテ安心サセルヤウニ、政府ガ協調主義ヲ唱ヘテ居ラレル其趣旨ニ副フヤウニアツテ欲シイモノダト思ヒマスガ、警察官養成ニ付テハ何トカ將來ニ對スル御考ガアリマスカ伺ヒタイ

(後略)

第十一回

會議

昭和六年三月九日(月曜日)午後一時二十分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 委員長 添田敬一郎君 | 理事 三宅 磐君 | 理事 由谷 義治君 |
| 理事 多田 滿長君 | 理事 猪野毛利榮君 | 理事 宮澤 裕君 |
| 濱野徹太郎君 | 谷原 公君 | 櫻内辰郎君 |
| 栗原彦三郎君 | 久留義 郷君 | 長尾 半平君 |
| 堀内良平君 | 仲井間宗一君 | 加藤久米四郎君 |
| 安藤正純君 | 田子一民君 | 松村光三君 |
| 中谷貞頼君 | 西岡竹次郎君 | 西尾末廣君 |
| | | 堀切善兵衛君 |
| | | 守屋榮夫君 |

同日委員西尾末廣君辭任ニ付其ノ補闕トシテ松谷與二郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

內務大臣 安達謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

社會局長官 吉田 茂君

社會局部長 富田愛次郎君

(前略)

○谷原委員 先程中谷君カラ御尋ノアリマシタ勞働爭議ニ對スル警察官ノ不當干涉問題ニ付テ、此際承ッテ置キタイノデアリマス、尼ヶ崎ノ問題ニ付キマシテハ、政府側カラ先程御答辯ガアリマシタガ、其真相ニ付キマシテハ、私共調査ヲ致シテ居リマセヌカラ、此以上此事實ニ付テ申上ゲルコトハ差控ヘマス、然ルニ從來ノ爭議ニ付キマシテ、少クトモ吾々ガ新聞紙ヲ通シテ見ル範圍ニ於キマシテハ、警察官ノ不當干涉ガ相當アルヤニ聞及ンデ居ルノデアリマス、斯様ナコトハ此勞働爭議ニ對スル總テノ警察官ノ基礎的認識ガ、不十分ナガラ左様ナ結果ガ起ルノデハナイカト思フノデアリマス、今回ハ此組合法ヲ新ニ制定セラレルト共ニ、從來アリマシタ爭議調停法中改正モアリマス、此際政府ノ所見ヲ天下ニ公ニ致シテ置キマセヌト云フト、益々不當干涉ガアリハシナイカト思フノデアリマス、大臣ハ産業發達ノ上ニ於テハ、勞資ノ協調ト云フコトヲ基調ニシナケレバナラヌト仰シヤッテ居リマスガ、是ハ吾々ノ斷ジテ異議ノナイ所デアリマス、併ナガラ勞資ノ協調ト申シマシタ所デ、總テノ協調ヲ法ヲ以テ強制スルト云フコトハ出來ナイ、事實ノ問題ト致シマシテハ、ドウシテモ比較的弱イ勞働者側ニ或程度ノ相當武器ヲ一應ハ之ヲ認メナケレバナラヌ、主義トシテハ否定スベキ事カハ知リマセヌケレドモ、一方ニハ資本ト云フ強力ナ力ヲ持ッテ居リ、一方ハ無資無産ノ勞働者デアリマスルカラ、ドウシテモ或程度ノ力ヲ之ニ與ヘナケレバナラヌ、サウシテ兩方ガ相對立スル場合ニ於テ、其處ニ或程度ノ調停トカ、指導トカ云フヤウナコトニ依リマシテ、眞ノ協調モ出來ルコト、思フノデアリマス、隨テ何人ガ考ヘマシテモ、勞働者ニ對シマシテハ、團結權ヲ認メ、又團體協約ヲ認メ、罷業ト云フモノモ認メルト云フコトニ行カナケレバ、眞ニ徹底シタ所ノ勞資ノ協調ハムツカシカラウト思フノデアリマス、罷業權ニ付キマシテハ、曩ニ治安警察法ノ十七條ガ撤廢ニナリマシタ際ニ、私共ハ時ノ總理大臣兼內務大臣ニ罷業權ヲ公認スルノカト云フコトヲ本會議ニ於テ承ッタコトガアリマシタガ、是ハ公認スルト云フヤウナ言質ハ、私共ハ得タノデアリマセヌケレドモ、アレヲ撤廢サレマシタ沿革、ソレト其場合ニ於テ、決シテ私共ノ此罷業權公認ニ付テ、否定的ノ御答辯ノナカッタ點カ

ラ、私共ハ少クトモ黙認サレテ居ルモノト思フノデアリマス、然ルニ此爭議調停法ノ第九條ノ二、私ハ成ルバク抽象的ノ議論ヲ避ケル爲ニ、法文ヲ根據トシテ、茲ニ御問ヲ發スル譯デアリマスガ、十九條ノ二ニ依リマス、作業閉鎖又ハ同盟罷業ヲ爲ス場合ニ於テハ三日前行政官廳ニ調停委員會開設ノ請永ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ明ニ法文ニ規定致シテアリマス、果シテ私共ノ考ノ如クトシテ、無理ナ資本家ニ對シテ、勞働者ガ或ル程度マデ自分ノ要求ヲ貫徹セントスル場合ニ於テハ、前ニ申上ゲマシタヤウニ、三ツノ方法ニ出ナケレバナラヌ、殊ニ罷業ト云フモノハ、御承知ノ如ク餘程困難ナ方法デアリマス、戰術ト言ウテハ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、有力ナモノニ依ッテ、而モ切崩シ其他ノ困難ノ伴フモノデアリマス、ソレヲ三日前行政官廳ニ調停委員會開設ノ請求ヲ要スルト云フコトニナリマス、此有力ナル所ノ手段方法ガ有名無實ニナルノデ、ナカラウカ、即チ斯様ナ條文ヲ新タニ作ラレル點カラ見ルト云フト、此勞働爭議ニ對シテハ、罷業何カト云フコトハ一種ノ罪惡視スルト言フト語弊ガアルカ分リマセヌガ、成ベク斯様ナコトハサセナイヤウニ、即チ弱イ勞働者ノ此武器ヲ奪ハントスル趣旨ニ於テ立案サレタモノデハナカラウカ、斯ウ云フヤウナ疑惑ガ生ジハシマイカ、若シサウ云フヤウナ疑惑ガ生ジマス、益、將來ニ於テ勞働爭議ニ對スル警察官ノ不當干涉、壓迫ト云フコトノ弊ガ出テ來ハシナカラウカ、斯ウ云フヤウナ疑惑ヲ持ツノデアリマス、ソレデアリマスカラ、此十九條ノ二ヲ基礎ニ致シマシテ、私共ハ逐條審議デ御願スルノデアリマセヌ、抽象的議論ヲ避ケル爲ニ例ヲ引クノデアリマスガ、斯様ナ條文ヲ設ケラレマスト云フノハ、罷業ヲシテ、名バカリ殘シテ實ヲ抜イテシマフト云フヤウナ考デ爲サルノデハナカラウカ、斯ウ云フ疑ガアリマスカラ、其點ニ付テノ御説明ヲ願ヒタイ、ソレト尙ホヤハリ同様條文ニ付テ申シマスガ、此第一條ニ於キマシテハ、從來ノ公益的事業バカリデアッタモノヲ、地方ノ産業、又ハ公益ヲ害スルト云フ文字ガ入レラレテ居ルノデアリマスガ、御承知ノ如ク産業ノ發達ニハ所有權ノ自由、或ハ又資本活用ノ自由ト云フヤウナコトヲ認メルノガ、一應産業ノ隆盛ニ資スルヤウデアリマス、即チ英國ノ産業革命後ノアノ

自由主義ト云フモノハ一時産業ヲ發達セシメタト云フ沿革ニ徴シマシテモ、一應ハ左様ニ考ヘラレマスケレドモ、ソレハ必ズ或ル時機ガ來タラ行詰テ來ルノミナラズ、其處ニ富ノ分配ト云フモノガ非常ニ不公平ニナリマスカラ、今日ニ於キマシテハ、大衆生活ノ自由、社會利用ノ自由ト云フコトガ著シク叫バレテ居ルノデアッテ、少クトモ現在ニ於テハ其必要ガ大ニアルデアラウト思フノデアリマス、民政黨ノ立憲當時ニ於テ宣言セラレタ所ニ依リマシテモ、分配ノ公平云々ト云フヤウナコトモ宣言サレテ居ル次第デアリマスカラ、此大衆生活ノ自由、或ハ社會利用ノ自由ト云フヤウナコトハ、御否定ニナラスコト、思ヒマスガ、然ルニ茲ニ關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞レアリト認メタルトキ云々ト、斯ウ言ハレマスルノハ、單ニ所謂マア舊自由主義トデモ言ヒマセウカ、資本活用ノ自由、若クハ個人所有ノ自由ト云フヤウナコトニ重キヲ置カレテ、此關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スルコト、云フコトヲ御判斷ニナルノデアリマセウカ、或ハ又大衆生活ノ自由、社會利用ノ自由ト云フ所ニ標準ヲ置カレテ、此字句ヲ解釋運用サレルノデアリマセウカ、其點ヲ明カニ致シテ載キタイノデアリマス

○吉田政府委員 第一ノ御尋ネノ點デアリマスルガ、主トシテ爭議調停法改正案第十九條ノ二ニ關スルコトニ付キマシテハ、御尋ノ中ニモ御話ニナリマシタ通りニ、政府ハ罷業權ト云フ權利ヲ確認致シテハマダ居リマセヌ、併ナガラ同盟罷業ト云フ事柄ヲ、同盟罷業タルガ故ニ禁止スルト云フコトデアリマセヌコトハ、是ハ法制全體ヲ御覽ニナレバ、今日ニ於テハモウ明瞭ナコトデアルト思ヒマス、ソレヲ法律的ニ何ト言ヒ現スコトガ適當デアルカ、或ハ只今御話ノヤウニ、同盟罷業ニ對シテハ、之ヲ大體ニ於テ放任スル、禁止致サナイト云フ意味デ、認メルト云フ程度ニナッテ居ルノデアリマス、爭議調停法ト云フガ如キ法律ノアリマスルコトモ、同盟罷業ト云フコトハ非法的ナコトデアナイト云フコトノ前提トシテ、爭議調停法ハ立案セラレテ居リマス、是亦各條ニ付テ御覽ニナレバ明瞭ナコトデアリマス、隨ッテ今日此改正ニナリマスル第十九條ノ二ニ於キマシテモ、爭議或ハ同盟罷業、或ハ作業閉鎖ト云フガ如キモノヲ、禁

止スルト云フ趣意ヲ立案セラレテ居ルノデアリマセヌ、併ナガラ第十九條ノ二ニ引用シテアリマスル事業ハ、所謂公益事業ト致シマシテ、公衆ノ日常生活ニ最モ必要ナ事業種類ヲ擧ゲマシテ、列擧致シテ居ルモノニ限りマシテ、是等ノモノニ付テハ特ニ國家又ハ公衆ノ利害ヲ感ズルコト最モ深イノデアリマスルカラ、隨ッテソレラノ爭議ニ於キマシテ、作業閉鎖デアリマスルカ、或ハ同盟罷業デアリマスルカ云フガ如キ、事業其モノヲ實行スルニ、極メテ障礙ノアル罷業手段ノ執ラレマスル場合ニ於テハ、其手段ヲ禁止致スノデアリマセヌ、其手段ハ爭議手段トシテ禁止ハ受ケナイノデアリマスルケレドモ、豫メ政府ニ於キマシテ、調停ヲ行フベキヤ否ヤト云フコトヲ判斷スル機會ヲ與ヘテ貰フコトガ、公益ノ爲ニ必要ナル、是ハ事業ノ事業柄ニ依リマシテ、公益ノ爲ニ必要ナルト云フ趣旨ヲ以テマシテ、此條文ハキメラレテ居ルノデアリマス、隨ッテ爭議其モノヲ禁止スルトカ、或ハ制限スルト云フ趣旨ハ毛頭ナイノデアリマス、左様ナ爭議ニ於キマシテ、同盟罷業、或ハ作業閉鎖ヲシテ、従業員ヲシテ、従業員セシメザルヤウニ、事業家側カラシヤウト云フガ如キ場合ニ於キマシテハ、而モ其三日前ニ於キマシテ、調停ノ請求ヲ當該官廳ニ爲シ、當該官廳ハソレニ依ッテ必要アリト認メレバ調停ニ入ル、又調停ノ手續ニ入ル必要ナシト考ヘレバ調停ノ手續ニモ入ラナイコトヲ得ルノデアリマス、左様ナ趣旨デ出来テ居ルノデアリマシテ、決シテ同盟罷業其モノヲ否認シヨウ作業閉鎖其モノヲ否認シヨウト云フ趣意デ出来テ居ルノデアリマス、隨ッテ之ニ依ッテ、所謂御質問ニアリマシタヤウナ、作業閉鎖、或ハ同盟罷業ニ關スル權利ガ侵害サレルト云フヤウナ慮ニハナラヌト思フノデアリマス、尙今回關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認ムル爭議ニ對シマシテハ、行政官廳ガ當事者ノ請求ニ依リ、或ハ其獨自ノ見解ニ依ッテ、公益事業ニ關スル爭議ニ準ジテ、調停手續ニハイルト云フ條文ヲ附加ヘテアリマセヌ、是亦第一條ニ列擧シテアリマセヌガ如キ、事業種類ニ依ッテ、ハッキリト、其事業ガ公衆ノ生活、或ハ地方ノ公益ニ密接ナル關係アルモノト云フコトニ付テ、事業ノ種類其モノカラ直ニ判斷出来マセズトモ、爭議ノ狀況ニ依リマシテ、此爭議ガ關係地

方ノ産業或ハ當該地方ノ公益、一般公益ト云フモノヲ害スルト云フ場合ニ於キマシテハ、是ハヤハリ公益上ノ見地カラ致シマシテ、所謂公益事業デアリマセズトモ、ヤハリ準公益事業ト云フヤウナ立場ニ於キマシテ、爭議自體ノ状態ニ依リマシテ、地方ノ公益ニ關係ヲ持ツコトガ、非常ニ多イモノデアルト云フヤウナ、公益の見地カラ致シマシテ、從前ノ第一條ニ掲ゲテアリマセヌト同様ニ、調停手續ニ入ッテサウシテ成ベク速カニ、ソレ等ノ爭議ガ了了ヲ見マスコトガ、國家ト致シマシテノ要求ニ合致スル所以ト考ヘマシテ、斯様ナ條文ヲ追加致シタ次第デアリマス、勿論是亦爭議ヲ否認シヨウト云フ趣意カラ出テ居ルノデアリマセヌ、勞働爭議ト云フモノハ、現在ノ産業組織ニ於テハ、或ル場合ニ於テハ自然ニ起ルベキ現象デアルト云フコトヲ前提ト致シマシテ、其起ッタ上ニ付キマシテ、國家ノ調停ノ手續ニ於テ發動シ得ベキ場合ヲ玆ニ認メテ居ルノデアリマス、純粹ノ私益事業、サウ云フモノデアリマシテモ、爭議自體ノ状態カラ、或ハ爭議ノ事業ノ種類ガ國家ノ公益ニ關係セヌ地方ノ産業ニ關係ナイト云フモノニ付テモ、無論調停ガ出来マスケレドモ、ソレハ當業者雙方ノ希望ニ依リマシテ調停致スノデアリマス、全然又放任的ト言ヘバ放任的デアリマスガ、サウ云フ立場デアリマス、頼マレ、バ調停スルト云フ立場デアリマス、事業自體ノ種類ガ、直接民衆生活、國家ノ利害ニ重大ナ關係ヲ持ツモノ、竝ニ今回附加ヘラレマシタ事業ノ種類ガ、サウデナクトモ所謂私益事業ニ於テモ、爭議ニ依ッテ、當該地方ノ産業ヲ之ニ依ッテ害サレル虞ガアル、公益ヲ害サレル虞ガアルト云フ場合ニ於キマシテハ、ヤハリ公益ノ見地カラ、國家ハ双方必ズシモ同意ガナクトモ調停ニ入り得ルト云フコトヲ決メタニ過ギナイノデアリマセヌ、第一條ニ追加セラレマシタ立法ノ趣旨モ、第十九條モ、勞働爭議其モノヲ否認シヨウト云フノデアリマセヌ、爭議調停ノ手續ニ入ル其判斷ノ機會ヲ與ヘテ貰フト云フコトヲ、此中ニ入レタト云フニ止ッテ居ルノデアリマシテ、假ニ爭議權ト云フモノガアルト考ヘマシテ、其運用ニハ別ニ關係ハナイ條文ニ雙方トモナッテ居リマス

(中略)

○西尾委員 先日カラ各委員ノ質問ニ對スル政府ノ答辯ヲ拜聽シテ見マスルト、勞働組合法ヲ色々批判シ、或ハ恰モ泥靴デ蹴ルヤウナヤリ方ヲ居ルト云フコトニ付テハ、吾々何等ノ異議ガナイノデアリマスケレドモ、ソレニ關聯シマシテ、現存スル勞働組合ヲモ同時ニ泥靴デ蹴ルヤウナ言辭ガ屢、起サレマシタコトニ付テ吾々ハ甚ダ遺憾ニ思ッテ居ル、之ニ對シテ又當局モ是認シテ居ルガ如キ、少クモサウ云フ言辭ヲ否定スル言葉ガ發セラレナイコトヲ、甚ダ現存勞働組合ノ名譽ノ爲ニ私ハ遺憾ニ思ッテ居ルデアリマス、此點ニ付テ政府ノ意見ヲ質シタイノデアリマス、言ウマデモナク勞働組合運動ト云フモノハ、其國ノ資本主義ノ發達ニ伴ッテ發達スル、即チ其國ノ資本主義ノ形ガ直ニ勞働組合運動ノ上ニ影ノ如ク現レルノデアアル、資本主義ノ發達ガ上昇期ニ向ッテ、相當勞働組合ノ待遇ヲ改善シ得ル、言換ヘマスレバ勞働組合ノ要求ガ相當ニ貫徹シ得ル所デハ、比較的穩健ナ組合ガ發達スル、資本主義ノ發達ガ下降期ニナッテ、資本主義自體ノ維持ノ爲ニ、資本家ノ利益ヲ擁護スル爲ニ、其生産費ヲ低下スル手段トシテ勞働者ニ對スル待遇ガ改惡サレテ來レバ、更ニ言ヒ換ヘマスレバ、勞働者ノ要求スル所ガ實際ニ貫徹シナイト云フヤウナ所ニ於テハ、其處ニ於ケル勞働組合ガ戰鬪的ニナルト云フコトハ、是ハ當然デアリマス、然ルニ從來吾々ハ日本ノ勞働組合ガ戰鬪的デアッタト云フ事實モ認メマス、其點ガ資本家階級ノ御氣ニ入ラヌ點デアルト云フコトモ分ッテ居リマス、從來ノ勞働爭議ガ、兎モスレバ暴力化スルト云フ説モ、吾々ハ眞直ニ認メマス、併シナゼ勞働組合ガ戰鬪的デアッタカ、或時ハ革命的デアッタカ、又勞働爭議ガナゼニ暴動化スルコトニナッタカト云フコトハ、今日ノ資本家ノ態度ト併セテ、是ハ論議シナケレバナラヌ問題デアリマス、資本家、殊ニ猪野毛君ノ説ヲ拜聽シテ居リマス、資本家ガ斯ウ言ッテ居ルト言ッテ、資本家ノ考、又資本家ノ意見ヲ何等批判スル所ナク之ヲ肯定シタ上ニ立ッテ、而シテ勞働組合ノ問題ヲ批判サレテ居ルト云フコトハ甚ダ其當ヲ得ナイコト、思フノデアリマス、私ハ此前ノ委員會デゴザイマシタカ、今日勞働爭議ガナゼ惡化シテ居ルカト云フコトニ付テハ、社會局カラ發表サレマシタ資料ニ依リマシテモ、亦私共實際自分ノヤッタ爭議ニ依ッテモ、統計ヲ

取ッタ事實ニ於キマシテモ、今日ノ爭議ハ資本家ノ攻勢ニ依ッテ爭議ガ行ハレテ居ル、賃金ヲ引下ゲル、首ヲ減ル、勞働者ニ少シモ相談スルコトナク、悉ク命令的ニ突如トシテ賃金ノ値下ガ發表サレ、誠首ガ發表サレル、サウ云フ命令的ナ、專制的ナ資本家ノ暴舉ニ對シテ、勞働組合ガ敢然ト立ッテ自分ノ賃金ヲ擁護シヨウ、自分ノ失業ヲ防止シタイト云フコトノ爲ニ、換言スレバ自分ノ生活擁護ノ爲ニ、最後ノ生命ノ第一線ニ踏止マッテ居ルト云フノガ、今日ノ勞働爭議ノ實情デアアル、勞働爭議ノ原因ヲ見マシテモ、大正十五年カラ今日マデノ統計ヲ見マシテモ、勞働者ノ收益ニナル所ノ賃金値下反對、誠首反對ト云フ、防衛的ノコトガ爭議ノ原因ニナッテ居ッタノガ、今日ニ於テハ七〇「パーセント」ヲ占メテ居ル、斯ウ云フ事實ニ見マシテモ、今日ノ勞働爭議ガ資本家ノ攻勢ノ爲ニ行ハレテ居ル、勞働者側カラ言ヘバ、最後ノ生活戰ノ第一線ニ踏止マッテ居ルト云フコトハ否定出來ナイ、而モ其勞働爭議ガ、兎モスレバ暴舉化スル、重役ノ家ニ撲リ込ム、硫酸ヲ打掛ケル、斯ウ云フコトハ何ニ依ッテ起ルカ、事實ニ依ッテ私ハ説明スルコトハ出來ナイ、又全體ニ付テ仔細ニ説明スルコトハ出來マセケレドモ、大勢的ニ説明致シマスナラバ、勞働爭議ガ起ッタル場合ニ、今日ノ状態ニ於テハ、勞働者側ニ持久力ガ無イ、サナキダニ其日ノ生活ノ糧ヲ得ラレナイ状態デアアル、其持久力ノ無イ勞働者ニ對スル資本家ノ方デハ、二箇月デモ三箇月デモ、持久力ガアル、而モ好景氣ノ時分ニハ、少々ハ讓歩シテモ、早ク仕事ヲスルヤウニシテ、其犠牲ヲ補ヒタイト云フ考ヲ持ツノデアリマスケレドモ、今日ノ状態ニ於テハ、寧ロ二箇月三箇月休ンデモ大シテ苦痛ヲ感ジナイ、斯ウ云フ状態ト相應ジマシテ、今日資本家ガ勞働爭議ニ對シテ持久戰ヲ行ク、面會ニ行ッテモ會ハナイ、姿ヲ晦マス、サウ云フコトヲ致シマス、或者ハ暴力ヲ振フカラダト言ヒマスケレドモ、警察官ノ立合ノ下デ、或ハ場合ニ依ッテハ机ヲ二ツモ三ツモ距テ、暴力ヲ防止スルコトガ出來ルニモ拘ラズ、サウ云フコトヲセンデ、ヤッテ居ル事實カラ見マシテモ、爭議團ヲ潰サセヤウトスル所ノ持久戰ヲ張ラレテ居ルコトモ否定スルコトハ出來ナイ事實デアリマス、持久戰ト云フコトニナレバ、勞働者側ノ負ニナル、負ニナルト云フコトハ、利

益ヲ得ラレナイト云フ問題デハナクシテ、自己ノ生命ニ關係スル問題デアリマスカラ、其中ノ少数ノ者ガ、犠牲的ニ重役ノ家ニ撲リ込ム、硫酸ヲ打掛ケル、是ハ成ベクハシクナイノデアリマスケレドモ、ヤラザルヲ得ナイ状態ニナルノデアリマス、此資本家ノ態度ニ付テハ、何等ノ非難ヲ加ヘテ居ナイ、又何等ノ批判ノ聲ヲ聞カナク、斯ウ云フ近代ノ労働争議ノ傾向ト云フコトニ對シテ、當局ハドウ云フ風ニ御考ニナッテ居リマスカ明確ナル答辯ヲ願ヒマス

(中略)

○西尾委員 重ネテ御伺ヒ致シマス、サウ致シマス、所謂斯ウ云フ争議ガ兎モスレバ非合法化スル、又労働組合ハ所謂闘争的ニナッテ來ル、此事實ハ労働組合ノミノ責任デハナクシテ、資本家ニモ其責任ノ大半ハ、即チ是ハ日本ノ産業状態ノ生活ガ故ニ表ハレテ居ルノデアルト當局ハ御認メニナリマスカ

○吉田政府委員 私ハ大半ノ責任ガ資本家側ニアルトカ或ハ労働者側ニアルトカ、左様ナ事ハ、一々ノ争議ニ付テ言ヒマシクナラバ、一々判断ヲ與ヘルコトガ出來ルトモ思ヒマスガ、總體的ニハ遽ニ論斷シ難イ問題デアルト思ヒマス、一々ノ場合ニ付キマシテ言ヘバ或ハ事業主側ノ方ニ誠意ノナイ點モアリマセウ、資本家側ニ於テ、或ハ労働者側ニ諒解ヲ得ルト云フ手續ニ於テ缺ケテ居ッタト云フコトモアリマセウ、又労働者側カラ申シマシテモ事業家側ノ意圖計畫ニ對シマシテノ誤解ニ基イタモノモアリマセウ、色々アラウト思ヒマスケレドモ、兎ニモ角ニモ今日争議ガ多クハソレガ激化スルト云フコトノ大キナ原因ノ一ツト致シマシテハ、今日ノ財界ノ狀況ト云フモノガ影響シテ居ルモノダラウト云フコトガ考ヘラレルダラウト思フ、ドチラガ主ニ惡イノダトカ、此方ハ少シモ責任ガナイナドト全般ノ問題トシテハ遽ニ言ヒ難イト思ヒマス

○西尾委員 全般ノ問題トシテ、遽ニ論斷シ難イト云フ御答辯デ、ソレハ満足致シテ置キマセウ、ト云フノハ元來労働争議ノ問題ヲ論議シ、労働組合ノ運動方針ヲ論ズルニ付テ、多クノ場合ソレガ資本家側ノ責任モ相當アルト云フコ

トヲ、兎角忘レ勝チノ多イ今日ニ於テ、政府當局ガ遽ニ論斷シ難イト云フ聲明ヲ爲スタ程度ニ於テ、今日ノ社會状態カラ見テ、満足スルヨリ仕方ガナイト思ヒマス、ソレ以上ニ當局ニ答辯ハ出來ナイト思フカラデアリマス、次ニ徹底的協調主義ト云フ言葉ヲ大臣ハ御使ヒニナッテ居ルノデアリマスガ、是ハ所謂從來モ協調主義ト云フ言葉ガ使ハレテ來マシタガ、實際其内容ヲ見マスト、資本家ノ温情主義ニ依ッテ、闘争ハシナクとも、温情主義ヲ主體トスル所ノ協調主義ト云フモノトハ違ッタモノダト云フ意味ノ説明ヲ内務大臣ハ爲スタコトガアルノデアリマスガ、サウ解釋シテ宜シイノデアリマスカ

○吉田政府委員 内務大臣ノ再々徹底的ノ勞資協調ト言ハレル事ノ意味ハ、私モ折ニ觸レテ承ッテ居ルノデアリマス、此組合法ニ付キマシテ、此説明ヲ用キラレテ居リマス場合ノ意味ヲ推測致シマス、労働者地位ハ、労働者地位トシテ認メテ、認メラレタ労働者ノ地位、認メラレタ労働者ノ團體ト事業家トノ間ノ協調ヲ保ッテ行クト共ニ、現在ノ産業ノ下ニ、徹底セル勞資ノ協調デアル、斯ウ云フ意味ニ使ッテ居ラレルヤウニ私ハ思ッテ居リマス、温情主義デナイ意味ノ協調ト云フコトヲ言フノカト云フ御尋ネデアリマスガ、温情主義ト云フコトモ色々ナ意味ニ使ハレルト思ヒマスガ字ノ示ス如ク勞資双方共ニ温情ヲ以テ接スルト云フノガ、温情主義デアラウト思ヒマスガ、今御用ヒニナッタ温情主義ト云フノハ、ソレト違フカモ知レマセヌガ、兎ニモ角ニモ労働者ノ地位ヲ認メ、認メラレタ労働者ノ團體ト事業家ノ間ガ完全ニ協調ヲ保ツト云フコトノ意味ヲ、内務大臣ハ言ッテ居ラレルト私ハ斯ク信ジテ居リマス

(後略)

第十四回

會議

昭和六年三月十二日(木曜日)午前十時二十八分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | |
|--------------|---------------|----------------|
| 委員長 添田敬一郎君 | 理事 三宅 磐君 | 理事 由谷義治君 |
| 理事 多田滿長君 | 理事 猪野毛利榮君 | 理事 宮澤 裕君 |
| 榊谷 寅吉君 | 濱野徹太郎君 | 谷原 公君 |
| 飯塚春太郎君 | 栗原彦三郎君 | 久留義郷君 |
| 清水徳太郎君 | 田 中 貢君 | 堀内良平君 |
| 加藤久米四郎君 | 堀切善兵衛君 | 安藤正純君 |
| 松村 光三君 | 守屋榮夫君 | 中谷貞頼君 |
| 松谷與二郎君 | | 西岡竹次郎君 |
| 出席國務大臣左ノ如シ | | |
| 内務大臣 安達謙藏君 | 農林大臣 町田忠治君 | |
| 出席政府委員左ノ如シ | | |
| 社會局長官 吉田 茂君 | 社會局部長 富田愛次郎君 | 大藏省銀行局長 大久保債次君 |
| 文部政務次官 野村嘉六君 | 農林省農務局長 石黒忠篤君 | |

(前略)

○松谷委員 先達テ第七條ノ質問ガ殘ッテ居ッタノデアリマスガ、結局此爭議ニ關シマシテ組合若クハソレヲ指導シタ者ニ責任ガナイト云フコトハ、是ハ英國ノ千九百六年ノ労働爭議法ノ三條、四條及ビ其他支那、米國邊リデ總テサウ云フ風ニナッテ居ル、又是ハ世界ノ立法ノ趨勢ト考ヘテ居リマスガ、何故ニ斯ウ規定ヲ置カレナカッタノデアルカ、其點ノ御説明ヲ願ヒマス

○吉田政府委員 其點先達テモ申上ゲタ積リデアリマスガ、我國ニ於テハ左様ナ意味デ組合ニ對シマシテ賠償ヲ求メラレタ事例ガマダゴザイマセヌ、又一方先般申上ゲタ通りニ、罷業ニ關スル責任ハ、爭議自體ノ責任トシテ組合ニ關係スルトセザルトヲ問ハズ、爭議ヲシタ者或ハ指圖ヲシタ者全般ニ亘リマスル問題デアリマスルノデ、御指摘ニナリマシタコトノ如キ、ソレハ現在ノ労働問題トシテ重要ナル考究スベキ事項トシテ、組合法中ニ於キマシテ組合ノ責任ニ關スル規定ノホンノ一部分デ、問題ノ解決ニナリマセヌノデ、今回ノ組合法案ノ中ニハ入ラレテ居リマセヌガ、當局ト致シマシテハ其點ニ付キマシテ慎重ニ取調ヲ致シテ居ル次第デアリマス、左様ナ意味デ這入ッテ居ラナイノデアリマス

○松谷委員 然ラバ今度労働爭議法ト云フヤウナモノガ出來ル場合ニハ十分考慮ノ中へ入レ、サウシテ御實行ニナル御考デアルカドウカ

○吉田政府委員 爭議法ト云フヤウナモノ、出マス際ニハ、其中ニ入レル重要ナ問題ノ一ツデアラウト考ヘテ居リマス(中略)

○松谷委員 (前略)其點ニ關シテ只今ノ御話デハ爭議法ハ全然作ル意思ガナイトカ、作ルニシテモ何時作ルカ分ラヌトカ言ハレルコトハ、少クトモ労働組合法ガ出來タ以上ハ、爭議法モ本當ヲ言フト茲ニ併セテ作ッテ戴キタイ、又作ル

ベキ性質ノモノト考ヘマスガ、之ニ對シテ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスカ

○吉田政府委員 左様ナ組合運動ノ作用ニ關スル事項、只今問題ニナッテ居リマス爭議ニ關スル法規、竝ニ團體協約等ニ關スル法規、ソレ等ニ付キマシテハ只今當局ト致シマシテ慎重ニ攻究ヲ重ネツ、アルノデアリマス、併シ何時出スカト云フ御尋ニ對シマシテハ、マダ的確ニ御答申上ゲル程ニ調査ガ纏ッテ居ラナイノデアリマス、併シ決シテ等閑ニ附シテ居ル譯デハアリマセヌ、熱心ニ目下攻究中デアリマス

○松谷委員 攻究中デ御アリダト云フコトハ結構ダト思ヒマスガ、攻究シテ斯ウ云フモノヲ作ル考デアルト云フコトマデ仰シヤッテ戴ク譯ニハ行キマスマイカ、詰リ攻究中デアッテ出スカ出サヌカ分ラヌト言ハズニ、出ス考ト云フ其時期ニ付テ分ラナイト言ハレルノカ攻究ハシテ居ルケレドモ出スカ出サヌカ分ラヌト言ハレルノカ、ドッチデス、出ス考デ居ルケレドモ其時期ハ言明ガ出來ヌト云フ風ニ承ッテ宜シウゴザイマスカ

○吉田政府委員 此問題ニ付テハマダ全般トシテノ決定ヲ受ケテ居リマセヌカラ、政府全般ノ問題トシテハ一寸私カラ御答申上ゲ兼ネマスガ、私共ノ部局ニ於キマシテハ、成ベク早く斯ウ云フ方面ノモノヲ拵ヘタイト云フ積リデ攻究シテ居ルノデアリマス

○松谷委員 斯ウナルトヤハリ大臣ノ御出席ヲ要求シタイノデアリマス、私共ハアナタニ御尋シテモヤハリ政府當局トシテノ御答辯ヲ要求シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ若シ政府トシテ出ス考ガナイナラバ、労働立法、労働爭議法ナリ何ナリハ、社會局案ノヤウニ茲デ明快ニシテ置ク必要ガアラウ、ソレカラ又出ス考ガアルナラバ、近キ將來ニ出スノデアルカラ其方ニ讓ッタク云フ趣旨ガナクテハナラヌト思ヒマスガ、其點ヲ今一應御伺致シマス

○吉田政府委員 政府全體トシテ出ス考ガナイトハ私共思ヒマセヌ、併ナガラ左様ナ問題ハソレノ擔任ノ部局ニ於テ攻究ヲシ、其結果ヲ成案ニ纏メテ、斯様ナモノヲ出スカ出サヌカト云フコトデ、政府ノ態度ヲ決メテ貰フノデアリマ

カラ、其方デノ段階ヲ辿リツ、アルト云フコトデ御諒承願ヘルト思フノデアリマス、政府部内ト致シマシテモ、私共ガ材料ヲ調査シテ居ル、現在攻究ヲ重ネテ居ルト云フコトハ、其立法ニ近付キツ、アル段階ト御承知ヲ願ヒタイノデゴザイマス、私共考ガ纏マリ次第ニソレノ指揮ヲ受ケマシテ、政府ノ方針ヲ其際ニ決メテ貰フノデアリマスカラ社會ノ立法ノ色々ノモノガ將來豫想サレル譯デアリマスケレドモ、皆サウ云フ風ニシテ攻究ノ結果ヲ以テ政府ノ決定ヲ仰グト云フ段階ヲ經テ參ルノデアリマス、政府トシテ最近ノ機會ニソレヲ提案スルト云フ決心ヲ決メテ戴ク程ノ材料ヲ、マダ私共ノ方カラ政府ニ提供出來ズニ居リマス、ソレヲ取急イデ私共ノ所モ勉強シテ居ルノデアリマスカラ、御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松谷委員 諄イヤウデスガ、重要デアリマスカラ特ニ聞クノデアリマス、是ハ組合法ノ中デ團體協約或ハ罷業權或ハ團體協約權ト云フヤウナモノハ、何レモ重要ナモノデアアルノデアリマス、ソレデ幸ニシテ安達内務大臣モ御出デニナッタノデアリマスカラ——只今社會局長官ノ御話ニ依ルト、社會局トシテハ出ス積リデ現ニ草案ヲ研究シテ居ル、併ナガラ政府トシテハ分ラヌト云フ御話デアリマシタカラ、特ニ内務大臣ニ御伺スルノデアリマスケレドモ、御分リニナラヌダラウカラ、一寸前カラ説明ヲモウ一遍申上ゲマス、ソレハ爭議ノ際ニ於テ労働組合若クハ爭議ノ指導者、若クハ労働組合ノ責任者ナリニ對シテ、損害賠償ノ請求ガ出來ナイ、所謂爭議ニ關スル免責規定ガ社會局案ニハ存在シテ居ッタガ、此法案ニナイノデアアル、ソレデ色々社會局長官ニ御尋ラシタ、所ガ、ソレハ労働組合法ニ規定スルヨリモ爭議法ニ規定スルノガ立法ノ趨勢ト云ヒマスカ、立法トシテノ系統上ソレガ正當デアルカラ、之ニ書イテナイノダ、斯ウ云フ御答辯デアアル、然ラバ爭議法ト云フモノヲ作ラレル御意思ガアルカナイカト云フコトヲ御尋シタ、所ガ社會局長官ハ社會局トシテハ目下攻究中デアアルガ、政府トシテハ分ラヌ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタカラ、政府トシテ爭議法ヲ御出シニナル考デアルカナイノデアアルカ、若シ爭議法ヲ御作りニナラヌナラバ、前ノ社會局案ノ如キ規定ガ

ベキ性質ノモノト考ヘマスガ、之ニ對シテ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスカ

○吉田政府委員 左様ナ組合運動ノ作用ニ關スル事項、只今問題ニナッテ居リマス爭議ニ關スル法規、竝ニ團體協約等ニ關スル法規、ソレ等ニ付キマシテハ只今當局ト致シマシテ慎重ニ攻究ヲ重ネツ、アルノデアリマス、併シ何時出スカト云フ御尋ニ對シマシテハ、マダ的確ニ御答申上ケル程ニ調査ガ纏ッテ居ラナイノデアリマス、併シ決シテ等閑ニ附シテ居ル譯デハアリマセヌ、熱心ニ目下攻究中デアリマス

○松谷委員 攻究中デ御アリダト云フコトハ結構ダト思ヒマスガ、攻究シテ斯ウ云フモノヲ作ル考デアルト云フコトマデ仰シヤッテ戴ク譯ニハ行キマスマイカ、詰リ攻究中デアッテ出スカ出サヌカ分ラヌト言ハズニ、出ス考ト云フ其時期ニ付テ分ラナイト言ハレルノカ攻究ハシテ居ルケレドモ出スカ出サヌカ分ラヌト言ハレルノカ、ドッチデス、出ス考デ居ルケレドモ其時期ハ言明ガ出來ヌト云フ風ニ承ッテ宜シウゴザイマスカ

○吉田政府委員 此問題ニ付テハマダ全般トシテノ決定ヲ受ケテ居リマセヌカラ、政府全般ノ問題トシテハ一寸私カラ御答申上ケ兼ネマスガ、私共ノ部局ニ於キマシテハ、成ベク早ク斯ウ云フ方面ノモノヲ拵ヘタイト云フ積リデ攻究シテ居ルノデアリマス

○松谷委員 斯ウナルトヤハリ大臣ノ御出席ヲ要求シタイノデアリマス、私共ハアナタニ御尋シテモヤハリ政府當局トシテノ御答辯ヲ要求シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ若シ政府トシテ出ス考ガナイナラバ、労働立法、労働爭議法ナリ何ナリハ、社會局案ノヤウニ茲デ明快ニシテ置ク必要ガアラウ、ソレカラ又出ス考ガアルナラバ、近キ將來ニ出スノデアルカラ其方ニ讓ッタト云フ趣旨ガナクテハナラヌト思ヒマスガ、其點ヲ今一應御伺致シマス

○吉田政府委員 政府全體トシテ出ス考ガナイトハ私共思ヒマセヌ、併ナガラ左様ナ問題ハソレノ擔任ノ部局ニ於テ攻究ラシ、其結果ヲ成案ニ纏メテ、斯様ナモノヲ出スカ出サヌカト云フコトデ、政府ノ態度ヲ決メテ貰フノデアリマ

スカラ、其方デノ段階ヲ辿リツ、アルト云フコトデ御諒承願ヘルト思フノデアリマス、政府部内ト致シマシテモ、私共ガ材料ヲ調査シテ居ル、現在攻究ヲ重ネテ居ルト云フコトハ、其立法ニ近付キツ、アル段階ト御承知ヲ願ヒタイノデゴザイマス、私共考ガ纏マリ次第ニソレノ指揮ヲ受ケマシテ、政府ノ方針ヲ其際ニ決メテ貰フノデアリマスカラ社會ノ立法ノ色々ノモノガ將來豫想サレル譯デアリマスケレドモ、皆サウ云フ風ニシテ攻究ノ結果ヲ以テ政府ノ決定ヲ仰グト云フ段階ヲ經テ參ルノデアリマス、政府トシテ最近ノ機會ニソレヲ提案スルト云フ決心ヲ決メテ戴ク程ノ材料ヲ、マダ私共ノ方カラ政府ニ提供出來ズニ居リマス、ソレヲ取急イデ私共ノ所モ勉強シテ居ルノデアリマスカラ、御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松谷委員 諄イヤウデスガ、重要デアリマスカラ特ニ聞クノデアリマス、是ハ組合法ノ中デ團體協約或ハ罷業權或ハ團體協約權ト云フヤウナモノハ、何レモ重要ナモノデアリマス、ソレデ幸ニシテ安達内務大臣モ御出デニナッタノデアリマスカラ——只今社會局長官ノ御話ニ依ルト、社會局トシテハ出ス積リデ現ニ草案ヲ研究シテ居ル、併ナガラ政府トシテハ分ラヌト云フ御話デアリマシタカラ、特ニ内務大臣ニ御伺スルノデアリマスケレドモ、御分リニナラヌダラウカラ、一寸前カラ説明ヲモウ一遍申上ゲマス、ソレハ爭議ノ際ニ於テ労働組合若クハ爭議ノ指導者、若クハ労働組合ノ責任者ナリニ對シテ、損害賠償ノ請求ガ出來ナイ、所謂爭議ニ關スル免責規定ガ社會局案ニハ存在シテ居ッタガ、此法案ニナイノデアアル、ソレデ色々社會局長官ニ御尋ラシタ、所ガ、ソレハ労働組合法ニ規定スルヨリモ爭議法ニ規定スルノガ立法ノ趨勢ト云ヒマスカ、立法トシテノ系統上ソレガ正當デアルカラ、之ニ書イテナイノダ、斯ウ云フ御答辯デアアル、然ラバ爭議法ト云フモノヲ作ラレル御意思ガアルカナイカト云フコトヲ御尋シタ、所ガ社會局長官ハ社會局トシテハ目下攻究中デアアルガ、政府トシテハ分ラヌ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタカラ、政府トシテ爭議法ヲ御出シニナル考デアルカナイノデアアルカ、若シ爭議法ヲ御作りニナラヌナラバ、前ノ社會局案ノ如キ規定ガ

必要デハナイカ、斯ウ云フ御尋ヲシテ居ルノデアリマス

○安達國務大臣 争議法ノコトハ社會局長官モ御答致シマシタラウガ、政府ト致シマシテモ考究中デアリマス

○松谷委員 考究中デアルトダケ承ツタノデハ私共ハ満足出来ナイノデアリマシテ、少クトモ近キ將來ニ於テ出サレナイナラバ、彼ノ法律ヲ作ッテ置クヨリモ、ヤハリ此組合法ニ於テ規定ヲシテ、サウシテ完璧ヲ期シタイト考ヘテ居リマス、只今社會局長官ノ御話ニ依ルト、ソレハ争議法ニ譲ツタ方宜カラウト仰シヤルノデアリマスカラシテ、ソレナラバ組合法ニ作ル必要ハナイノダ、組合法ニ作ル必要ハナイケレドモ、出サレナイナラバヤハリ組合法ニ規定シナケレバナラヌ、ソレデ近キ將來ニ於テ御作りニナラヌ考デアルナラバ、是非共之ニ入レテ貰ハナケレバナラヌ、作ラレル考デアルナラバ御説ノ通り争議法ニ譲ルヨリモ、私共ハ強テ異存ハ申シマセヌガ、其點モハッキリシナイト、所謂跋ノ法律ガ出来ハシナイカ、ソレヲ憂ヘテ居ル、ソレデ先ヅ社會局案カラ除カレタノハ争議法ヲ御作りニナル積リデ除カレタト云フ趣旨ニナッテ居リマスカラシテ、争議法ヲ出サレルカ出サレナイカト云フコトハ、此法律審議ノ上ニ於テ重大ナル影響ヲ及ボスノデアル、而モ、是ハ労働組合ニ取ッテ最重要ナル點デアリマスカラ、今一應御出シニナル積リデアル、併ナガラ時期ニ付テハ言明出来ヌト言フナラソレハ宜シウゴザイマス、何レ御考究中デアルカラ今期議會ニハ無論出来ヌガ、來議會ニハ出シテ載ケルト思ヒマスケレドモ、其時期ニ付テハ申上ゲマセヌガ、少クトモ御出シニナル御考デアルカドウカト云フコトダケハ承ッテ置カナイト、此法律ノ審議ニ於テ非常ニ影響スル所ガ多大デアリマスカラ、特ニ御尋致シマス

○安達國務大臣 考究中デアリマスカラ、ソレハ出スコトニナルダラウト考ヘマス、兎ニ角今其邊ノコトハ社會局デ專ラ考究シテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

(中略)

○松谷委員 争議ニ依ッテ損害ヲ與ヘタ、其行爲自身ハ不法行爲デアルカ、適法行爲デアルカト云フコトヲ御尋ネシテ居ル

○吉田政府委員 先程カラ申上ゲテ居リマス争議ノ責任ニ付キマシテハ、規定ヲ明カニスル必要ガアラウト申シテ居ルノハ其點ナノデアリマス、只今マデ争議ニ依ッテ工場ニ損害ヲ加ヘタ、之ニ對シマシテ賠償ヲ致シタト云フ實例ハマダナイノデアリマス、併シ之ニ指揮命令ヲシタト云フ關係カラ申シマスレバ、之ニ命令ヲシテ、他人ノ雇傭關係ニモ立入ッテ勞務ヲ停止セシメ、或ハ勞務ヲ廢止サシタト云フコトハ、單純ナル民法ノ形式解釋ノ上カラ申シマスレバ、ソレハ一ツノ權利ノ侵害ト云フ不法行爲ヲ形成スルダラウト云フ説ハ成立ツノデアリマス、併ナガラ我國ノ實生活ニ於テ現在サウ云フ考ガ支配シテ居ルカト云フト、必ズシモサウデナイ、其場合ニ争議ニ關スル責任ノ歸屬ト云フモノヲ明カニスル必要ガアルデアラウト私共モ考ヘラレルノデアリマス、單純ナル法律論、形式解釋論カラ、不法行爲ニ對スル賠償責任ガアルダラウト云フ論斷ハ一應立ツコト、考ヘマス

○松谷委員 是ハサウ大シタコトデモナイガ、序ダカラ結末ガ付キマセヌカラモウ一應御尋致シマス、結局普通ノ法人ニアラザル組合ニ對シテハ、法人ノ規定ガ曖昧デアルカラシテ、ソレデ法人ニ付テハキッカリシテ居ルカラキッカリシタ規定ヲ適用スル、法人ニアラザルモノニ對シテハ、民法ノ組合ニ關スル規定ト云フモノハ曖昧ダカラシテ曖昧ノ中ニ打棄ッテ置ク、ソレハ私ハ全然間違ッテ居ル、若クハアベコベデアアル、法人ノヤウナ責任ノ歸屬ノ明カナルモノニ對シテハ寧ロ適用ノ規定ガナクテモ宜イ、ドツチヘ解釋シテ宜イカ分ラナイ——責任ノ歸屬ガ分ラナイモノニ對シテコソ斯ウ云フ規定ガ必要デヤナカラウカ、サウ考ヘテ居リマス、ソレハ當然サウナクチヤナラヌ、ソレカラ次ニ不法行爲ナリトスレバ、組合ノ代表者ガ不法行爲ニ依ッテ他人ニ損害ヲ與ヘテモ、ソレハ代人デモ何デモナイ、不法行爲ニ代理權ナント云フモノハアルモノデヤナイカラ、當然組合法ノ適用ガナイ、其點カラ見テモ特ニ此四十四條ヲ適用セラ

レタコトハ被モ被殆ド不具者デアリマス、ソレデアリマスカラ寧羅斯ウ云フ民法第四十四條ヲ適用スルナント云フ規定ヲ省カレタラ如何カト考ヘマスガ、其點ニ付キマシテ如何ニ考ヘテ居ラレマスカ、是ハ大臣ニ御尋ヲ致シマス

○吉田政府委員 民法ノ四十四條ガ爭議ニ關シテダケノ規定ト云フヤウナ御前提ノ下ニ御斷定ノヤウデアリマスガ、是ハサウデハナイノデ、法人ノ理事者ガキマツテ居ル以上ハ、全般ノ問題トシテ有ユル法律行為ヲ含メマシテ、理事ガ法人ノ爲ニ致シマシタ仕事ノ效果ガ法人ニ歸屬スルト云フコトハ、ソレヲ置ク必要ガナイドコロデナシニ、ソレガナクテハ理事ノ職責ト云フモノモ行ヘナイノデアリマス、此四十四條ヲ適用スルト云フコト自體ガ非常ニ必要ナコトナノデアリマス

(後略)

第十五回

會議

昭和六年三月十三日(金曜日)午後一時十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 添田敬一郎君	理事 三宅 馨君	理事 山谷 義治君
理事 多田 滿長君	理事 猪野毛利榮君	理事 宮 澤 裕君
榊 谷 寅吉君	濱野徹太郎君	飯塚春太郎君
栗原彦三郎君	久留 義 郷君	清水徳太郎君
田 中 貢君	堀 内 良平君	加藤久米四郎君
	仲井間宗一君	

安藤 正純君

田子一民君

守屋 榮夫君

西岡竹次郎君

松谷與二郎君

出席國務大臣左ノ如シ

内務大臣 安達 謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

内務政務次官 齋藤 隆夫君

社會局長官 吉田 茂君

文部政務次官 野村 嘉六君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

労働組合法案(政府提出)

労働爭議調停法中改正法律案(政府提出)

(前略)

○松谷委員 ソレデアリマス御尋スルノデアリマスガ、全般ノ労働組合ニ關スル取締ハ何處ノ主管ニナルノデアリマスカ

○吉田政府委員 主管ト云ヒマス各省ノ主管ニナルト云フ御尋デアリマスカ

○松谷委員 サウデス

○吉田政府委員 各省ノ中デ主トシテ内務大臣ノ主管デアリマス

○松谷委員 サウスルト主ニ此取締ノ總テノ行動ヲ爲サレルノハ内務省ノ中ノ社會局デアリマスカ、ソレトモ各警察ニ任カセラレテ警察ニ於テ其取締ヲ爲サレルノデアリマスカ

○吉田政府委員 無論私共内務大臣ノ下僚ト致シマシテ取締ノミナラズ労働組合法運用ニ關スル事務ヲ所管スルノデ

衆議院委員会 労働組合法案外一件 委員会第十五回

アリマスガ、地方廳別ト致シマシテハ、現在ノ地方官制其他ノ制度上ニ於キマシテ、労働組合ニ關スル事ハ現在警察部ノ主管トナツテ居リマス、爭議調停法、或ハ工場法等ハ警察部ニ主管ヲ致サセテ居リマス、尤モ爭議調停其外労働問題ニ關スル主管ガ警察部ニアルコトガ、果シテ適當デアルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、私共研究シテ居ル所モアリマスシ、六年度ニ行ハレマス兩政調査會ノ重要ナ研究題目トシテ、此問題ニ關スル研究ヲ進メテ行キタイト云フ希望ヲ私共ハ持ツテ居リマス

○松谷委員 丁度内務大臣ガオイデニナリマシタカラ、私成ベク質問ヲ早ク打切ルト云フ考モアリマスガ、此點大臣ハ地方ニ於テ警察官ニ此取締ヲサセル御意思デアルカドウカト云フコトヲ御尋致シマス

○安達國務大臣 現在ニ於テハ地方ハ今社會局長官ガ御答シテ居ル通りニナツテ居リマスガ、併シ此事ハ大ニ調査研究ヲ要シマスカラ、特ニ六年度ニ於テ行ヒマス行政財政ノ調査會ニ於テ此問題ニ付キマシテ研究スル積リデアリマス

○松谷委員 甚ダ私ハ我意ヲ得タル御答辯ト、心竊ニ此點ダケハ今迄ノ中ノ一番明答ダト思ツテ居リマス、現在ニ於テ警察官ニ於テ取締ニナツテ居ルコトガ、非常ニ弊害ガ多イノデアリマス、隨テサウ云フ點モ御考慮ノ上デ、今後ノ取締ヲ外ノ官廳ニ於テ爲サルコトニ付テ御考慮下スツタコトヲ感謝スルト共ニ、斯ウ云フ希望ヲ申上ゲテ置キマス、現在ノ警察官ト労働組合ト云フモノハ非常ニ尖銳ニ對立シテ居ル、感情ハ殆ド爆發ニ近イモノデアリマス、労働組合トシテ敵國ニ等シイ——實際サウ思ツテ居リマスモノニ監督權ヲ委ネルコトハ、労働組合ヲ益々尖銳化サセ有ユル機會ニ於テ此合法組合ヲシテ非合法組合ニ追込ム危險性ヲ多分ニ持ツテ居ルノデアリマスカラ、其點ヲ十分ニ御考慮下サイマシテ、警察官吏ニアラザル所ノ官廳ヲシテ取締ノ任ニ當ラシメラレンコトヲ希望シテ置キマス

(後略)

第十六回

會議

昭和六年三月十四日(土曜日)午前十一時二十分開議

出席委員左ノ如シ

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 委員長 添田敬一郎君 | 理事 三宅 磐君 | 理事 由谷 義治君 |
| 理事 多田 滿長君 | 理事 猪野毛利榮君 | 理事 宮澤 裕君 |
| 田崎 武男君 | 濱野徹太郎君 | 谷原 公君 |
| 飯塚春太郎君 | 栗原彦三郎君 | 久留義 郷君 |
| 松田喜三郎君 | 坂東幸太郎君 | 堀内良 平君 |
| 加藤久米四郎君 | 堀切善兵衛君 | 安藤正 純君 |
| 松村 光三君 | 守屋 榮夫君 | 中谷 貞頼君 |
| 松谷與二郎君 | | 西岡竹次郎君 |

○同日委員榊谷寅吉君、田中貢君及清水徳太郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ田崎武男君、坂東幸太郎君及松田喜三郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 商工大臣 依 孫 一君 | 内務大臣 安達 謙藏君 | 農林大臣 町田 忠治君 |
|-------------|-------------|-------------|

衆議院委員會 労働組合法案外一件 委員會第十五回

出席政府委員左ノ如シ

内務事務官 安井英二君

社會局長官 吉田

茂君

社會局部長 富田愛次郎君

大藏政務次官 小川郷太郎君

農林參與官 山田道

兄君

農林省農務局長 石黒忠篤君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働組合法案(政府提出)

勞働爭議調停法中改正法律案(政府提出)

○田子委員 勞働爭議調停法中改正法律案ノ大要ハ本會議大臣カラモ御説明ガアリマシタガ、大臣ノ御説明ハ勞働爭議ノ數ガ殖エタ、隨テ斯様ナ改正ハ必要デアルト云フ極メテ簡單ナ御説明デアリマシタガ、此調停法ガ施行セラレマシテカラ適用サレタコト一回トカ承ッテ居リマス、ソレ程適用ノナイ法律ヲ改正セラレテ、特ニ勞働組合法ト之ヲ併セテ御出シニナル御趣旨竝ニ「第一條ニ左ノ一項ヲ加フ」ト云フノニ「著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキ」ト云フ如何ニモ廣イ規定デアリマスガ、斯様ナ規定ヲ必要トシタ理由、ソレカラ從來ハ調停委員會デヤリマシタモノヲ更ニ當該行政官廳ノ調停ヲ認メラレタ理由之ヲ簡單ニ承リタイト思ヒマス、尙ホ私ハ初メカラ御願シテ置キマシタ金一封、是ハ私共第三者カラ見ル所デハ勞働爭議ノ端ヲ發スルノハ動モスレバ金一封ガ原因デアルカノヤウニ見ユル場合ガ非常ニ多イノデアリマス、尙又其動機ハ何レニアリト致シマシテモ、解決ノ方法ハ殆ド全部金一封ニ依ッテ解決セラル、ヤウナ、如何ニモ不思議ナル現象ト思フノデアリマス、金一封ノ名前ハ爭議解決ノ謝禮トカ、或ハ爭議費用トカ色々名目ノヤウデアルガ、此金一封ノ性質ハ甚ダ爭議ノ上ニ面白カラヌ現象ヲ呈スルト思ヒマスガ、此事實トシテ資本家ハ如何ナル理由ニ依ッテ斯様ナモノヲ出スノデアルカ、此間西尾君ノ御説明ニ依レバ、ストライキ」ノ側ニ立ッテハ極メテ是ハ迷惑デアル、資本家カラ押付ケラレテ已ムナク受取ルノデアルト云フ御説明ガアリマ

シタガ、果シテサウ云フモノデアルカ、中ニ立ッタ人々ガ要求スル場合ハナイカドウカ、有リトスレバ其理由ハ何處ニアルカ、金ノ性質ト見テ居ラレルモノヲ御示ヲ願ヒタイト思フ

○吉田政府委員 調停法ノ改正理由ニ付キマシテ、大臣カラ御説明ニナリマシタ以外ニ、只今御尋ノ點ニ付キマシテ御答申上ゲマス、勞働爭議ノ調停法ハ只今マデ施行後四箇年ヲ經過致シマシタガ、適用セラレタ回数ハ極メテ少イノデゴザイマス、從前一回ト申上ゲテ置キマシタガ、最近ニ大阪デ今一回適用セラレマシタ、是亦立派ニ調停ノ效果ヲ舉ゲタト承リマスカラ二回ニナッタ譯デアリマス、只今マデ左様ニ調停法ノ適用セラル、コトノ少イコトハ、調停ト云フコトガ非常ニ大切ナ事デアルニモ拘ラズ、現行ノ調停法ガ爭議ノ實際ノ場合ニ於ケル必要ニ應ジテ居ラス、事實ニ適シテ居ラス點ガアル爲メデアルコトモ一ツノ原因デアラウト考ヘラレルノデアリマス、ソレデ今回改正致シマシタ、只今御尋ノ二點、著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞レアリト認メル時ニ調停手續ノ開始ガ出來ルコトニシタノモ、今一ツ當該官吏ノ調査審理ヲ認メタノモ産業界或ハ日本ノ爭議ノ實情ニ付テ調停法ヲモット有用ニ活用シ得ルヤウニト云フ趣旨ヲ以テ此改正ヲ企テ、居ル次第デアリマス、從前所謂強制調停ノ出來マスノハ、現行法ノ第一條ニ列舉シテアル「蒸氣、電氣其ノ他ノ動力ヲ使用スル鐵道、軌道又ハ船舶ニ依リ公衆ノ需要ニ應ズル運輸事業」「公衆ノ用ニ供スル郵便、電信又ハ電話ノ事業」「公衆ノ需要ニ應ズル水道、電氣又ハ瓦斯供給ノ事業」「第一號乃至第三號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業ニシテ其ノ休止カ第一號乃至第三號ノ事業ノ進行ヲ著シク阻害スルモノ」「其ノ他公衆ノ日常生活ニ直接關係アル事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ」等ニ限ラレテ居ッタノデアリマスガ、其以外ニ於テモ爭議ノ狀況ニ依ッテ著シク關係地方ノ産業ヲ害スル虞アリト認メタ爭議ニ於テモ、或ハ從前ノ爭議ノ歴史ニ鑑ミ、第一條ノ列舉以外デ當該地方ノ産業ヲ著シク害スル虞アリト認メラレルモノガナカッタトハ言ヘナイト考ヘマス、是ハ當該地方ノ産業ヲ害スルニ依ッテヤハリ公益上ニ害ヲ與ヘルト云フ見込ノ場合ノ意味デアリマス、著シク關係地方ノ産業ヲ害スル、

或ハ公益ヲ害スル虞アリト認めテ場合、當該地方ノ産業ニ廣イ影響ヲ及ボサズトモ、爭議ノ事情ニ依ッテ直接公益ヲ害スル場合モアリマス、ソレ等ニ對シテハ公益事業ノ本旨カラ當事者雙方ノ請求ガナクテモ、一方ノ請求ダケデモ當事者ノ請求ガナクテモ必要アリト認めラレタ場合ニ調停手續ニ這入レルヤウニ、左様ナ爭議ガ一日モ早ク圓滿ニ片付タコトガ公益上必要デアルト云フ見地カラ、左様ナコトニ付テモ調査審理ヲ開始シ得ルト云フコトヲ認めタノガ一點デアリマス、又當該官吏ノ調査審理ト申スコトハ、只今マデ多ク爭議ノ起リタ場合ニ於テ調停關係官吏ガ事實上爭議解決ノ世話ヲシテ解決シテ居ルモノハ、調停法自身ハ適用セラレマセヌデシタケレドモ、サウ云フ事例ハ可ナリアルノデアリマス、併ナガラソレ等ニ對シマシテハ何等法ニ依ルベキ根據ヲ與ヘラレテ居ラナイノデアリマス、現在ノ調停法ニ於キマシテハ當該官吏ノ活動スベキ權限ガ何等與ヘラレテ居ラナイノデアリマス、隨テ之ニ法的ノ根據ヲ付與シテ調停ノ圓滿ヲ圖ル、爭議ガ大事ニナラナイ中ニ圓滿ナル解決ヲ圖ルト云フ趣旨カラ致シマシテ、當事者雙方ノ請求ノアツタ時ハ、公益事業、或ハ言葉ハ當ラナイカモ知レマセヌガ、特ニ第一條ニ加ヘラレマシタ公益事業ト云フヤウナモノニ於キマシテ、必要ノアル場合ニハ、労働爭議ニ付キマシテ其特權ヲ持ッテ居リマス當該官吏ガ、調停ニ關スル調査審議ヲスルコトガ出來ルコトニシテ、調査審議ヲスルニ付テノ手續ヲ定メ、又ソレニ相當ノ權限ヲ與ヘ、サウシテ當該官吏ガ任意ノ裁量ニ依ルノデナクシテ、調停法ニ基イテ働クト云フ途ヲ開イタノデゴザイマス、御尋ノ二點ニ關シマシテハ左様ナ理由デ改正ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ他ノ點ニ付キマシテハ御尋ニ應ジテ御説明申上ゲル方ガ便利ダラウト思ヒマス

金一封ノ問題ニ付キマシテハ此處ヘ若干ノ資料ヲ差上ゲマシタノデスガ、内容ハ色々デアリマスガ、此處ニ書イテアリマス通りデアリマス

○田子委員 時間ヲ省ク爲ニ三ツモ四ツモ御尋ネシマシタカラ、大變御答ヘ悪イヤウデアリマスガ、爭議ハ經濟爭議デアル、雇主ト雇ハレテ居ル者トノ間ノ經濟上ノ争デアル、隨テ此爭議ト云フモノハ社會ノ安寧秩序トカ、或ハ抽象觀念ニナリマスガ脅威——此前十五年ノ法律ニ書キマシタヤウナ、社會ニ非常ナ脅威ヲ與ヘマサユナ場合ハ、國ナリ公ノ力ガ這入ッテ調停スルト云フコトモ一ツノヤリ方デアリマスケレドモ、個人同士ノ經濟ノ爭議ニ公ガ立入ルト云フコトハ非常ニ重大ナ事ニ考ヘルノデアリマス、此改正案ニ依リマス、著シク關係地方ノ産業ヲ害スルト云フヤウナ、非常ニ廣イ意味デアリマスガ、例ヘバ「ミルクキヤラメル」ガ大キナ工場ヲ持ッテ居ル、此「キヤラメル」ノ供給ガ絶エタ所デ吾々ハ少シモ差支ナイ、例ヘバ大キナ藥屋ガ「ストライキ」ヲ受ケタ、其爲ニ賣藥ノ供給ガ不足ニナレバ相當社會ノ公益ニ關係ガアル、色々ナ場合ガアラウト思ヒマスガ、産業ノ害サレルト云フコトヲ心配シテ國ガ手ヲ入レルト云フコトハ非常ナ行過ギデハナイカト思フ、殊ニ之ニ當リマス當該官吏ト云フ者ハ主ニ警察部長ヲ御當テニナル御考デアリマセウガ、警察ノ人々ガ地方産業ニ關係ガアルカドウカト云フコトヲ見テ、之ニ劍ヲ著ケテ調停ノ勞ヲ御執リニナルト云フヤウナコトハ、私達ハ非常ナ行過ギデハナイカト思フノデアリマスガ、是ハ所謂資本家ト云フヤウナ人々ノ注文デアッテ、社會局長官モ餘リ同意デハナカッタケレドモ、無理ニ御入レニナッタノデハナイカト思ヒマスガ、サウ云フ事ハナイノデスカ

○吉田政府委員 爭議ガ經濟上ノ問題デアリマスル限リ、之ヲ壓迫スル、或ハ官ノ威力ヲ以テ其間ニ勸誘スルト云フヤウナコトハ穩當デナイデハナイカト云フ點ニ付キマシテハ、公益的見地カラ考ヘタ限界ハ無論アルノデアリマスガ、其限界ノ範圍内ニ於テ御尤ナ御尋デアルト考ヘルノデアリマス、私共モ御同感デアリマス、併ナガラ此處ニ書イテアリマス著シク關係地方ノ産業ヲ害スルト申シマス意味ハ、之ヲ非常ニ廣ク解シテ居ルト云フノデアリマセヌ、此「著シク」ト云フ字ヲ特ニ用ヒテアルノモ其爲メデアリマスガ、例ヘテ申シマスルト、或ル地方ニ於キマシテ包括的ノ同種ノ産業ニ從事シテ居ルヤウナ工場ガアル、例ヘバ紡績工場デアリマストカ、或ハ製絲工場デアリマストカ、度々

サウ云フ例ガアルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ於キマシテ、一工場ニ争議ガ起ツテ、其争議ガ他ノ其地方ノ同種ノ工場ニ非常ニ傳播スル勢ニナツテ参ッタク云フヤウナ場合ニ、其工場バカリデハナク、著シク關係地方ノ産業ヲ害スル虞ガアルト云フ意味デアリマシテ、調停ト云フコトノ範圍ヲ擴ゲルニハ擴ゲタノデアリマスガ、之ヲ無制限ニ擴ゲルト云フ考ヲ持ツテ居ルノデハナイノデアリマス、公益ヲ害スル場合ト云フノハ色々アリマセウ、併ナガラソレモ公益ヲ害スルト云フ見地カラナラバ、調停ノ實ヲ速ニ舉ゲルト云フコトハ公益ニ適フ所以デアルト思ヒマス、調停ヲ致スト云フコトハ、是ハ争議ヲ壓迫シヨウト云フヤウナ考デナイコトハ勿論ナノデアリマシテ、全般的ニ申シマシテモ、争議ガ速ニ解決スルト云フコトハ、經濟上ノ見地カラ申シマシテモ極メテ結構ナコトナノデアリマス、調停委員會ガ開設セラレル場合ニ於キマシテハ、御承知ノ通りニ關係者双方ニ十分ナ論議ヲ盡サセマシテ、宜イ所デ解決スルト云フ所デ調停法ハ出來テ居ルノデアリマス、其調停ノヤリ方ハ注意セネバナリマセヌケレドモ、調停スルコト自體ガ争議ノ經濟的ノ性質デアルト云フコトニ矛盾ヲ致スコトハナイト當局ハ考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此二ツノ場合——只今申シマシタ著シク公共ノ利益ニ影響ヲ致シマスル場合ニ對シマシテ調停手續ガキマルト云フコトハ、決シテ所謂争議彈壓ト云フヤウナ結果ニナラナイと思フノデアリマス、争議ノ解決ニ付キマシテ從來警察官吏ガ其間ニ這入ツタガ爲ニ、双方ノ當事者ニ對シテ面白クナイ影響ヲ及ボシタコトガアルト云フヤウナコトハ再三承ル所デアリマス、其點ハ吾々モ十分考慮致シマシテ、昨日モ當委員會デ或ル委員カラ御述ベニナリマシタヤウニ、労働問題、殊ニ争議調停ニ關スル所管ニ付キマシテハ、行政整理ノ内容ノ一ツト致シマシテ慎重ニ考慮ヲ致スコトニナツテ居リマス尙ホ此條項ガ入りマシタニ付テ、資本案側カラノ非常ナ強イ要求デモアツテ、心ナラズ入レタノデナイカト云フ御叱言デアリマスガ、サウ云フコトハゴザイマセヌ、事業家側デハ御承知ノ通りニ争議取締法ノ制定ト云フコトハ非常ニ熱望致シテ居リマス、争議調停法ヲ改正シテ左様ナ廣イ範圍ニ及ボシテ貫ヒタイト云フ希望ハ持ツテ居ッタ人ガアルカモ分

リマセヌガ、私ハ直接ニハ承ツテ居リマセヌ

○田子委員 今マデノヤウニ調停委員會ニ勞資カラト公ヲ代表スル者ト出テ其處デアルアウト思ヒマスガ、今度ノモノニ依リマシテ行政官廳ハ當該官吏ヲシテヤラセルト云フト、結局警察部長トカ云フ人ガアルデアラウト思ヒマス、此委員會ニ報告セラレタ際ナリ、本會議ノ内務大臣ノ御答辯ノ際ニモアリマシタガ、私ハ今ノ労働組合ノ「アムステルダム」ノ「インターナショナル」ノ報告書ヲ見マシテモ、日本ニ共產黨「サンヂカリスト」ガ約九萬六千モ居ル、此報告ハ或ハ間違ッテ居ルノカト云フ考カラ保安課長ニ御尋シタ、所ガ共產黨ノ「フラクション」ニナツテ居ル者ハナイ、將來這入ル者ハ之ヲ十分取締ル積リデアルト云フ御話デ私ハ安心ヲ致シマシタノデアリマス、所ガ昨日松谷君ノ御話ダト、今ノ組合ト云フモノハ警察ヲ敵ノヤウニ考ヘテ居ルト、非常ニ強イ語氣デ御話ニナリマシタ、此委員會ニ現レテ居ル思想デモ私ハ何處ガ歸著點デアるかト云フコトヲ非常ニ憂フルノデアリマス、内務大臣ハ本會議デ是ハ私ノ質問ニ對シテデアリマシタガ、私ハ其時非常ニ意外ニ思ッタクデアリマスガ「今日マデ度々起リマシタ労働争議ハ單純ナル經濟争議ト認メラレヌモノガ多イノデアリマス、私ハ單純ナル經濟争議ナラバ無論干涉致シマセヌ、所ガ今日ノ労働争議ノ其裏面ニハ、實ニ忌ムベキ、恐ルベキ思想問題ナドガ錯綜致シテ居リマシテ、サウシテ一種詭激ナル思想ヲ有シタ者ガ其背面ニ居ッテ、有ユル策動ヲ爲シマス」私ハ不本意ナガラ已ムヲ得ズサウ云フ場合ハ警察權ヲ以テ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス、此點ニ付キマシテハ御互ニ冷靜ニ考ヘマシテ、今日思想問題ト労働争議問題ト茲ニ混同シテ居リマス、サウシテ有ユル機會ニ於テ労働争議ヲ利用シテ思想ヲ惡化セシメヨウト云フ一種ノ極端ナル者ヲ持ッタ人ガ労働争議ノ背景トナツテ居リマスカラ、吾々ハ警察權ヲ以テ其不當ナル所ヲ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス、今日ノ争議ハ決シテ經濟争議デハナイ「斯ウ云フヤウニ實ニドウモ今ノ労働争議ト云フモノハ多クハ經濟争議デナイ、斯ウ云フコトヲ御言ヒニナル、而モ從來ノ調停法ニ依リマスト、事業別ニ電氣トカ、瓦斯トカ、水道トカ、電車

トカ、鐵道トカ云フヤウニ事業別ニ御遣リニナリマシタガ、今度ノ法律デハ著シク地方ノ産業ニ關係ガアル非常ニ廣イ範圍デアリマシテ、而モ其調停ニ立タレル御方ハ今迄ノ委員會デナシニ、當該官吏ヲシテヤラセル、内務大臣ノ御考トシテ是ハ迎モ今ノ組合ト云フモノハ矯激ノ運動ヲスル、或ハ他ニ利用サレル心配ガアルカラ、迎モ調停委員ト云フヤウナ生温イモノデヤッテ行ケナイカラ、當該官吏、即チ警察官憲ヲシテヤラシタ方ガ取締ガ十分ニ付ク、斯ウ云フ趣意カラ出タノデナイノデアリマスカ、モウ一遍伺ヒマス

○吉田政府委員 茲ニ當該官吏ノヤリマス調査審理ト云フノハ、只今御尋ノ趣旨カラ這入ッタノデハ毛頭ナイノデアリマス、只今御尋ノ趣旨ハ勞働爭議ヲ取締ルガ爲ニ、當該官吏ノ調査ニ關スル調査審理ヲサセルト云フコトデナイカト云フコトニ伺ヒマシタガ、無論勞働爭議ニ對シテ警察的ノ見地カラ取締ヲ行フ必要ノアル場合ハアリマセウガ、又其取締ハ現行法令他ノ取締法令或ハ刑罰法令ニ基キマシテヤラナケレバナラヌ場合モアルノデアリマス、ソレ等ノ場合ニ於テ取締ヲ嚴重ニスルト云フコト、勞働爭議ノ調停ヲ致スト云フコト、或ハ調停ニ關スル調停審理ヲスルト云フコトハ全然別ノデアリマス、茲ニ書キマシタ調査審理ト云フノハ、先程私ガ申上ゲマシタ通りニ、從來ト雖モ調停官吏ガ調停ニ關スル調査審理モ事實致シテ居ルノデアリマス、是ハ事實調停ト云フ名ノ下ニ統計モ從前カラソレヤッテ居ルノデアリマスガ、是ハ所謂調停官吏ノ致スモノデアリマシテ、警察ノ取締トハ違フノデアリマス、尤モ調停官吏ハ現在ノ官制ニ於テハ警察部ニ附屬サレテ居リマス、是ハ考物ダト云フコトハ先程ヨリ申シテ居ル通りデアリマスガ、其事實調停ナリ、調停官吏ノ只今マデ行ッテ居リマス調査審理ナリ、ソレ等ノ調停官吏ノ發動ニ對シテ法的ノ根據ヲ與ヘル、申サバ任意ニ隨意ニ調停官吏ガ介在シテ居ッタノデアリマスガ、ソレニ法的ノ根據ヲ與ヘマシテ、而シテ其調停官吏ノ調査審理ト云フモノヲ公ノモノニシテ、其勞働爭議調停法ニ基イテ調停審理ヲスルト云フコトニ改メタノデアリマス、是ハ一面調停官吏ノ調停審理ヲ便宜ニ致シマスルト共ニ、又一面ソレハ隱密ノ間ニ行ハレルト云フ所カラ來

マス弊害ヲ避ケ得ルノデアリマス、各國ノ立法例ヲ調べテ見マシテモ、調停委員會デアリマスカ、仲裁委員會勞働裁判所ト云フモノト竝ベマシテ、官吏ノ調停、或ハ官吏ノ調停ニ付テ調査ト云フコトヲ規定シテ居ル處ガ甚ダ多イノデアリマス、英吉利、獨逸、北亞米利加合衆國、加奈陀等デ皆官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ決メテ居ルノデゴザイマス、サウシテ愈、正式ノ調停ト云フモノハソレハヤハリ調停委員會ニ依ッテヤル建前ハ失ッテ居リマセヌ、併ナガラ、當該官吏ノ調停審理ト云フモノヲ其外ニ拵ヘテ居ルノデアリマス、只今申上ゲマシタ通り爭議ノ無用ニ永引クコトニ付テハ、適當ニ解決ノ端緒ヲ開ク、出來ル限リ爭議カラ參リマスル禍ヲ少クスルト云フ點ヲ主眼ト致シテ居ルノデアリマス、何處迄モ調停當事者双方ノ調停ト云フコトヲ本ニシテ是ハヤルノデアリマスカラ、決シテ是ニ依ッテ取締ヲ嚴ニスルト云フ趣意デ立案セラレテ居ルノデアリマセヌ

○田子委員 私達ノ實地デ考ヘテ居リマスノデハ、例ヘバ警視廳管内ニ爭議ガ起リマス、私共ノ方ノ大崎邊リハ爭議ノ根據地デ始終ヤッテ居ル、サウシマスト署長ガ此中ニ立ツ、サウスルト更ニ警視總監ハ、何時カラ起ッテ居ル爭議ハ大分長イガドウシタカト云フコトヲ再々電話ヲ掛ケル、署長モ餘リ長クナリマスト自分ノ腕ヲ疑ハレマスカラ、斯ウ永引イテハ敵ハナイカラ、資本家ノ方デ五千圓ナリ、七千圓ナリ投出シテ、アッサリヤッテ貰ヘナイカ、其代リ工場ノ取締トカ工場法ノ施行ナゾニ付テハ吾々モ相當將來ノコトハ考ヘテヤル、兎ニ角速ク止メテ吳レナイカト云フコトガ屢、アリマス、私ハ警察官ニ友達ガアッテ能ク事情ヲ知ッテ居リマスガ、アレハ非常ニ弊害ガアルト思ヒマス、サウシテ「ストライキ」スル方ノ側デハ工場主ノ子供ヲ脅迫スルトカ、妻君ヲ脅シテ厭ナ氣ニ思ハシメ、署長カラハ金デ濟ムナラ、アナタ等ハ將來金ハドウニモナルノデアリマスカラ何トカ片付ケナイカト言フ、此遣方ヲヤリマス、委員會ナゾデアルナラバ六人ナリ十人ナリ居リマスカラ、サウ云フ弊害ハ割ニ少イト思ヒマスガ、一條ノ二ニ依ッテ認メルヤウニ、單獨ニ官吏ガ調停ニ關スル審理ヲ爲スコトガ出來ル、當該官吏ハ私ハ警察部長トカ、警視廳デ云ヘバ部長級ノ方ダラ

ウト思ヒマスガ、サウ云フ人ガ御這リニナルノハ、非常ニ勞働爭議ヲ曖昧模糊ノモノニスル、サウシテ兎ニ角騒ギサウニナレバ金一封デ幾ラデモ金ニナル、此次モモウ一度位ヤラナケレバヤリ切レナイト云フノデ、何處カニ不平分子ガアレバ其處ニ火ヲ點ケルト云フ形ニナル、詰リ斯ウ云フ勞働爭議ヲ頻發スルコトヲ警察ガ手傳ヲシテ居ルヤウナ形ニナリマスガ、當該官吏ヲシテ調査審理ニ當ラシメナイデ、ヤハリ委員會ニ置ク方宜イト思ヒマス、若シ官吏ニ當ラシメルト云フコトナラバ、其事業別ヲ成ベク狭イ範圍ニシテ、著シク地方ニ關係ノアリマスル産業ト云ハズ、或ハ公益ヲ害スル「ウエルフェヤ」ヲ害スルト云フヤウナ制度ノ下ニ御置キニナル方ガ現在ノ場合トシテハ適當デナイカト思ヒマス、是等ハ主トシテ警察關係ノヤウデアリマスガ、社會局長官ガ御答辯ガ出來レバ承リマス

○吉田政府委員 御尋ノ要旨ハ御尤ト考ヘマス、只今マデ調停官吏トシテ命ゼラレテ居リマス者ガ事實調停ヲ致シマシタモノガ昭和五年ニ於テモ二百四十二アルノデアリマス、ヤハリ是ハ年々増加スル傾向デゴザイマス、又調停官吏以外ノ官吏、只今例ニ舉ゲマシタヤウニ警察署長等モ含メテ居リマス、其調停官吏以外ノ官吏ガ事實調停ヲ致シタ例モゴザイマス、昭和五年度ニ於テ只今マデニ百六十四件、數ニ於テ調停官吏ノ調停ヨリハ多イノデアリマス、警察署長ト雖モ、調停官吏デアリマセズトモ、管内ノ産業界ノ平和ヲ希望スルト云フ意味カラ、多少事實上調停ヲシテ速ニ圓滿ナ解決ノ出來ルコトヲ希望致シテスルコトモアリマス、ヤリ方ガ惡イト云フ御非難ガアル場合ガアルカモ知レマセズガ、ソレヲモ必ズ介入シテハナラヌト云フ建前ニナッテ居ラヌノデアリマス、茲ニ所謂當該官吏ト今度法律ニ明記シテアリマスモノハ、調停官吏トシテ明カニ指名セラレテ居リマスモノ、並ニ上級ノ命令系統ニナッテ居リマスモノ、例ヘバ警視廳デ申シマスルト調停官吏ノ外ニ官房主事、警視總監ト云フモノヲ意味シマス、其他ノ地方廳ニ於キマシテハ、ヤハリ、調停官吏並ニ其所屬致シマスル部長、課長並ニ地方長官ト云フガ如キ者ヲ意味スル積リデアリマス、隨テ警察署長ノ調停ト云フガ如キモノハ、是ハヤハリ本法ガ改正セラレマシテモ、事實調停タルノ働シカ持チ得ナイノ

デアリマス、警察署長ハ調停ニ關スル當該官吏ト云フ辭令ヲ貰ッテ任命セラレマスレバ特別デアリマスガ、サウデアリマセス以上ハ、署長トシテハ調停ニ關スル當該官吏トハ認メテ居ラナイノデアリマス、尙ホ調停ニ關スル所管ガ警察部ニアリマスルコトカラシテ、調停ヲ受ケル人々ノ間ニ、自然面白クナイ影響ヲ與ヘルト云フヤウナ虞ガアリハシナイカト云フ點ニ付キマシテハ、當局ニ於テモ氣ガ付イテ居リマスノデ、其所管ノ問題ニ對シマシテハ、先程モ申シマシタル通りニ、本年ノ行政整理ノ調査ノ一ツノ重大ナル部門トシテ、慎重ナル考慮ヲ重ネタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○田子委員 警察署長ガ特別ニ辭令ヲ用ヒナケレバ這入レナイト云フコトハ御話デ分リマシタ、併シソレハヤハリ警察部長ナリ、警視廳デ申セバ官房主事ナリカラ命令ガアレバ當然働クダラウト思フ、ヤハリ其弊害ハ依然トシテ存スルモノト思ヒマスガ、私共爭議ナドニ付テ第三者カラ直接感ジテ居リマスルコトニ、只今九名ノ爭議調停委員ガ、資本家側カラモ三名選出スルコトニナッテ居リマスガ、吾々ノ希望トシテハ事業主ノ一番御大將ガ「ストライキ」ノ御大將ト顔ヲ突合ハシテ、今デハ面會ナンカ無暗ニ避ケルヤウデスガ、是ハ極メテ惡イ事デ、會社ノ内容ナリ、收支計算ナリ、將來ノ見込ナリ、身體ヲ眞裸ニシテ投出シテ相談ヲスル、サウ云フコトガ調停ヲスルノニ一番早イ途ナンデアッテ、ソレヲ言フ左右ニ託シテ面會ヲ避ケタリ、又一方面會ヲ求メル方ハ動モスレバ強迫スルヤウナ態度ニ出タリ、ソレガ爲ニ勞働爭議ヲ非常ニ惡化スル、調停法ナドヲ解釋スレバ、此調停委員會ニ出ル者ハ其會社ノ一番上ノ代表者ヲ選バナケレバナラス、サウ云フ風ニ強ク資本家ニ責任ヲ持タセル方ガ適切デアッテ、警視廳ノ警察署長ヤ何カ、介入スルコトヲ認メルト云フコトハ、一向爭議ノ調停ノ根本ニ觸レナイノデハナイカト思フ、本法ハ少クトモ的ヲ外レタ御考デアリマセヌカト思フノデアル、如何デスカ

○吉田政府委員 調停委員會ノ構成ニ付キマシテハ、現行法ノ規定ノ通りデ進ンデ行キタイト思ッテ居リマス、現行法

ニ於キマシテハ委員ハ九名ト云フコトニナツテ居リマス、是ハ爭議ノ性質ニ應ジマシテ、今回ハ委員ノ數ヲ増減スル餘地ヲ認メテ居リマスルガ、當事者双方カラ委員ヲ出ス數ハ其儘デ宜シト考ヘテ居ルノデアリマス、又調停委員會ヲ開設致シマス場合ニハ、今御話ノ通り當事者双方ノ責任アル人々ガ、僅カナ例デアリマスガ、此度アリマシタニツノ調停委員會ノ例ニ於キマシテハ、工場長ヲシテ居ル人ト爭議團ノ指導ヲシテ居ル最高ノ責任者ガ委員ノ中ニ加ハリマシテ、サウシテ双方共腹藏ノナイ意見ヲ交換致シマシテ、爭議ヲ圓滿ニ解決シタノデアリマス、併ナガラ左様ナ正式ノ調停委員會ガ開カレマス前ニ於キマシテ、當該官吏ガ調査審理ヲシテ圓滿ニ片付イテ居ルト云フ例ガ、従前ニ於テモ非常ナ數ニ上ツテ居ルノデゴザイマス、之ニ法ノ根據ヲ與ヘマシテ公正ナルモノニスルト云フコトハ、調停委員會ノ構成如何ニ拘ハラズ、非常ニ必要ナコト、考ヘルノデアリマス、調停委員會ヲ決シテ否認スル意味ヲ以テ、今回ノ調査審理ト云フモノヲ入レタノデハナイノデアリマシテ、調停委員會開設ニ至リマスマデニ、當該官吏ガ調査審理ト云フモノヲヤレバ、其處ニヤハリ公正ナル解決ニ資スルト云フノガ今回ノ改正ノ趣意デゴザイマスカラ、決シテ當局ト致シマシテハ此改正ノ趣意トスル所ヲ誤ツテ居ルトハ考ヘナイノデアリマス

○田子委員 金一封ノ参考書ヲ御持ノヤウデスカラ此方ヘ御廻シテ願ヒタイ

○守屋委員 爭議調停法ノ改正ニ付キマシテハ可ナリ重大ナ問題ガアルト考ヘマスルノデ私ハ内務大臣ニソレヲ質シタイト思ツテ居リマシタガ、内務大臣ガ御出ニナリマセヌ、丁度田子サンカラ之ニ關シテ質問ガ出マシタカラ、一應政府委員ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、爭議調停法ヲ御改正ニナリマシテ、調停官ノ從來事實上爲シテ居ラレル仕事ヲ、法律ノ上デ以テ公認サレト云フ御精神、竝ニ此爭議調停委員會開催ノ範圍ヲ擴張サレト云フ御精神ハ私ハ賛成デアリマス、併シ現ニ惡化シテ居ル爭議ノ解決又ハ其弊害防止ガ果シテ之ニ依ッテ出來ルカドウカト云フ點ニ付テ私ハ疑問ヲ持ツテ居リマス、此間モ内務大臣ニ申シマシタガ、勞働條件ノ維持改善ト云フモノガ危險ダ、ソレガ闘争ヲ

意味シテ居ルノダト云フヤウニ資本家ヲシテ解釋サシタト云フ原因ハ現在ニ於ケル勞働爭議ノ惡化ト云フコトノ背景ガアルカラデアアルノデアリマス、私ハ其事ヲ確ク信ジテ居ルノデアリマス、ドウシテモ一面ニ於テ穩健ナル勞働組合ト云フモノヲ發展サシテヤラウト考ヘマスルナラバ、其趣旨ニ反スル所ノ所謂勞働爭議、經濟爭議ノ範圍ヲ超エテ居リマシテ、或ハ共產主義ノ宣傳ヲスルトカ、或ハソレニ依ッテ政府ヲ脅威スルトカ、又ハソレニ依ッテ一地方ノ安寧秩序ヲ害シテ、政治運動ニソレヲ導イテ行クヤウニ思ハレル爭議ヲ禁止スル、調停デ以テドウスルト云フノデナイ、禁止スルト云フ斷乎タル決心ヲ政府ガ示スガ宜シト考ヘマス、サウ云フ點ヲ政府ニ於テハ何等考慮ヲ拂ツテ居ラレナイノデアリマスカ、其點ヲ伺ヒマス

○吉田政府委員 我國ニ於キマシテハ、私共ノ見ル所ト致シマシテハ其必要ナイト思ツテ居リマス、爭議ニ對シテ速ニ適正ナル解決ヲ與ヘルト云フコトヲ慮レバ宜シト思フ、國家社會ノ安寧ヲ害スル事實ガ現ニアリ、公益ヲ著シク害スル事實ガ現ニアリ、其害ノ刑罰法令或ハ取締法令ニ觸レルモノニ對シテハ、我國ニ現在アリマスル刑罰令、治安維持法、治安警察法、ソレ等ノ規定ヲ適正ニ適用致シマシテ、取締ノ實ヲ擧ゲテ參リマスレバ、爭議自體ヲ禁止スルト云フ法律ヲ別ニ置ク必要ハナイト考ヘマス、又従前調停ヲヤツテ居リマス、公益事業ニ付キマシテモ、爭議ヲ禁止スルト云フコトハ、經濟的取引ノ途ヲ塞グコトニナリマスノデ、是亦爭議ヲ禁止スルト云フ趣旨デナクシテ、田子サンニ御答致シマシタヤウナ主義デ、速ニ其適正ナル解決ヲ圖ルト云フコトニ努メルノガ正當デアアル、法案ノ見地カラ致シマシテ爭議或ハ其ノ他ノ運動ニ對スル取締ト致シマシテハ、現行ノ他ノ取締法令、刑罰法令等ヲ適正ニ適用シテ行クノガ正シイ道デアルト考ヘテ居リマス

○守屋委員 私ハ此點ニ付テハモウ少シク政府ガ慎重ニ御調査ヲ爲スッタラドウカト考ヘルノデアリマス、勞働爭議ガ惡化シテ居ルコトハ、既ニ政府ガ發表サレテ居リマスル「勞働爭議ノ狀況」ニ依ッテモ之ヲ見ルコトガ出來ル、唯併シ

現在ハ不景氣ガ深刻ニナツテ來夕關係モアリマシテ、公益ヲ目的トスル大規模ノ産業ニ向ツテ爭議ガ行ハレルト云フヤウナ狀況デハナイ、小企業ニ對シテ小範圍ニ於テ深刻ナル爭議ガ行ハレテ居ルト云フ狀況デアリマス、併ナガラ將來ノコトヲ考ヘマシテ、景氣ガ段々好クナツテ來ル、而シテ本法ニ於テハ所謂爭議ノ中心ノ勢力ヲ爲ス組合會ト云フモノガ公認サレテ居ル、ソレデナクテモ、マダ共產主義的ナ勞働爭議ト云フモノヲヤラウトスル結社ヲ絶滅スルコトモ出來ナイ狀況ノ下ニアルノデアル、將來ノコトヲ考ヘマスト、ヤハリ英吉利ニ於テ生ジマスルヤウナ安寧秩序ヲ害スル、或ハ政府ヲ脅威スルコトヲ目的トシテ考ヘラレル所ノ爭議ト云フモノガ起ツテ來ルコトハ私ハ豫想シ得ル、現ニソレニ該當スルヤウナモノガ無イカラト云ツテ拋棄シテ居ラルベキ問題デハナイ、日本ノ將來ニ於テハ必ズサウ云フ事態ガ發生シテ來ルト云フコトヲ前以テ御考ヘニナルト云フコトハ、政府當局トシテ洵ニ親切ナヤリ方デハナイカト私ハ思フノデアリマス、此點ニ付テハ私ハ勞働爭議ノ問題ダケヲ申シテ居ルノデハナクシテ、資本家側ノ方ニ於テモ不適當ナル工場閉鎖ト云フヤウナコトニ付テ、或種ノ制限ヲ加ヘナケレバナラヌ、ソレハアナタハ英吉利ノ立法ヲ御研究デアリマスカラ、私ノ申上ゲル趣旨ハ分ッテ居ルト思フノデアリマスガ、唯此程度ヲドノ邊ニ限ルカ、ドウ云フ程度デ之ヲ我國ニ採用スルカト云フコトニ付テハ御考ヘ置テ願ハナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、將來日本ノ爭議其モノニ對スル違法性、適法性ヲ明カニシテ、適法ナル範圍内ニ於ケル爭議ト云フモノハ認メルケレドモ、不合法デアルト政府ガ認メテ居ルモノニ付テハ、制裁ヲ加ヘテモ之ヲ禁止シテ行ク必要ノアルコトヲ豫想シテ、相當ニ之ヲ考慮シナケレバナラヌト思フノデアリマスカラ、其點ニ付テモ一度御考ヲ承ツテ置キマス、更ニ現在ノ爭議取締ニ付テハ現行ノ取締法規デ以テ十分デアルト云フ御考デアリマセウカ、サウシマスト英吉利ノ千九百二十七年ノ職業爭議及ビ職業組合ノ第三條ニ於ケル威迫、是ハ非常ニ勞働爭議ヲ遂行スル上ニ於テ必要ナル手段デアリマスルシ、又最モ弊害ヲ起シ易イ手段デアリマス、斯ウ云フコトノ取締ハ現行ノ取締法規ノドレニ該當スルデアリマスカ、サウ云フ點ヲ明白ニ

御答ヲ願ヒマス

○吉田政府委員 第一ノ御尋デアリマスガ、之ニ付キマシテ當局ノ見テ居リマスル所デハ、例ヘバ勞働爭議ト云フコトニ名ヲ藉リテ、最モ極端ナル騷擾ヲ爲シタル場合、之ヲ禁止スルニ付テハソレノ我國ノ刑罰法令或ハ取締法令等ニ之ニ對スル一ツノ規定ガゴザイマスノデ、ソレ等ノモノニ對シテモ適法ト認メテ居ラナイノデアリマス、英吉利ト我國ノ法制ノ違ハ御承知ノ通りデアリマシテ、一ツノ法規ナラ法規ト云フ場合、専ラソレニ關スルコトヲ個々のニ決メテ行クノガ英吉利流ノ立法ノヤリ方デアリマシテ、我國ト致シマシテハ全般ヲ眺メマシテ、刑法或ハ暴力行爲デモ何デモ、ソレハ總テ同ジ現象ニ對シマシテ廣ク立法ヲ拵ヘテ居リマス、決シテ遺漏アリトハ考ヘマセヌ、又第二段ノ御尋ノ威迫ト云フヤウナ行爲ニ付キマシテハ、其意味ニドレガ當ルカト云フコトハ、個々ノ威迫ノ内容ニ依ツテ違ヒマスガ、或ハ刑法ニ該當スルモノモアリマス、或ハ威迫ニシテ法ヲ超越シタモノニ對シマシテハ、我國ニ於キマシテハ、現ニ取締或ハ刑罰ノ規定ガ備ツテ居リマス、一々向フノ規則ニ書イテアル言葉ヲ拾ッテハ御話致シ惡イ問題デアリマスガ、威迫ト云フコトニ該當スル行爲ノ一ツノニ付テ、ドレガ當ルカト云フコトヲ求メルコトハ難イ事デハナイト思ヒマス

(中略)

○守屋委員 爭議ノ取締ニ付テハ我國ノ立法ハ、英國ノ立法等ト違ヒマシテ、殊ニ刑罰法令ヲ新ニ設ケテ取締ラナクテモ、十分其目的ヲ達スルコトガ出來ルト云フヤウナ、政府委員ノ御答辯ガゴザイマシタ、或ル程度ノ目的ヲ達スルコトハ、私モ之ヲ認メルノデアリマスガ、勞働爭議ノ惡化シナイ前ニ、之ヲ善導シテ行クト云フコトハ、此度ノ勞働組合法案ノ趣旨トシテ居ル所デアリマスカラ、其趣旨ヲ徹底スルト云フコトニナリマス、經濟爭議ノ場合ニ用ヒラレテ居ル不當或ハ不法手段ニ關スル現在ノ取締法規ノ不完備ナ點ヲ改正シテ行クト云フコトガ、望マシイコト、思フ、

サウ云フ點ニ付テ改正ガ加ヘラレマスレバ、勞働組合ノ本質ヲ一方ニ於テ定メマスト共ニ、其行動ガ經濟的行動ノ範圍ニ限局セラレテ、サウシテ其經濟的爭議ヲ遂行スル場合ノ行爲ノ、不法不當性ヲ除クコトガ出來ルコトニナリ、勞働組合ガ勞働條件維持ノ爲ニヤリマス經濟爭議ト云フモノニ對スル、世人ノ誤解ヲ解クコトガ出來ルト考ヘマス、先程政府委員カラ今ノ取締法規デモ、ソレハ十分取締ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルト言ハレマシタ、併シ私ハ其點ニ付テ疑問ヲ持ッテ居ルノデアリマス、具體的ノ事件ヲ茲ニ出シテソレニ對スル御意見ヲ承ッテ見タイト考ヘマス、勞働爭議ノ場合ニ人ニ對スル脅迫ヲスルト云フ場合ハ、刑法ノ上ニ付テモ規定ガアリマス、併ナガラ彼ノ規定ハ勞働爭議ニ適用スル場合ニ對シマシテハ、狭イ感ジガ致サレル、ソレカラ又勞働爭議ニ參加サセル、或ハ參加ヲ拒ムト云フ意味ヲ以テ、人ノ住居シテ居ル場所デアルトカ、或ハ家屋デアルトカ、ソレヲ多人數ヲ以テ平穩ナル手段デアルガ、之ヲ遮斷スルト云フヤウナ行爲、ソレハヤハリ威迫ニモナラナケレバ脅迫ニモナラヌト思フノデアリマスガ、又サウ云フモノニ對シテハ政府ハ全然取締ル必要ガナイト云フノカ、又取締ルト云フコトデアラナラバ、現行法令ノドノ條文ヲ以テ取締ヲサレルカ其事ヲ承テ置キタイト思ヒマス

○吉田政府委員 御質問ノ御趣意ノ存シマス所ハ、私モ能ク判ッテ居ル積リデアリマス、成ベク爭議ニ付キマシテハ、完全ナ取締デナシニソレヲ合理的ニ導イテ貫ヒタイモノデアルト云フコトハ、吾々モ御同感デアリマス、其點ハ全然御同感デアリマス、假令刑罰ニ觸レズトモ、成ベク爭議ノ目的ヲ達スルニ必要ナル限度ノ手段ニ止メルヤウニ致シマスレバ、爭議ヲ合理的ニヤッテ行カウト云フ改正ハ望マシイコト、考ヘマスガ、取締ト云フ方面カラ考ヘマスレバ、前ニ申上ゲタ通り、是ハ我國ノ刑罰法令ノ中ニ於テ隨分規定ガ澤山アルノデアリマスガ、一々例示ハ致シマセヌ、十分御承知ノコトデアリマスカラ……、サウシテ寧ロ勞働爭議ニ從事スル所ノ人々カラ申シマスト、昨日モ御例示ニナリマシタヤウニ取締法令ガ日本ハ嚴重過ギルカラ、其或ル部分ヲ廢止シテ貫ヒタイト云フ希望ヲ聽クコトガ非常ニ多イノデアリマ

ス、又一方ニ事業家側ノ見地カラ言ヒマスレバ、現在ノモノデハ不足デアルカラ、勞働爭議ダケニ適用サレルヤウナ、嚴重ニシテ特別ナル取締規定ヲ拵ヘテ貫ヒタイト云フ熱心ナル希望モアルヤウニ承知シテ居リマスガ、是ハ日本ノ法制ノ建前ト致シマシテ何ト申シマスカ、包括的ニ有ユル場合ヲ想像致シマシテ取締規定デモ一般法令デモ出來テ居ルノデアリマスノデ、我國ノ建前デ申シマスレバ、爭議ニ付テ法令ヲ特ニ拵ヘルト云フコトノ必要ハナイヤウニ、只今マデ規定ヲ完備シテ來テ居ルノデアリマス、又是等ノ規定ガ適用セラレテ居ル事例モ乏シクナイノデアリマス、隨テ爭議取締ノ目的ノ爲ニ特別ノ刑罰ヲ付ケテ取締法令ヲ拵ヘルト云フコトハ、私共トシテ其必要ガナイト云フコトヲ確信致シテ居ル次第デアリマス、只今御擧ゲニナリマシタヤウナ、見張ノ場合デアリマスガ、是ハ事業家團體カラモ、サウ云フ場合ニ對スル取締規定ヲ拵ヘテ貫ヒタイト云フ希望ガ現ニ出テ居ルノデアリマスガ、ソレ等ハ只今御言葉ノ中ニモアリマシタヤウニ、平穩ナル程度デ爲サレル見張ト云フモノハ、或ル場合ニハ認メナケレバナラヌカト思ヒマス、併ナガラ其範圍ヲ逸脱スル場合ヲモ無論用心シナケレバナリマセヌガ如何ナル範圍ヲ以テ平穩トスルカ、見張ノ行ハレマス個々ノ場合ニ付テ申サナイト、人數デ言ヘバ例ヘバ何人以上ト云フコトヲ豫メキメマスト云フコトハ、却テ法ノ適正ナル運用ヲ妨ゲ、窮屈ニナル虞モアリマスカラ、情狀ニ依リマスレバ、警察犯處罰令ノ第二條第十二號ノ「交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者」ニ當リマセウシ、又場合ニ依レバ同ジク三十一號ノ「濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者」ト云フ條項モ適用サレルノデアリマス、現ニ左様ナ場合ニ於テ、警察犯處罰令ヲ適用シタ實例モアルダラウト思ヒマスガ、具體的ニ何人以上ノ見張ハイケナイト云フヤウナコトハ、規定スル必要ハナイモノト思フノデアリマス、又警察犯處罰令ニハ、其他ニ於テモ勞働爭議ノ場合ニ適用シ得ル條項ガ随分多イノデアリマス、デ其勞働運動ニ從事スル人々ノ側カラモ丁度只今御話ニナリマシタト反對ノ立場カラ、警察犯處罰令ノ取締規定ハ、勞働爭議ノ場合ニハ之ヲ適用セズト云フ、除外例ヲ今回ノ勞働組合法ノ中ニ入レテ吳レト云フヤウナ意見モ出タ事ヲ私記憶致シテ

居リマスガ、是ハ無論適用ガ誤ラサレ、嚴ニ過ギテモイカズ、又寛ニ流レテモイケマセヌガ、我國ノ法律ノ建前ト致シマシテ、サウ云フ情狀ノ裁定ト云フモノヲ行政官ナリ或ハ裁判官ナリイ云フモノニ與ヘテ居リマス點ハ、却テ是ハ運用ノ上カラ申シマシタナラバ宜シイコトデハナイカト私共ハ考ヘテ居リマス、當局ト致シマシテハ——私共取締官廳デアリマセヌカラ、取締ノ方針ニ付テ申上ゲルコトハ出來マセヌケレドモ、適用セラレベキ條項ハ、例ヘバ今ノ具體的ノ御質問ニ對シマシテモ、今ノヤウナ條項ガ、ヤハリ情狀ニ依リマシテ適用セラレルコトニナッテ居リマス

○守屋委員 警保局ノ方ノ御意見ハ……

○安井政府委員 守屋サンノ御質問ニ對シマシテハ、只今ノ社會局長官ノ御答辯ニ私共ハ全然同感デアリマス

○守屋委員 私ガ例トシテ舉ゲマシタノハ是ハ御承知ノ通りニ英吉利ノ職業組合法及ビ勞働爭議調停法ノ第三條ノ第三項ニ當ルモノデアリマス、而シテ是ハ勞働爭議ヲ不適法ナラシメナイト云フ意味カラ考ヘマス、餘程有效ナル規定ダト思フデアリマス、「如何ナル法律ニ如何ナル規定アルヲ問ハズ一人若クハ二人以上ノ者ガ他人ノ勞働若クハ不勞働ヲ勸誘スル目的ヲ以テ人ノ住居スル家屋若クハ場所ヲ監視シ若クハ遮斷シ又ハ之ニ接近スルコトヲ監視シ若クハ遮斷スルコトハ適法ニアラズ、本法ニ違反シテ行動スル者ハ即決裁判ニ依リ二十磅以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ禁錮ニ處セラレベシ」斯ウ書イテアルノデアリマス、此事ハ實際勞働爭議ノ取締ヲスル、又其勞働爭議ノ適法性ト云フモノヲ維持スル上カラ申シマス、餘程適切ナル規定ダト思フデアリマス、隨テソレナラ我國ニ於キマシテ之ニ該當スル取締規定ガアルカト申シマス、先ヅ私ハ無イト思フデアリマス、アナタノ舉ゲラレマシタ所ノ例ハ警察犯處罰令ノ濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處セラレルト云フヤウナ規定、其他ノ或ハ交通妨害ト云フヤウナデアリマスガ、強ヒテ其規定ヲ適用スルト云フト、斯ウ云フモノマデ取締レルト云フコトニナルカ知レマセヌガ、ソレハ今ノ法令ノ趣旨ヲ濫用シテ御用ヒニナッテ居ルノデアッテ、サウ云フ

法規ヲ適用シタノデハ今私ガ申上ゲタヤウナ場合ヲ十分取締ルト云フコトハ出來ナイ、却テサウ云フモノヲ取締リマスレバ法文ノ濫用——今無産黨ノ諸君ガ仰シヤッテ居ラレルヤウニ、彈壓ノ手段トシテ試ミラレルト云フコトニナル、ドウ云フ程度ノモノハ許スカト云フコトニ付テハ、其行爲ノ重大性ト云フコトヲ考ヘマシテ、ハッキリシタ方ガ宜シイ、サウシテサウ云フ惡イモノニ對シテハ取締ヲ十分ニシマスケレドモ、モット輕イモノニ對シテハ、サウ云フコトハマア警察犯處罰令デ其不完全ハ補ッテ行カウト云フコトデ適用ナサルト云フコトハ私ハ立法者トシテモ又ソレヲ執行スル行政官トシテモ慎マナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、警察犯處罰令ナド、云フ規定ハ今日ノヤウナ勞働爭議ト云フモノガ頻發シテ來ル、而シテソレガ惡化シテ來ルト云フ状態ヲ豫想シテ作ラレテ居ルノデハナイ、デアルカラソレヲ適用スルト云フコトニナッテ來ルト必ズ無理ガアル、無理ガアルカラ其結果色々ナ問題ガ起ッテ來ル、斯ウ云フヤウナ勞働爭議調停法ナドト云フモノヲ御作りニナリ又勞働組合法ト云フモノヲ御作りニナリマシテ、組合ノ活動ト云フモノヲ規律シテ行カウト云フ際ニハヤハリサウ云フコトニ付テモ政府ハハッキリシタ條文ヲ御考ヘニナッテソレニ反スルモノハ取締リ或ハ制裁ヲ加ヘル、然ラザルモノニ付テハモット十分ニ勞働組合ノ活動ト云フモノヲ認メテ、警察犯處罰令ナドニ引掛ケナイト云フヤウニナサルノガ適當ナノデハナイカ、サウ云フコトニ付テマダ少シモ御研究ニナッテ居ナイノデアラウト思フデアリマスガ、或ハサウ云フコトニ付テモ研究ハシテ居ルガ、マダ決定シナイ、ドウシテモ此儘ニシテ成行キヲ見ヨウトシテ居ルノデアッテ、將來相當ニ考慮スル考ヘデアアルガ、當分今ノ刑法ノ形態、竝ニ警察犯處罰令デ以テ、所謂此勞働爭議ノ惡化シテ行クコト、此勞働爭議ノ手段ノ不當不法ト認メラレルト云フヤウナモノニ付テハ十分デアアル、ソレハ内務大臣ガ非常ニハッキリ此處デ仰シヤッテ居ラレルカラ、私ハ疑問ヲ生ジテ來テ居ルノデアアル、近キ將來ニ於テサウ云フヤウナモノニ對シテ規律シテ行クベキ取締法規ヲ拵ヘル必要ハナイ、斯ウ云フ風ニ御考ヘニナッテ居ルカドウカ、此點ヲハッキリ承ッテ置キタイト思フノデアリマス

○吉田政府委員 只今見張ノ件ニ付キマシテ御尋デアリマスガ見張ニ付キマシテ、私カラ申上ゲタ方ガ御諒解ガ付キ易イト思ヒマス、労働争議ノ手段トシテ用ヒラレルモノハ、單純ナル見張リト云フコトデ、之ガ取締リ或ハ處罰ノ目的ニナルノハ穩當デハナイト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、唯見張ト云フ範圍ニ於テハ、其見張ガ不法性ヲ帯ビテ參リマシタ時ニ、初テ取締テ行クベキモノデアルト云フ點ニハ異存ガナイト思ヒマス、隨ヒマシテ現行ノ警察犯處罰令ト云フヤウナモノデ取締テ居ル、禁止致シテ居ル、是ガ日本ノ法制ノ全體ノ立前ナノデアリマス、決シテ此警察犯處罰令等ニ於キマシテ適用シマスコトヲ——無理ニ托ゲテ警察犯處罰令ニコチツケルト云フ意味デハナイノデアリマス、警察犯處罰令ノミナラズ、外ノ取締法規ニ於テモ、之ヲ禁ジテ居ルノデアリマス、又是等ニ對シテハ、刑法等ノ大法規ハ別ト致シマシテ、警察犯處罰令ニ於テハ、改正セラレタ點モ御承知ノコトデアラウト思ヒマス、労働争議ノ場合ニ適用セラレル所ノ、極メテ普通ニアリマスル條文ノ多イコトハ、内容ニ付テ御覽ニナリマスレバ、御分リデアルト思ヒマス、併ナガラ此警察犯處罰令ト云フモノハ、是ハ絕對ニ將來直サスト云フ法典デハ無論ゴザイマセヌ、ソレ等ハ時勢ノ進運ニ應ジテ、必要ナル改正ヲ加ヘラレテ行クト云フコトハ、是亦私主管官廳ノ者デゴザイマセヌケレドモ、是ハアリ得ルコトデアラウト思フノデアリマス、併ナガラ見張リハイケナイト云フヤウナ規定ハ、無論拵エル必要モナイト思ヒマスシ、又拵エルコトハ宜シクナイノデハナイカト思フノデアリマス、一定ノ限度ヲ越エテ、ソレニ法制ガアルト、社會通念ニ於テ、考ヘラレマスル場合ニ於テ、現行ノ法制ニ於テハ何共規定ガナイト云フヤウナ場合ニハ、將來改正スルコトガアルカモ知レマセヌ、此點ニ付キマシテハ、多分警保當局モ御同感デアラウト思ヒマスガ、現在ニ於キマシテ、労働争議ノ時ニ現ハレル各種ノ現象ニ對シマシテハ、現在ノ取締法令ヲ以テ、十分ニ取締ノ目的ヲ達シ得ルト云フヤウニ、取締ノ法文ガ出來テ居ルヤウニ思ヒマス、是ハ今回取締法規ヲ制定シテ貫ヒタイト云フ希望ガ随分熾烈デアリマシタノデ、私共十分各種ノ行爲ヲ豫想致シマシテ、一應直シタノデアリマスケレドモ、其

結果カラ見テ結論ヲ申上ゲマシテモ、ヤハリ現行法令ヲ以テ、法令トシテハ現在ノ状態ニ於テハ足りテ居ル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○守屋委員 ソレヲ確メル爲ニ、一言ハッキリシタ御答辯ヲ願フテ置キマスガ、先ニ私ガ具體的ノ例ヲ擧ゲマシタ英國ノ千九百二十七年職業争議及ビ職業組合法ノ第三條第三項ニ規定シテ居ルヤウナ事柄、ソレニ對シテハ妥當ナモノトシテ御認メニナル積リデアッテ、之ニ對シテ取締ヲ爲サル御考ハナイ、斯ウ云フ風ニ承知シテ宜シウゴザイマスカ

○吉田政府委員 英吉利ノ法制ノ當不當ヲ判斷スルコトハ差控ヘタイト思ヒマスガ、此處ニアリマス通りニ、二人若クハ二人以上ノ者ガ、他人ノ労働若クハ不労働ヲ勸誘スル目的ヲ以テ人ノ居住スル家屋又ハ場所ヲ監視スル、或ハ之ニ接近スルコトヲ監視スルト云フヤウナコトハ、適法デナイト云フノデ處罰スルト云フコトハ、是ハ我國トシテ考ヘマスナラバ、其處マデノ事ヲ致ス必要ハナカラウト思ヒマス、一人デモ二人デモ、如何ナル方法手段ニ拘ラズ、唯監視シテ居ルト云フノハ、ソレハ不法デアルト言フ如キコトハ出來マイト思ヒマス、ソレニ對シマシテ、其監視ニ付テ、監視ノ手段方法等ガ違法デアル、我國ノ現在ノ取締ノ警察法令ニ照シテ違法デアル、申シ換ヘマスルナラバ、公益ヲ明カニ害スルヤウナ方法デ監視等ヲ致シテ居ルト云フヤウナ場合ニハ、是ハ取締ルノガ當リ前デアリマス、唯其モノヲ取締ルヤウナ規定ハ、労働争議ノ規定トシマシテ、我國ニモ直グニ適用スルコトハ如何カト思ヒマス

○守屋委員 法文ノ適否ヲ私ハ聽イテ居ルノデハアリマセヌデ、サウ云フ事柄ニ對シテ、取締ヲサレル必要ハナイカト伺ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ假リニソレナラバ、斯ウ云フ行爲ヲナシタ者ニ對シテ取締ヲ必要トスルコトハ認メテ居ラレルノデアリマスカ、サウ云フ事ヲ必要トスル場合ノ適用法文ハ、ソレハ現行法規ニ於テハ何ト何デアリマスカ、ソレヲ明示シテ置イテ載キタイ

○吉田政府委員 極ク極端ナ手段ニ依リマシテ、見張ヲスルト云フコトニナリマスレバ、刑法ノ脅迫ニナル場合モア

リマスガ、先程申シマシタ警察犯處罰令ノ交通ノ妨害ヲ爲シタル者、又ハ三十一號ノ濫ニ他人ノ身邊ニ立塞ガル者、斯ノ如キ規定ガ、ソレ等ノ場合ニ守ラルベキ見張者ノ限界ヲ定メル規定ニナルト思ヒマス

○守屋委員 私ハソレデハ足りナイト考ヘテ居リマス、デスカラ御考慮ヲ願フテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ、其點ハ意見ノ相違ノヤウデアリマスカラ、強ヒテ申上ゲマセヌ、此點ニ付テハ、ドウカモウ少シ慎重ニ考慮セラレマシテ、御研究爲サルコトヲ——私ハ此點ニ關スル質問ダケハ此程度デ打切ッテ置キマス

○松村委員 今守屋君カラ見張ノ問題ガ出マシタ、見張ハソレガ或ル場合ニ於テハ、同僚ニ對スル誘惑トモナリ、煽動トモナリ、幾多ノ形ニ於テ實際現ハレルガ爲ニ英吉利ノ千九百二十七年法デ、特ニア、云フ規定ヲ設ケマシタノデアリマス、一ツ例ヲ擧ゲテ伺ヒマスガ、見張ノ場合ニ、別ニ身邊ニ迫ル程デハナイガ、同僚ガ傍ヲ通ツタ場合ニ、若シ君ガ「ストライキ」ニ加盟シテ與レナケレバ此罷業ハ繼續スルコトハムヅカシイ、又君ガ加入シナイト、ドウモ賃銀、勞働條件維持ノ目的ヲ達スルコトハ中々ムヅカシイノダガナアト云フヤウナ話ヲシタ場合ニ、ソレハドウナリマスカ、實際ノ例ニ付キマシテ、見張ノ問題ハ重大デアリマスガ故ニ、例ヲ擧ゲテ伺ッテ置キマス

○安井政府委員 只今御示シニナリマシタ、極メテ平穩ナル「ストライキ」ノ加入ヲ勸誘致シマスヤウナ場合ニ付キマシテハ、警察犯處罰令ハ適用致シマセヌ

○松村委員 サウスルト他人ニ脅迫ヲ與ヘルトカ、若クハソレガ脅迫トナルカナラヌカト云フコトハ、ドウ云フ標準デ決定サレマス、即チドウ云フ標準ト云フコトガ御分リニナラナケレバ、ソレハ一般常識的ノ解釋デアリマスカ、或ハ第三者ノ見タル解釋デアリマスルカ、或ハ勸誘ヲ受ケタ人、其人ヲ標準トシタモノノ解釋デアリマスルカ、ソレヲ伺ヒマス

○安井政府委員 只今ノ御質問ハハッキリト聽取レマセヌデシタガ、要スルニソレハ個々、具體的ノ場合ニ當リマシ

テ、各種ノ狀況ヲ見テ判斷シナケレバナルマイト思ヒマスガ、苟モソレガ脅迫ニ互リマストカ、或ハ氣勢ヲ示シテ不安ノ念ヲ起サシメルト云フ場合ハ、是ハ無論今ノ方へ入ルノデアリマスガサウデナク、極メテ單純ニ極メテ平穩ナ話ヲ致ス場合ニハ、取締ノ範圍ニ這入ラナイト思ヒマス

○松村委員 私ノ聞イタ意味ハ、一般普通ノ標準デ、ソレヲ判定スルカ、或ハ斯ル勸誘ヲ受ケタル人ノ、主觀的個人的ノ狀態ヲ基礎トシテ判定スルカト云フコトデアリマス

○安井政府委員 ソレハ愈、法ヲ適用致シマシタ場合ニ、色々裁判官ガ判斷致シマス場合ニ、標準ヲ立テラウト思ヒマスガ、一應警察ナドデ致ス場合ニハ、成ベク常識的ニ動イタ方ガ宜クハナカラウカト考ヘテ居リマス

○松村委員 ソコガ實際ハ非常ニムヅカシイ、之ヲ取締ル人ノ手加減デ、或ハ嚴格ニナリ、或ハ寛大ニナリ、或ハ脅迫トナリ、脅迫トナラズ、煽動トナリ、煽動トナラザル結論ガ出來ル、其處ニ非常ニ威迫若クハ見張ト云フモノ、重大性ガアル、ソレダカラ千九百二十七年ノ英法ノ改正ノ根本趣旨ハ、今政府委員ノ言ハレタコト、大變重點ガ違フ所ニアル、一般ニドウ見ルト云フコトハ問題デナイ、之ヲ受ケタ人ガドウ見ルカト云フ、其受ケタ人ノ精神狀態ヲ基礎トスル、唯一般の常識デハイケマセヌ、サウ云フ所マデ英法ハ非常ニ嚴重ニ解釋シテ居ル、隨テ此英法ノ解釋デハ、法ヲ破ルニ非ザレバ見張ハ或ル程度マデ困難ダト云フ位ニ嚴重ナル取締規定ニナッテ居ル、ソレハ英法ノ問題デアルガ、守屋君ノ言ハレマシタ通り見張ト云フモノハ動モスレバ一般の常識的ト云フケレドモ、其見張ヲヤッテ居ル間ニ於テ實際ニハ「ストライキ」ニ加入ヲ欲シナイ人マデモ加入シナケレバナラヌ、幾多ノ弊害ニ陥ル、ソレデアルカラ見張ト云フモノヲ餘リ寛大ニ扱ッテ置キマスコトハ、是ハ勞働者ノ爲ニモ非常ニ宜クナイノデアリマス、殊ニ最近ノ實情ヲ見ルトサウデアルカラ、ヤハリ私ハ守屋君ノ言ハレルヤウニ、英法其儘ヲ繼承スルコトハ出來ヌトシテモ、英法ノ第三條ノ規定ヲ考ルト、十分茲ニ研究ヲ遂ゲラレテ、此罷業ノ見張ニ對シ適當ナル取締法規ヲ爲スコトガ大ニ必要デアル

ト思フ、今ノ政府委員ノ説明ヲ聽イテモ常識的ト言ヘバ見張ガ違法デアルカ、或ハ違法デナイカト云フコトハ後カラ判断スル、併シ其判断ハ中々ムツカシイ、實際ニ於テハ見張ニ依ッテ幾多ノ弊害ガ起ルノデアリマスカラ、此見張ノ問題ニ付キマシテハ、モウ少シ研究ヲナサラストイカヌノデハナイカト思ヒマス

○安井政府委員 見張ノ問題ニ付テ先程申上ゲマシタノハ、實際ノ運用ノ場合ニ於ケル狀況ヲ申上ゲタノデアリマスガ、警察官ノ取締ニ付キマシテハ常々常識的ニヤルコトガ必要デアルト申シテ居リマスノデ、其意味デ申上ゲタノデアリマス、此法規デ十分デアルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、私共ハ只今ノ所此法規デ十分デアルト云フ確信ヲ持ッテ居リマス、取締ガ不十分デアルト云フ御説ヲ伺フノデアリマスケレドモ、實際トシテハ餘リニ酷ニ過ギルト云フ非難ヲ受ケル場合モアルト云フコトヲ附加ヘテ申上ゲテ置キマス

ソレカラ先程田子サンカラ御尋ノアリマシタ金一封ノ問題、是ハ社會局ニ於テ詳シク御取調ノコト、存ジマスガ之ニ付テ警察當局トシテドウ考ヘルカト云フ御尋ガアリマシタノデ、簡單ニ御答致シマス

此金一封ノ問題ハ實際今日ノ勞働爭議ニ當リマシテ、屢々生ジテ居ルノデアリマス、之ヲ如何ニ判断スルカニ付キマシテハ、ヤハリ個々具體的ノ問題ニ付キマシテ考ヘナケレバナルマイト存ジテ居リマス、是ガ實際行ハレマス場合モ種々雑多デゴザイマシテ、或ハ勞働者ノ方カラ要求スル場合モアリマセウシ、資本家カラ寧ロ金一封出シタ方ガ宜イ、例ヘバ資本家側ノ方デ所謂不良職工ヲ解雇スル場合、所定ノ解雇手當、或ハ特別ノ解雇手當ヲ給スルコトニナリマス、ソレガ將來ノ先例ニナッテハ困ル、寧ロ金一封ニシテ貰ッタ方ガ宜イト云フ場合モアリマシテ、色々デゴザイマスガ、御承知ノヤウニ警察當局ト致シマシテハ、治安維持ト云フ點ニ主眼ヲ置イテ、治安上ノ立場カラソレニ付テハ餘リ深ク善イトカ惡イトカヲ言フ考ヲ持ッテ居リマセヌ、寧ロソレハ勞働條件ノ方デ色々考ヘテ然ルベキデナイカト云フ見地カラ、警察當局トシマシテハ、ソレニ付テ干渉ノ態度ニハ出テ居ラナイヤウナ實情デゴザイマス

○田子委員 安井政府委員ノ御出ニナラナイ時ニ私ハ申上ゲタノデアリマス、勞働者カラ要求スル場合、資本家カラ任意ニ申出ル場合、其外ニ勞働爭議ノ經過ガ長引キマス、今度ノ法律デハ、所謂當該官吏、サウ云フ人ガ這入ルヤウニナリマシタガ、今マデ、法律ガナイ時デモ實際ハ警察署長其他ガ斡旋ヲシテ居ル、所ガ警察部長ナリ官房主事ナリ、上官カラ、此爭議ハ非常ニ長引イテ居ル、何トカ君等解決ノ途ガナイカ、斯ウ云フヤウナコトヲ電話ナド言ッテ來ル、サウスルト署長ハ自分ノ進退ニモ多少關係スルモノデアリマスカラ、弱音ヲ資本家ニ吹カセルヤウニ、君等ノ所デハ大分細君ヤ子供マデ威迫サレテ居ル、是ハ長引クト隨分會社ノ爲ニ不利益ニナルカラ此場合マア金デ片付クトナラ、金ノ五千兩モ出シテ何トカアッサリ片付ケタラドウカ、斯ウ云フコトヲ署長ガ言フノデス、其場合、ドウセ工場監督ナドニハ多少ノ手心ヲスルカラ、此際金一封デ早ク片付ケテ呉レ、サウスレバ僕ハ上官ニ對シテ面目ガ立ツ、斯ウ云フ例ハ屢々アルノデアリマス、是ガ資本家カラ見マス、衛生トカ設備ナドデ、或ハ工場法ノ適用デ監督ヲ受ケテ居ルノデアリマスカラ、警察ニ睨マレルト、何カノ時分ニ非常ナ損ダト思フカラ、心ナラズモ金一封ヲ包ンデ出ス、ソレヲ又「ストライキ」側デハ宜イコトニシテ、時々、爭議ノ起リサウナモノ、所ヲ煽動シテ歩ク、私ハ是ハ非常ニ日本ノ勞働問題ヲ汚ナクシテ、所謂人格ト人格ノ對立デナク、何カ金ノ取引デモシテ物ヲ片付ケルト云フノハ甚ダ不愉快ナコトダト思フノデアリマスルカラ、此間カラ斯ウ云フモノ、取締規定ヲ置イタラドウカト云フコトヲ申上ゲテ居リマスガ、政府ハ其御意見ガナイ、一例ヲ申上ゲマスト、團體交渉權ヲ認メヨ、解雇セラレタ職工ヲ全部復職セシメヨ、又賃銀ハ今後數年間ハ絕對ニ下ゲナイ、色々ナ條件ヲ抽象的ニ若クハ具體的ニ出ス、所方前ニ出シタ具體的ノ要求ハ全部之ヲ撤回スルカラ、金一封此處ヘ包ンデ貰ヒタイ、斯ウ云フヤウナ場合、收賄罪ト言ヒマスカ何ト言ヒマスカ、前ノ農商務省ノ案ニアリマシタ第二十三條ニ、勞働組合ノ役員其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス、前項ニ掲グルモノニ對シ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル者亦同ジ、斯ウ云フ

ヤウナ條文ガアリマシタガ、是ハ金一封ヲ禁ズル趣旨デアルカドウカハッキリ分リマセヌケレドモ、何カ斯ウ云フモノヲ取締ル方法ガナイモノデアラウカドウカ、之ヲ絶滅スルコトガ出来レバ、私ハ労働爭議ハサウ頻發モシマイ、又徹底的ニ、斯ウ云フヤウナ人格ト人格ノ對照ヲ目的トシテ居ルモノハ、金ニ依ッテ事ガ糊塗サレルト云フヤウナコトハ、如何ニモ労働者ノ側ニシマシテモ、資本家ノ側ニシマシテモ、遺憾ナコトニ思フノデアリマス、資本家側ニ於キマシテモ世ノ中ノ事ヲ金デ片付ケルト云フヤウナ思想ガ非常ニ惡イ、「ストライキ」ヲサレテ困ルナラバ、自分ガ眞裸ニナッテ、會社ノ内情計算ナドモ打明ケテ、斯ウ云フ状態デアルカラ諸君我慢シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ風ニヤリタイト私ハ思フ、又「ストライキ」ヲスル側デモ吾々ノ生活ハ斯ウデアアル、家族ハ斯ウデアッテ、アナタノ受ケテ居ル利益ハ是ダケデアアル、株主ニユク利益ハ是ダケデアアルカラ、俺等ノ賃銀ハモウ少シ高クシテモ宜カラウ、コンナニ下ゲナクテモ、宜カラウ、ト云フヤウニ、露骨ニヤレバ宜イ、ソレヲ金一封デアッサリ片付ケテモウ面倒ダカラ此程度デ片付ケヨウト云フノガ惡イ、之ガ若シ御互ノ間ニ長ク續クト不愉快ナコトデアリマスカラ、法律デ御禁止ニナッタラドウカト云フコトガ一ツ、ソレカラ只今デハ個人關係ノ間デアルカラ、警察デハ干涉シマセスト仰シヤイマスケレドモ、ソレハ寧ロ逆デアッテ、間ニ立ツ警察官憲ガ能ク金一封ノ世話ヲヤッテ居ルノデス、現ニ私ノ友人ナドガ關係シタノデハ、警視廳カラ言ハレテ、マア此邊ガ例デスヨ、此程度デ片付ケタ方ガ餘程安上リデスヨト言ッテ、尋常茶飯事ニ扱ッテ居ル、是ハ御答辯ナサラヌデモ宜シウゴザイマスガ、斯ウ云フコトハ眞面目ニ御互ニ研究致シマシテ、弊害ヲ除イテ、所謂「ストライキ」ト云フモノハ正々堂々と、美シキ人格ト人格トノ交渉ニ入ルヤウニシタイト云フ希望ナノデアリマス、今法案ヲドウシヨウト言ッテモ一寸面倒デアリマスカラ、此事ヲ私ハ一言附加ヘテ置キマス

○松谷委員 今ノ問題ニ關聯シテ一言致シタイト思ヒマス、今田子君ノ御話ニ依ルト、如何ニモ労働者カラ金一封ヲ要求シテ、サウシテ警察官ガ労働者側ノ爲ニ金一封ヲ出サセルヤウニシテ解決スルト云フヤウナ御話デアリマシタガ、他ノ組合ハ知リマセヌガ、私ノ關係シテ居ル範圍ノ組合デハ今マデサウ云フコトハアリマセヌ、唯斯ウ云フコトガ一二アリマス、コチラデ爭議費用ガ假ニ三千圓要ッテ居ル、サウ云フ場合ニ三千圓ハ出セナイ、ソレデハ警察ノ方デ其半分ノ費用ヲ出サスカラ、オ前ノ方ハドウカ、所ガ資本家側ノ方デハ一文モ出セナイ、サウ云フ場合ニ於テ警察官ガ餘リニ資本家側ガ頑強デアルカラ、私ノ方デ一應言ハウト云フヤウナ實例ハ私ハ二三知ッテ居リマス、併ナガラ爭議費用以外ニ自分ノ「ポケット」ニ入レルト云フヤウナ場合ハ絶對ニアリマセヌ、是ダケハ私ハ此處デ言明出来ルト考ヘマス、如何ニモ警察官ガ中ニ這入ッテ相手方ヲ脅シテヤルヤウニ言ハレマスケレドモ、警察官ガ組合員ヲ脅カスカ、資本家ヲ脅カスカ、是ハモウ私共ノ目カラ見レバ何レガ脅カサレテ居ルカト云フコトハ殆ド公知ノ事實デアッテ、田子君カラ組合ニ資本家ガ脅サレテ居ルト云フ聲ヲ聽クノハ如何ニモ不思議デアッテ、マルデ地獄極樂ノ想像話ヲ聽イテ居ルヤウニシカ私共ニハ考ヘラレナイ、サウ云フ實例ガアリマシタラ、何處デドウ云フ組合デアルカト云フコトヲ教ヘテ戴キタイ、況ヤ幹部ガサウ云フコトヲ勸メルガ如キハ私共ノ統制ノ上カラモ一應御聽キスル必要ガアルト思フ、實際私共ハサウ考ヘテ居ル、ソレデアリマスカラサウ云フ聲ヲ此労働組合委員會ニ於テ聽クコトハ多數ノ委員諸君ニ惡イ印象ヲ與ヘル、是ハ私共ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマスカラ、今一應御聽キスルト同時ニ、私ハ更ニ警保局カラ御出ニナッテ居リマスカラ御尋ラシタイノデアリマスガ、例ヘバ是ハ現ニ起ッタ實例デアリマス、ソレハ彼ノ鋼板ノ爭議、是ハ御承知デモアリマセウガ、簡單ニドウ云フ原因デ起ッタカト云フコトヲ申シマス、職工ガ瓦斯「タンク」デ吹上ダラレテ死ンダ、ソレデ可哀相デアルカラ手當ヲヤッテ呉レト云ッテ三百圓出ストカ四百圓出ストカ云フコトデ交渉シタ、其交渉シタ人間ヲ漸次首ニシタ、ソレカラ爭議ニナッタノデアアルガ、其當時署長ガ斯ウ云フコトヲ言ッテ居ル、此爭議ハ組合員ヲ三四回總檢束シナケレバ片ガ付カヌト云フコトヲ資本家側ニ言ッテ居ル、ソレデ如何ナル理由デアッタカ知ラヌケレドモ、實際總檢束ガ二三回ハ行ハレテ居ル、サウシテアノ爭議ハ職工側ガ疲弊困憊ノ結果、非常ニ不利デアッタ

争議費用ノ如キモ三分ノ一モ五分ノ一モ取レナカッタト云フ不利ノ有様デ片ガ付イタノデアルガ、斯ノ如ク警察官自身ガ資本家ノ爲ニ使ハレテ、總檢束ヲ約束スルガ如キハ私ハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ、是ハ内務大臣ニ實例ヲ申上ゲテ居ルノデアリマスガ、斯ウ云フ實例ニ鑑ミテ、サウ云フ争議ヲ妨害スル者ニ對シテ處罰ヲ爲ス規定ヲ設ケラル、御意思ガアルカ、ドウカヲ一應御尋シテ置キマス

○安井政府委員 此争議ノ取締ニ付キマシテハ、平生カラ大ニ慎重ニヤラナケレバナラヌト申シテ居リマス、警察當局デハ常ニ一面ニ於キマシテハ壓迫干涉ニ過ルト云フ非難ヲ受ケマスト同時ニ、一面ニ於キマシテハ取締ガ非常ニ不十分デアルト云フ兩方カラノ非難ヲ耳ニ致シテ居ルノデアリマス、私ト致シマシテハ常ニ取締ルベキモノ、又取締ルベキ場合ト取締ルベカラザルモノ、又取締ルベカラザル場合トハ、十分ニ區別シテヤラナケレバ警察ノ目的カラ言ッテモ面白クナイ、取締ノ目的カラ言ッテモ面白クナイト云フ風ニ、繰返シシテ而モ是ハ何度繰返シテモ十分デアルトハ思ハレヌ位ニ、繰返シシテ申述ベテ居ル次第デアリマス、具體的ノ問題ニ付テハ一々覺エテ居リマセヌガ、色々ノ場合ニ於キマシテ、程度ヲ超ヘテ壓迫ヲ加ヘタト云フヤウナ誤解ヲ受ケル場合モアラウカト思ヒマス、或ハ又餘リニ取締ガ放漫デアルト云フヤウナ誤リヲ受ケマスヤウナ場合モ勿論ナイデハナカラウカト思ヒマスガ、是ハ努メテサウ云フコトノナイヤウニ從來カラモ致シテ居リマスシ、將來モ一層サウ致シタイト思ッテ居リマス、ソレカラ金一封ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ私モ詳シク知ッテ居ル譯デアリマセヌガ、大體ニ於キマシテ、警察官ノ方デ率先シマシテ、金一封デ早ク解決ヲ付ケタラドウカト云フコトハ、私ハナイノデハナイカト思ッテ居リマス、唯左様ナ條件ガ持出サレタ場合ニ、ソレニ付テ調停ヲ試ミル、隨テ其額ガモウ少シ殖エタラドウカ、或ハ減ッタラドウカト云フヤウナコトデ、妥協條件トシテ干與スルコトハアルダラウト思ヒマス、實際今日ノ狀勢カラ申スト、多クノ場合金一封ニ依ッテ解決ヲシナケレバ、中々解決シナイ場合モ相當多イヤウニ聽イテ居リマス、隨テ斯様ナ意味ニ於テ干與スルコトハアラウカト

思ヒマスガ、何モサウ云フ話ガナイノニ警察ノ方カラ積極的ニ持出シタト云フヤウナ場合ハ私ハナイト思ヒマス、殊ニサウ云フ問題ニ付キマシテ、實際ニ労働者側ニ對シ、或ハ資本家側ニ對シテ、苟モ警察ガ官權ヲ濫用シテ、ソレヲ強制スルコトハ、實ニ金一封ノ問題ニ限りマセヌ、其他ノ妥協條件ニ付テモサウデアリマスガ、サウ云フコトヲ權力ヲ以テ強制スルト云フコトハ、是ハ面白クナイト思ヒマス、唯實際ノ争議ノ狀勢カラ考ヘテ、勞資雙方ニ對シテ相當考慮サレタラ宜カラウト云フコトハ、是ハ治安維持ノ立場カラ勸告ト云フ意味ニ於テ申スコトハアラウト思ヒマスガ、其程度ヲ超エテ官憲ニ於テ強制スルト云フコトハ宜シクナイ、總テノ場合ハ存ジマセヌガ、サウ云フ強制スルト云フヤウナコトハ避ケシメタイト考ヘテ居リマス

(中略)

○加藤委員 簡單ニ内務大臣ニ御伺致シマス、労働争議調停法ヲ今回急激ニ改正セラレテ御提案ニナリマシタコトハ、ドウ云フ理由デアリマスカ、其理由ヲ承リタイト思ヒマス

○安達國務大臣 急激ナト云フ御言葉ハ實際間違ッテ居リマス、成程世間ニ發表致シマシタノハ、秘密デ漏レテ居ラナカッタカラ、ソレデ突然出來タヤウニ世間ガ感ジマシタケレドモ、實際社會局ニ於テハ一通リ調査ヲ致シテ居リマシテ、調停法ガアリナガラ、是ガ非常ニ今マデ活用セラレルコトガ少カッタ、ソレデ今度ハ此調停法ノ運用ヲシテ十分働ヲサセヨウト云フ考カラ調停法ノ改正ノ議ガアッタデアリマス、ソレデ此際労働組合法ヲ出スト共ニ、調停法ヲ出サウト云フコトニナッタ次第デアリマシテ、決シテ急激ニ突然ト出シタモノデハアリマセヌ

○加藤委員 内務省内デマダ調査ヲ進メテ居ラレタノガ外ハ漏レナカッタカラ急激ニ思ッタラウト云フ御言葉ガアリマシタガ、私ハ左様ナ機械的ノコトヲ聽イテ居ルノデアリマセヌ、此内閣ガ成立以來、社會政策審議會ヲ設定サレマシテ、此労働立法ノ立案ニ着手セラレ、其當時ニハ労働組合法ダケガ論議サレ、研究ノ中心ニナッテ居リマシテ、労働

争議調停法ノ改正ノ如キハ、餘リ論議ヲシテ居ラレナカッタ、研究シテ居ラレナカッタ云フコトハ、世間周知ノ事實デアッタデアリマシテ、内務大臣ガ如何ニ強辯ヲセラレマシテモ、ソレハ其當時カラ併合シテ研究シテ居ッタダトハ仰シヤルコトハ出来マスमित思ヒマス、私ノ考ヘル所ニ依リマス、午前中ニモ商工大臣ニ承リマシタ所ガ、労働争議ノ取締ニ付テ一體内務省ハ緩漫過ギル、モット嚴重ニ取締テ貫ヒタイト云フコトヲ言ハレタノデアリマスガ、左様ナ思想ヲ持ッテオイデニナル方ガ閣内ニアリ、旁々資本家團體カラ致シマシテ、労働組合法ヲ制定スルノデアラナラバ、労働争議調停法ヲ改正シテ呉レト云フ要求ヲセラレマシテ、是ハ私ハ餘リ立入ッタコトヲ申シテ御叱リヲ受ケルカモ知レマセヌガ、江木鐵道大臣ガ立案セラレタト云フコトマデモ世間デ批評サレテ居ル、斯様ナ所謂社會局案ヲ改竄シテ、今日ノヤウナ案ヲ得ラレマシタト云フ交換條件ガ、或ハ公平ヲ裝フ爲カ、世ヲ衝フ爲カ、兎ニ角ソレヲ所謂急激ニ立案セラレタト思フデアリマスガ、其真相ガ間違ッテ居リマシタナラバ、的確ナル論據ヲ御示シ願ヒタイノデアリマス

○安達國務大臣 社會政策審議會ニハ、此争議調停ニ關スルコトハ諮問ハシテ居ナカッタノデアリマス、其後社會局トシテ労働争議取締法ガ必要ナドト云フ世ノ噂ガアルシ、ソレデ色々研究ノ結果、取締法ヲ設ケルノ必要ハナイト云フコトニナリマシテ、其代リ調停法ノ不備ヲ補ウテ置カウト云フ考ハ、確ニアッタノデス、江木君ガ立案シタト云フコトハ、色々今度ノ改正案モサウ云フコトノ噂ヲシテ居リマスケレドモ、實際此處ニ居ル吉田君ノ手デ總テ——露骨ナ御話ヲスルト、立案シタノデアリマシテ、尤モ改正スル條項ニ付キマシテハ、私共江木君ニ委セマシテ、ソレカラ協議ノ結果、所謂筆ヲ執ッタノハ社會局長官デアリマス、ソレデ其邊ノ噂ハ色々アリマス、噂ガ新聞ニ傳ハッタコトハ知ッテ居リマシタガ、強ヒテ辯解ハ致シマセデシタ、併シ今御尋ガアリマシタカラ率直ニ申上ゲテ置キマス、サウ云フ註文ガアッタ爲トカ、又組合法ヲ改竄スル埋合せニシタトカト云フヤウナコトハアリマセヌ

○加藤委員 最初ノ御答辯ハ急激デハナイ、既ニ調査ヲ致シテ居ッタノダ、外間ニ漏レル爲ニ、所謂秘密ヲ保ツ爲ニ之

ヲ發表シナカッタノデアルト云フ御答辯デアリマシタガ、二度目ノ御答辯デハ、社會政策審議會デハ斯様ナ議論ハナカッタガ、後ニナッテ労働争議取締法ヲ出シテ呉レ、併シ内務大臣トシテハ其取締法ノ必要ガ先ヅナイト思ッタガ、然ラバ争議調停法ノ改正ヲシテ呉レト云フ各方面ノ意見ガアッタカラ、ソレデ斯ウ云フコトニシタト仰シヤルノデアリマスカ

○安達國務大臣 ソレハ違ヒマス、労働争議取締ト云フコトハ近頃起ッタコトデハナイ、ズット前カラ其聲ハアッタノデアリマス、ソレカラ社會局長官ガ此調停法ヲ改正スル必要ガアルト申シマシタノハ、ズット早イ頃デアリマス、其頃カラ社會局長官ノ頭ニハ調停法ノ改正ヲ考ヘラレテ、サウシテ取調ベテ居ッタノデアリマスカラ、資本家ナドノ運動ガ起ッテ、而シテ後ニサウ云フコトヲ考出シタノデハナイ、調停法ノ不備デアルコトハ前カラ氣ガ付イテ居ッテ、之ヲ改正シナケレバナラヌト考ヘテ居ッタノデアリマス

○加藤委員 内務大臣ト左様ナコトデ私ハ争フ譯デハアリマセヌガ、實際ノ所ハ資本家側ノ意嚮ヲ緩和スル爲ニ斯様ナ改正案ヲ出サレタノデアリマセヌカ、ソノナニ御隠シニナラヌデモ宜イデヤアリマセヌカ

○安達國務大臣 私ハ隠シハ致シマセヌ、ソレヲ隠ス必要モアリマセヌ、真相ヲ申上ゲテ居リマス、労働者側ノ意見ヲ徴シ、資本家側ノ意見モ私ハ聴イタニ違アリマセヌ、併ナガラ輿論ト云フカ、意見ニ動かサレテ此法案ガ生レタノデハナイ、ドウシタガ一番穩健ニナルカト云フ考ノ下ニ、己ヲ空シウシテ世論ヲ参考ニシヨウト云フ考デアリマス、初カラ虚心坦懐デアリマシタ、社會政策審議會ノ答申案ハ此處ニ起草案ガアル、ソレヲ基礎ニシテ労働組合法案ハ拵ヘタノデス、調停法モ元カラ其考ガアリマシタカラ、ソレヲ採ッテ以テ此改正案ニナッタノデアリマス

○加藤委員 内務大臣ハ能ク輿論ヲ聴イタノデアッテ動かサレタノデハナイト言ハレマスガ、ソレハ程度ノ問題デハナイデスカ、勞資兩方面ノ意見ヲ聴イタト云フノデアリマスケレドモ、同ジ分量デ聴クナラバ宜シイガ、一方ヲ多ク聴キ

一方少ク聴クト云フコトニナリマスレバ、結局ハ勳カサレタコトニナリハシマセヌカ、私ハ内務大臣ニ左様ナコトハ聴キマセヌガ、今ノ労働爭議調停法ハ施行以來未ダ數年間ト思ヒマス、サウシテ今ノ調停法ノ精神ト云フモノハ、労働者ト、資本家ト、中間ノ者ガ、所謂圓卓會議ヲ開イテ、サウシテ圓滿ニヤルト云フノデ今マデ進メテ來タノデアリマス、ソレヲ今日急激ニ改正サレヤウ、其適用ハ儘カ昨年大阪ニ一箇所アッタバカリト思ハレマスガ、先日吉田社會局長官ノ御説明ニ依ルト、爭議調停法ニ係ラタノハ少イケレドモ、此法律ノ精神ヲ酌シテ、事實上ノ調停ヲシタノガ多イカラト云フ話デアリマシタガ、事實上ノ調停ト云フモノハ此調停法ノ御蔭デアルコトハ疑ヒマセヌガ、斯ウ云フコトヲ急ニ御考ヘニナルト云フコトハ、アナタハ至急デナイト仰シヤイマスガ、何カ相當ノ理由ヲ私共ニ御示ニナラナイト、資本家ノ要求ノ因果關係ガアリ、或ハ又其處ニ勳カサレルト云フ御言葉ハ御嫌デアリマスガ、耳ヲ聳テ、御聽ニナッタヤウデアリマス、耳ヲ聳テ、聴クト云フコトハ、結局勳カサレタノデハナイカ、ドウ云フ理由デアリマスカ

○安達國務大臣 耳ヲ聳テ、聴イタト仰シヤルガ、ソレハ如何ナルコトヲ聴イテモ構ハナイ、労働者側カラモ色々意見ヲ聴キマシタ、資本家側ノ意見モ一通リ聴キマシタ、併ナガラ吾々モ自分ガ自動的ニ、サウシテ他ノ意見ヲ徴シテ、其意見ノ善イモノガアツタラ、ソレヲ喜ンデ採用スルコトニ吝ナラヌ、斯ウ考ヘテ居リマシタノデ、公平ニ各方面ノ意見ヲ徴シテ、サウシテ組合法ヲ作り爭議調停法モ考ヘタ、其點ノコトヲ執拗ク御聽ニナルコトガ、私ハ此法案ニドウ云フ關係ガアルカ知ラスガ、虚心坦懐ニ私ハ御話ヲ申上ゲテ居リマス、決シテ資本家ガ言ウタカラ作ルトカ、労働者側ノ要求ニ依ッテドウスルト云フヤウナコトハナイ、併シ兩方ノ意見ハ虚心ニ聴イテ、立法ノ材料ニシタト云フニ過ギナイノデアリマス

○加藤委員 ソレハソレデ宜シイ、ソレデハ今度ノ改正案ハ「ストライキ」ヲ抑壓スルト云フ意味デアリマスカ、是ダケ御伺シマス

○安達國務大臣 調停法トナッテ居ルカラ抑壓シナイト云フノデアリマセヌガ、經濟爭議ハ認メナイ、地方ノ公共事業ニ非常ナ影響ヲ與ヘルヤウナコトニ付テ、色々何ガアリマスケレドモ、大體ニ於テハ決シテ抑壓スル方針デハアリマセヌ

○加藤委員 ソレデハ内務大臣ハ舊治安警察法ノ十七條ガ撤廢サレタ當時ニ、閣臣トシテ御出デニナッタノデアリマスガ、其當時ノ理由ヲ承リタイ

○安達國務大臣 十七條ノ労働運動ヲ禁止スルヤウナコトヲ撤廢シタ理由ト云フコトデアレバ、ソレハ大體ニ於テアノ制裁ヲ設ケテ置ク必要ガナイト認メタカラ撤廢シタノデアリマス、私條文ヲ能ク覺エテ居リマセヌガ、大體ニハ間違ナカラウト考ヘマス

○加藤委員 治安警察法十七條ハ「ストライキ」ノ煽動誘惑ヲ禁止スル規定ガ、社會政策ノ上ニ不都合デアルト云フ理由ヲ以テ、若槻内閣ノ時ニ撤廢サレタノデアリマス、ソレハ安達内務大臣モ能ク御承知ドラウト思ヒマス、當時ノ治安警察法ニ依リマス、是ハ同盟罷業バカリデナク、工場閉鎖ニ付テモ同等ノ規定ガアッタト思フ、是ハ表面上見マスト稍、公平ニ見エル法律デアッタト思ハレマスガ、ソレヲ今回デモヤハリ豫告期間ヲ三回設ケルトカ、或ハ調停期間中「ストライキ」ヲ禁止スルト云フヤウナ、極メテ公平ノヤウニ出來上ッテ居リマスケレドモ、安達サンハ治安警察法ヲ撤廢サレマシテ是ガ復活スルヤウニナルノデアリマスガ、左様ニ御考ヘニナリマセヌカ

○安達國務大臣 「ストライキ」ヲ禁止スルヤウナコトハナカラウト思ヒマスガ、私ハ是ガ爲ニ復活サレルトハ考ヘマセヌ

○加藤委員 復活サレルヤウニ考ヘナイト仰シヤレバソレハ貴方ノ御考デアリマスルガ、今日ノ實際ニ於テ工場主カラ進ンデ工場ヲ閉鎖シタ場合ニハ、社會局カラ下サイマシタ材料ニ依リマスルト、少々數ハ殖エテ居リマスルケレド

モ、是ハ不景氣ノ爲ニ、経営困難ノ爲ニ、事業不況ノ爲ニ自ラ閉鎖シタモノデアルト思ハレマスルガ、如何デアリマスルカ

○安達國務大臣 多數ハサウカモ知レマセヌガ、詳細ノコトハ社會局長官其他ノ政府委員カラ御答シタ方ガ宜カラウト思ヒマス

○吉田政府委員 今回ノ改正案ハ御覽ノ通り爭議ヲ禁止シ抑壓スルト云フ趣旨ニ出來テ居リマス條文デアリマセヌ、只今御指摘ニナツタノハ第一條ニ列記シテアリマス公益事業ニ對シ同盟罷業ヲシヨウ、或ハ工場閉鎖、作業閉鎖ヲシヨウト云フ時ニ、豫告期間ヲ定メテ居リマスコトト、モウ一ツハ公益事業以外ニ於キマシテモ、著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタル時ハ調停ガ出來ルト云フ規定、サウシテソレ等ノ從前ノ第一條ノ強制調停ニ於テモ、今回ノ強制調停ニ於テモ、其期間中ニ於ケル第三者ノ誘惑煽動ニ關スル制限ヲ設ケテアリマス、ソレ等ヲ御指摘ニナツタト思ヒマスルガ、調停手續中ニ公益ノ見地カラ調停ガ開始セラレテ居ル場合ニ、調停手續中ニ爭議當事者ハ別トシテ、第三者ガ這入ッテ來テ誘惑、煽動スルト云フコトニ對シテ制限ヲ加ヘルコトハ、毫モ爭議ヲ禁止スルト云フ意味デハナイコトハ十分御分リデアラウト考ヘルノデアリマスルガ、尙ホ先程内務大臣カラ爭議調停法ニ付テハ是ガ施行以來ノ實績ニ鑑ミテ改正ヲ要スル點アリト云フノデ、私共ノ役所ニ於キマシテ從前取調ベテ居ッタノデアルト云フコトヲ申サレタノデアリマスガ、事實其通りデアリマシテ、從前ノ調停法ノ規定ハ午前中他ノ方ノ御質疑ニ對シテ御答シタノデアリマスルガ、昨年大阪ニ於テ一回、今年ツヒ最近大阪ニ於テヤハリ一回適用セラレタダケゴザイマスノデ之ニ反シテ爭議ノ回数ハ非常ニ殖エテ居ルノデアリマス、隨テ此調停法ヲ圓滑ニ運用スル途ヲ講ズル爲ニ、之ニ對シテ適當ナ改正ヲ加ヘタイ、又從前調停官吏ガ事實調停ト云フコトデヤッテ居ッタノハ何等法ニ根據ノナイコトデアリマスルノデ、調停官吏ノ行ヒマスル調停ノ調査審理ノ權限ニ付テノ法律上ノ根據ヲ與ヘル、ソレ等ノ調査審理ガ公正

ニ行ハレマシテ、圓滑ニ爭議ノ調停ガ出來ルヤウニ——無論労働爭議ト云フモノハ避ケラレルナラバ避ケタ方ガ勞資双方ノ爲デアル、産業平和ノ爲メ社會ノ公安ノ爲デアリマスカラ、是ガ圓滑ナ解決ヲ圖リ、調停ヲスル、其調停ヲ圓滑ナラシメル趣旨ニ於テ、今回ノ改正案ハ總テ出來テ居ルノデアリマス、決シテ労働爭議ニ對シ彈壓ヲ加ヘ、或ハ取締ノ意味ヲ以テ出來テ居ルト云フノデアリマセヌ、取締ニ關シマシテハ是モ再々申上ゲテ居リマスル通り、現行ノ諸法令ニ於キマシテ、取締或ハ處罰ニ關スル規定ハ十分アリマスルノデ、ソレガ運用上ニ付テハ無論御批評ヲ蒙ル餘地モアルト考ヘマス、取締法令ト云フ意味カラ調停ヲ圓滑ニヤルト云フ意味デ改正案全體ガ出來テ居ルト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○加藤委員 労働爭議ノ調停期間中ニ、第三者ガ煽動誘惑ヲヤッテイカヌコトハ無論デアルト思ヒマスガ、ソレバカリデハナイ、サウ云フ必要ガアリマスアカリマセヌカト云フコトハ、意見ノ相違デアルカラ再ビ御尋致シマセヌ

○吉田政府委員 下ノ爭議ニ於テ斯ウ云フ必要ヲ感じタト云フコトハ具體的ニハ申兼ネマスガ、近來ノ労働爭議ノ實情ニ鑑ミマシテ、第一條ニ列舉シテアリマス事業以外ニ於キマシテモ、例ヘバ同種ノ産業ト紡績業、生絲業ト云フヤウナモノガ集ッテ、一ツノ産業主體ヲ形成シテ居ル實例ガアリマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、サウ云フ場合ニ於テ其中ノ一ツノ工場ニ爭議ガ起ッテ、非常ニ急速ナ速度デ附近ノ同種ノ産業ニ蔓延スルヤウナ狀況ニナリマシタ時ハ、ソレガ爲ニ關係地方ノ産業ガ著シク害セラレルト云フ場合ニ於キマシテハ、是ガ第一條ニ掲ゲテアル公益事業デアリマセヌデモ、速ニ調停ノ效果ヲ擧ゲル必要ガアリマス場合ノ發生致シマスコトハ想像ニ難クナイノデアリマス、又産業上サウ云フコトガアリマセヌデモ、其爭議ノ行ハレル狀況ニ依リマシテハ、事業ノ種類ガ公益事業デアリマセヌ

トモ、公益ノ見地カラシテ速ニ調停ノ效果ヲ舉ゲル必要ヲ感ズル場合ノアリマスコトハ、是亦御認ニナルニ難クナイト思ヒマス、ソレ等ノ場合ニ、仕事自體ガ公衆ニ水ヲ供給スルトカ、電力ヲ供給スルト云フヤウナ、所謂公益事業デアリマセズトモ、其争議ノ狀況ガ公益ニ及ボス影響ガ著シイ場合ニ於キマシテ、調停ノ爲ニ行政官廳ガ發動スル場合ノアルコトハ、是亦争議ノ取締トカ彈壓トカ云フコトデナシニ、公益上サウ云フコトノ必要ノアルコトヲ十分ニ認メ得ルト思ヒマス、其點ノ規定方、従前ノ法律ノ中ニアリマセヌノデ、今回新ニ之ヲ加ヘタノデアリマス、事實此規定ヲ適用スル必要ハ起リ得ルト思ヒマス

○加藤委員 左様ナ實例ヤ先例ガアリマセヌデモ、今後ハ左様ナ改正ヲシテヤッテ行カウト云フ意味デスカ

○吉田政府委員 只今申シマシタノハ、蓋シ一番初メニアリマス「勞働争議發生シタル場合ニ於テ著シク」云々其場合ニハ第一條ノ場合ノ外ハ當事者雙方ノ請求ガアリマセヌケレバ這入ラナカッタノデアリマス、ソレヲ今回ノ改正案ニ依リマシテ、當事者雙方ノ請求ノ場合ハ勿論デアルガ、當事者ノ一方ノ請求デアリマシテモ、又請求ガナクとも、行政官廳ニ於テ調停手續ニ這入ル必要ガアル場合ニハ入り得ルコトニ改メマシタ

ソレカラ只今御尋ノ點ハ其次ノ問題デアリマシテ、是ハ調停手續、所謂先程圓卓會議ト御話ニナリマシタ、勞資雙方並ニ中立ノ者ガソレノ多數ノ人數ガ集ッタ、所謂調停委員會ニ於テ調停手續ヲヤリマス外ニ、ソレハ公益事業ニ付テモ私益事業ニ付テモアルコトナノデアリマスガ、従前此行政官廳ニ於ケル調停ノ當該官吏、所謂調停官或ハ其上官ト云フヤウナ者ガ、事實上調停法ニ根據ヲ置カズシテ口ヲ利イテ居ッタコトガ頗ル多數アルノデアリマス、ソレハ法律ニ根據ノナイコトデアリマスシ、又隨テ事ガ公明ニ行キ兼ネル、今マデモ段々調停官吏ノ調停振リニ付キマシテ御批評ガアッタヤウデアアル、時トシテハ事ガ公明ニ行キ兼ネル場合モアリマスノデ、其事ヲ此法文ニ取入レマシテ「行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査ニ關スル調査審理ヲ爲サシムルコトヲ得」ト云フ條文ヲ一箇條設ケマシタ、是ハ

只今ノ公益事業或ハ準公益事業ニ於キマシテハ、ソレハ當事者双方ノ請求ガナクともヤレマスガ、丁度調停委員會ノ開設ノ場合ト同ジヤウニ、必要ガアレバ行政官廳ニ於テ必要ヲ認メタト云フ場合ニモ手續ハ出來ルノデアリマス、其點ニツニ分ケテ御説明ヲ申上ゲタ方ガ御分り易イト思フノデアリマス

○加藤委員 争議ノ當事者カラ請求ガナクとも、而モ利益事業デ強制調停、行政官廳ノ認メル所ニ依ル、是ハ餘リ行過ギタノデアリマセヌカ、私ハ斯ウ云フ時ハ請求ガナクテハイカヌ、請求ガナクテモ行政官廳ノ認メル所ニ依リ、而モ當該官廳ノ云々ト云フ、サウ云フ人ガ産業ノ實際ト經營ノ内容、サウシテ探算ノ基礎ト、所謂之ヲ一言ニシテ言ヘバ事業ノ實態ヲ、官僚的ニ飛出シテ來テ調停シテヤルゾ、是ハ少々行過ギタヤウニ思ヒマスガ、サウ云フ御考ハアリマセヌカ

○吉田政府委員 請求ナキ場合ト雖モ當該地方ノ産業ニ著シク重大ナ「著シク」ト書イテアルノハ重大ナ意味デアリマス、又公益ヲ害スル虞ガアルト云フ場合ニ於キマシテ、速ニ調停ヲスル、争議ヲ禁止スルノデアリマセヌ、速ニ調停スルト云フコトハ少シモ行過ギテ居ラナイト思フノデアリマス、又調停手續ト云フモノハ——是ハヤハリ調停手續ヲ致シマス其手續ニ這入りマスモノハ、當事者双方ノ同意ヲ得クモノデナクとも手續ニ這入ッタ以上ニ於キマシテハ、ヤハリ當事者双方ガ出マシテ、又中立ノ人モ出マシテ、調停委員會ヲ組織シテ調停スルノデアリマスカラ、此分ニ付テハ御懸念ハナイト思ヒマス、御懸念ノ主ト致シテ居リマスコトハ、當該官吏ノ調査審理ガ行過ギテ居ルノデアリナイカト云フ御尋デハナイカト思ヒマスガ、従前ト雖モ當該官吏ハヤハリ事實上調査審理ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウシテソレニ依ッテ調停ノ出來マシタ事例モ極メテ多イノデアリマス、昭和五年ニ於キマシテモ二百數十件ゴザイマス、ソレハ利益事業ニ付テモヤッテ居ルノデアリマス、事實調停ヲヤッテ居ルノデアリマス、ソレハ全然今マデ法律ニ根據ナクシテ事實上ヤッテ居ルノデアリマシテ、ソレニ對シテ明カニ法的ノ根據ヲ與ヘマシテ、事ヲ公明ニスルト云フ

ノガ、今回ノ此點ニ關スル改正ノ主眼ナリデアリマス、其調停ヲ背ク背カナイト云フコトハ又別ノ事デアリマス、又調査審理ノ結果調停委員會ヲ開始スル場合モアリ得ルノデアリマス、アナタトダケノ御相談デナシニ、是ハ双方カラ集マツタ調査委員會デ、能ク其意ヲ盡クシテ解決シヨウト云フコトニナレバ、調査審理ノ手續カラシテ調停手續、所謂調停委員會ノ手續ニ這入り得ルノデアリマスカラ、此點モ亦決シテ行過ギタトカ壓迫ニ傾クトカ云フ虞ガアルト云フコトハ、寧ろ事ヲ公明ニ致シマシタダケ、ソレダケ謂ハ、當該官吏ノ我儘ヲスル餘地ガ少クナッテ居ルノデアリマスノデ、其點ハ少シモ私ハ懸念ハナイト思ヒマス、尙ホ調停官吏ノ人柄ニ付テ是モ再々御批評ヲ蒙ッテ居リマスガ、從前調停官吏トシテ指定セラレテ居ル者ガ、或ハ其調停ノ資格ニ於テ、其者ノ素養ニ於テ缺クル所ガアリハシナイカ、年輩ガ若クハナイカ、經驗ガ少クハナイカト云フヤウナ御非難ガゴザイマス、是ハ私共謹ンデ承ッテ居リマス、又調停官吏ガ現在警察部ノ所管ニ附イテ居ルガ爲ニ、動モスレバ調停ニ當ッテ警察ノ威力ト云フモノヲ相手方ニ感ゼシメテ、公正ナル調停ノ妨ニナリハシナイカ、是モ御尤デアリマス、ソレ等ニ付テハ調停官吏ニ當ツベキ者ヲ何人トスルカ、又調停官吏ノ所管ヲ地方廳ナラバドノ部ニ屬セシムベキカト云フヤウナ問題ハ、今年行ハレマス行政整理ノ重要ナル一ツノ題目トシテ、是非政府ニ於テ御考慮ヲ致シタイト私共考ヘテ居ルノデゴザイマス

(中略)

○安藤委員 内務大臣ニ御尋ネシタイ、此爭議調停法ノ改正ノコトニ付テハ他ノ委員諸君カラ質問ガ出タデアリマセウガ、私ハ豫算總會ノ方ヘ出テ居テ、餘リ最近居ラナイコトガ多イモノデスカラ、或ハ重複スルカモ知レマセヌガ、簡單ニ承リマスカラ、ドウゾ簡單ニ御答ヲ願ヒタイ、此第一條ニ加ヘマシタ一項デアリマスガ、是ハ要スルニ公益事業以外ノ即チ私益事業ニ關スル強制調停デアリマスガ、是ハ一言ニシテ言ヘバ公益事業以外ノ私益事業ニマデ當事者雙方カラノ請求ガナキ場合デモ、政府ガ強制調停マデスル必要ガアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、ソ

コマデ調停法ノ範圍ヲ擴メテ態、私益事業マデ強制調停ニマデモ引込マナイデモ宜カリサウナモノデハナカラウカ、斯ウ考ヘルノデアリマス

○安達國務大臣 著シクト云フ言葉ガアリマスガ、著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞ガアルト云フコトヲ認メテ初メテ發動スルコトニナッテ居リマス、唯悉ク調停ヲヤルノデハナイ、著シク其問題ガ地方ノ利害關係ヲ惹起ス、之ヲ抛ッテ置イテハ非常ニ産業ノ發達ニ影響スル公益ヲ害スルト云フコトヲ認メル限リハ致サヌノデアリマス

○安藤委員 著シク地方ノ産業等ヲ害スルニシテモ、何ニシテモ要スルニ私益事業ニ對スル強制調停ノ一箇條ヲ開イタノデセウ

○安達國務大臣 ソレハ大體ニ於テサウデアリマス

○安藤委員 大體デモ何デモナイ、詰リ私益事業ニ關スル調停ヲ開イタ

○安達國務大臣 サウデス、著シク……

○安藤委員 所ガ今内務大臣ハ「著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリ」ト言フノデアリマスガ、誰ガソレヲ左様ニ認メルノデスカ

○安達國務大臣 行政官廳デアリマス、其邊ノコトハ先刻モ社會局長官ト大分應酬ガアッタヤウデアリマスカラ、吉田社會局長官カラ御話シタ方ガ明細ニ分ルト思ヒマス

○吉田政府委員 只今御尋ノ點ハ内務大臣ノ御答ニナッテ居ル通りデアリマシテ、所謂公益事業ト申シマスルノハ、從前ノ労働爭議調停法第一條ニ列舉セラレテアリマスル種類ノ事業デアリマス、是ハ事業種類ニ依ッテ法律デキマツテ居ルノデアリマスガ、此事業種類以外ノ事業ニ於キマシテモ著シク爭議ノ範圍ガ非常ニ擴大致シマシテ、關係地方ノ産業全體ニ脅威ヲ與ヘ、又公益ヲ害スルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、當事者双方ノ請求ガアリマセズトモ、強制

調停スルノハ當事者双方ノ請求ガアリマセズトモ、強制調停スルノハ當事者双方ノ請求ノナイ場合ニ、行政廳ノ見ル所ニ依ッテ調停スルモノハ、御尋ノ強制調停ト云フ意味デアラウト思ヒマスガ、當事者双方ノ請求ハアリマセズトモ、行政官廳ニ於キマシテ、或ハ當事者一方ノミノ請求ニ依リ、或ハ當事者ノ請求ナクトモ、調停ノ手續ヲ開始シ得ルト云フ途ヲ開イタノデアリマス、是ハ従前ノ第一條ニアリマスルノハ、其事業自體ガ公衆ト直接ノ關係ヲ持ッテ居ルト云フノデアリマスルカラ、ソレ等ノモノニ付キマシテハ、事業自體ノ種別、性質ノ上カラ、公益ニ著シイ關係ガアリマスノデ、従前モ所謂強制調停ト云フモノヲ爲シテ行キ得ルト云フ途ガ開イテアッタノデアリマスガ、事業自體ト致シマシテハ例ヘバ紡績事業デアリマスルトカ、或ハ製絲業デアリマスルトカト云フ風ニ、所謂公益事業デナイモノデアリマセヌデモ、其爭議ノ状態ガ著シク關係地方ノ産業ニ害ガアリ、又ハ公益ヲ害スルト、斯ウ云フヤウニ認めラレル場合ニハ、丁度事業自體ガ公益ニ重大ナ關係ガアリマスルト同ジヤウニ、速ニ調停ヲ致シマシテ、爭議ノ圓滿ナル解決ヲ圖ルヤウニスルト云フ場合ガアリマスルニ付テ、其途ヲ新タニ開イタノデアリマス、是ハ先程加藤サンカラモ御尋ガゴザイマシテ、御答シタ所デゴザイマスガ、詰リ従前ニハ事業ノ業態ニ依リマシテ、公益ニ關係ガアルカドウカト云フコトヲ法律ヲ以テキメテ居ルノデアリマスガ、今回ノハ事業ノ業態ニ依ッテハキマラヌデモ、爭議ノ實際ノ模様ニ於テ、公益ニ著シイ影響ヲ及ボスト云フ場合ニ付キマシテハ、行政官廳ノ見ル所ニ依リマシテ、調停手續ニ這入り得ル、無論爭議ヲ禁止スルト云フヤウナ趣意デゴザイマセヌ、調停手續ニ這入り得ルト云フ途ヲ開イタノデアリマス、認定ハ只今御尋デゴザイマシタガ、行政官廳ニ於テ認定セシムルノデゴザイマス

○安藤委員 著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリトアルノデアリマスガ、此虞レアリト云フノガ、實際ニ當ルト随分歧ニ疑義ガ生ズルノデハナイカト思フノデアアル、虞レアリト言ヒマシテモ、見ヤウニ依ッテ此處マデガ非常ニ公益ヲ害スル、此處マデハサウ公益ヲ害スル所マデハ行クマイト云フヤウナコトデアリマスガ、其虞レアリト云フ

コトニナリマスルト、ソレヲ當事者双方ガドウシテモ是ハ調停シテ貰ッタ方ガ宜イト、御互ニ自ラ認メテ行クナラ宜シイ、又當事者一方ダケデモ調停ヲ希望スルナラバ、マダソコニ調停ノ餘地ガアリマスガ、爭議ノ兩方ノ當事者ト無關係デ、第三者ノ行政官廳ガサウ云フ調停ノ必要ガアルト認定スルノデスカラ、其ヤリ方ニ依ッテハ是ハ寧ロ厄介ナコトガ起リハセヌカト思フ、ドウ云フ點ヲ虞レアリト云フノデアリマスカ、少シ其邊ノ御考ガアリマスレバ、モウチット詳シク御話ヲ願ヒタイ、私此處ニ居ラナイコトモアリマシタカラ、或ハ重複スルカモ知レマセヌガ、其點ヲドウゾ承リタイ

○吉田政府委員 虞レアリト云フ認定權ハ、ソレハ行政官廳ニゴザイマス、無論其認定ヲ爲シマスルニ付キマシテハ、慎重ナ考慮ヲ要スルコト勿論デアリマスガ、爭議ガ拗レテ來マシテ、ムヅカシクナッテ來テ、地方産業或ハ公益ニ對シテ重大ナ影響ガアルト云フヤウナ場合ニハ、中々双方ハ勿論ノコト、一方ノ當事者ニ於キマシテモ、警察ニ調停ヲ頼ムト云フコト或ハ調停官吏ニ調停ヲ頼ムト云フコトモ——調停ヲ頼ムト云フコトハ、容易ニ言ヒ出シ難イ事情ニ立至ルコトガ多イノデアリマス、隨テ當事者ノ双方ノ請求ガアリマスル場合ニ於キマシテハ、従前カラ出來テ居ルコトデモアリマスルシ、先達來昨年ト今年一回ヅ、大阪デ、當事者双方ノ請求ニ依リマスル任意調停ヲ爲シタト云フヤウナ實例ガ近來アルノデアリマスルケレドモ、双方カラ調停シテ貰ヒタイ、調停委員會ニ掛ケテ貰ヒタイト言ヒ出テ呉レマスルコトハ、非常ニ望マシイコトナノデアリマスルガ、双方カラサウ云フ申出ガアッタトキハ、ソレダケデ既ニ爭議調停ノ見込ガ略、立チ得ル位ナ場合デアリマシテ、最モ好イ條件ノ時ナノデアリマス、然ラズシテ或ハ當事者ノ一方ノミカラ調停ノ請求ガアリマシテ、相手カラハマダ請求ガナイ、或ハ當事者双方共ニ相手ノ様子ヲ見テ居ッテ、サウシテ益々爭議ガ悪化シテ、公益ヲ脅カサレル虞レガアル、斯様ナ場合ニ在リマシテハ、當事者ノ一方ノ請求ガナクトモ、又當事者下チラカラモ請求ガ出ナクテモ、調停手續ニ這入り得ルト云フコトハ、是ハ其産業ノ爲ニ、又當該地方ノ公益ノ爲ニ、極

メテ望マシイコトデアルト思フノデアリマス、併シソレデ爭議ヲ禁止シヤウト云フコトデハナイノデアリマス、調停手續ニ這入ルダケノコトナノデアリマスカラ、斯様ナ途ヲ開キマスルト云フコトハ、爭議ノ状態ノ實狀ニ鑑ミマシテ、最も便利且ツ有益ナコトデアリマス、斯ウ云フ考ヲ以チマシテ、此第一條ニ此一項ヲ加ヘルコトニ致シタノデアリマス

○安藤委員 サウ云フ御見込モ一ツノ見込デアリマスガ、是ハ公益事業デアリマシテ、其日其日ノ公衆、民衆ノ利益ヲ損害スルコトガ夥シイ公益事業デアレバ、是ハ強制調停モ致方ナイノデアリマスガ、サウデナイ私益事業ニマデソコマデ踏込ミマシテ、サウシテ強制調停ヲシテモ、其強制調停ノ結果ト云フモノガ果シテ徹底的ニ出來ルカドウカ分ラナイ、見方ニ依リマシテハ却テ好イ加減ナ所ノ妥協ヲ以テ調停ノ結論トスルコトガナイトモ限ラナイノデス、サウテ置イテ、勞働者ト雇傭者トノ間ニ、十分徹底的ニ爭議ヲヤラセルナラヤラシテ、サウシテ解決ガ付クナラ双方ノ意思ニ依ッテ、双方カラノ申入ヲ受ケテ初メテ調停ニ這入ル、斯ウ云フヤウニシタ方ガ寧ロ勞働條件ノ改善デアルトカ、其他ノコトニ付キマシテ資本家ノ方ノ立場カラ見テモ、又勞働者側ノ立場カラ見テモ、サウ云フ爭議ノ起ッタ場合ニ、寧ロ徹底的ニヤッタ方ガ徹底的ノ解決ガ出來、勞働條件ノ改善ガ出來ルヂヤナイカト思フ、マダソコマデ行カズ、調停シテ吳レトモ言ハナイ中ニ、頭カラ其私益事業ニ對シテ強制調停ヲスルト云フコトニナルト、是ハモウ權限デ來ルノダカラ仕方ガナイカラ、止メテシマッテ委シテシマハナケレバナラヌ、サウシテ其調停官ガ不徹底ナ妥協的ナ調停デモシテシマヘバ、全體ノ上カラ言フト寧ロ却テ良クナイ結果ガ生ズル場合ガ——全然サウデアルトハ言ハナイガ——起ラストモ限ラナイト思フ、ソレデアルカラ私ノ質問ノ趣意ハ、公益事業ハヤルガ宜シイガ、私益事業ニマデ強制調停ヲ強行スル意味ノ改正ヲ此際スル必要ハナイデハナイカ、斯ウ云フノガ私ノ質問ノ趣意デアリマス

○吉田政府委員 御質問ノ趣意ハ能ク諒解シテ居ル積リデゴザイマスガ、強制調停ト言ヒマス、如何ニモ強制シテ

何デモ彼デモ爭議ヲ止メサセテシマウト云フ風ニ、用語ノ上デハ響キガアリマスルガ、サウデハナイノデアリマス、調停手續ヲ當事者雙方ノ請求ニ依ラスシテ開始スルノデアリマス、調停手續ノ開始ト云フコトハ、當事者ノ双方カラ其利益ヲ代表スル人々ガ出テ参リマシテ、又其外ニ當事者双方ノ推薦ニ依リマシテ、中立的ノ人ガ出テ参リマス、只今マデノ制度ハ各三人宛デアリマシテ、ソレデ寄合ヒマシテ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ致シマシテ、サウシテ關係者ノ間ニ交譲妥協ニ依リマシテ協定ヲスルノデアリマスカラ、何等強制ハ用ヒナイノデアリマス、其點ニ付キマシテハ、強制調停ト云フ名ハ、何レニシテモ當ラナイノデアリマス、隨テ此調停手續ニ這入りマスルト云フコトハ、又速ニ爭議ノ調停ガ出來マスルト云フコトハ、是ハ其調停條件ガ妥當デアリ、皆ノ満足スルモノデアリマシタナラバ、勞資双方ノ望ム所ナノデアリマス、唯爭議ガ悪化シテ参リマシテ、ソレガ拗レテ参リマス、中々ドチラカラモ調停ト云フコトヲ言ヒ出シテハ、自分ノ方ノ引ケ目ニナルト云フヤウナ場合モ事實アリマスルシ、事實ハ調停手續ニ入りタイト思フテモ這入レヌ、其間ニ段々爭議ガ拗レテ双方トモ持餘スヤウナコトモアル、ノミナラズ其結果トシテ著シク産業ヲ脅シ、或ハ公益ヲ害スルト云フヤウナ場合ニ、行政廳ノ見ル所ニ依リマシテ、ソレ等ノ虞ガ重大ト考ヘマシテ、公益事業ト同様ノ——公益事業ニ準ジテ自ラノ見解ニ依ッテ、調停手續ヲ始メルト云フコトハ少シモ行過ギデナイト考ヘルノデアリマス

○安藤委員 ソレハ分リマシタガ、強制調停ト云フノハ、何モ調停ノ内容及ビ調停ノ結論ヲ強制スルト云フコトデナク、ソナ馬鹿々々シイ調停ハアリマセヌカラ、ソレハ能ク分ッテ居ル、詰リ調停ノ出發點ナノデアリマス、ソレヲ強制スルカ、任意ニスルカト云フコトハ議論デセウガ、其出發點ノ強制ガ少シ行過ギテ居リハセヌカ、私益事業ダカラ、ソレヲ言ッテ居ル、吉田長官ノ言フ如クニ、其結果ガ兩方ガ満足シテ好イ工合ノモノモ無論アリマセウ、ソレト反對ニ兩方不満足デアルケレドモ、止ムヲ得ナイ従ッテヤラウ、従ッテヤラウト云フコトハ、スッカリソレガ解決シッタノデア

リマセヌカラ、更ニ内然ヲ致シマシテ、又他日燃上ルト云フヤウナ結果ニモナリマスカラ、希望ガアツテ、兩方調停シテ貰ッタ方ガ宜イト云フ發意ガアツテ、双方カラ申込マレテ來タト云フ時ヲ以テ調停スルト云フヤリ方ガ宜イヂヤナイカ、要スルニ此改正ハ餘計ナコトヲヤツタ、言葉ヲ強メテ言ヘバ、改正ニアラズシテ、第一條ハ改惡ト云フノデアリマス、而シテ此明文ガ如何ニ勞資ノ關係ニ響クカト云フト、率直ニ言フト労働者ノ方ノ損デス、労働者ハ爭議ヲ以テ團結致シ、爭議ヲ以テ當ルト云フトコトガ労働者ノ武器デアアル、戦術デアアル、資本家ノ方ハ困ルノデアアル、サウ云フ利害ノ相反シテ居ル所ノ兩方デ爭議ヲヤツテ居ッテ、ソレマデ熱セズ、マダ未熟ノ中ニ頭カラスボツト調停ヲ強制スルト云フトハ、爭議ヲ止メテシマハナケレバナラヌト云フ労働者側ノ方ガ損ヲスル、之ハ労働者側ニ不利益デ、資本家側ニ取ッテハ利益デアアル、而シテ何故ニ斯ウ云フヤウナモノヲ茲ニ突如トシテ出シタカト云フト、ソレハ此ノ間中カラモ問題ニナツタシ、先刻加藤君モ言ハレテ居ッタヤウデアリマスガ、資本家側ノ運動ヲ此爭議調停ノ改正ニ依ッテ緩和ヲ致シタノデハナイカ、一面ニ緩和ヲシテ一面ニ不徹底ナル労働組合法ヲ出シテ、拙カッタト云フノガ即チ政府ノ本當ノ腹デアリ態度デアラウ、ソレハ洵ニ遺憾デアアルト私ハ言ヒタイノデアアル

○吉田政府委員 決シテ左様ナ意味デ此改正ヲ致シテ居ルノデアアリマセヌ、只今モ御話ガアリマシタガ、爭議ノ調停ニシテ公正ヲ缺キマセヌナラバ、當事者双方ノ利益ニ合致スル筈デアリマス、又事業者側カラ申スナラバ、此頃ノヤウナ財界ノ事情ニ依ルコトモ多イデアリマセウ、當局カラ調停ヲシテ貰フノハ迷惑デ、抛ッテ置イテ貰ヒタイト云フモノモナイデハナカラウ、事業者側カラ行政廳ニ調停ヲシテ貰ハズニ、其儘ニシテ置イテ貰ッタ方ガ結構ダト云フヤウナコトヲ現ニ言フ場合モナイデハナイノデアリマス、是ハ調停手續ニ入ルト云フトハ、必ズ労働者ノ損ニナルト云フヤウナコトデナイノデアリマス、調停手續ニ入りマシタ以後、事業者ト労働者側トハ可否同數ト云フ風ニ、自由ニ意見ヲ申述べ得ルノデアリマシテ、調停手續ニ入ルト云フトニ依ッテ極メテ公正ナ取扱ガ出來ルノデアリマス、或

ハ労働者ノ利益ヲ言ヒマシタナラバ、ソレガ是マデ十分事業者ト席ヲ同ジクシテ打合ラスル機會ガ奪ハレテ居ッタト感
 ジル場合モゴザイマセウ、併ナガラ一度調停ノ手續ニ入りマスレバ、サウ云フトハナクナルノデアリマス、隨テ接觸ノ機會ヲ與ヘラレマシテ、サウシテ腹藏ナキ打合ヲ致シマシテ、ソコニ完全ナル調停條件ヲ見出スト云フトノ機會ヲ與ヘルノガ、強制調停ノ見ル所ニ從ッテ居ルノデアリマス、ソレヲ一切ノ私益事業ニ及ボスト云フノデアリマセヌ、著シク産業ノ公益ヲ害スルト認メテ居ルモノデアリマセヌケレバ、行政廳ノ見ル所ニ依リマシテ、調停手續ヲ始メルト云フトハナイノデアリマス、事業者側カラ熱心ナ希望ガアツテ入レタト云フトノ御推測ニ對シマシテハ、私益事業ト公益事業ニ重大ナ關係ノアル場合ニ、強制調停ノ手續ヲシテ呉レト云フヤウナ希望ヲ持ッテ居ッタ事業者ガアルカモ知レマセヌガ、私ハ一回モサウ云フ希望ヲ聽イタコトハアリマセヌ、是ハ公益ノ見地カラシテ、サウ云フヤウナ重大ナ影響ヲ及ボシ、社會公衆ニ與ヘルモノニ付キマシテハ、調停手續ヲ政府ノ見ル所ニ依ッテ、公益事業ニ準ジテ始メヤウ、ソレガ産業ノ平和ヲ維持スル所以デアアル、又公衆ノ利益ト云フモノヲ擁護スル所以デアアル、同時ニ勞資双方ノ利益ヲ確保スル所以デアアルト云フト考ヘマシテ入レテアルノデアリマシテ、決シテ御話ノヤウニサウ云ウ動機カラ此條項ヲ入レタ次第ハナイノデアリマス

(中略)

○安藤委員 吉田サンノ仰シヤツタコトハ強辯デアリマス、資本家側ハ爭議調停法ニ付テサウ云フト考ヘテ居ッタ人モアルカモ知ラヌガ、自分達ハサウ云フトコトハ知ラナイト仰シヤルガ、知ラナイ筈ハナイ、自分達ハ幾度モ聽イタ、私ノ聽イタ話ヲ内務省ハ聽カナイ筈ハナイ、聽イテ居ル筈デアアル、内務省側ニ幾度モ行ッテ資本家側ガ話ヲシテ居ルコトヲ直接ニ聽イテ居リマス、ノミナラズ「パンフレット」ノヤウニ陳情書ヲ印刷サレテ出シテ居ルノデアリマスカラ、労働爭議ノ取締法ヲ拵ヘテ呉レト云ッテ居ルデハアリマセヌカ、取締法ヲ拵ヘテ呉レト云フト位ノコトヲ言ッテ居ルノ

デアリマスカラ、斯フ言フコトハ聽イタコトガナイト云フガ、成程此一條ノ明文ノ文字通りヤッテ吳レト言ツタカ言ハナイカ知リマセヌケレドモ、資本家側カラ言出シテ居ルコトハ事實デ、内務省ガ之ヲ聽イタト云フコトモ事實デアアル、アナタノ仰シヤルコトハ強辯デアリマス、私ハ其通り眞直ニ受取ルコトハ出来ナイノデス、材料モアリマス、結局其結果ガ或ハ勞資双方ノ満足スルモノモアリマセウ、併ナガラ或ハ満足セザルモノモアル、多分満足セザルモノニ落付クノデナカラウカト思フカラ私ガ聞イテ居ル、而シテ斯ウ云フ改正ヲ致シタ其動機ト實體ガ宜クナイト言フノデアアル、何故ニ斯ウ云フ改正案ヲ突如トシテ出シタカ、其動機ガ宜クナイ、而シテ實體モ甚ダ不徹底不完全極マルモノデアアル、斯ウ云フ結論的ナ質問ナノデアリマス

ソコデ此第一條ノ關係スル所ハ第十九條ノ改正ニ及ンデ居ル、第十九條ノ中ニ「第一條第一項ニ掲グル以外ノ事業ニ於ケル労働爭議ニ關シ行政官廳ガ若シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタル場合ニ於テ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキ亦前項ニ同シ」トアル其前項ト云フノハ現行爭議調停法中ノ斯ウ云フ意味デハアリマセヌカ、調停期間中ハ第一ニハ「使用者ヲシテ労働爭議ニ關シ作業所ヲ閉鎖シ、作業ヲ中止シ、雇傭關係ヲ破毀シ又ハ勞務繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト」是ハ雇傭者、使用者ニ對シテノ制裁事項デアアル第二ニハ「労働者ノ集團ヲシテ労働爭議ニ關シ勞務ヲ中止シ、作業ノ進行ヲ阻害シ、雇傭關係ヲ破毀シ、又ハ雇傭繼續ノ申込ヲ拒絕セシムルコト」是ハ労働者ニ對スル制裁事項デアアル、此勞資双方ニ對シテ爭議期間中ハ斯ウ云フコトノ爲ニ労働者ヲ誘惑又ハ煽動シテハイケナイト規定シテ居リマス、ソレデアリマスカラ第一條ノ公益以外ノ事業、即チ私益事業ガ強制調停ヲサレテモ、第十九條ノ此明文ガ適用サレルコトニナル、ダカラ茲ニ非常ナ制裁制限ヲ受ケルコトニナル、ソレハマダ宜イトシテモ、之ニ對シテ罰則ガ附イテ居ル、即チ現行法ニ依リマス第十九條ノ規定ニ違反シタ者ハ三箇月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ストアッテ體刑マデ、之ニ科セラレルコトニナル、要スルニサウ云フ罰則ガ附イテ居ルノデアリマスガ、ソコマ

デ強制シテ無理ニ私益事業ヲ調停セシムル必要ハナカラウト思フノデアリマス

○吉田政府委員 只今御讀ニナリマシタ第十九條ノ罰則ノ關係ハ御尋ノ通りデアリマス、併ナガラ此現行ノ第十九條ニ明カニ書イテアリマス如ク、爭議ニ關係アル使用者及労働者並其ノ屬スル使用者團體及労働者團體ノ役員及事務員以外ノ者ニハサウ云フコトヲサセナイ、所謂利害關係ノアリマセヌ第三者ノ誘惑煽動ヲ爭議手續中禁ジテ居ルノデアリマス、此條文ニ書イテアリマス通り、労働者並ニ使用者ノ團體ノ役員及事務員、爭議團員ト云フモノハ第十九條ノ制限ヲ受ケナイノデゴザイマシテ、是ハ公益ニ重大ナル關係アリトシテ、速ニ爭議ノ解決ヲ告グルコトノ必要上調停ノ手續ヲ進メナケレバナリマセヌノデ、調停手續中ニ利害關係ノナイ第三者ガ參リマシテ誘惑煽動スルコトヲ禁止シマスコトハ已ムヲ得ザルコト、思フノデアリマス、利害關係ノ眞正面ニ立ッテ居ル人ガ爭議手續ヲ續行スルコトハ已ムヲ得ヌトシテモ、第三者ニ對シサウ云フ制限ヲ置キマスコトハ、爭議調停ノ性質上當然ノコト、考ヘルノデアリマス、唯罰則ノ點ニ於キマシテ只今御尋ノ通りニ現行法ニ依ッテハ三箇月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ト云フ規定ニナッテ居リマスノヲ、今回ハ行政廳ノ認定ニ依ッテソレガ公益ニ重大ナル影響アリトシテ、事業ノ種類ガ第一條ニ明カニナッテ居ルノデアリマスカラ、ソコニ差等ヲ設ケマシテ拘留料ト云フ輕イ罰ヲ以テ之ヲ取扱フノガ適當デアラウト云フノデサウ云フ區別ヲ致シテ居ルノデアリマス

○安藤委員 無論第三者ガ入ッテ來テ労働者ヲ誘惑煽動シテハナラヌト云フノデアリマスガ、此條項ハ先程カラ言フ通り労働者側ニ取ッテ餘計不利ニナルコトハ免レナイト思ヒマス
ソレカラ今度改正サレタ第一條ノ二デアリマスガ、當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査審理云々、是ハ正式ノ調停委員會デハナク、調停委員會ノ豫備手段見タヤウナモノデアリマスカ

○吉田政府委員 只今マデノ調停官吏ト云フモノハ法ニ根據ヲ置イテ居リマセヌ、澤山事實調停ヲ致シテ居ルコトハ

御承知ノ通りデアリマス、ソレ等ニ付キマシテノ調停ニ關スル調査審理デアリマシテ、隨テ其後ニ調停委員會ヲ開設致シマスレバ調停委員會ノ豫備手段ト見ルコトガ出來ルノデアリマス、即チ調査審理ヲシテ見タ所ガ、調停委員會ヲ開イテ決メルノガ適當ダト云フコトニナリマスレバ、豫備手段トナルデアリマセウ、併ナガラ當該官吏ガ双方ノ意ノ在ル所ヲ酌シテ調査審理ノ手續ヲシテ居ル間ニ、爭議ノ圓滿ナル解決ヲ見タ事例モ從前少クナイ、ソレ等ニ對シテハ從前何等法規ニ據ルベキ根據ヲ與ヘテ居リマセヌ、當該官吏ノ任意ニ依ッテサウ云フコトヲヤッテ來テ居ルノデアリマスガ、ソレデハ事ノ公正ヲ期シ難イト云フ考ヲ以テマシテ、今度ハ新ニ明文ニ根據ヲ置イテ取扱ハウト云フノデアリマス、爭議ノ性質ニ依リマシテ、當該官吏ガ當事者双方ノ請求ニ依ッテヤル場合ト、然ラザル場合ト兩方ニ區別シテ居リマス、サウ云フ譯デ御尋ノ如ク調停委員會開設ノ豫備手段トナルコトモアリマス

○安藤委員 第十九條ノ二、又ハ第一條ニ掲ゲテアル公益事業ノ問題ニ付テ作業ノ閉鎖ヲヤルトカ、或ハ同盟罷業ヲヤルト云フ場合ニハ、三日前ニ調停委員會ノ開設ノ請求ヲシロト云フノデアリマスガ、是ハ今回新ニ加ハッタノデアリマス、サウスルト結局公益事業ハ作業閉鎖トカ同盟罷業ト云フコトハ、行ハレナイト云フコトニ事實上ナルノデアリマス

○吉田政府委員 決シテサウ云フ意味デハアリマセヌ、作業閉鎖或ハ同盟罷業ト云フコトハ望マシイコトデアリマセヌケレドモ、今日ノ産業組織ノ上ニ於テハ行ハレルコトハ、是ハ公益事業ニ於テモ或ル場合ニハ已ムヲ得ナイト云フコトヲ、此勞働爭議調停法ハ認メテ居ルノデアリマス、但シ第一條ニ書イテアリマスル公益事業、第一條ニ列舉シテアリマス種類ノ事業ハ、公衆ノ利害ニ影響ヲ及ボスコトガ極メテ多イノデアリマスカラ、ソレ等ニ限りマシテハ、已ムヲ得ズ爭議ノ起ル場合ニ於テモ成ベク圓滿ナ解決、申サバ法デ與ヘラレテ居ル解決ノ手段トシテハ調停委員會ノ開設ヲ最モ主ナルモノトスルノデアリマスガ、調停ノ手續ニ入ッテ、出來ルダケ速ニ圓滿ナル解決ヲ希望スルコトガ、

公益ノ見地カラ考ヘテ特ニ必要デゴザイマス、隨テソレ等ノ事業ニ付テ作業閉鎖ヲスルトカ、或ハ同盟罷業ヲスル、是ハ作業閉鎖ト同盟罷業ニ限ッテ居ルガ、作業閉鎖ヲスルトカ、同盟罷業ヲスルト云フ場合ニ於テハ、此處ニハ三日前ト書イテアリマスガ、豫メ行政廳ニ對シテ調停委員會開設ノ請求ヲシテ、調停委員會ハ之ヲ強制調停ノ出來ル仕組ニナッテ居ル、現在デモサウデゴザイマス、ソレヲ致シマシテ、調停委員會ヲ開設スベキヤ否ヤト云フ判斷ノ機會ヲ、行政廳ニ與ヘテ貰フト云フ趣意デ出來テ居ルノデ、作業閉鎖、同盟罷業ヲ禁止スルト云フ意味ハ毛頭ゴザイマセヌ、隨テ之ニ對スル罰ノ如キニ於テモ、十九條ノ二ノ規定ニ違反シタルモノトシテ、其直グ次ノ條文ニゴザイマスガ、ソレハ五十圓以下ノ過料ト云フコトニナッテ居リマス、爭議ノ場合ニ付テ言ヘバ、當事者ハ此括弧ノ中ニ書イテアリマス、當事者ガ團體又ハ集團ナル場合ニ於テハ其ノ主タル代表者申サバ爭議團長ナドガ其一人デアリマシテ、其人ガ調停委員會ノ開設ノ請求ヲスル、請求ヲ怠リマシタ場合ニハ、是ハサウ云フ手續ヲ怠ッテ手續罰ト致シマシテ、五十圓ノ過料ニ處スル、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマス、隨テ毛頭爭議ヲ禁止スル趣旨デハゴザイマセヌ

○安藤委員 併シ此公益事業ニ於ケル限り、作業閉鎖、同盟罷業ヲスル前ニ、必ズ調停委員會ノ開設ヲ請求シナケレバナラヌコトニナル、サウ云フコトヲ止メテハナイト云フガ、事實止メル結果ニナリハシマセヌカ

○吉田政府委員 事實上ノ結果ト致シマシテモ、爭議ヲ止メテシマウト云フコトニハナラヌト思ヒマス、調停委員會ガ開カレマシテモ、罷業スルコトハ出來ルノデアリマス、併シ是ハ調停委員會開設ノ請求ヲ爲スニ止マルノデアリマスカラ、請求ヲシテモ、調停委員會ガ開ケナイコトガアルカモ知レマセヌ、當局ニ於テマダ開ク時期デナイト認メマシタナラバ、開カヌコトガアルカモ知レマセヌガ、假令調停委員會ヲ開設シテ見マシテモ、決シテ爭議ヲ止メテシマウト云フコトハ必要ガナイノデアリマス、唯調停委員會ガ開設セラレマスレバ、先程御質問ニナリマシタ第三者ノ誘惑煽動ト云フコトハ出來ナイコトニナリマス、併シ當事者ハソレニ拘ラズ罷業ヲ續行スルコトガ出來ルノデアリマス

○安藤委員 サウストルト是ハ餘リ必要デナイ條項デアリマセカ

○吉田政府委員 例ヘバ東京市ノ電車ノ如キモノハ、公益事業ノ中ノ最モ著シイモノデアリマス、電車デ罷業ヲ行フト云フヤウナコトハ、公益ノ見地カラ考ヘマシテ重大ナコトデアリマスカラ、ソレニ對シテハ當局ト致シマシテハ、強制調停ヲスルカドウカト云フコトヲ、是ハ一番眞剣ニ考ヘネバナラヌ問題デアリマス、併シ東京市ノ電車デアリマシテモ、罷業ヲ禁止スルト云フコトハ勿論ゴザイマセカ、豫メ左様ナ成行キニナッテ居リ、三日後ニハ既ニ總罷業ガ迫ッテ居ルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、調停委員會ヲ開設スルカドウカト云フコトノ判斷ノ機會ヲ當局ニ與ヘテ貰フト云フコトハソレハ重大ナル意味ガゴザイマス、殊ニソレハ只今申スヤウニ重大ナ公益事業ノコトデアリマスカラ、ソレハ無論意味ノアルコトナデアリマス、ソレヲ怠ク人ニ對シテ手續簡ト致シマシテ、團長ニ對シマシテ五十圓ノ過料ニ處ス、斯ウ云フコトニナルデアリマス

○安藤委員 第十二條ノコトデスガ、是ハ今マデ調停委員會ノ時ニハ、當該官吏ハ調停委員ノ承認ヲ得ルコトニナッテ居ッタノデスガ、今度ハ承認ヲ得ナイデ、自由ニ出テ來テ意見ヲ述ベル、斯ウ云フヤウナ意味ニ改正サレタノデスカ
○吉田政府委員 是ハ從來ト雖モ當該官吏ガ承認ヲ受ケヤウト思ヒマスカ、ソレガ拒絕セラレタト云フヤウナ事例ガアル譯デハナイノデアリマスケレドモ、本來調停ニ關シマシテ權限ヲ持ッテ居リマスル當該官吏ガ、承認ヲ得テ出ルト云フコトデアリマシテハ、手續ノ面倒ヲ重ネルバカリデアリマセズシテ、萬一承認ヲ得ラレマセズシテ、此意見ガ述ベラレナイ、出席モ出來ナイト云フヤウナコトニナリマシタノデハ、調停ヲ運ビマスル事自體ノ上カラ申シマシテモ、非常ニ不便ガアルノデゴザイマシテ、此點ハ調停委員會トシテモ、無論當該官吏ガ承認ヲ得ズシテ出テ意見ヲ述ベルト云フコトニ更々異存ハナイノデゴザイマス、從前ノ規定ハ當ヲ得テ居ラナカッタノデハナイカ、現ニ大阪ニ於キマシテ、昨年カラ本年ニ掛ケマシテ二回、是ハ任意調停トシテ調停委員會ガ開設セラレタノデアリマスカ、調停委員

會ニ掛ケマシタ爲ニ、此條項ガアル爲ニ非常ニ面倒デゴザイマシテ、拒絕サレタト云フ意味デアリマセカ、手續ヲ運ビマスルノニ、非常ニ面倒デゴザイマシテ、不便ヲ致シマシタ實驗ニ徴シマシテ、行政廳ノ當該官吏ハ調停委員會ニ出テ意見ヲ述ベシムルコトガ出來ルト云フコトニ改メタノデアリマス、手續上ノ面倒ヲ省クダケノ積リデゴザイマス

○安藤委員 モウ是デオ終ヒニシマス、最後ニモウ一點伺ッテ置ク、大正十五年ニ爭議調停法ヲ出シテ以來今日マデ、調停法ニ依ル調停委員會ト云フモノハ唯一件、アトハ實際調停ト言ヒマスカ、何ト云フ名ニナリマスカ(吉田政府委員「事實調停ト申シテ居リマス」ト呼フ)事實調停ハ可成リアツタガ、法ニ依ル所ノ調停ト云フモノハタツタ一件ニ過ギナイ、サウ云フヤウナ今マデノ沿革、成績等ニ徴シマシテモ、一體此爭議調停法ト云フモノハタツタ一件ニナラバ、寧ロ此際英斷的ニ爭議調停法ト云フモノハ廢メテシマヒマシテ、爭議調停ニ關スル必要ナル條項ヲ、労働組合法ノ中ニ取入レテ規定スルコトノ方宜クハナイカト思フ、言葉ヲ換ヘレバ、是ガ此労働組合ノ機能ノ發現トシテ、労働爭議ノ調停ガ行ヒ得ルコトダト思フノデス、デスカラ今マデノ成績ヤ何カニ鑑ミテ、斯ウ云フモノヲ廢メテ、寧ロ必要ナコトヲ簡單ニシテ組合法ノ中ニ取入レタラドウカ、斯ウ云フ風ニ考ヘラレルノデアアルガ、サウ云フ考ヘナイノデアリマスカ

○吉田政府委員 是ハ御意見デゴザイマスルガ、爭議ハ必ズシモ組合ノ關係スルモノ、ミデナイノデアリマス、現在ノ組合員ハ、御承知ノ如ク全國デ三十數萬人ニシカナッテ居リマセカ、此爭議ニ關スル規定ト、隨テ又爭議調停ニ關スル規定ト、労働組合ニ關スル規定トハ、是ハ別ノ法律ノ系統デ規定セラルベキモノデアリマス、此組合法ノ中ニ爭議調停ニ關スルコトヲ入レルト云フコトハ、非常ニ不便ヲ増ス所以ト考ヘマスノデ、爭議調停法ニ不備ノ點ガアレバ、ヤハリ爭議調停法ヲ改正トスル云フ、今回ノヤリ方デ行クヨリ外ハナイト思フノデアリマス

○安藤委員 マダ色々質問ガアルノデスガ、大分他ノ諸君モ御待チデゴザイマスカラ、私ハ他ノ諸君ニ譲リマシテ止メマスガ、要スルニ今回ノ調停法改正ハ、之ヲ敷衍シテ見ルト、私益事業ノ強制調停デ、随テ私益事業ヲ壓迫スル傾向ヲ生ズル、モウツハ調停ニ關スル官吏ノ權限ノ伸張デス、サウ云フコトガ今度ノ改正ノ實體ニナッテ居ルト思フ、ソレデ餘リ此改正ハ改正ニナラナイト云フ考デアル、思切ッテ言ヘバ改惡ト言ヘル、ソレデアルカラ私ハモウ少シ、是ハ御考ニナッテ斯ウ云フ時間ノナイ時ニ出シテ、質問モ碌々濟マナイ中ニ好加減ニ片付ケルト云フ態度ハ止メテ、組合法ト相共ニ爭議調停法ノ改正ハ延バシテ、緩リ御出直シニナッテラドウカト云フコトヲ、茲ニ意見的ニ申上ゲテ質問ヲ打切リタイト思ヒマス

(中略)

○宮澤委員 私ハ調停法ニ付テ少シ御質問申シタイノデアリマスケレドモ、最早時間ガアリマセヌカラ、唯最後ニ一點ダケ質問申上ゲタイノデアリマスガ、ソレハ十九條ノ末文デアリマス、今安藤君ノ質問ニ對スル御答辯ニ依ッテ、私ハ益々不信ニ思ヒマスルガ、是ハ條文ニモ書イテアリマスル通りニ、此罷業及怠業ヲヤラントスル場合ニ、其團體若クハ代表者ハ「三日前ニ行政官廳ニ對シ調停委員會開設ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス」必ズ爲サ、ルヲ得ナイ、爲サナケレバナラヌノデアリマス、而シテ之ヲヤラナカッタ場合ニハ罰則規定マデメテアルノデアリマスルガ、其質問ニ對シテ政府委員ノ方デハ、是ハ何モ罷業ヲ禁ジタ譯デハナイ、唯届出ヲ要請シタノミデアルカラ、其罷業ナリ怠業ニ對シテハ、何等支障ハナイト云フ御答辯デアリマスガ、私ハ此事ニ付テ御質問申上ゲタイノハ、此罷業怠業ト云フモノハ、労働者ニハ唯一ノ武器デアアルノデアリマス、而シテ突然自分等ガヤッテ居リマスル作業ヲ休止状態ニ置クコトガ罷業ノ目的デアル、此武器ヲ奪ハレテ罷業ノ意義ガ何處ニ在ルカ、罷業ノ目的ハ達セラレナイト私ハ思ハナクチャナラス、公益事業デアルト云フコトヲ仰シヤイマスルガ、公益事業ニ致シマシテモ、此罷業ヲ三日前ニ届出ルコトニ依ッテ此罷業ニ

備ヘルヤウナ準備ヲ豫メ爲サレマシタ時ニハ、罷業ノ目的、怠業ノ目的ハ達セラレナイ、例ヘバ今モ東京ノ電車ノコトニ付テ御話デアリマスルガ、三日前ニ従業員ガ罷業スル、怠業スル虞ガアルト云フノデ、或ハ他ノ人ヲ借りテ青年團ノ應援ヲ求メテ、チャント之ニ備ヘル準備ヲシテ置ケバ、罷業怠業ノ目的ハ達セラレヌト思ヒマス、然ル時ニハ、此罷業、怠業ノ目的ガ大半奪ハレテシマウ結果ニナリハセヌカト思ヒマスガ、政府ノ之ニ對スル所見ハ如何デアリマスカ
○吉田政府委員 先程安藤サンノ御質問ニ對シテ申上ゲタ通りデゴザイマス、罷業、怠業ヲ禁止スルト云フノデアリマセヌ、併ナガラ事公益事業ニ關スルコトデゴザイマスシ、一般公衆ニ及ボス利害ノ關係ガ甚ダ深イノデアリマシテ、只今怠業、罷業ト仰セニナリマシタガ、怠業ハ含ンデ居リマセヌ、同盟罷業ト明カニ書イテアリマス、同盟罷業ヲ爲ス場合、竝ニ作業閉鎖ヲ爲ス場合ニ於テハ、三日以前ニ行政廳ニ調停委員會開設ノ請求ヲ爲ス義務ヲ命ジテ居ルノデアリマス、ソレガ爲ニ罷業、怠業ヲ禁止スルト云フコトデアリマセヌ

○宮澤委員 安藤君ノ質問ト私ノ質問トハ違ヒマス、デアルカラ安藤君ニ對スル答ヲ私ニナスッテハ答辯ニナリマセヌ、私ハ斯ウ云フ風ニ十九條ヲ見テ居ル、之ヲ禁止スル意味デナイト云フガ事實斯ウ云フ規定ガアリマス爲ニ、公益事業ノ作業ガ休止状態ニ陥ルコトハ救ハレマスケレドモ、労働者側ノ罷業權ハ、斯ウ云フ規定ノ爲ニ全然奪ハレテシマウ結果ニナルト思ヒマスガ、ソレニ對シテドウ云フ御考ヲ御持チニナッテ居ルカト云フコトヲ御尋スルノデアリマス、突如トシテ其作業ヲ休止状態ニ置クト云フコトガ、彼等ノ唯一ノ武器デアアル、ソレニ依ッテ工場主ヲ困窮状態ニ陥レル、此武器ヲ以テ労働條件ヲ改善シテ行クト云フコトガ、労働者側ノ狙ヒ所デアアル、此中心點ヲ奪ヒ去ラレテ、果シテ怠業、罷業ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルカ、是ハ公共的立場カラ申セバ至極結構デアリマスガ、労働者側ノ方カラ云ヘバ、殆ド社会的ノ規定デアアル、之ヲ如何ニ考ヘルカト云フコトヲ御尋スルノデアリマス、安藤君ノ質問トハ違フノデアリマスカラ、答辯モ自ら異ッテ答辯ヲ得ナケレバ満足出來マセヌ

○吉田政府委員 罷業ノ效果ヲ舉ゲル爲ニハ、突如トシテスルコトガ必要ナル、豫メ調停委員會ノ開設ヲ請求スルト云フコトデハ、罷業ヲ禁止サレタト同様デアルト云フ御見解デゴザイマスガ、突如トシテ之ヲ行フト云フコトハ、成程罷業ト致シマシテ、罷業戰術トシテハ有效デアルカモ知レマセヌガ、此労働爭議調停法ノ建前ハ、罷業ノ圓滿ナル解決ヲ望ムト云フコトニ伴ヒマシテ、公益上ノ見地カラノ要求上、又爭議ノ公正ナル解決ト云フコトノ、兩方面ノ考カラ爭議調停法ノ全體ガ構成セラレテ居ルノデアリマス、ソレデ罷業ハ豫告ヲシタナラバ、或ハ豫メ調停委員會ノ開設ノ請求ヲシタナラバ、殆ド實行ガ出來ヌト云フ御心配デアリマセウケレドモ、調停委員會ノ開設ノ請求ヲシマシテ、其後三日経テバ罷業ヲヤルコトガ出來ヌトハ當局ハ認メテ居リマセヌ、豫告ヲシテ其後三日経テ罷業ヲスル、又調停委員會開設ノ請求ヲシテ、其後三日経テ、ソレ迄ニ事業主トノ協定ガ付カズシテ罷業ニ入ルト云フコトハ——私共罷業ヲ望ムノデアリマセヌケレドモ、ソレハ行ヒ得ルト考ヘルノデアリマス、決シテ此罷業權ヲ奪ウト云フ趣旨デハアリマセヌ、ケレドモ事公益事業デアリマス爲ニ、行政官廳ニ對シテ、三日前ニ委員會開催ノ請求ヲシテ、調停手續ニ入ルヤ否ヤト云フコトノ判斷ノ機會ヲ與ヘルコトガ、公益事業トシテ當然ノ要求デアル、斯ウ云フ考ヲ以テマシテ、此規定ヲ設ケマシタ次第デアリマス、ヤハリ爭議モ御考ノ如ク陰微ノ間ニ計畫ヲ進メテ突如トシテ全市ノ電車ヲ止メル、或ハ全市ノ電燈ノ供給ヲ絶ツト云フコトガ、或ハ爭議ヲスル人ノ側カラ考ヘマシテ、有效デアルト考ヘルカモ知レマセヌガ、ソレハ公益事業タルノ見地カラシテ、其前ニ行政廳ニ對シテ調停委員會ノ開設ノ請求ヲ爲スト云フ手續ヲ命ズルコトハ、公益ノ立場カラ已ムヲ得ヌト思ヒマス

○宮澤委員 突如トシテヤルコトガ有效デアルカモ知レヌト云フガ、カモ知レヌドコロデハナイ、爭議ト云フモノハ一ノ戰爭デアリマス、協調ガ破レテ戰ニ入ルノデアリマスカラ、今晚夜襲ヲ試ミヤウト云フ場合ニ、前ニ何日ノ何時頃ニ襲撃ヲスルカラ備ヘテ置ケト云フヤウナコトデハ、夜襲ハ出來マセヌ、結局此規定ヲ設ケマシテモ、勢ヒ脱法行爲ガ多クナル、此法ノ違反者ガ續出シテ來ル、届出規定ニ依ラズシテ、突如トシテヤラナケレバ、罷業ナドハ目的ヲ達セラレヌト思ヒマス、結局斯ウ云フ規定ヲ設ケルコトハ、脱法行爲ヲ獎勵スルコトニナルノデアリマス、是ハ色々御辯明モアリマスガ、御反省ヲ願ハナケレバナラヌ、其他ニ付テモ色々御質問申上ゲタイコトガアリマスガ、尙ホ同志ノ松村君ガ待ッテ居リマスカラ、私ハ此位ニシテ置キマス

○添田委員長 質問ハ終了ヲ致シマシタカラ是カラ直チニ討論ニ入りマス——加藤君

○加藤委員 私ハ此際動議ヲ提出致シマシテ、皆サンノ御賛成ヲ得タイト思ヒマス、即チ労働組合法及ビ労働爭議調停法中改正法律案ハ、質疑應答ヲ重ネマシタ結果、法案提出ノ理由竝ニ内容ハ極メテ不完全ナルモノデアリマシテ、一貫セル精神ヲ認ムルコトガ出來ナイノデアリマス、政府ハ宜シク之ヲ撤回シ、改メテ完全ナル法案ヲ提出セラレンコトヲ希望致シマス、仍テ此二案共撤回ノ動議ヲ提出致シマス、動議ノ趣旨辯明ハ之ヲ保留致シマシテ本會議ニ於テ述ブルコト、致シタイト存ジマス

○多田委員 此委員會ヲ閉ヅルニ當ッテ私ハ一言政府當局者ニ向ッテ希望ヲ述ベテ置キマス、ソレハ爭議調停法ニ付テデアリマスガ、在來労働爭議ニ關シテ警察官ガ調停ニ從事スル場合ガアリマスガ、動モスレバ弊害ヲ來シ、勞資双方カラ非難ヲ蒙ルコトガ少クナイノデアリマス、仍テ政府ハ特ニ此點ニ留意セラレテ將來成ベク警察官ヲシテ調停ニ關與セシメナイヤウニ致シ、且ツ調停官ノ所屬ヲ警察機關以外ニ配置ヲシテ、爭議ノ取締ト調停トヲ混同セラレザルヤウニ希望致シタイノデアリマス、更ニ又爭議ノ調停ニ付テハ、其任ニ當ル者ハ、能ク産業經濟ノ事情或ハ平素ニ於ケル雇傭状態、或ハ労働事情等ニ精通ヲ致シテ勞資双方ト意思疏通シテ居ル者デナケレバ能ク其目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス、然ルニ在來ノ調停官ノ中ニハ、往々經驗ニ乏シクシテ、且轉任ガ頻繁デアル、爲ニ今申上ゲタ事情ニ熱セズ、遺憾ノ點ガ少ナカラザル憾ガアルノデアリマス、故ニ政府ハ出來得ル限り、此途ニ付テ練達堪能ノ

士ヲ專任ヲ致シテ、成ベク長ク其職ニ從事スルヤウニ致シ、調停ニ付テ遺憾ナキヤウニ萬全ヲ期セラレンコトヲ希望スルモノデアリマス、是ダケノ事ヲ申上ゲテ置キマス

○三宅委員 只今此兩案ニ對シマシテ加藤君カラ撤回ノ御動議ヲ提出ニナッタノデアリマス、其御趣旨ハ此兩案制定ノ趣旨ガ一貫シテ居ラナイト云フコト、更ニ此兩案ノ内容ニ不備ノ點ガ多イカラシテ、政府ハ一旦之ヲ撤回シテ、更ニ再審議ノ上改メテ之ヲ提出スベシト云フ御趣意デアッタノデアリマス、私共ハ此社會立法ヲ致スニ付テハ出來ルダケ與フベキ權利ハ之ヲ與ヘ、而シテ其權利ヲ行使スルニ當ッテ、之ヲ濫用セザルヤウ、相當ノ方法ヲ講ズベキモノデアルト云フ建前ヲ以テ、此兩案ニ對シテ居ッタノデアリマス、斯様ナ點カラ考ヘマスト、労働組合法ノ内容ニ於キマシテハ、更ニ一步ヲ進メタモノニ致シテモ宜クハナイカト云フ考ガナイデアリマセヌ、又是等ノ新法律ノ制定ノ結果ニ對シマシテハ、更ニ考慮ヲ要スル節ガアルノデハナイカトモ考ヘルノデアリマスルガ、總テハ現在ノ日本ニ於ケル労働運動ノ實情ニ即シテ、是ガ制定ノ内容ヲ決定スベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、斯様ナ意味ヲ以テマシテ、今日マデ諸君ガ微ニ入り細ヲ極メテ當局ト質問應答セラレマシタ結果カラ致シマシテ、今日ノ日本ノ状態ニ於テハ、此程度ノ法律ノ制定ガ最モ妥當デアルト云フ確信ヲ得タノデアリマス、隨テ私ハ加藤君ノ撤回論ニ反對致シマシテ、而シテ此法案ニ賛成ヲ致スモノデアリマスルガ、賛成致シマスル詳細ノ理由ニ付キマシテハ追ッテ本會議ニ於テ申述ブルコトニ致シマシテ、此機會ニ於テハ之ヲ省略致シマスルガ、唯此動議ニ反對シ、原案ニ賛成スルト云フ意思ノミヲ茲ニ表示致シテ置キマス

○添田委員長 本法ニ付キマシテハ加藤君ヨリ撤回スベシト云フ動議ガ提出セラレテ居リマス、之ニ御賛成者ガアルヤウデアリマス、隨テ之ニ付テ採決ヲ致シマス、加藤君ノ動議ニ御賛成者ノ起立ヲ乞ヒマス
〔賛成者 起立〕

○添田委員長 少數デアリマス

○加藤委員 兩案共少數意見トシテ之ヲ保留致シテ置キマス

○添田委員長 次ニ原案ニ付テ採決ヲ致シマス

○栗原委員 採決ノ前ニ原案ニ賛成ノ理由ヲ簡單ニ申シマス、即チ本案政府提出ノ労働組合法案竝ニ労働爭議調停法中改正法律案ニ對シ、我黨ノ意思ヲ代表シテ賛成ノ意見ヲ述ベ併セテ本法ノ運用ニ關シテ本員等ノ希望ヲ開陳シ、之ニ對スル政府當局ノ言明ヲ得テ置カントスルモノデアリマス、野黨諸君ノ間ニハ或ハ本法制定ノ時機ニ關シ、或ハ資本家労働者双方ヨリ非難アルコトニ關シ、或ハ經過規定ノコトニ關シ、或ハ將來ノ運用ニ關シ、種々御議論ガアリ、殊ニ政友會ノ諸君ハ案ノ内容不完全ナリトノ理由ヲ以テ撤回論ヲナサレタノデアリマスケレドモ、是等ノ御議論ニ對スル駁論ハアト廻ハント致シテ、本員ハ單刀直入直チニ兩案ノ内容ヲ検討シ、徐ニ所論ヲ進メ度イト考フルモノデアリマス

(中略)

次ニ労働爭議調停法中改正法律案ニ對シ賛成ノ意見ヲ申上ゲマス、今回政府ヨリ提出セラレマシタ労働爭議調停法中改正法律案ヲ審議スルニ當リマシテハ、労働爭議調停法ガ大正十五年ニ制定セラレテヨリ今日迄、如何ナル實績ヲ擧ゲテ居ルカラ検討スルコトガ必要デアルト考ヘマス

労働爭議調停法ガ制定以來今日迄約四年半ノ間ニ、法律ニ定メラレテ居ル調停委員會ガ開設セラレタコトハ僅ニ二回デアリマス、此點ヨリ労働爭議調停法ノ實績ヲ論ズルナラバ、本法ハ其制定ノ目的ヲ十分ニ到達スルコトガ出來ナツカタモノト論斷セザルヲ得ヌノデアリマス、即チ現行法ハ労働爭議ヲ豫防シ、又ハ之ヲ圓滿迅速ニ解決スル方法トシテ、實際ノ運用ニ適セザル不備缺陷ガアルノデアリマス、故ニ之ヲ適法ニ改正シテ、労働爭議ノ現狀ニ即シタル調停制度

ヲ定ムルコトハ、眞ニ至當ト考ヘマスノミナラズ、今日ノ如ク労働爭議ガ頻發シ、而モ深刻化ノ傾向ニ在ル時ニ於テ、其必要ハ極メテ切實ナリト謂ハザルヲ得ヌノデアリマス

次ニ今回ノ改正法律案ノ内容ヲ觀察致シマスルト、改正ノ要點ハ内務大臣ガ提案ノ理由トシテ説明セラレマシタ如ク、三點ニ歸著スルノデアリマス、即チ現行法ニ於テハ強制調停ヲ爲シ得ベキ事業、即チ公益事業ノ種類ガ限定的ニ列舉セラレテ居ルノデアリマシテ、其他ノ事業即チ私益事業ニ付テハ強制調停ハ認メラレテ居リマセヌ、併ナガラ私益事業ノ労働爭議デアリマシテモ、場合ニ依ッテハ公益事業ニ於ケルト同ジ程度ニ公衆ノ社會生活ニ影響ヲ及ボスコトガアリ得ルコトハ、吾々ノ常ニ見聞シテ居ル所デアリマス、斯様ナ爭議ニ對シテ公益事業ニ於ケル爭議ト同様ナ取扱ヲシヤウト云フノガ改正案ノ一點デアリマス、又鐵道、船舶、電信、電話、瓦斯、水道ノ如キ、所謂公益事業ハ公衆ノ日常生活ニ直接關係ガアルト云フ理由ノ下ニ、現行法ニ於テモ強制調停ガ認メラレテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、併ナガラ同盟罷業ヤ工場閉鎖ノ如キ、闘争手段其モノハ禁止セラレテハ居リマセヌ、ソコデ是等ノ事業ニ關シテハ其性質上同盟罷業ヤ工場閉鎖ヲ禁止スベシト云フ議論モ相當アルヤウデアリマス、外國ノ立法例ヲ見マシテモ斯様ナ規定ヲ設ケテ居ル例ガアルノデアリマス、隨テ調停法ノ改正ニ當ッテ公益事業ノ同盟罷業及ビ工場閉鎖ヲ如何ニ取扱フベキカト云フコトハ、極メテ重大ナ問題ナノデアリマス、此點ニ關シテハ改正法律案ハ同盟罷業又ハ作業閉鎖ヲ行フ場合ニハ、三日以前ニ調停委員會開設ノ申請ヲ爲スベシト定メラレテ居リマス、隨テ同盟罷業ヤ作業閉鎖其物ハ飽迄不法ニ非ザルコト從前ノ通りデアリ、敢テ労働運動彈壓ノ規定ト言フハ當ラナイノデアリマス

次ニ本改正案デハ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ新ニ認メテ居リマス、此點ハ大分議論ノアルトコロデアアルヤウデアリマス、即チ現在ノ調停官吏ノ調停ニ對シテ既ニ官僚的ダトノ非難モアル、然ルニ之ニ對シテ法律上各種ノ權限ヲ與ヘルガ如キコトハ避ケネバナラストノ反對論モアリマス、併ナガラ調停法制定以來相當良好ナ成績ヲ擧ゲタツ調停官

吏ノ調停ト云フ事實ハ、何人モ之ヲ否定スルコトハ出來マスマイ、隨テ調停法ノ改正ニ當ッテハ何ヲ差シ措イテモ此事實ヲ取上ゲテ調停委員會ト相並ンデ法律ニ之ヲ規定スルコトハ極メテ自然且ツ當然ナコトデアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ此點ニ付テノ外國立法例ヲ調べ見テモ、官吏ノ調停ヲ法律デ認メテ居ナイ國ハ極メテ少イノデアリマス

要スルニ今回ノ改正ハ從來四年間モ使ヒ切レナカッタ調停法ヲ實際ノ運用ニ適スルヤウニ改メ、而シテ勞資ノ協調ト産業ノ平和ヲ促進スルト云フ調停制度ノ根本精神ニ合致セシメヤウトスル趣旨ニ他ナラヌモノト考ヘラレルノデアリマス、而シテ其改正ノ内容モ我國ニ於ケル經濟界產業界ノ實狀ニ鑑ミ、又外國立法例等ニ照シテモ、大體ニ於テ適正ナルモノト考ヘ、本案ニ對シ賛意ヲ表スル次第デアリマス

何卒此兩案ニ對シ滿場一致御賛成アラント切望致シマス

終リニ此兩法案ノ運用ニ關シテ本員等ノ希望ヲ申シテ置キタイト思フノデアリマス、其希望ノ第一點ハ労働團體並ニ労働大衆ノ間ニ危險思想ノ侵入傳播ト云フコトニ付テ、一層ノ警戒防止ヲ願ヒタイト考ヘルモノデアリマス、此點ニ付テハ既ニ政府モ相當ノ取締ニ苦心セラレテ居リマスルコトハ明カデアリマスガ、此組合法ノ立法並ニ調停法ノ改正モ此點ニ付テ相當ニ御考慮セラレタ結果デアルト思フノデアリマスルガ、實際ニ於テハ現在ノ經濟組織及ビ團體ヲ破壊セントスル危險ナル思想ヲ當局ノ眼ヲ盜ミツ、労働團體及ビ労働大衆ノ間ニ宣傳スルモノガアルノデアリマシテ、勞資ノ經濟爭議ガ段々政治的爭鬪化セントスル憂ガアルノデアリマスルカラ、當局ハ今一層御努力下サイマシテ、産業上思想上ノ國民ノ憂ヲ一掃セラレンコトヲ希望致スノデアリマス、希望ノ第二點ハ近來労働爭議ハ多クノ場合ニ於テ往々暴行脅迫等ノ不法行為ガ伴フカラ、資本案側及ビ一般民衆ニ非常ナル脅威ヲ感ゼシメテ居ルノミナラズ、社會ノ安寧秩序ヲ亂スコトモ少クナイノデアリマスガ、政府當局ハ今後何處マデモ労働組合指導ノ精神ニ基キマシテ、労働爭議ニ伴フ暴行脅迫等ノ不法行為ヲ十分ニ取締リ、事業主側及ビ社會一般ノ恐怖心ヲ除クコトガ出來ルヤウニ一段ノ

御努力ヲ希望スルノデアリマス、希望ノ第三點ハ、只今大體多田委員ガ申サレタ所ト同様デアリマスケレドモ、労働爭議發生ノ場合ニ、調停官ニアラザル警察官ガ取締ノ範圍ヲ脱シテ、爭議其モノニ關係シタガ爾傾向ガアリマシテ、事業主側モ、労働者側モ、双方少カラズ迷惑ヲ感ジテ居ルノデアリマスガ、政府ハ今後警察官ガ其任務ノ取締範圍ヲ脱セザルヤウニ御配慮ヲ煩シタイト思フノデアリマス、希望ノ第四點ハ警視廳及ビ地方ニ配屬スル調停官ガ爭議ノ場合ニ其爭議ヲ早ク片付ケタイト云フ考カラ事業主側ニ對シテ爭議費用、或ハ金一封ト稱スル金錢上ノ支出ヲ強要スル傾向ガアリマシテ、事業主側ガ非常ニ迷惑ヲ感ジテ居ルノデアリマス、此爲メ爭議ノ最後ノ場合ニハ、爭議費用若クハ、金一封ガ取レルカラト云フノデ、爭議ヲ輕ク斷行スルト云フ傾向モアルノデアリマスカラ、政府ハ今後深ク此點ニ留意シ、此惡傾向ヲ防グコトニ御努力ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、以上ノ四點ニ對シテ政府ノ言明ヲ願テ置キタイノデアリマス

(中略)

○松谷委員 私モ一言希望ダケヲ述ベテ置キマス、此労働爭議調停法ニ關シマシテハ、只今加藤君ノ述ベラレタ如ク、私共ハ返付論デアリマスガ、併ナガラ本日ノ情勢ヲ見マスルノニ、労働組合法ニ付キマシテハ約一月ニ亘リ審議ガ重ネラレ、爭議調停法ニ關シテハタツタ一日、而モ午後二時頃ダト考ヘテ居リマスガ始メラレマシタ、サウシテ時間ニシタナラバ僅カ六時間ソコラデアラウト思ヒマス、僅ニ其間シカ審議セラレナイ、而モ吾々ハ組合法ヨリモ爭議調停法ノ方ガヨリ適切ナ利害關係ガ多クデアリマス、然ルニ拘ラズ、再三私ハ此點ニ付キマシテ發言ヲ求メテ置キマシタガ、遂ニ發言ノ機會ヲ得ナカッタコトヲ非常ニ私ハ遺憾ニ考ヘマス、先程内務大臣ニ對シテ私ハ緊急ノ質問ヲスル場合ニ於テモ、栗原君ニ對シテ二十分間位デ願ヒタイ、二十分間ヲ越ヘタナラバ私ハ私ノ質問ヲ放棄シテモ宜シイト云フ條件付デヤツタ、而モ十分カ十五分デ濟ンダ、是程マデニ私共ハ本當ニ皆様ノ議事進行ニ付テ注意ヲシ、私カラ考ヘ

ルナラバ、謙讓ノ美德ヲ發揮シテ居ルニ拘ラズ、私共ニ殆ド一言ノ口モ開カサナカッタ、サウシテ論ゼラレル所ハ何處デアルカト云フナラバ、モット取締ヲ嚴重ニシナケレバナラヌトカ、金一封ガドウトカ、議論ノ殆ド全部ト云フモノハ、労働組合、労働者ニ對シテハ全部ガ不利益ナ所ノ發言ノミデアリマス、或ル場合ニ於テハ宜シイ場合モアリマシタガ、大體ノ空氣カラ見テ私ハサウデアッタラウト思ヒマス、私共ハ斯ウ云フ労働者ノ本當ノ代表トシテ、此處ノ機會ニ於テ適切ナル意見ノ發表ノ出來ナカッタコトヲ甚ダ遺憾ニ堪エナイ次第デアリマス、就キマシテハ本日ハ最早時間モアリマセヌカラ、私共ハ議論メイタコトハ致シマセヌガ、來ルベキ案ガ上程セラル、本會議ノ場合ニ於キマシテ、吾々ノ中カラ誰ガ討論ニ出ルカ知リマセヌケレドモ、十分ニ其機會ヲ與ヘラレテ、言フダケノコトハ言ハシテ貰ハヌト、恐ラクハ私共ハ今日ノ労働者カラ見ルナラバ是程不満足ナ案ハ實際ナイ、此點ニ付キマシテ委員長ニ於カレマシテモ十分御配慮ヲ戴キマシテ、サウシテ其機會ヲ與ヘラレンコトヲ特ニ切望致シマシテ、私ノ意見ニ代ヘル次第デアリマス

○添田委員長 諒承シマシタ——採決ヲ致シマス、此労働組合法案竝ニ労働爭議調停法改正法律案ノ二案ヲ一括シテ採決ヲ致シマス、此政府ノ原案ニ御賛成者ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○添田委員長 多數ト認メマス、此兩案トモ原案ノ通りニ決シマシタ(拍手)

午後七時五十分散會

第二章 衆議院本會議

第五十九回 帝國議會 衆議院本會議 勞働爭議調停法中改正法案 第一讀會ノ續

昭和六年三月十七日(火曜日)午後一時二十四分開議

(前略)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、日程第四、勞働組合法案、日程第五、勞働爭議調停法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——添田敬一郎君

第四 勞働組合法案 (政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 勞働組合法案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年三月十四日

委員長

添田敬一郎

衆議院議長 藤澤幾之輔殿

第五 勞働爭議調停法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 勞働爭議調停法中改正法律案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年三月十四日

委員長

添田敬一郎

衆議院議長 藤澤幾之輔殿

[添田敬一郎君登壇]

○添田敬一郎君 私ハ勞働組合法案外一件ノ委員會ノ經過竝ニ其結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ハ二月十五日ヨリ三月十四日ニ至リマス間ニ於テ、前後十六回、殆ド午前午後ヲ通ジテ開會セラレマシタ、散會ハ常ニ夜ニ及ブ状態デアリマシタ、何分ニモ此法案ハ劃期的ノ重要法案デアリマスルカラ、委員諸君ノ御審議振ハ極メテ熱心デアッテ内務當局者ノミナラス、商工、農林、大藏、文部、陸軍等ノ當局モ出席ヲセラレテ、質疑應答モ多岐多端デアリマシテ、微ニ入り細ヲ穿ッテ委曲ヲ盡サレタ次第デアリマス、委員會ニ於ケル質疑應答及ビ討論ノ詳細ハ、速記録ニ依ッテ御承知ヲ願ヒマシテ、私ハ茲ニ其概略ニ付テ出來ルダケ綜合シテ、其ノ要旨ヲ御報告致シタイト存ジマス

(中略)

次ニ勞働爭議調停法中改正法律案ニ付テ審議ノ概要ヲ申上ゲタイト思ヒマス、先ツ第一ハ本案提出ノ動機乃至經緯ニ

關スル問題デアリマシテ、政府ハ何故ニ勞働組合法案ト共ニ、本案ヲ突如トシテ提出シタノデアルカ、何等ノ研究何等ノ準備ナクシテ提案スルニ至ッタノハ、資本人ノ要求ニ依ツタルモノデハナイカト云フ質問デアリマス、之ニ對シテ政府ハ、現行ノ調停法ハ施行以來滿四箇年半ニモナッテ居ッテ、其施行ノ實績ニ鑑ミテ改正ノ必要ヲ認メテ居ル隨ッテ豫テヨリ研究調査ヲ爲シテ相當ノ成案ヲ持ッテ居ッタノデ、決シテ突如トシテ提案シタモノデモナク、殊ニ資本人ノ要求ヲ受ケタト云フコトハ全然ナイトノ答辯デアリマシタ

次ニ最近勞働爭議ガ惡化ノ傾向ニアルノデ、之ヲ彈壓スル爲ニ本案ヲ提出シタノデハナイカト云フ質問デアリマシタガ、之ニ對スル政府ノ答辯ハ、勞働爭議ガ經濟爭議ノ域ヲ越エテ不法不當ナル行爲ヲ爲スモノニ對シテハ、現在ノ刑法其他法規ノ適用ニ依ッテ取締ヲ爲シ、一方ニ於テハ勞働組合法ニ依ッテ組合ヲ公認シ、之ヲ軌道ノ上ニ乗セ、穩健中正ニ導クコトガ必要ト考ヘル、併ナガラ本案ハ決シテ爭議取締ヲ目的トスルモノデハナクシテ、飽マデモ勞働爭議ノ豫防及ビ圓滿迅速ナル解決ヲ目的トスルモノデアルト述ベラレタノデアリマス

次ニ本案ノ各條ニ亙ツテノ質疑應答デアリマス、新ニ第一條ノ第三項トシテ追加サレタル規定ニ關シマシテハ、本項ニ規定セラル、事業ハ元來私益事業デアル、然ルニ關係地方ノ産業又ハ公益ニ害アリトノ理由ヲ以テ、直チニ之ヲ公益事業ト同様ニ取扱フコトハ行過ギデハナイカ、而モ其結果トシテ、第三者ノ誘惑煽動ノ行爲ガ禁止セラレルコトニナル、又關係地方ノ産業又ハ公益ニ害アリヤ否ヤノ認定權ハ行政官廳ニアルデアルカラ、行政官廳ノ手心デ當事者ハ其意思ニ反シテ調停ヲ強制セラレ、且ツ第三者ノ同盟罷業ノ誘惑煽動ノ行爲ガ禁止セラレルコトハ、事極メテ重大デアリ、且ツ爭議ニ對スル彈壓トナルノデハナイカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、私益事業デアッテモ、爭議ノ狀況ニ依ッテハ、公衆ノ社會生活ニ影響ヲ及ボスコトガ、公益事業ニ於ケルト殆ド差異ノナイコトガアル、斯様ナル場合ニ、之ヲ公益事業ト同様ニ取扱ッテ、一定ノ期間ハ闘争手段ニ關スル第三者ノ行爲ニ制限ヲ加フルコトガアッ

テモ、是ハ已ムヲ得ナイ、又此場合行政官廳ニ於テ認定權ガアルコトモ、當然デアルト考ヘルト云フ答辯デアッタノデアリマス

次ニ第一條ノ二ニ付キマシテハ、當該官吏ニ對シテ斯ノ如キ權限ヲ與フルコトハ不當デナイカ、現在ノ調停官吏ノ調停デスラ相當非難ガアルノニ、之ニ對シテ更ニ法律上ノ權限ヲ與フルコトハ如何ナモノデアルカ、殊ニ調停ニ關シテハ警察官吏ガ介入スルコトハ、種々ナル意味ニ於テ宜シクナイト考ヘルガ、如何デアルカト云フ問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、現在何等ノ法律上ノ根據ガナクシテ行ッテ居ル當該官吏ノ調停ニ對シテ、法的根據ヲ與ヘルコトガ必要ト考ヘル、而シテ調停官吏ヲ警察部内ニ置クノハ、事務ノ便宜ヲ圖ル意味ニ過ギナイノデアアル、尙ホ調停官吏ハ警察官吏デハナイト云フ答辯ガアッタノデアリマス

次ニ第十九條ノ二ニ付テハ、此規定ハ同盟罷業又ハ作業閉鎖ヲ禁止スル規定デハナイカト云フ質問ト、假令禁止規定デナイトスルモ、事實上同盟罷業等ヲ不可能ナラシムル結果トナルノデハナイカ、即チ同盟罷業ノ如キハ突如トシテ行フ所ニ、其效果ガアルノデアッテ、三日前ニ之ヲ豫告シタノデハ、同盟罷業ノ效果ヲ舉ゲルコトハ絕對ニ出來ヌモノト考ヘルガ、如何デアルカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、此規定ハ同盟罷業等ヲ行フ場合ニハ、豫メ調停委員會開設ノ請求ヲ命ズル趣意デアッテ、同盟罷業其モノヲ禁止スルモノデハナイ、又同盟罷業ハ突如トシテ行フニアラザレバ、全然效果ガナイモノトハ考ヘラレナイ、而シテ公益事業ノ爭議ニ於テ當事者ニ對シ此程度ノ義務ヲ課スルコトハ、公益事業ノ性質上已ムヲ得ナイトノ答辯ヲ致シタノデアリマス

尙ホ本法案ニ關聯ヲシテ勞働爭議ノ取締ニ關スル質疑應答ガアリマシタ、即チ英國法ニ於ケルガ如ク、政府ヲ脅威スルガ如キ爭議ハ、之ヲ禁止スルノ必要ハナキカ、或ハ爭議ニ於ケル「ピケッティング」其他ニ關シテハ、特ニ規定ヲ設クル必要ガナイカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ是等ニ對スル取締ハ、現行ノ刑罰法令ヲ以

テ十分ニ行ヒ得ルノデアルカラ、特ニ規定ヲ設クル必要ナシト答辯サレタノデアリマス、又爭議ニ於ケル金一封ノ問題ニ關シマシテモ、相當論議セラレマシタ、現在行ハレツ、アル金一封ニ對シテ、政府ハ如何ニ考ヘルカ、又之ヲ法律ヲ以テ禁止スルノ意思ハナキヤト云フヤウナ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、金一封ナルモノハ勞働者側カラ要求サレルコトモアリ、資本家側カラ提供サレルコトモアツテ、爭議解決ノ便法トシテ行ハレテ居リマスガ、勞働爭議ノ理論的ナ解決ト云フ點カラ見レバ、遺憾ナ現象デアルト申サナケレバナラス、サレバト言ツテ、之ヲ直ニ禁止スルト云フ譯ニモ行カスト思ヒマスガ、成ベク左様ナルコトハ漸次改變セラル、コトガ望マシイ、隨ッテ官吏ガ調停スルガ如キ場合ニハ、此點ニ付テ十分注意スベキモノト考ヘルト云フ答辯デアッタノデアリマス、勞働爭議調停法中改正法律案ニ關スル質疑應答ノ内容ハ、大體以上申述ベタ通りデアリマス

斯クテ質疑ガ終リマシタ所、政友會側ヨリハ、勞働組合法案及ビ勞働爭議調停法中改正法律案ノ二案共、其理由及ビ内容ガ不完全デアツテ、且ツ一貫シテ居ラナイ、此理由ヲ以テ政府ハ宜シク本案ヲ撤回シテ、更ニ完全ナル案トシテ、之ヲ提出スベシトノ趣旨ニ依リマシテ、兩法案ノ撤回ヲ求ムル動議ガ提出セラレタノデアリマスガ、少數ニ依ッテ否決トナリマシタ

次デ民政黨側ノ委員カラ、兩法案ニ關シ次ノ如キソレソレノ意見ノ開陳ガアリマシタ、即チ一委員ハ、將來勞働爭議ノ調停ニ關シテハ、警察官ヲシテ關與セシメナイコト、シ、調停官ノ所屬ヲ警察機關以外ニ置イテ、爭議ノ調停ト取締トガ、動モスレバ混同スル弊ヲ除イテ貫ヒタイト云フコト、又調停官トシテハ産業狀態ニ通曉シテ、事業主及ビ勞働者ノ双方ト常ニ意思ノ疏通ヲ圖ルコトガ必要デアルカラ、調停官ニ付テハ練達堪能ノ士ヲ任命シテ、頻繁ナル轉任ノ弊ヲ避ケ、十分其職務ニ熟練セシムルヤウニシテ欲シイト云フコトヲ述ベラレマシタ

次ニ又他ノ委員ハ、此兩法案ニ賛成ナル旨ヲ述ベルト共ニ、次ノ如キ希望ヲ述ベラレタノデアリマス、即チ現在勞働

團體又ハ勞働大衆ニ危險矯激ナル思想ノ侵入スルコトガ往々ニシテアル、此事ニ付テハ深ク警戒注意ヲ爲シ、産業上、思想上國民ノ憂ヲ除クヤウニシテ欲シイト云フコト、勞働爭議ニ際シテ行ハレル暴行脅迫等ノ不法行為ハ之ヲ取締ッテ、一般民衆及ビ事業主ノ恐怖心ヲ除イテ貫ヒタイト云フコト、爭議發生ノ場合警察官ガ取締ノ範圍ヲ脱シテ、爭議ノ内容ニ關與スルコトヲ避ケラレタイト云フコト、調停官ガ爭議ノ解決ヲ急グ餘リ、爭議費用或ハ金一封ノ支出ヲ強要スル如キコトヲ避ケラレタイト云フコトヲ述ベラレタノデアリマス、又他ノ委員カラ兩法案ニ付テハ更ニ其内容ヲ一歩進メベキデハナイカト云フ考モアリ、又斯ル新ラシイ法律ノ制定ニ付テハ、更ニ一段ノ考慮ヲ加ヘベキデナイカト云フ考モアルガ、本邦現時ノ社會狀態竝ニ勞働運動ノ實情ニ即シテ考ヘレバ、先ヅ此程度ノ法律ガ最モ妥當ト考ヘルトノ趣旨ノ下ニ、兩法案ニ賛成ノ意見ヲ表サレタノデアリマス、斯クテ兩法案ヲ一括シテ採決ニ付シマシタ所、政府提出原案ハ多數ヲ以テ可決セラレタノデアリマス

委員會ノ經過ノ大要ハ右ノ如クデアリマス、ドウゾ皆様ノ御協賛ヲ御願致シタイト思ヒマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 兩案ニ對シテハ加藤久米四郎君外九名ヨリ各少數意見ガ提出サレテ居リマス、是ハ何レモ撤回ヲ求メル意見デアリマスカラ、此際其報告ヲ許シマス——安藤正純君

少數意見書

一 勞働組合法案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ政府ニ對シ撤回ヲ求ムヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也

昭和六年三月十四日

委員少數意見者

加藤久米四郎

外九名

少數者意見書

一 勞働爭議調停法中改正法律案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ政府ニ對シ撤回ヲ求ムヘキモノト認ムルニ依リ少數者意見書及提出候也

昭和六年三月十四日

委員少數意見者

加藤 久米四郎

外九名

〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 私ハ只今上程サレテ居リマス勞働組合法案竝ニ勞働爭議調停法中改正法律案ニ付キマシテ、只今ノ委員長ノ報告ニ對シテ少數意見ヲ陳述致シタイノデアリマス

(中略)

勞働爭議調停法ノ改正案ハ、僅カニ半日位シカ質問ノ時間ガナカッタ、私共ハ是ハ重要法案デアリ、現在ノ産業ニモ大關係ガアル、勞働階級ノ福利増進ニモ大關係ガアル、ソレカラ出テ居ル所ノ爭議調停法案デアルカラモット緩クリ審議ヲ進メタイト云フコトヲ代ル々々同僚カラ申上ゲタノデアリマスガ、如何ナル譯デアルカ、添田委員長ハ頻ニ早ク打切リタイ、早ク打切リタイト云フテ、到頭時間ガナクナッタ、最後ニ僅カ半日位ノ質問應答ガアッタノデアリマス、其半日ノ質問應答デモ、爭議調停法ノ今回ノ改正ガ、其時ヲ得テ居ラナイ、其處ガ正シクナイト云フコトガ、茲ニ發見セ

ラレマシタ、是亦同僚カラ討論ヲ致スデアリマセウガ、唯私ハ一二申上ゲテ置ク、今回ノ爭議調停法ノ改正ノ要點ハ何處ニアルカ、第一私益事業ノ強制調停ト云フコトヲスルヤウニシタノデス、公益事業ノ強制調停ヲ更ニ伸シテ、私益事業ノ調停強制ヲスルヤウニスル、此認定ハ行政官廳デアルノデアリマス、又勞働爭議ニ關スル所ノ官吏ノ權限ヲ擴張ヲ致シテアル、而モ今迄ハ双方ノ承諾ガナケレバ調停ニ進入ッテ來ラレナカッタノダガ、今度ハサウ云フ事モ除イテシマヒマシテ、何時デモ臨席シテ調停委員會ニ意見ヲ述ベルコトガ出來ルヤウニシタノデアルカラ、此爭議ニ關スル所ノ官吏ノ權限ヲ擴張致シタノデアアル、モウ一ツハ公益事業ノ作業場ノ閉鎖ト、同盟罷工ノ場合ハ、三日前ニ通告ヲシロト云フコトヲ定メタ、是ダケガ今回ノ調停法改正ノ要點デアアル、一言ニシテ之ヲ言ヒマス、一體調停法ナドト云フモノハ、取締ノ目的ノミヲ主眼トシテハイケナイノデアアル、勞働爭議ナルモノ、形式及ビ内容ヲ律スル所ノ基準ヲ定メナケレバ、調停法トシテノ權威ガナイモノデハナカラウカト思フ(拍手)而シテ勞働爭議調停法ハ、大正十五年第五十一議會定マリマシテカラ以來、私益事業ニ付テ調停委員會ヲ開イタコトガ今日マデ何回アルカト云フト、僅ニ二回シカナイノデアリマス、大正十五年以來僅ニ二回シカナイト云フコトガ、一體今ノ爭議調停法ナルモノガ實際ニ適シテ居ラナイ、斯様ナモノニ依ナライ方方便宜デアルト云フ、資本家及ビ勞働界ノ現狀デハナカラウカト思フノデアアル、是ハ一ツニハ調停官ヲ信頼シナイト云フコトナンデアル、又正式調停法ニ依ル所ノ調停ニ依ラナイ方方便宜デアアル、斯ウ云フ所カラ出テ居ルノデゴザイマス、ソレデアルカラ、此際此調停法ノ改正ヲ突然出シタト云フコトハ、政府ハ一面ニ於テハ斯ノ如キ骨拔キノ組合法案デアアルガ、一面ニ之ヲ出スト云フコトハ、資本家カラ見レバ、是ハ鬼門ナノダ、非常ニ資本家ハ厭ヤダ、厭ヤダカラ一面ニ爭議調停法ノ方ニ於テ、私益事業ノ強制調停ヲ認メルコトニシテ、一口ニ言ヘバ一面ニ資本家ノ御機嫌ヲ取ツタノデアアル、此兩方ヲ今度政府ガ提出ヲシタノハ、一面ニ組合法ヲ骨拔キニシテ、表ダケデモ勞働階級ノ歡心ヲ得、一面ニハ資本家側ノ怒リヲ避ケンガ爲ニ調停法ノ改正案ヲ出シテ、

之ヲ胡麻化シタニ過ギナイト云フノガ結論ジヤナカラウカト思フ(拍手)

(後略)

○守屋榮夫君 諸君、私ハ只今議題ニ上ッテ居リマスル勞働組合法案竝ニ爭議調停法中改正法律案ニ對スル委員長ノ報告ニ反對シ、吾々同志ノ安藤君ノ之ヲ返付スベシトスル動議ニ賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス(拍手)

(中略)

其第三點ト致シマシテハ、本法ノ施行ト同時ニ必要ナル國家的各般ノ施設ニ付テ、何等政府ニ於テ考慮サレテ居ナイコトデアリマス、御承知ノ通り昨年ニ於ケル勞働爭議ト申シマスルモノハ、其數ニ於キマシテモ、其惡化ノ度ニ於テモ、未曾有ノ狀態デアリマス、斯クシテ小企業ハ勞資共倒ノ姿トナッタノデアリマス、大企業ニ於キマシテモ衰微ノ狀態デアアルノデアリマス、デアリマスカラシテ、斯ノ如キ狀態ニ於キマシテハ勞働爭議ヲ未然ニ防壓シ、其惡化ヲ避クル方途ヲ講ズベキハ是ハ申スマデモナイコトデアリマス、サウ云フコトヲ致シマセヌト、附則ニ於テ認メラレテ居リマスル一般組合竝ニ聯合ガ、公認ノ勢ニ乘ジテ勞働爭議ヲ頻發セシメ、之ヲ惡化サセルト云フ危險ノアルコトハ、今日カラ之ヲ豫想スルニ難クナイ、故ニ私共ハ勞働組合ヲ公認致シマスルト同時ニ、爭議調停法ニ對シテ適當ナル改正ヲ施シ、又必要ニ應ジテハ職業爭議ノ取締ノ規定ヲ設ケル、ソレト同時ニ一般民衆ニ對シマシテハ思想善導ノ方策ヲ立テル、又勞資兩方面ニ亘リマシテ協調的精神ヲ鼓吹スル途ヲ立テルト云フコトガ、最モ望マシイコトデアルト考ヘタノデアリマス、然ルニ現内閣ノ提出致シテ居リマスル勞働爭議調停法中改正法律案ハ、ソレ等ノ點ニ觸レテ居ル所ガ少ナイ、唯僅カニ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ法律ノ上ニ認メタ、勞働爭議調停委員會ノ發動スル範圍ヲ擴張スル程度ニ止マルノデアアル、資本案ノ工場閉鎖デアルトカ、或ハ勞働者ノ勞働爭議ト云フモノ、適法性ヲ超越シタル場合、而モソレ等ノ爭議ニ關シテ用キラレル手段ナリ行爲ナリノ不法、不當デアアル場合ノ認定、ソレニ對スル取締ト

云フコトニ付テハ、何等ノ考慮ヲ拂ッテ居ラレナイ、取締ノ局ニ當ル内務大臣ハ、現在ノ取締規則ノ運用ニ依ツテ是ハ達成シ得ルト申サレテ居リマスルケレドモ、私共ハソレニ承服スルコトハ出來ナイノデアリマス、思想ノ善導、勞資協調ノ精神ニ付テ見マシテモ、政府ニ於テハ何等之ニ對スル具體的方策ヲ持ッテ居ナイ、工業勞働者ト同時ニ社會政策ノ見地カラ考慮サレナケレバナラス、農業勞働者ニ對シテ農林大臣ハ何等ノ具體的政策ノ持セガナカッタノデアリマス

(中略)

○松谷與二郎君 諸君、今回政府ノ提出セラレマシタ所ノ勞働組合法及ビ爭議調停法ニ對シマシテハ、吾々無産黨ト致シマシテハ絕對ニ反對スルモノデアリマス

(中略)

更ニ私ハ申上ゲマスガ、勞働爭議調停法デアリマスガ、是ハ全ク改惡デアルト云フコトヲ私ハ茲ニハキリト明言致シテ置キマス、何故カト云フナラバ、此勞働爭議調停法ナルモノハ、大正十五年四月ニ發布施行セラレタノデアリマス、爾來五箇年間ニタツタニ回シカ調停ヲヤッテ居ラナイ、此事實自身ガ、此法律ガ全然適用ノナイ空文デアッテ、何等利益ノナイ有害ナモノデアルト云フコトハ、此事實ダケデモ明瞭デヤゴザイマセヌカ、然ルニ拘ラズ政府ハ此法律ヲ擴張致シマシテ、サウシテ所謂公益事業デナクテ、私益事業ニモ適用スルト規定シテアリマス、公益事業以外ノ私益事業、例ヘバ關係地方ノ産業若クハ公益ヲ害スル虞レアル場合ニ付テ、所謂全部強制調停ニ委ス、斯ノ如キハ爭議全部ヲ強制調停ニ委シタノト何處ニ區別ガゴザイマセウカ、此地方ノ産業ヲ危クスルトカ、或ハ公益ヲ害スルト云フコトハ、結局認定權ノ問題デハナカラウカ、警察官吏ガ、爭議ガ此土地ニ起ル、ソレハ其地方ノ産業ヲ害スルト云ヒ、又或ハ公益ヲ害スルト云フ理由デ本法ヲ適用スル、サウシテ結局ハドウスルカト云フト、調査審理ニ名ヲ藉リテ、勞働組合彈壓ノ機會ヲ作ル、若クハ勞働組合ノ戰術ヲ發クト云フガ如キ行動デアリマシテ、此爭議調停法自身ハ、吾々ノ勞働

爭議ヲ政府ノ手ニ依ッテ之ヲ奪去ラウトスルモノナルコトハ極メテ明瞭ヂヤゴザイマセヌカ、而モ此規定ハモウ一ツ不法ナル點ガアル、ソレハ公益事業ニ付テハ、作業ノ閉鎖、同盟罷業ヲ爲ス場合ハ三日前ニ届出デヨト云フ規定デアリマス、一體勞働爭議ヲヤル場合ニ、三日前ニ之ヲ調査委員會ニ掛ケナケレバナラス、何處ノ世界ニ三日前ニ調停委員會ニ掛ケテ、ソレカラ罷業ヲヤツタリ、或ハ又作業閉鎖ヲヤル者ガゴザイマセウカ、三日モ前ニ届出デレバ、政府ハ強制調停ガ出來ルノデアリマスカラ、三日経タヌ内ニ本人達ヲ喚付ケテ強制調停ヲスル、サウスルト公益事業ニ對シテハ事實上罷業權ヲ奪ツタト云フコトニナリハシマセヌカ、是程改惡ナモノガ何處ニアリマセウ、是程露骨ニ政府ガ資本家ノ味方ヲシナケレバナラスデアラウカ、何故資本家ノ御用ヲ勤メナケレバナラスデアラウカ、結局此勞働組合法ト云フモノハ、全部政府ガ資本家ノ手先トナリ、大トナリ、御用ヲ勤メルモノデアルト言ハザルヲ得ナイ、私ハ敢テ言フ、斯ノ如キ規定ガ何處ニアル、私ハ更ニ申上ゲル、而モ本法ノ規定ニ所謂幾多ノ犠牲ト血トヲ拂ッテ獲得シタル所ノ治安警察法第十七條ヲ復活シタコトデアリマス、即チ此法律ニハ罰金科料ト云フヤウナ、若クハ拘留ト云フヤウナ制裁ヲクッ付ケタノデアリマシテ、結局ハ治安警察法第十七條ヲ復活シタモノデハナイカ、御承知ノ通り治安警察法十七條ハ、勞働者ガ血ト本當ノ闘争ヲ以テ獲得シタ法律デアリマス、治安警察法十七條ノ撤廢ヲ、勞働者ハ血ヲ以テ購ヒ、戰ヒ取ツタ法律デアリマス、然ルニモ拘ラズ、此戰ヒ取ツタ法律ヲ如何ニ資本家ノ要求ガアレバトテ、政府ガ更ニ書加ヘルト云フガ如キコトハ、如何ニ此法律ガ反動性ヲ帯ビテ居ルカト云フコトハ、此點ダケデモ明カデハナイカ、是ハ何故政府ハ斯ノ如クニシテマデモ、所謂勞働組合ヲ彈壓シナケレバナライノデアラウカ、何故爭議ヲ彈壓シナケレバナライノデアラウカ、其處ニ所謂政府ガ資本家ノ大デアルト云フコトヲハッキリ示シテ居ルノデハナカラウカ、私ハ斯ノ如ク資本家ノ大トナル所ノ政府ノ提案ニ對シテハ、斷ジテ反對デアルト云フコトヲ表明シテ此壇ヲ降ル者デアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 討論ハ結局致シマシタ、是ヨリ採決ニ入りマス、先ヅ兩案ニ對スル加藤君外九名提出ノ撤回

動議ヲ一括シテ採決致シマス、撤回動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

〔賛成者 起立〕

○議長(藤澤幾之輔君) 起立少數デアリマス、仍テ撤回動議ハ否決サレマシタ、次ニ兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ハ起立

〔賛成者 起立〕

○議長(藤澤幾之輔君) 起立者多數デアリマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作田高太郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キマス

勞働組合法案 第二讀會

勞働爭議調停法中改正法律案 第二讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガアリマセヌカラ、兩案ハ何レモ委員長ノ報告ノ通り決シマシタ、是デ兩案ノ第二讀會ハ終リマシタ

○作田高太郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（藤澤幾之輔君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開キマス

勞働組合法案 第三讀會

勞働爭議調停法中改正法律案 第三讀會

○議長（藤澤幾之輔君） 別ニ御發議ガアリマセヌカラ兩案トモ第二讀會議決ノ通り可決確定致シマシタ（拍手）

第四章 貴族院本會議

第五十九回
帝國議會

貴族院本會議勞働爭議調停法中改正法案

第一讀會

昭和六年三月十八日（水曜日）午前十時十九分開議

○議長（公爵徳川家達君） 日程第六、勞働組合法案、第七、勞働爭議調停法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會——内務大臣安達謙藏君

勞働組合法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

衆議院議長 藤澤幾之輔

貴族院議長 公爵 徳川家達殿

勞働組合法案（省略）

第五十九回帝國議會貴族院本會議 勞働爭議調停法中改正法案 第一讀會

勞働爭議調停法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和六年三月十七日

貴族院議長 公爵 徳川 家 達 殿

衆議院議長 藤澤 幾之輔

勞働爭議調停法中改正法律案 (省略)

○國務大臣(安達謙藏君) (前略)

次ニ勞働爭議調停法中改正法律案ニ付キマシテ提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、最近ニ於ケル勞働爭議ノ狀況ヲ見マス、ルニ、財界ノ不況ニ伴ヒ、件數、参加人員等著シキ増加ヲ示シツ、アリマス、即チ昭和四年中ニ於ケル同盟罷業尙業及ビ工場閉鎖等ノ件數ハ五百七十六件、之ニ参加シタル勞働者ノ數ハ七萬七千四百四十四人ニ達シ、又昭和五年中ニハ一月乃至九月ノ九箇月間ニ既ニ六百九十五件ノ發生ヲ見、其参加人員モ六萬四千三百一人ニ及ンデ居ルノデアリマス、其結果トシテ勞働爭議ノ當事者ガ蒙ル經濟上ノ損害ハ固ヨリ、其國家ノ産業及ビ經濟ニ及ボス影響ハ誠ニ容易ナラザルモノガアルノデアリマス、斯ノ如キ爭議ノ發生ヲ出來得ル限リ未然ニ防止シ、竝ニ其圓滿ナル解決ノ機會ヲ多カラシムル爲ニハ、現行勞働爭議調停制度ハ必シモ適當且ツ十分ナリト云ヒ難キモノガアルト思フノデアリマス、即チ大正十五年現行法施行以來ノ狀況ヲ見マスルニ、法制上ニ認メラレタル調停機關ハ調停委員會デアリマスガ、之ヲ開設シ得ル場合ノ要件、或ハ其組織等實際ノ運用ニ適セズ、調停委員會ガ開設セラレタル事例ハ、既往約五箇年間僅

ニ二回ニ過ギマセズ、又現行法施行以來、各廳ニ配屬セラレタル調停官吏等ノ法律ニ依ラザル調停ニ依ッテ、爭議ノ解決セラル、モノハ相當多數ニ上リマスガ、右ニ關シテハ固ヨリ法制上何等準據スルモノガナク、事務處理上不便ヲ感ズル場合ガ極メテ多イノデアリマス、右ノ如キ事情ニ基キ今回時代ニ適應スベキ勞働爭議調停制度ヲ制定シタイト考ヘ、茲ニ法律案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、改正法律案ノ内容ハ相當多方面ニ亘リマスガ、其要領ハ以下ノ三點デアリマス、其一點ハ行政官廳ガ調停委員會ヲ開設シ得ル場合ノ擴張ニ關スルモノデアリマシテ、即チ現行法ノ下ニ於テハ所謂私益事業ニ於テハ、當事者ノ双方ヨリ請求ガナケレバ調停委員會ヲ開設シ得ザルコト、ナッテ居リマスガ、今度ハ私益事業ノ爭議ニ於テモ、其狀況ニ依リ、著シク其關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アルモノト認メタル場合ニハ、之ヲ公益事業ニ於ケル爭議ニ準ジ、當事者ノ一方ノミノ請求ニ依リ、又ハ行政官廳ノ職權ヲ以テ調停委員會ヲ開設シ得ルモノト改メタノデアリマス、第二ニ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ新ニ規定シ、仍テ當該官吏ガ從來事實上行ヒ來ッタ調停ニ關スル職權ヲ法認スルト同時ニ、其職權ヲ發動シ得ル場合ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、其第三點ハ現行法第一條第一項ニ列舉セラレル公益事業ノ勞働爭議ニ於テ、當事者ガ作業閉鎖又ハ同盟罷業ノ如キ所謂爭議手段ヲ用フル場合ハ、事前ニ調停委員會開設ノ申請ヲ爲シ得ベキコトヲ規定イタシタノデアリマス、以上述べタルガ如キ改正ニ依ッテ爭議ニ基ク無用ノ犠牲ヲ除キ、勞資ノ協調並ニ産業ノ平和ヲ促進スルコトハ、現時ノ産業界及勞働爭議ノ實狀ニ鑑ミ誠ニ緊要デアルト存ジマス、是レ本改正法律案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ願ヒマス

○藤原銀次郎君 (前略)

其次ニハ第三問ハ、爭議取締法ノ制定ヲ何故必要トシナイカト云フコトデアリマス、是ハ内務大臣モ御認メニナッテ居リマス、近時此爭議ガ非常ニ激増シテ參リマシテ、其手段ガ非常ニ兇暴ニナリマシテ、殆ド我國ノ現在ニ於キマシテ

ハ勞働爭議ト云フモノハナイノデアリマス、必ズ暴行カ暴動デアル、英吉利ヤ亞米利加ヤ此歐羅巴各國ニ於テノ「ストライキ」ト云フヤウナモノト、我國ニ於ケル勞働爭議、即チ「ストライキ」ト云フモノトハ全然性質ガ違フノデアリマス、各國ニ於キマシテハ此「ストライキ」ト申シマスルモノハ「皆合法的」ノ「ストライキ」デアル、平和的ノ「ストライキ」デアル、我國ニ於キマシテハ多クハ殆ド全部非合法的デアッテ、暴行デナケレバ暴動デアリマス、此點ニ付テハ内務大臣モ能ク御了解ニナッテ居リマスルカラ、私ハ茲ニ之ヲ繰返シテ論ズル必要ヲ認メマセヌガ、茲ニ極ク簡單ニ數字ヲ申上ゲテ見タイト思ヒマス、千九百二十年ト千九百三十年トヲ比較イタシマシテ、日本ハ千九百二十年ニハ勞働爭議ノ數ガ二百八十二デアリマシタ、是ガ年々非常ニ増加イタシテ參リマシテ、千九百三十年ニハ千八百二十三トナリマシタ、所ガ英吉利デハ千九百二十年ニハ一千六百七件アリマシタ、是ガ千九百三十年ニハ四百十五ニ減リマシタ、佛蘭西デハ千九百二十年ニハ千九百一十一デアリマシタモノガ、千九百三十年昨年九月末ニ一千二十九トナリマシタ、獨逸ハ千九百二十年ニハ四千三百九十二デアリマシタモノガ、千九百三十年ニハ二百九十九ト云フモノニナリマシタ、米國ニ於キマシテハ千九百二十年ニハ三千四百一十一デアリマシタモノガ、千九百二十九年ニハ九百三十三トナリマシタ、即チ此表ニ付テ見マシテモ我ガ日本ガ勞働爭議ノ増加シテ居ルコト、激増シテ居リマスコトハ世界ニ於テ第一デアリマス、斯ノ如ク我國ニ於テハ爭議ガ増加シテ居リマシテ、サウシテ其爭議ガ斯ノ如ク惡化シテ居リマス、デ之ヲ此儘ニ放置シテ置イテ、サウシテドウシテ此産業ノ平和ト云フモノガ保タレマセウカ、ドウシテ此安全ニ産業ノ經營ト云フモノガ出來マセウカ、殆ド此一點カラ見マシテモ、我國ノ産業ト云フモノハ、殆ド經營不可能ニナリハセヌカト私共ハ心配シテ居リマスノデ、ソレ故ニ私共ハドウシテモ、諸外國ニ於キマシテハ何處ノ國ニ參リマシテモ、就中此英吉利ナドニ於キマシテハ勞働爭議ノ取締法ト云フモノニ付テ非常ナ重點ヲ置イテ、勞働組合法ヨリハ寧ロ爭議取締ト云フモノニ付テ非常ナ重點ヲ置イテ、取締法ト云フモノガ制定セラレテ居ルノデアリマスルカラ、我ガ日本ニ於テモ、斯ウ

云フ現状ヲ顧ミテ、速ニ爭議取締法ト云フモノヲ制定シテ、サウシテ此爭議ト云フモノ、惡化スルコトヲ防止スルコト云フコトニ政府ニ於テ御盡力願ヒタイト云フコトガ、即チ此民間ノ實業ニ從事シテ居ル所ノ者ノ殆ド一致シタル所ノ熱心ナル聲デアアルノデアリマス、此爭議取締法ガナケレバ安心シテ、安ンジテ此産業ノ經營ヲスルコトガ出來ナイヤウニナルト云フコトガ、即チ産業ニ從事シテ居ル所ノ諸團體ノ熱心ニ主張シテ居ル所デアリマス、之ニ對シテ政府ハソレハ尤デアアルガ、併シ我國ニハ一般法ニ於テ色々ノ規定ガアル、例ヘバ暴力行爲ニ對シテハ暴力取締法ガアル、或ハ治安維持法ガアル、或ハ警察犯處罰令ガアルト云フヤウナ、一般法ニ於テ色々ノ規定ガアルカラ、此法規ヲ活用スルナラバ爭議取締法ナドヲ特別法トシテ設ケル必要ハナイ、斯ウ云フコトヲ主張セラレテ居リマス、ソコデ私ハ法制ノコトナドニ付テハ全ク無知識デアリマス、併ナガラ私共ノ了解ニ苦シミマスルノハ、若シモ内務大臣ガ一般法ト云フモノデ之ヲ取締ラウトナサルナラバ、此一般法ナルモノハ産業ノ組織ガ斯ノ如ク發達シナイ時分ノ法律デアリマス、即チ現代産業組織ガ斯ノ如ク發達シナイ時ノ法律デアリマスカラ、現在ノ勞働爭議アリト豫想シテ制定シタル所ノ法律デナイノデアリマスカラ、若シモ大臣ガ之ニ依ッテ、内務大臣ガ此一般法ニ依ッテ爭議取締ヲ爲サラウトスル場合ニ於テハ、勞働者若クハ組合側、即チ勞働者若クハ勞働組合ノ側ノ方カラハ、政府ハ徒ニ組合ヲ彈壓スルモノデアアル勞働者ニ對シテ彈壓ヲ加ヘルモノデアルト云フ非難ガ起ルノデアリマセウ、又産業家ノ方カラハ、政府ハ此爭議ノ暴動暴行ニ付テ十分ナル取締ヲシテ呉レナイ、甚ダ不徹底デアアル、斯ウ云フヤウナ非難ガ起ッテ、兩方カラ其非難ト云フモノガ續出イタシマシテ、隨分御迷惑ナ立場ニ御立チニナルノデアラウト思フノデアリマス、ソコデ内務大臣ハ昨年ノ秋頃ヨリ此勞働爭議ノ惡化スルト云フコトヲ御認メニナッテ此儘ニシテ置イテハイカヌカラ出來ルダケ嚴重ニ取締ルト云フヤウナ御訓令ヲ發シラレテ居リマシテ、爾來サウ云フ方針ヲ以テ色々御取締ニナッテ居リマスガ、此取締タルヤ一面ニ於テハ勞働組合若クハ勞働者ノ側カラハ、内務大臣ニ向ッテ彈壓ガ過ギルト云ッテ書々タル非難トナリ、又事業元ノ

方カラハ取締リガ不足デアアル、不徹底デアアルト云フ非難ガ起テ居ルノデアリマス、私ハ安達内務大臣ハ永久ノ内務大臣トハ思フテ居リマセヌ、若シ永久ニ安達内務大臣ガ内務大臣デ御在リニナレバ幾分カ恕スベキデアリマスガ、併ナガラ内務大臣ハ又何時御更リニナルカ知レマセヌカラ、内務大臣ガ俺ガ、自分ガ居ル限リハ大丈夫ダト云フヤウナコトヲ仰セラレマシテモ、之ニ付テ十分ニ安ンジテ左様デゴザイマスカト云フテ、安ンジテ居ル譯ニハイカヌノデアリマス、マアソレハ議論デアリマス、議論デアリマスカラハ別問題ト致シマシテ、私ハ茲ニ内務大臣ニ御伺ヒ致シタイコトガアルノハ、私ハ選舉法ヲ調ベテ見マシタ、此選舉法ヲ調ベテ見マシタ所ガ内務大臣ハ、勞働爭議ノ方ハ一般法デアルカラ、特ニ爭議取締法ヲ設ケル必要ガナイト仰シヤル、併ナガラ選舉法ノ方ニハ一般現行法ガアルニモ拘ラズ、選舉取締ニ付テ色、ナ細密ナ、且ツ嚴重ナル取締ノ規定ガ何箇所モ何十箇所モアリマシテ、殆ド此選舉法ト云フモノ、大部分ガ取締法ト申シテモ宜イヤウナ工合ニ色、ナ規定ガ細密ニ嚴重ニ規定シテアリマス、其中ニ主ナルモノヲ此處デ申上ゲテ見タイト思ヒマス、即チ今日我國ニ於キマシテ勞働爭議ニ付キマシテ、最モ非難攻撃ヲ集中セラレテ居リマスル問題ハ御承知ノ金一封問題デアリマス、即チ勞働爭議ニ際シマシテ所謂勞働「プロローカー」ト申シマスル者、或ハ勞働運動者ト申シマスル者ガ此金一封ト云フモノヲ授受イタシマス、是ガ即チ或場合ニ於テハ大部分勞働者ノ懐ロニ入ルコトモアリマスルガ、或場合ニ於テハ大部分此中間ニ居リマスル所ノ運動家ノ懐ロニ入ルノデアリマシテ、之ガ爲ニハ之ヲ出ス所ノ事業家モ非常ニ迷惑シテ居リマスルガ、之ガ爲ニ損害ヲ被ル所ノ勞働者モ非常ニ之ヲ慨歎シテ居リマス、一タビ此勞働爭議ニ際シテ此金一封ノ爲ニ惱マサレタ所ノ勞働者ハ、此勞働爭議ハモウ懲リ懲リデアアル、再ビ勞働爭議ナドハスルモノデナイト、斯ウ申シテ居ル位ニ、金一封問題ト云フモノハヤカマシイ問題ニナッテ居ルノデアリマス、所デ之ヲ先ヅチヨット法律的ニ申シマシタナラバ、罷業ヲ爲サシメタリ又ハ爲サシメザル目的ヲ以テ、勞働者又ハ組合ノ役員ニ對シテ金錢物品其他財産上ノ利益ヲ提供シタルトキ、斯ウ申シマスカ、之ヲ又組合ノ役員ガ罷業ヲ爲サ

シメントシ、又ハ罷業ヲ中止セシメントシテ勞働者ニ對シ同様ノ行爲ヲ爲シタルトキ、是ハ一般法ニ於テ之ヲ取締ルコトガ出來ルト内務大臣ハ御話ニナッテ居リマスルガ、是ハ其衆議院議員選舉法ノ第一百十二條ニ於キマシテ、同様ノ行爲ニ對シマシテハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ヲ科スルト云フコトニナッテ居リマスガ、唯此規定ガアルバカリデ御満足ニナラナイデ、先般樞密院ニ御提出ニナリマシタ所ノ選舉法ノ改正案ノ中ニハ、更ニ此罰ヲ二年以下ト云フノヲ五年以下ト御改正ニナッテ居ルト云フコトヲ承ハッテ居リマシタ、即チ勞働爭議ニ對シテハ斯ウ云フ取締ガ必要デナクッテ、選舉法ニ於テハ何故ニ斯ウ云フ規定ガ必要デアリマスカト云フコトヲ一ツ承ハリタイ、ソレカラ次ニハ罷業者、組合役員ガ罷業ヲ爲サシメントシテ勞働者ニ暴行若クハ威力ヲ加ヘ之ヲ拐引シタルトキ、即チ勞働者ヤ罷業者若クハ組合ノ役員ガ罷業ヲ爲サシメントシテ罷業者ニ反對ノ勞働者ニ向テ威力ヲ加ヘタリ、暴行ヲ加ヘタリ、誘ヒマシタ時ニハ選舉法デハ第一百五條ヲ以テ之ヲ罰シテ居リマス、英國ノ勞働爭議取締法ナドニ於テモ之ヲ罰スル規定ガゴザイマス、然ルニ勞働爭議ニ於テハ何故ニ之ヲ取締ルコトガ必要デアリマセヌカト云フコトヲ伺ヒタイ、是ハ勞働爭議ニ於テハ始終起ルコトデアリマシテ、茲ニ爭議ガ起リマスルト云フト、爭議ニ贊成ノ勞働者モアリマスシ、之ニ反對スル勞働者モアル、此場合ニ於テハ双方ガ常ニ暴行トカ、威力トカ、或ハ之ヲ拐引スルトカ云フヤウナコトノ爲ニ非常ナ紛議ヲ起シ、騒動ヲ起シ、暴行威力ガ伴フノデアリマシテ、是ガ爲ニ爭議ト云フモノガ混亂ニ陥ルノデアリマス、デ是ガ何故ニ選舉法ニ必要ニシテ勞働爭議ニ必要デアアルカト云フコトモ承リタイ、罷業者組合役員ガ不穩ナル舉動ニ依リ他人ヲ見張り又ハ他人ニ尾行シテ就業ノ自由ヲ妨害シタル時、即チ是ハ所謂「ピケッチング」ト云フヤウナモノデアリマシテ、勞働者ガ其爭議ニ反對スル所ノ勞働者ノ後ヲ尾行イタシマシタリ見張り附ケマシタリシテ、ソレヲ妨害スル、其自由ヲ……就業ノ自由ヲ妨害スル目的ヲ以テ此見張り付ケタリナド致シマスル所ノ行爲デアリマス、是ハ選舉法、第一百五條ハ選舉ニ關シテ交通若クハ集會ノ便ヲ妨ゲ又ハ演説ヲ妨害シ其他偽計詐術等不正ノ方法

ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害スル行爲ヲ罰スルト云フコトニナツテ居リマス、是ハ若シ選舉法ニ斯ウ云フ必要ガアルナラバ勞働爭議ニ何故ニ必要ガナイカト云フコトモ承リタイ、ソレカラ示威ノ目的ヲ以テ他人ノ住宅ノ附近ニ多衆集合シ徘徊シ又ハ喧噪ノ行爲ヲナスコト、是ハ始終、此勞働爭議ニ於テハ事業主ノ住宅附近ニ所謂示威運動ヲ行ヒマシテ、多衆集合シテ喧噪ノ行爲ヲナスコト云フヤウナコトハ殆ド常習ノ手段デアリマス、是ガ爲ニ事業主ハ非常ナ迷惑ヲ蒙ツテ居ルノデアリマシテ、之ヲ始終警察ニ訴ヘテ其取締ヲ依頼シテ居ルノデアリマス、デ此行爲ハ、選舉法ハ第二百二十四條ニ選舉ニ關シ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、松明ノ類ヲ用ヒ若クハ鐘鼓喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用フル等氣勢ヲ張ルノ行爲ヲ罰シテ居ル、選舉法ニハ斯ウ云フ風ニ綿密ニ規定シテアリマス、其次ニハ多衆ヲ以テ執拗ニ面會ヲ強要シ又ハ強談、威迫ノ行爲ヲ爲スコト、是ハ始終勞働爭議ニ對シテハ相當警察ナドカラ……此事業主ニ執拗ニ面會ヲ強要シマシテ強談威迫等ヲ行フコトモ是モ始終行ハレテ居ル所ノ手段デアリマスガ、選舉法ハ之ニ對シテハ戸別訪問スラ禁ジテ居ル、斯ウ云フ工合ニ選舉法ニ於テハ之ヲ禁ジテ、特別法ヲ以テ之ヲ禁ジテ居テ、勞働組合、此勞働爭議ニ於テハ之ヲ規定スル必要ガナイト云フノダカラ、ドウシテモ了解ガ出來ナイ、尙ホ其外ニ罷業ニ關シテ銃砲、刀劍、棍棒其他ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルベキ物件ヲ携帯シタルトキ、是ハ其爭議ノ時ニ始終其銃器ヲ携帯イタシマシタリシテ、或ハ事業主、或ハ「ストライキ」ノ「ストライキ」破リト申シタヤウナ、詰リ「ストライキ」ニ反對スル所ノ勞働者ヲ強迫シテ居リマス、ソレヲ選舉法ニ於テハ第二百二十一條之ヲ罰シテ居リマス、ガ併シ爭議ノ方ニ於テハ是ハ必要デナイト云フコトデアリニナルノデアリマスカラ、此必要デナイト云フコトヲ承リタイ、ソレカラ又勞働爭議ニ於キマシテハ營業ヤ作業ノ妨害ヲスル、爭議ノ時ニハ必ズ其工場主ニ對シテ非常ナ妨害ヲ致シテ居リマスルガ、其作業ノ妨害ヲ致シテ居リマスル、之ニ對シテ選舉法ニ於キマシテハ第二百二十六條ニ演說又ハ新聞紙雜誌、引札、張紙其他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ノ身分職業經歷ニ關シ虚偽ノ事項ヲ公ニスルコトヲ罰

スル、斯ウ云フ工合ニシテ選舉法ニ於テハ罰シテアリマス、其外マダ譯山斯ウ云フ條項ガゴザイマスルガ、餘リ長クナリマスルカラ、アトハ省略イタシマスガ、マア右申上ゲマシタヤウナ、選舉法ニ於テハ此必要ガアツテ爭議取締法ニ於テハ此必要ガナイ、斯ウ云フコトハ法律上ノ知識ノナイ所ノ私共ニハドウシテモ了解ガ出來ナイカラ、ドウゾ此席上ニ於キマシテ其理由ヲ、何故ニ必要ガナイカト云フ理由ヲ明瞭ニ一ツ承リタイト思ヒマス

(後略)

○國務大臣(安達謙藏君)(前略)

ソレカラ第三問ト致シマシテ勞働爭議取締法ヲ制定スルコトヲ必要トセヌカト云フ御尋デアリマス、是ハ獨リ藤原サノノミナラズ實業家ノ各方面ノ要求セラレタ聲デアリマス、私有リ體ニ申シマス、藤原サンモ自分ハ法律ノコトハ詳しくクナイト云フ御言葉デアリマシタガ、同様ニ私モ法律ノコトハ詳しくアリマセヌカラ、私ハ虚心ニ此事ニ付テハ或ル場合ハ實業家ノ希望ガ當然デナカラウカト云フコトヲ考ヘテ見マシタ、サウシテ専門家ノ各方面ニ就テ質シテ見マシタ、質シテ見マシタ所ガ、是ハ司法省或ハ警保局或ハ辯護士等法律家ノ方々ニ聞イテ見マシタ、我國ノ法制ノ上ニ於テハ茲ニ特別法ヲ規定スルノ必要ハナイト云フコトニ皆一致ヲイタシテ居リマス、ソレハ取締ノ上ニ於テハ第一刑法ガアル、治安維持法、治安警察法、或ハ行政執行法、警察犯處罰令、暴力行爲等ノ處罰ニ關スル法律、勞働爭議調停法モ其中ニ加ハリマス、斯ウ云フ各種ノ法律ガアルカラ特別ニ此外ニ勞働爭議取締法ヲ設ケルノ必要ハナイト云フコトヲ各方面ノ意見ヲ徵シマシテ同一ニナツテ居リマスカラ、ソレデ勞働爭議取締法ヲ設ケルコトハ必要ハナイト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレナラバ選舉法ニハ特別ノ取締ガアルノニ勞働爭議ニハ何故取締ラナイカト云フ御尋デアリマス、選舉法デハ普通ナラバ罪ニナラナイ事スラ罪ニナルコトガアリマス、故ニ特ニ選舉法ハ普通ナラバ罪ニナラナイヤウナコトデ罪ニナルヤウナコトヲ規定シテ居リマス、勞働運動ニ付キマシテハ一般ニ罪トナラザルコトヲ罪スル

ガ如キコトハ宜クナイト考ヘテ居リマス、金一封ノ御話モアリマシタガ、是モ民間取引ニ於テ收賄罪ノ如キ規定ヲ設ケルコトハ宜クナイデアラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ御話ノ中ノ勞働爭議ヲヤル場合ニ見張ヲスルコトハ宜クアリマセヌ、多數集會スルト云フコトモ宜クナイデスガ、斯ウ云フコトモ暴力威迫ニ關スル實質ガアリマスレバ、是ハ先ニ申シマシタ刑法ナリ其他ノモノニ於キマシテ、暴力行爲等ニ關スル處罰ノ法律ト云フモノデ皆悉ク取締リマス、イツカ大阪ノ實業家ノ團體カラデアリマシタカ斯ウ云フコトヲ例示シテ居リマシタガ、一々ソレヲ取調ベテ見マスト悉クドノ法律ニカ當嵌マルト思ッテ居リマス、例ヘバ武器ノ携帯ニ對シテ御話ガアッタ、是ハ銃砲火藥類取締ノ法ガアリマスカラ、此法律ニ取締ノ規定ガアリマス、要シマスルニ此勞働爭議取締法ヲ特ニ設ケル必要ガナイト云フコトヲ感ジタ次第デアリマス

(後略)

○伯爵有馬頼寧君 (前略)

此法案ノ中デ世間デ問題ニナッテ居ル條文ガモウ一ツアルノデアリマス、ソレハ今度ノ法案ニハ這入ッテ居リマセヌガ、社會局ノ原案ノ第十三條ニ所謂免責規定ト云フモノガゴザイマシテ、之ハ爭議ニ依ッテ損害ヲ與ヘタ場合ニ、所謂組合側幹部側ニ於テ其損害ヲ賠償スルト云フ責任ハナイノダト、所謂免責規定ト云フモノガ從來社會局ノ案ニハアッタノデアリマスガ、今度ノ案ニハ之ガ取ラレテ居リマス、之ハ大分異論モアリマスシ、反對モアッテ、結局削除サレタノダト思ヒマスガ、勞働者カラ「ストライキ」ト云フモノヲ奪ッテシマウト云フコトハ……此條文ハ決シテ奪フト云フコトニナッテ居ル譯デハアリマセヌ、併シ此規定ヲ取ッテシマッタト云フコトハ或ル程度ニ於テ勞働者ニ非常ナ脅威ヲ與ヘルモノダ、所謂「ストライキ」ト云フモノガ、事實上不可能ニナル、實際困難ニナルト云フコトデアラウト思ヒマス、私ハ決シテ暴力的ナ「ストライキ」或ハ暴行脅迫ト云ッタヤウナ風ナコトヲ決シテ宜イト云フノデアリマセヌ、ケレドモ勞働者カラ

「ストライキ」ト云フ手段ヲ取ッテシマッタナラバ、勞働者ノ闘フ所ノ武器ト云フモノハ一ツモナイノデアリマス、此「ストライキ」ヲ出來ルダケ正シク、外國ノ本當ノ所謂「ストライキ」ノヤウニナサシメルト云フノガ所謂導ク道デアッテ、サウ云フモノヲ全部取去ッテシマッテ行ッタナラバ、其處ニ何ガ生レテ來ルカト云ヘバ、ソレハ直接行動デアリ潛行的ナ非常ナ恐ルベキ手段ニ依ルヨリ外ニ道ガナイト思フノデアリマス、此免責規定ガナイガ爲ニ、私ハ所謂勞働組合ノ罷業權ト云フモノガ確立サレナイト云フコトガ、一面ニ於テ只今申シ上ゲタヤウニ勞働組合ノ運動ト云フモノガ非常ニ暗クナル虞ガアル、明ルイ運動デナクテ非常ニ陰慘ナ運動ニナッテ來ル虞ガアルト云フ風ニ私ニハ見エルノデアリマスガ、何ガ故ニ此所謂免責規定ト云フ大事ナ條文ヲ御除キニナッタノデアリマス、其點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス

(後略)

○國務大臣 (安達謙藏君) (前略)

ソレカラ元ノ社會局ノ十三條、即チ免責規定、之ヲ削ッタノハ宜クナイト云フ御尋デアリマス、其論モ確ニ世ノ中ニアリマスガ、社會局ノ彼ノ十三條ノ免責規定ハ、アレハ單ニ爭議責任ノ一部ニ觸レタルニ過ギマセヌ、是レバカリデハ爭議責任ノ範圍ガ明瞭ニナッテ居リマセヌ、尙ホ我が國ニ於キマシテハ、組合又ハ組合員ガ爭議ニ依ル損害ノ賠償ヲ請求シタ所ノ實例モアリマセヌ、此點ハ爭議責任ニ關スル問題トハ別途ニ攻究シタキ考デ居リマス

(後略)

第五十九回 帝國議會 貴族員本會議勞働爭議調停法中改正法案

第一讀會(前回ノ續)

昭和六年三月十九日(木曜日)午前十時二十一分開議

○伯爵有馬頼寧君 (前略)

尙ホ今回モ此前ト同ジヤウニ勞働組合法ニ伴ッテ爭議調停法ノ改正案ガ提出サレマシタ、世間デハ此爭議調停法ノ提出ニ對シテ、多少ノ疑念ヲ有ッテ居ルヤウニ聞キ及ンデ居ルノデアリマス、ソレハ勞働組合法ト云フモノハ、ズット前カラ此案ガ世間ニ出サレテ、所謂輿論ニ問ハレタノデアリマスルガ、爭議調停法ト云フモノノ改正案ト云フモノガ出ルト云フヤウナ噂ハ、最近マデ全然ナカッタノデアリマス、私共新聞ヲ通シテ見マシテモ、又其他ノ機會ニ於キマシテモ勞働組合法ハ提出サレルト云フヤウナ噂ハアリマシタケレドモ、爭議調停法ノ改正ガ行ハレルト云フヤウナコトハ、殆ド此法案ガ提出サレル間際マデ私共ハ聞カナカッタノデアリマス、世間デハ此爭議調停法ノ改正案ニ付テ斯ウ云フ噂ヲシテ居リマス、資本案側カラ勞働組合法ト云フモノガ非常ニ進ミ過ギテ居ルカラシテ、是非爭議取締法ト云フモノヲ之ニ伴ッテ出ス必要ガアルト云フコトヲ非常ニ主張シテ居ル、併ナガラ政府トシテハ爭議調停……取締法ト云フモノヲ出スコトハ同意ガ出來ナイ、斯ウ云フ風ニ言ハレマシタ結果、爭議取締法ヲ出ス代リニ所謂爭議調停法ヲ改正シテ、之ニ依ッテ所謂爭議取締ノ目的ヲ達スルンダ、斯ウ云フ風ニ世間デハ噂ヲシテ居ルノデアリマス、果シテサウデアルカドウカ私ハ存ジマセヌガ、實際ノ法案ノ提出ノ徑路ヲ考ヘテ見マスルト、其噂ガ或ハ眞デハナイカト云フ風ニ私共ニモ思ハレルノデアリマス、ソレハ爭議調停法ノ改正ノ要點ニ付テ考ヘテ見マスルト云フト、所謂公益事業デナイ所ノ

私益事業デモ強制的ニ之ヲ調停スルコトガ出來ルト云フ風ニナッテ居リマスルシ、又公益事業ノ爭議ノ所謂罷業ノ場合ニハ、豫メ之ヲ通告シナケレバナラヌトカ何ントカ云フヤウナ非常ニ難カシイ規定ガ設ケラレルコトニナリマス、是ハ要スルニ所謂勞働者側ノ武器デアアル所ノ「ストライキ」ヲ殆ド不可能ナラシメルト云フ結果ニナルヤウニ考ヘラレルノデアリマス、サウ云フコトカラ歸納シテ參リマスト云フト、此爭議調停法ノ改正ト云フモノガ世間ノ言フ所ノ所謂爭議取締法ト同ジ目的ヲ持ッテ居ルノダ、同ジ所ニ歸著スルノダト云フ風ナ噂ガ必シモ單ナル疑デハナイヤウニ考ヘラレルノデアリマス其點ニ付テ政府ノ御答辯ヲ煩ハシタイト思ヒマス

(後略)

○國務大臣(安達謙藏君) (前略)

ソレカラ第二ノ御問ノ爭議調停法ニ關スルコト、之ニ付キマシテハ世間ノ噂話ヲ以テ、此調停法ヲ出シマシタコトニ付テノ御判斷ヲ下サルコトハ、私ハ間違ッテ居ルト考ヘマス、今マデ行ハレテ居リマシタ所ノ爭議調停法ナルモノガ不備ノ點ガアリマシテ、昨日モ申上ゲマシタヤウニ既往五箇年間ニ僅ニ二回ダケ外、アノ調停法ヲ利用スルコトハ出來ナイト云フヤウナ状態デアリマスカラ、其不備ヲ補ハムガ爲ニ今度改正イタシタ次第デアリマス、御話ノヤウニ「ストライキ」ヲ不可能ナラシメルト云フヤウナコトハ全然無イノデアリマシテ、此爭議ノ取締ト云フコトヲ企ツルノデハナイノデアリマシテ、唯爭議ノ圓滿ニ迅速ニ解決セムコトヲ期スル爲ニ調停法ヲ作ルノデアリマシテ、決シテ「ストライキ」ヲ不可能ナラシメルト云フコトハナイ、爭議ハ成ベク圓滿ニ、成ベク迅速ニ治マルヤウニスルト云フ其方法ヲ規定シタニ過ギマセヌカラ左様御承知ヲ願ッテ置キマス

○赤池濃君 (前略)

近來勞働爭議ガ頻發イタシマスコトハ誠ニ産業ノ爲ニ遺憾ニ堪ヘマセズ、殊ニ悪性ノ爭議ガ往々ニシテ現ハレマスノ

ハ國家ノ爲ニ眞ニ憂慮ニ堪ヘマセヌノデアリマス、而シテ此爭議ノ實況ヲ見マスルト云フト、爭議ハ其工場内ニ於ケル所ノ大多數ノ人ニ依ッテ起サレヨリハ寧ロ少數ノ人ニ依ッテ起サレコトガ多イ、中ニハ全ク工場外ノ人ニ依ッテ起サレル實例モアリマス、是ハマア極メテ例外デアリマスガ、兎ニ角サウ云フコトモアル、斯ノ如キハ殆ド外國ニ於テハ想像モ付カヌコトデアラウト思フノデアリマス、而シテ爭議ガ一旦發生シタ後ニ於テハ、其工場内ノ職工ハ專心一意其爭議ニ付テ、勞働ノ改善ノ爲ニ努力スベキ筈デアリマスニ拘ラズ、事實ハ之ニ反シテ所謂爭議團ト云フモノガ出マシテ、爭議ハ大抵爭議團ノ手ニ引渡サレテ、爭議團ガ責任ヲ以テ資木家側ト交渉スルト云フノガ實例デアルノデアリマス、其爭議團ト申シマスモノハ、工場内ノ人モアリマスルケレドモ、工場外ノ人ガ來マシテカラシテ、サウシテソレヲヤリマス、或ハ工場外ノ人ニ依ッテ其爭議團ガ指導サレルコトガ多イノデアリマス、所謂勞働組合ノ幹部其他ノ人ガヤッテ參リマシテ、爭議團ノ指揮ヲ執ッテ居ルト云フノガ多ク見ル所ノ實例デアルノデアリマス、而シテ工場内ノ職工ハ手ヲ拱イテ、ドウ云フ結果ニナルカト云フコトヲ待ッテ居ル譯デアッテ、唯指揮命令ノ下ニ於テ成行ヲ待ッテ居ルト云フノガ多イ、直接利害關係ガナイ所ノ人ガ爭議ヲスルト云フコトハ、是ハ原則デアリマセウカ、確ニ是ハ變態ト考ヘナケレバナラヌト思フ、其昔、爭議ノ日本ノ歴史ヲ見マスルト云フト、外部ノ人若クハ「インテリゲンチヤ」若クハ勞働運動ノ指導者ナル者ガ勞働者ヲ指導シ、勞働爭議ヲ起サシメタコトガアリマスガ、ソレノ遺物ダト云ヘバソレ迄デアリマスケレドモ、是ハ唯過渡時代ノ現象トシテ單純ニ見逃スコトガ出來ルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、工場ニ付テ格別縁故ガナイ人ガ爭議ヲスル際ニ於テ、工場ニ對シテ深切ナ態度ヲ取ルコトガ出來ルカト云フコトハ、是ハ甚ダ疑ハシイコトデアリマス、我々ハ屢々外國ニ於ケル爭議ノ例ヲ聞イテ居ル、外國ノ爭議ト云フモノハ勞働條件ノ改善若クハ向上ニ付テノ爭議ヲ起ス、産業本位ニ於テ起ス、從ッテ爭議ヲスル際ニ於テハ、先ヅ機械ノ銷止メヲシテ、ソレデ以テ機械ノ損失ガナイト云フヤウナ風ニシテ、又ソレガ爲ニ將來自分達ノ本義ヲ失ハナイト云フヤウナ精神ヲ持ッテ居

ル、爭議ハ爭議、所謂勞働條件ノ改善ハ勞働條件ノ改善ヲ以テスル、産業ハ何處マデモ保護シナケレバナラヌト云フ立場デヤッテ居ル例ヲ屢々聞イテ居リマス、然ルニ我國ノ爭議ヲ見マスと云フト、大抵ノ場合ニ於テハ、機械ニ對スル所ノ或種ノ破壊ガ行ハレテ居ル、機械ニ向ッテノ最善ノ注意ヲ盡スト云フ風ナコトハ殆ド聞カナイノデアアル、我々ガ若シ本當ニ、唯勞働條件ノ改善ヲ目的トシテ爭議ガ起サレルナラバ、決シテ今日ノ如キ、現在ニ見ルガ如キ爭議ガ起ラナイダラウト思フノデアリマス、爭議中ニ於テハ屢々示威運動ガ行ハレマス、外國ノ示威運動ニ付キマシテハ、唯所謂行列ガアルトカ何トカノ示威運動ガアルダケデアリマシテ、ソレニ付テハ殆ド何等ノ暴行モ伴ヒマセケレドモ、我國ノ示威運動ニ付テハ、必ズヤ一種ノ暴行ガソレニ伴ッテ起ルト云フノハ、是ハ事實デアリマス、此暴行ヲ大目ニ見テ居レバ、警察ハ萬歳ト禮讚サレル、若シ之ヲ取締リヲシャウトスルト、是ハ警察ハ彈壓スルト云ッテ非難サレルノデアアル、先日來内務大臣ハ爭議ニ對シテ八十分ノ取締ヲスルト仰セラレテ居リマスガ、十分ヲ取締リガ出來テ居レバ誠ニ結構デアリマス、私共何ヲカ言ハムヤデアリマス、多分御報告ヲ見テノ御答辯ダラウト思フ、然ラザレバ實際爭議ヲ御存知ナイ人ノ言ダト思フノデアリマス、是等ハ平穩ノ爭議ニ於テ現ハレル現象デアリマス、惡性ノ爭議ニナリマスと云フト、決シテコンナ生マヤサシイモノデアリマセヌ、其程度ニハ色々差ハアリマセウケレドモ惡性ノ爭議ニ於テハ、必ズ大ナル損害ヲ與ヘ、往々治安ヲ紊ルモノガアルト云フコトハ、是ハ内務大臣モヨク御承知ノコトダラウト思フ、惡性ノ勞働爭議ニ於キマシテ、常ニ見ル所ノ現象ハ暴行、脅迫、革命歌ヲ歌フ、不穩文書ヲ散布スルコトガ、是ガマア定石ト申シテモ差支ヘナイト思フ、暴行脅迫ハ昨日モ藤原君ノ御話ガアリマシタガ、勞働爭議ニ於ケル所ノ戰術ノ一ツト思フノデアリマス、所謂赤色「テロ」ト云フモノノ中ニ網羅サレルモノデアリマシテ、是ハ消極、積極ノ色々ナ方法ニ依リマシテ、資木家ノ心膽ヲ寒カラシムル、其闘フ志、所謂闘志ヲ碎クニ役立つモノデアリマシテ、比手段方法ハ近來益々巧妙ニ赴イテ來マシテ、唯資木家ノ人ニ對スルノミナラズ、資木家ノ妻子ニ對シテモ、種々ナルコトヲ致シ

マシテ、其心理状態ヲシテモウ堪ラナイ、是デヤモウ、此爭議ガドウナラウト、斯ウナラウト一日モ早ク爭議ヲ終了シタイモノダト云フヤウナ風ノ心ヲ起サシメルヤウナ風ニ仕向ケテ參ッテ居リマス、赤色「テロ」ヲ以テ心理状態ヲ左様ニ導イテ居ルト云フコトハ、是ハ現在ノ狀況デアリマス、而シテ此赤色「テロ」ハ爭議ノ際ニ於テ非常ナ威力ヲ發揮シテ居ルニ拘ラズ、動モスレバ世人ハ兎角之ヲ閑却シ、又之ヲ知ラナイ振ヲシテ居ルヤウナ風ノコトガアル、或ハ思想ヲ以テ闘フベキモノデアルトカ、勞働條件ハ當事者ノ自由任意ニ解決サスベキモノデアルトカ云フ風ノコトヲ言ッテ、唯概念論ヲ以テ爭議ヲ觀察シテ居ルノデアリマス、デ是ハ如何ニモ實際ヲ見ナイ所ノ議論デアリマシテ、是ガドウデアリマセウカ、實際ニ爭議ハドウ云フ風ノ働キヲシテ、サウシテ其心理状態ヲ動カサレテ、サウシテドウ云フ風ノ苦痛ヲ感じテ解決シヤウトシテ居ルノデアルト云フコトヲ、全ク知ラナイ所ノ議論デアルノデアリマス、思想ハ思想ヲ以テ對抗スルモノデアリマスルガ、一方ノ方ニ於テハ思想「ブラス」或暴力若クハ脅迫デアルノデアリマス、ソレヲ以テ對抗シテ居ルト云フ事實ヲ忘レテハ、總テ勞働運動ナリ他ノ爭議ノ狀況ハ本當ノコトハ分ラナイノデアリマス、ソレヲ取締ッテ、サウシテ兩方同ジヤウナ風ナ水平ニ置イテコソ、初メテ自由意思ヲ以テ任意ニ解決スルコトガ出來ルノデアリマス、一旦其コトヲ失ッテ居ル以上ト云フモノハ、決シテ其自由任意ニナルトハ申サレナイノデアリマス、此點ハ爭議ヲ論ズル際ニ於テ必ズ考ヘテ置カナケレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマス、又總テ論戰ノ間ニ於テ警察ノ不取締ナントカヲ皆サンガ論ジテ居ルト云フノハ、其點ニ重キヲ置イテ言ハレテ居ルノデアリマス、内務大臣モ勿論其聲ヲ御聞キニナルコトガ必要ダト思ヒマス、資本案ノ方ニ於テ、若シ或力ヲ借リタナラバ直グ暴力團ト非難サレル、ダカラシテ何か自衛ノ方法ヲ講ズルコトサヘモ困難ナ狀況デアアル、警察ガ何カスルト云フト、取締ルト、彈壓ダト言ハレルモノデスカラ、警察官モ成ルベク手心ヲ加ヘルト云フ風ノ狀況モアルノデアリマス、是ガ屢、此論戰ノ跡ヲ見マシテ、速記録ニ現ハレテ居ル所ノ議論ノ起ル所以ダト思フノデアリマス、革命歌ノ何モノタルカト云フコトニ付

キマシテハ、是ハ言フ迄モアリマセヌ、少シク革命歌ノ内容ヲ知ッテ居リマス者ハ、實ニソレヲ口ニスルコトサヘモ憚カリマス、私ハ此際ドウ云フ風ニ革命歌ガ歌ハレテ居ルカ、ドウデアアルカト云フコトハ申シマセヌ、兎ニ角爭議ノ際ニ於テ、革命歌ト云フモノガドウ云フ風ニ勞働者ヲ結束セシメ、勞働者ノ士氣ヲ鼓舞シ、サウシテ或一種ノ作用ヲ起シテ居ルカト云フコトヲ知レバソレ澤山ダト思フノデアリマス、此點ハ内務大臣ガ詳シク御承知ノコトダト思ヒスカラシテ私ハ繰返シマセヌ、不穩文書ニ付テ申シマシタナラバ、是ハ尙更ノコトデアリマス、私共ハ不穩文書ノ内容ヲ詳シク申上ゲルニ忍ビマセヌノデアリマス、餘リニ我々トシテハ恐懼ニ堪ヘナイコトガ澤山書イテアルノデアリマスカラ、此壇上ニ於テ私ガ此事ヲ申スコトハ出來マセヌノデアリマス、併シ如何ナル險惡ノ性質ノモノデアアルカ、ドシナコトガ書イテアルカト云フコトハ、御判斷ニ任セマス、デ爭議ノ際ニ於テハ其爭議ノ外ニ必ズソレニ附隨シテ、私ガ口ニスル能ハザル所ノ文句ヲ書イタ所ノ宣傳「ピラ」不穩「ピラ」ガ盛ニ頒布サレテ居ルノデアリマス、昨日藤原君ノ質問ニ對シテ内務大臣ハサウ云フモノハ皆俺ノ方デ以テヨク取締ッテ居ルト云フ御話ガアリマシタ、内務大臣ノ取締ト云フモノハドウ云フ意味ノ御取締デアアルカ、一旦配布サレタモノヲ、散ラサレタモノヲ、御集メニナツタリ、散ラサレタ後ニ於テ、ソレデ以テ取締ヲサレタコトデモアリマスマイ、不穩文書ノ配布前ニ於テドノ位官憲ノ手ニ於テソレガ差押ヘラレタノデアアルカ、撒カレタ後カラソレヲ拾ッタカラト云ッテ、是ガ取締ト云フコトハ決シテ申サレナイノデアリマス、尙ホ一步進メテ申シマスレバ我々ハサウ云フ不穩ピラガ散布セラレナイ前ニ於テ、十分ニソレガ差押ヘラレルコトヲ希望シマス、其以上ニサウ云フヤウナモノヲ散ラスト云フヤウナ風ノ思想ガ起ラナイヤウニ、又ソレニ書イテ、文字ニ表ハシテ居ルヤウナ風ノ思想ガナイヤウニト云フコトヲ、本當ニ取締ッテ貰ヒタイト思ヒマス、是ハ内務大臣ダケノ力デハ無論イキマセヌ、國家總動員ノ力ヲ以テ、ソレ位ノ覺悟ヲ以テヤラナケレバ此コトハ出來マセヌデアリマスルケレドモ、其ヤウナ風ニ心ヲ用キテ貰ヒタイト思フ、書イタモノヲソレヲ押ヘタカラト云ッテ是デ取締ガ

出來タト云フ風ノコトデアッタナラバ、餘リニ人ヲ馬鹿ニシテ居ル所ノオ話ダト思フ、不穩文書ノ配市ナリ若クハ革命歌ナリ、其他色々ノコトニ付キマシテ中々イヤナコトガ澤山アリマス、併シ是ハ官憲モ餘リ口ニシテ居ラナイ、私共モ之ヲ口ニスルコトヲ憚リマス、始終是ハ沈黙ヲ守ッテ居リマシタ、是ハ言フヨリハ言ハナイ方ガ利益ダト考ヘテ居リマス、國家ノ爲ニ利益ト考ヘテ居リマスモノデアリマスカラシテ、從來ハ沈黙シテ申シマセヌデアリマシタ、併ナガラ今日ハ勞働立法ヲ議スル時デアアルノデアリマス、政府ノ原案ニ依リマスルト云フト、勞働組合ヲ保護シ、此勞働運動ヲ是認シテ之ヲ保護シヤウトスル所ノ問題デアアルノデアリマス、サウ云フ時デアリマスルカラシテ、此現在ノ勞働運動ガドウ云フモノデアアルカト云フトノ真相ヲ明カニシテ、サウシテ居ラナカッタナラバ、多勢ノ人ガ判斷ヲ誤ル虞レガアルト思フノデアリマス、唯暗黒面ヲソレヲ隠シテシマッテ居ッテ唯斯ウ云フ風デアアル、單純ナル勞働運動ノヤウナ風ニ裝ウテ、サウシテ何カ言ッテ居ルナラバ、人ヲシテ勞働爭議ノ真相ヲ誤ッテ、同時ニ此法案ヲ議スル時ニアッテ、肝腎ノ判斷ヲ誤ラシムル虞レガアルモノデアリマスカラシテ、私ハ已ムヲ得ズ此席ニ於テ此事ヲ言ハナケレバナラヌ羽目ニ迫ラレタノデアリマス、誠ニ已ムヲ得ザルコトデアアルノデアリマス、尙ホ甚シキニ至リマシテハ、現今ノ爭議ノ惡性ナルモノハ革命ノ豫行演習ト稱シテ、サウシテ殺傷……人ヲ殺シタリ傷ケタリ致シマストカ、放火モ致シマス、掠奪モ致シマス、機械ノ破壊ハ勿論ノコト、サウ云フヤウナ風ノコト迄致シマスルシ、更ニ鐵砲ノ彈丸ガ飛ブト云フヤウナ風ノコトモアルノデアリマス、或ハ又街路ニアル所ノ電燈ヲ壞シテ市街ヲ暗黒トシテ居ル、サウシテ襲撃ヲ試ミルノデアリマス、市街戰ト稱シテソレヲ敢テスルヤウナ風ノ狀況マデモアルノデアリマス、最モ極端ト稱セラレテ居ル所ノ濱松ノ樂器會社ノ爭議ニ付テ見マスルト云フト、斯ノ如キ狀況ガ續イタコトハ數十日デアリマス、市民ハ戰々競々トシテ其堵ニ安ンゼズ、サシモ般賑ヲ極メタ所ノ市ハ一時ハ全ク死ノ都ノ如ク相成ッタノデアリマス、而モ此爭議ニハ露西亞大使館ノ高官ガ之ニ參與シタト傳ヘラレテ居ルノデアリマス、相當ノ人ノ自白ニモソレガ載ッテ居ルト噂サ

レテ居ル位デアリマス、如何ニ我國ノ勞働爭議ト云フモノガ、ドノ位ノ程度マデ及ンデ居ルカト云フト見マスルト云フト、我々ハ唯之ヲ單純ナル爭議トシテ、ソレデ以テ簡單ニ勞働爭議ナドト簡單ニ取扱フ譯ニ行キマセヌノデアリマス、從ッテ爭議ハ變ジテ騷擾罪トナリ、或ハ傷害罪トナリ、殺人罪トナッテ刑法ニ觸レルコトモ屢アルノデアリマス、現ニ昭和二年以來第一審ノ判決ヲ經タモノモ騷擾罪ガ十件、此人間ガ二百六十五人、殺人罪ガ一件、斯ウ云フ風ナコトガ現ハレテ居ルノデアリマス、勞働爭議ニ於テ、斯ウ云フヤウナ風ノ殺人罪ト云フ風ノモノマデ出テ來ルト云フトハ、是ハ他國ニ於テ殆ド類例ヲ見ナイコトダウト思フノデアリマス、我々ハ之ニ對シテ實ニ憂慮ニ堪ヘナイ、又國家ノ爲ニ眞ニ憂慮ニ堪ヘナイモノガアルト思フノデアリマス、産業上カラハ勿論ノコトデアリマス、斯ノ如キコトハ何カラ發スルカ、衆議院ノ速記録、又昨日藤原君ニ對スル所ノ內務大臣ノ御答辯ヲ承ハリマス云フト、內務大臣ハ資本家ニ不都合ノ點ガアルカラシテ不必要ノ抗爭ヲ起スング、斯ウ云フ風ノ御答辯ガアリマシタ、勞働爭議ノ原因ハサウ云フヤウナ風ニ御話ニナツタ、內務大臣ノ御話ハ確ニ一面ノ事實ダト思フ、我々モ今日資本家ノ態度ニ對シテハ甚ダ不滿ノ點ガ少クナク、資本家ノ橫暴ヲ攻撃スルコトニ付テハ決シテ私共人後ニ落チルモノデアリマセヌ、彼等ノ罪惡ニ付テハ許スベカラザルモノノアルコトモ知ッテ居ルノデアリマス、就中資本「ブローカー」ト云フモノノ罪惡ハ、勞働「ブローカー」ト相竝ンデ、決シテ是ハ容スベキモノデナイト云フトモ思ヒマス、デ資本家ニ對シテハ十分ナ反省ヲ促スト云フトハ、是ハ言フ迄モナイ話デアアルノデアリマス

(後略)

○國務大臣(安達謙藏君) 御答ヘ致シマスガ、赤池君ノ御尋ノ此立法ヲ爲スニ付テハ第一勞働運動ノ現在ノ狀況ヲ精シク承知シテ居ルカト云フトコトガ一ツ、第二ガ勞働運動ノ歴史沿革ヲ承知シテ居ルカ、第三ガ準備行爲トシテ如何ナルコトヲ爲シタカト云フトデアリマシタガ、而シテ勞働運動ノ現在ノ狀況ヲ御話ニナリマシテ精シク御述ベニナリ

マシタ、謹ンデ御話ヲ拜聴シテ居リマシタガ、赤池君ノ御話ハ此日本ノ政黨ノ中ノ無產政黨ト申シマスカ、共產主義者ト申シマスカ、サウ云フ方面ノ無政府主義、共產運動ノコトト、此勞働組合ト混同シテ絶ヘズ御話ニナッタト考ヘマス、或ル所ハ御話ノ中ニ混同シタ所ガアリマス、併ナガラ私ハイツモ申シテ居リマスガ、我國ニ行ハル、「ストライキ」ハ悉ク經濟爭議デアルト申シマセヌ、サリナガラ其「ストライキ」ニ加盟スル人ガ悉ク無產者……共產主義者、無政府主義者カ、サウデハナイノデアリマス、總テ御話ハ一貫イタシテ其點ガ混合サレテ居リマス、之ヲ區別シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、御話ノ色々ナ弊害ガアッタコトハ、御列舉ニナリマシタ、大體ニ於テ私御話ヲ否定ヲ致シマセヌ、其爭議ノ頻發スルト云フコトモ決シテ國家ノ爲、又我國産業ノ爲ニ喜ブベキコトデナイ、又工場内ノ少數ノ人、工場外ノ少數ノ人ニ依ッテ爭議ガ起サレル、ソレモ御話ノ通りデアリマス、爭議團ノ手ニ其爭議ガ引移サレテ云々、サウ云フコトモアリマス、外國ノ爭議ガ産業本位ニ起ッテ居ル、爭議ヲ起シテモ機械ノ銷止ヲスル、ソレモ承知ヲ致シテ居リマス、悉ク日本ノ爭議ガ無政府主義者、共產主義者ニ依ッテ行ハル、カノ如キ御斷定ニナルト云フコトハ、是ハ私ハ誤ッテ居ルト思フ、ケレドモ其裏面ニ潜ンデ居ルコトハ、實ニ詭激ナ思想ヲ持ッテ居ル者ガ居ッテ煽動ヲスルト云フコトモ往々アルノデアリマスカラ、其點ヲ區別シテ取締ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ、私絶ヘズ注意ヲ致シテ居リマス、外國ニテ示威運動ヲスル、暴行ハ伴ハヌ、日本ニ於ケル示威運動ハ暴行ガ伴フ、是モ往々アリマス、日本デ之ヲ取締レバ彈壓ト言ハレマス、度々アリマス、資本金カラ言ハレルト取締ガ足ラナイト言ハレル、今度ハ勞働者ノ側カラ言フト絶エズ安達内務大臣ハ彈壓バカリ致シテ居ルト云フ批評ヲ受ケテ居リマス、サウ云フコトヲ唯報告ヲ見テサウシテ報告ノ儘ヲ答辯スルノデハナイカト云フ御言葉ガアリマシタガ、私ハモウ少シ精シク調査ヲ致シテ居ルト云フコトヲ御答シテ置キマス、唯一片ノ書付ケノ報告ノミニ依ッテ斷定ヲ致スノデゴザイマセヌ、御話ノ惡性ノ爭議ハ無論取締リマス、併ナガラ茲ニ勞働組合法ヲ制定スルニ當ッテ、サウ云フ惡性ノ爭議ガアルカラ茲デ組合法ナドヲ作ル必

要ハナイト云フコトハ言ハレナイ、私ヲシテ率直ニ言ハシムレバ、斯カル惡性ノ爭議ガ起ルカラ茲ニ組合法ヲ制定シテ、其爭議ノ基準ヲ與ヘテヤル、サウシテ正シキ「レール」ニ載セタイ、斯ウ云フ考カラ組合法ヲ制定スル所以デアリマス、現狀ノ惡イ所ハ十分知ッテ居リマス、知ッテ居ルカラ之ヲ取締リタイ、取締ルニ付キマシテハ、御話ノヤウナ思想問題カラ來ル所ノモノハ是ハ別ニ取締ラナケレバナラヌ、唯單ニ勞働爭議トシテ取締ルノデハナイ、是ハ我國ノ治安ニ關スル問題デアリマスカラ、治安ノ上カラ取締ラネバナラヌ、是ト勞働爭議ノ取締ト云フモノハ區別シナケレバナリマセヌ、要シマスルニ御話ハソコヲ混同セラレテノ御話デアリマス、我々ハソコヲ能ク區別シテ、サウシテ今日ノ日本ノ國情ニ適スルヤウナコトヲ致シタイ、サウ云フ憂慮スベキコトガ決シテ無イデハアリマセヌ、其方ノ治安ニ關スルコトハ別ニ取締リマス、サウシテ勞働爭議ハ其爭議ヲシテ正シキ軌道ニ之ヲ載セルヤウニ致シタイト云フコトガ、此法案ヲ提案スル所以デアリマス、斯ル今日ノヤウナ情勢ダカラ、ソレダカラ法案ナドヲ出スト云フコトハ時機デナイト云フヤウナ御考デアッタナラバ、ソコハ間違ッテ居リマス、私カラ申上ゲルト……革命ノ歌云々ト云フヤウナ御話ガアリマシタ、革命ノ歌ハ十分是ハ取締ッテ居リマスカラシテ、サウ云フモノノ發賣頒布ハ勿論禁止シテ居リマス、又嚴重ニ歌ヲ誦フコトヲ取締ッテ居リマス、不穩ノ文書ノコトモ、ソレハ御話ノ通り其不穩ノ文書ヲ撤布シタ後ニ取締ルト云フヤウナコトハ抑、ノ末ノコトデアリマス、撤布前ニ出來ルダケ差押ヘラスルコトガ當然デアリマス、其邊ノコトハ十分注意ヲ致シテ居ルノデアリマス、御話ノ通りサウ云フ思想ガ起ラザルヤウニスルコトガ最モ必要デアル、ソレハ政府ト致シマシテハ有ラユル方法ヲ講ゼナケレバナラヌ、其根本ヲ匡シマスニハ、是ハ文教ノ方カラ致サネバナラヌト云フコトモ御話ノ通ト考ヘマス、濱松ノ樂器會社ノ「ストライキ」ナドモ御話ニナリマシタガ、承知イタシテ居リマスガ、此各會社ニ行ハレマス所ノ「ストライキ」ニ於テ、一種ノ過激思想ヲ持ッテ居ル人ガ入り込ンデ、内部カラ煽動スルコトヲ非常ニ注意シ、取締ッテ居ルト云フコトヲ繰返シテ申シテ置キマス

(後略)

○ 鶴澤總明君 (前略)

ソレカラ第五ハ勞働爭議調停法中改正法律案ニ付テ一點ダケ御尋ヲ致シテ置キタイノデアリマス、勞働爭議ノ調停ト云フコトニ付テハ、是モ今日各國共ニ相當ニ骨ヲ折リ、又苦心ヲ致シマシテ、種々ナル方法ヲ研究ヲ遂ゲ、又制度ヲ立テ、居ルノデアリマス、ソコデ此勞働組合法案ト共ニ勞働爭議調停法ノ改正ヲセラレタト云フコトニ付テハ、何か此意味ノ頗ル深い所ガ存在シテ居ルコトト考ヘルノデゴザイマスルケレドモ、此改正ノ條項ヲ一渡リ讀ンデ參リマシテ何レノ點ニ左様ナ深イ趣旨ノ存在シテ居ルモノデアルカナイカト云フコトガ、私共ニ見分ケルコトガ、出來ナカッタデアリマス、ソコデ伺ヒマスルノハ、此改正案ノ中ニモ合法的同盟罷業或ハ作業閉鎖、斯ウ云フヤウナコトヲ致シマスル場合ヲ明ニ認メタヤウデゴザリマスルガ、此様ナ規定ヲ設ケラレマスル事柄ハ、或ハ此勞働爭議調停法中ニ置クコトガ適當デアルカナイカト云フコトモ問題デゴザリマスルケレドモ、此改正ノ規定ヲ設ケマスルコトノ爲ニ却テ同盟罷業ヲ誘發スル虞レガナイカドウカト云フコトヲ私ハ承リタイノデアリマス、同盟罷業ヲ經濟的爭議ノ手段ト致シマシテ認メテ參リマシタ英國デゴザリマシテモ、只今ハ私ノ申ス迄モナク「ストライキ」ト云フモノガ容易ニ政治的ノ目的ニ轉化スルト云フコトヲ憂慮スルニ至ッタノデゴザリマス、經濟的デゴザリマシテモ、或ハ國家ノ存立、國民ノ生活ニ重大ナル關係ヲ有テ居ル産業ニ對シマシテハ其産業ヲ脅スト云フヤウナコトバカリデハナク、其痛苦ヲ感ズルモノハ勞働者方面ニモ決シテ少クハナイノデアリマス、從テ斯カル場合ノ「ストライキ」ニ付キマシテハ、現ニ今日英國ノ議會ニ於テ各政治家ニ依ッテ討論セラレ、論議セラレテ居ルノデアリマス、デ私ノ申ス迄モナク、獨逸ノ憲法ノ精神デハ「ストライキ」ハ契約違反ト見、從テ之ヲ合法ト認メル規定ヲ設ケテハナイノデゴザリマスルガ、勞働爭議ノ調停ニ付キマシテハ、勞働爭議ノ種類ト性質ニ鑑ミマシテ、「ストライキ」ニ至ラザル工夫ヲ必要トスベキコトト思フ

ノデアリマス、恐ラクハ此改正案ハ「ストライキ」ニ至ラザル工夫ヲ設ケル積リデ御規定ニナッタコトデアルト考ヘルノデゴザリマスルケレドモ、唯、此作業ノ閉鎖或ハ同盟罷業ヲナス場合ハ三日前ニ調停委員會ヲ請求セヨ、斯様ニ規定イタシマシタダケデハ、私共ノ見ル所ヲ以テ致シマシテハ、不法危險ナル「ストライキ」ヲ避ケル效果ハナイコトデアラウ、或ハ此規定ハ却テ「ストライキ」ヲ誘引スルコトトモナルデアラウ、無論「ストライキ」ハ勞働者ニ取ッテモ決シテ喜ブベキコトデハナイ、最後ノ手段デゴザリマス、ソレ故ニ出來ルダケ避ケナケレバナラス、此規定ノ爲ニ弱イ所ノ「ストライキ」ト云フコトニ付キマシテハ、事前ニ封鎖スルコトモ出來マセウ、或ハ事前ニ屏息セシムルコトモ出來マセウ、併ナガラ危險ナ「ストライキ」ニ對シマシテハ、斯様ナ規定ハ何等ノ力ヲ有タヌノデアリマス、三日前ニ「ストライキ」ヲ致シタイ、ソレ故ニ此調停委員會ヲ開イテ吳レト云フコトヲ屆ケテ置イテ、大キナ「ストライキ」ヲ始メルト云フ場合ヲ、此規定ノ爲ニ防グ譯ニハ行カヌノデアリマス、ソレカラ又請求ヲシナイト云フヤウナ爲ニ科料デアルトカ或ハ拘留ト云フヤウナコトニ處セラレルコトニナッテ居ルヤウデゴザリマスルケレドモ、左様ナ刑罰規定ト云フモノガ、ソレ程ニ效果ヲ運ブモノデハナカラウト、私ハ考ヘルノデアリマス、デ此點ハ同ジク資本家或ハ事業家ノ方面カラモ非難セラレ、又一方勞働組合ノ方面カラモ非難セラレルト云フヤウナ立場ニナッテ居ルノデアリマス、デ此點ハ果シテドウ云フ趣旨ヲ以テ御規定ニナッタノデゴザリマセウカ、或ハ私ハ此爭議調停法ニ對シテマデ改正ヲセラレル案ヲ今日御提出ニナルノハ、何か特別ニ急イダ所ノ理由ガアルノデハナイカト思フノデゴザリマスルガ、果シテ如何ナルモノデゴザリマセウ、度々外國ノ事ヲ申上ゲルヤウデゴザリマスガ、當院ノ各位ハ我々常ニ最モ尊敬イタシテ居リマシテ、殊ニ此外國ノ問題ニ付テハ私共ハ各位ノ御指導、御教ヲ受ケネバナラヌノデゴザリマスルガ、併シ英吉利ノ今日勞働黨ト自由黨トノ間ニ不法ナ「ストライキ」ニ關スル規定ニ付テ色々相談ヲ重ネ、商議ヲ重ネテ居ルノデアリマス、而シテ此自由黨ノ不法「ストライキ」ニ對スル修正案ト云フモノハ、職業爭議ノ進行ト異ツタル又ハ附加シタル目的ヲ以テ主タル

目的トスル「ストライキ」又ハ「ロックアウト」ハ、其目的ガ、「ストライキ」又ハ「ロックアウト」ヲナスニ至ツタ職業又ハ産業界ニ存スルト否ヤト問ハズ、決シテ合法ト認ムベキモノデハナイ、即チ斯ウ云フ事柄ヲ案ト致シマシテ、英吉利ノ政治家ハ「ストライキ」ニハ多クノ場合、派生ノ目的又ハ追加ノ目的ガ原因トナツテ、非常ニ恐ルベキ憂フベキ所ノ結果ヲ生ズルト云フヤウナ事柄ヲ、體驗ヲ致シタノデアリマス、ソコデ此「ストライキ」ヲ自由ニシタ時代ノ其時ノ法制ノ程度ニ止マルベキモノデアルカ、或ハ之ヲ制限シタ所ノ時代ノ法制ニ止マルベキモノデアルカ、サウ云フヤウナコトニ付キマシテ、今日盛ニ議論ガ交換セラレテ居ルノデゴザリマス、而シテ先ヅ此職務上、……職業上即チ産業上、經濟上ノ爭議ノ進行ト云フコトデアリマスレバ、是ハ先ヅ法律ニ於テ禁止ナイノデアルケレドモ、其爭議ヲ進行セシムルコトトハ異ツタ所ノ目的ヲ有テ居リ、又ハ其進行ト附加シタル別ノ目的ヲ以テ、ソレヲ「ストライキ」ノ主ナル目的トスルト云フヤウナ場合ニ於テハ、其「ストライキ」ガ起ツタ所ノ職業又ハ産業ト云フコトニ關係ナシニ、斯様ナル「ストライキ」ト云フモノハ合法トハシナイ、斯ウ云フヤウナ改正案ヲ出サウト云フ趣旨デアルヤウニ思ハレルノデアリマス、デ此點ニ付テハ檢事總長ナリ其外ノ人々ガ寄ツテ英國ノ現在法ニ於ケル「ストライキ」ニ對スル對策意見ヲ發表スルト云フヤウナ、如何ニモ此問題ハ單純ナ「ストライキ」ノ問題ダケデゴザイマスルケレドモ、非常ニ此問題ヲ今日ノ此英國ノ國運ニ懸ミテ、是ハ容易ナラザル事柄デアルトシテ、政治家ノ苦心經營ヲ致シテ居ル狀況ガ窺ハレルノデアリマス

(後略)

○國務大臣(安達謙藏君)(前略)

ソレセラ階級闘争ニ關スルコトノ御話ガアリマシタガ、我々ハ勞資ノ協調ヲ主眼ト致シテ居リマスカラ、飽クマデ階級闘争ナドノ起ラナイヤウニ努メル積リデアリマス、全ク此階級闘争ヲ除去スルコトハ、根本ガ勞資ノ間ノ闘争ヲ前

提トスルモノトハナイト考ヘテ居リマス、此勞働者ト資本主トノ間ノ利害ト云フモノハ、結局一致スルモノト信ジテ居リマス、ソレデ徹底セル勞資ノ協調ト云フコトヲ言ツテ置キマスノハ、此資本主ト勞働者ノ方ノ此雙方ノ利益ヲ一致ヲセシメテ、共存共榮ノ本義ニ則ラシメルト云フコトガ目的デアリマス、階級闘争ノコトハ全然之ヲ否認シテ、階級闘争ナカラシムルコトニ努メタイノデアリマス、ソレカラ團體協約ノコトニ付テノ御話ガアリマシタガ、此團體協約ノコトニ付キマシテハ大分議論ガアリマシテ、ソレハ勞働者側ナドデハ團體協約ノ法規ヲ設クルガ宜イト云フ論ガアリマシタガ、サリナガラ團體協約ノ形式、内容、效力等ニ關シマシテ、如何ニ之ヲ定メルカト云フコトハ、慎重ナル考究ヲ要スルコトデアリマス、ソレデ是ハ組合法中ニ團體協約ヲ設クルノ必要ナクシテ、又團體協約ノコトヲ規定シヤウト致シマシタナラバ一條ヤ二條デ收マルモノデアリマセヌカラ、是ハ別ニ規定スル必要ガアルト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ此爭議調停ニ關スルコトデアリマスガ、勞働爭議ヲ調停シテストライキヲ出來得ルダケ之ヲ避ケルト云フコトハ、是ハ當然ノコトデアリマス、ソレデ公益事業デアルカラト云ツテ、罷業ヲ法規ヲ以テ全然禁止スルト云フ譯ニモ當ラヌト思フノデアリマス、ソレデ罷業ニ至リマセズシテ、サウシテ大多數……或ハ不幸ニシテ罷業スルコトニナリマシテモ、成ルベク速ニ之ヲ解決スルコトヲ期スルガ當然デアリマスカラ、爭議調停法ヲ設ケテ其足ラザル所ヲ今度改正イタシマシテ、此爭議調停法ノ運用ヲ十分發揮セシメタイト考ヘテ居リマス、作業閉鎖トカ云フヤウナコトハ、ソレヲ前提トシナケレバ立法スル必要ハゴザイマセヌガ、其罷業ノコトハ從來ノ法規ニモ規定シテアリマシタノデアリマス、此爭議調停法ヲ持ヘルガ爲ニ同盟罷業ヲ誘發スルノ虞ガアリハシナイカ、却ツテ誘發シハセヌカト云フ御尋ネデアリマシタガ、サウ云フコトハ全然ナイト云フコトノ確信ヲ持ツテ居リマス

(後略)

○議長(公府徳川家達君) 是ニテ質疑ノ通告者ハ終了イタシマシタ

○子爵東園基光君 只今議題ニ上ボッテ居リマスル勞働組合法案、勞働爭議調停法中改正法律案、此二案ハ何レモ重要ナル法案ト認メマスルニ依リマシテ、此特別委員ノ數ヲ二十七名トシ、其選舉ヲ議長ニ一任シタイト存ジマス、御贊成ヲ願ヒマス

○子爵立花種忠君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 東園子爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
〔起立者 多數〕

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀ヲ致サセマス
〔瀨古書記官朗讀〕

勞働組合法案特別委員

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 侯爵 中御門經恭君 | 伯爵 有馬頼寧君 | 子爵 前田利定君 | 子爵 岩城隆徳君 |
| 子爵 土岐章君 | 土方寧君 | 男爵 中島久萬吉君 | 男爵 福原俊丸君 |
| 男爵 郷誠之助君 | 男爵 伊江朝助君 | 高橋琢也君 | 山岡萬之助君 |
| 赤池濃君 | 大津淳一郎君 | 樺山資英君 | 松村義一君 |
| 内藤久寛君 | 稻畑勝太郎君 | 森平兵衛君 | 根津嘉一郎君 |
| 磯貝浩君 | 磯村豊太郎君 | 藤原銀次郎君 | 根本祐太郎君 |
| 津村重舍君 | 鶴澤總明君 | 松本勝太郎君 | |
- (後略)

第五章 貴族院委員會

第五十九回帝國議會 貴族院 勞働組合法案(政府提出)外一件

〔勞働組合法案(政府提出)勞働爭議調停法中改正法律案(政府提出)〕特別委員會議錄(速記)第一回

付託議案

勞働組合法案

勞働爭議調停法中改正法律案

委員氏名

- | | | | |
|--------------|----------------|----------|----------|
| 委員長 子爵 前田利定君 | 副委員長 男爵 中島久萬吉君 | | |
| 委員 | | | |
| 侯爵 中御門經恭君 | 伯爵 有馬頼寧君 | 子爵 岩城隆徳君 | 子爵 土岐章君 |
| 土方寧君 | 男爵 福原俊丸君 | 男爵 郷誠之助君 | 男爵 伊江朝助君 |
| 高橋琢也君 | 山岡萬之助君 | 赤池濃君 | 大津淳一郎君 |
| 樺山資英君 | 松村義一君 | 内藤久寛君 | 稻畑勝太郎君 |
| 森平兵衛君 | 根津嘉一郎君 | 磯貝浩君 | 磯村豊太郎君 |

藤原銀次郎君 根本祐太郎君 津村重舍君 鶴澤總明君
松本勝太郎君

昭和六年三月二十三日(月曜日)午前十時二十七分開會

(以下省略)

出席委員左ノ如シ

委員長 子爵 前田利定君 副委員長 男爵 中島久萬吉君
委員

侯爵 中御門經恭君 伯爵 有馬頼寧君 子爵 岩城隆徳君 子爵 土岐章君
土方 寧君 男爵 福原俊丸君 男爵 郷誠之助君 男爵 伊江朝助君
高橋 琢也君 山岡萬之助君 赤池 濃君 大津淳一郎君
樺山 資英君 松村 義一君 内藤 久寛君 稻畑勝太郎君
森 平兵衛君 磯 貝 浩君 磯村 豊太郎君 藤原銀次郎君
根本祐太郎君 鶴澤總明君 松本勝太郎君

出席國務大臣左ノ如シ

内務大臣 安達 謙藏君

出席政府委員左ノ如シ

社會局長官 吉田 茂君 社會局部長 富田愛次郎君

第一回

昭和六年三月二十四日(火曜日)午前十時二十九分開會

○委員長(子爵前田利定君) 之ヨリ勞働組合法案ノ特別委員會ヲ開會致シマス、ソコデ皆様ニ御諮リ致シマスガ、モ
ウ本日ト明日ト二日限りデアリマスノデ、ソレモ大臣ノ御都合デ内務大臣ハ本日御出席ガナイト云フコトデアリマス
カラ、ドンナニ我々ガ晝夜兼行勉強イタシマシテモ、此重大性ノ法案ヲ一兩日デ審議ラシ盡セマセト考ヘマスカラ
如何デゴザイマセウカ、此邊デ此審議ハ一時審議未了ノ儘ニシテ置クト云フコトハドンナモノデゴザイマセウカ
○土方寧君 チョット伺ヒマスガ、サウ云フ場合ニハ政府ヘ何トカ委員會カラドウ云フ形カデ通知ガ参リマスカ、或ハ
黙ッテ審議未了ト云フコトダケデアリマスカ、其コトヲ政府ニ通ジマスカ
○委員長(子爵前田利定君) ソレハ委員長カラ通ズルコトニ致シマス
○鶴澤總明君 只今ノ御趣旨ヲドウカ明瞭ニ、十分ニ審議ヲ致シタイノデアリマスガ、材料ガマダ足りマセヌ、私共
材料ノ提供ヲ願ヒタイモノガ澤山アリマス、迎モ短日月デハ出来ナイト思ヒマスカラ宜シク其趣旨ヲ御通知ヲ願ヒマ
ス

○委員長(子爵前田利定君) 只今鶴澤君カラモ御述ベニナリマシタ通り審議材料モマダ不十分デアリマスシ、審議日
數モ甚ダ少イコトデアリマスカラ、到底職能ヲ全ウスルコトハ出来ナイト考ヘマスカラ特別委員會ハ是デ散會ニ致シ
マス

午前十時三十二分散會

出席委員左ノ如シ

委員長 子爵 前田 利定君 副委員長 男爵 中島久萬吉君

委員

侯爵 中御門 經恭君 子爵 岩城 隆德君 土方 寧君 男爵 福原 俊丸君

男爵 郷 誠之助君 高橋 琢也君 大津 淳一郎君 內藤 久寬君

磯 貝 浩君 磯村 豊太郎君 藤原 銀次郎君 津村 重舍君

勅 澤 總明君

出席政府委員左ノ如シ

社會局長官 吉田 茂君 社會局部長 富田愛次郎君

昭和七年三月二十八日印刷
昭和七年三月三十一日發行

社 會 局

印刷人 西 脇 嘉 市

東京市京橋區橫町一丁目一番地

7

中華民國二十一年一月一日
中華書局發行
地址：北平前門外大街
電話：二二二二
總經銷：上海南京路
分經銷：各埠各大書局
印刷：北平前門外大街
紙張：四開
定價：大洋一角

編者：張其成
出版：二十八年一月一日

編輯部
發行部

